

## (6) 昆虫類

香川県は全国 47 都道府県中、最も狭い県であるうえ、最高峰が讃岐山脈にある 1,060m の竜王山で、都道府県別の最高峰順位でも 42 番目と低く、起伏が変化に乏しい。そのため、特に山地性の昆虫が少ないのが特徴である。平野部が多く、讃岐平野と称されるこの平野は四国地方最大で、香川県の 36.9% を占める。しかしながら、瀬戸内海式気候により乾燥が強く、国土交通省の統計では香川県の湿地の割合は 0% となっており、湿地性の昆虫にとっては生息環境の少ない地域と言える。国内の昆虫類の固有種の大半が生息している森林に関しては、日本の森林率は約 66% であるのに対し、香川県は 47% と平均値を下回っている。これらの要因によって、昆虫の総種類数は他県と比較すると少ない。さらに近年、温暖化や酸性雨、外来魚などによる捕食圧、水稻作付における農業技術の改変（作付け期の前進・中干し技術の励行・新型農薬の利用など）や農業者の高齢化、後継者不足など、さらに基盤整備による生息地の消失などにより自然環境が変化しており、県内の昆虫の多くが減少している。以下、環境ごとに現状を記す。

### ① ため池など

香川県は乾燥した地域であるため、農業用水を確保するために水を貯え取水ができるよう、ため池が 14,619 カ所（全国 1 位のため池密度）造られ、このため池が多くの水生昆虫の生息地となっていた。しかしながら、吉野川の水が香川用水を通して、農業用水として利用されるようになってからは、ため池は水抜きをすることが無くなり、富栄養化が進み、その結果、平野部のきれいな水の止水域に生息する水生昆虫は激減した。近年は南海トラフ地震への備えとして、ため池の改修と堰堤の補強のため、コンクリートブロック張工法が進められた結果、水深の浅い部分に生育していた水生植物が激減し、工事と相まって水中の酸素欠乏、富栄養化による水質汚濁など環境変化がさらに進んだ。この影響で、水草を産卵場所として利用する種、水中での隠れ場や生活の足場として利用する種なども減少した。調査の結果、減少傾向にあるムスジイトトンボ、フタスジサナエ、ノシメトンボ、ハネナシアメンボ、イトアメンボ、ミヤケミズムシ、ヒメミズカマキリ、ツマグロトビケラ、クビナガキベリアオゴミムシ、ヤギマルケシゲンゴロウ、オオミズスマシを新規でレッド種に指定した。イネネクイハムシは調査の結果、県内各地で多く見出されたため、今回レッド種から削除することとした。また、外来生物の影響も大きく、具体的には、ため池内のヒシ、ハスなどの除去を目的として、遊漁者や水利関係者がソウギョを放流した影響で水草が減少し、これに連動して水草に産卵するコバネアオイトトンボが絶滅に瀕している。ゲームフィッシュとして放流されたオオクチバスの影響で、ゲンゴロウやミズスマシの仲間など水生昆虫が捕食されることによって激減している。ため池やダム湖周辺の水位変動域に生じる湿生草地や湿地環境には、湿地性の昆虫が生息するが、なかには移動・分散力の高い種が含まれ、調査の結果、県下のこのような環境から新たな生息地が多く見出されたオグラヒラタゴミムシ、オオトックリゴミムシは今回レッド種から削除することとした。

### ② 水田

県内には水田に代わる湿地環境は少ない。稲作技術の機械化、良質米の生産技術の向上、水田の高度利用を進めるための基盤整備による乾田化、あるいは作期の前進、除草対策、病虫害防除の省力化のための除草剤や病虫害防除剤の改良で農家の手間は随分少なくなった反面、その影響で水田に依存していた生きもの、例えばモノアラガイ、それを餌としていたヘイケボタルやトンボ類の一部など、一昔前には多数生息していた種類が急速に見えなくなった。特に、この数年で全国的に水田を生息地としていたアキアカネが急速に減少しているのはネオニコチノイド系農薬の普及による孵化率の低下が影響していると言

われている。そのため、水田を主な繁殖地としてきたカトリヤンマ、ナツアカネ、アキアカネを新規でレッド種に指定した。

### ③ 河川

一級河川土器川や二級河川香東川、財田川など多くの河川は、度重なる洪水により河床が上昇している。そのため、表層水が伏流し河川が干上がり、水域で生息していた淡水魚や水生昆虫が減少している。河川管理に課題があり、適度な砂利採取により常に淡水がたまっている状況をつくりだす必要がある。一方、河口近くでは干ばつに備えて河口堰が造られ、流水性の昆虫などは生息できない環境になっている。小川の原水は河川の出水や河川本流からの水利用を起源としているが、河川管理の省力化のため、空石積みであった小川は三面コンクリートで固められた水路へと置き換わっている。そのため、生息していた淡水魚やタイコウチなどの水生昆虫は、洪水が起こる度に流失することを繰り返され、生息が危ぶまれている。調査の結果、減少傾向にある水生昆虫のアオサナエ、キイロヤマトンボ、ホンサナエ、ミズスマシ、コミズスマシ、ヒメミズスマシ、山地の溪流の大きな石や岩盤上に生息するオモゴミズギワカメムシ、主に河川敷に生息するウスバカマキリ、セグロバッタ、カララゴミムシを新規でレッド種に指定した。調査の結果、多くの河川から確認された水生昆虫のタイリククロスジヘビトンボ（ツシマクロスジヘビトンボから和名変更）、ヤマトクロスジヘビトンボ、サワダマメゲンゴロウは、レッド種から削除することとした。

### ④ 塩田跡地・海浜の砂浜

河口など特殊な環境に生息していたヨドシロヘリハンミョウ、ルイスハンミョウなど海浜性の昆虫類は、生息地の都市化や公共事業による埋立などで生息地が消失し、生息が確認できていない。一方、全国的に希少なハナバチ類やドロバチ類などは、四国本土側では個体数が減少しているものの、島嶼部の海浜では多数確認された。調査の結果、減少傾向にあると考えられるキイロサシガメ、ハマベツチカメムシ、オオウスバカゲロウ、ナンカイイソチビゴミムシ、ハマベゾウムシ、ヤマトスナハキバチ、ニッポンハナダカバチ、ウスルリモンハナバチ、トモンハナバチ、キバラハキリバチを新規でレッド種に指定した。湿地や海岸で見られるコハンミョウは、調査の結果、山地の遊歩道や市街地の公園など、内陸部の様々な環境で多くの生息地が確認されたことから、レッド種から削除することとした。河口や海浜のヨシ原に特異的に生息するヤマトヒメメダカカッコウムシは、今回の調査で多くの生息地や安定した個体数が確認されたため、レッド種から削除することとした。

### ⑤ 特殊な環境、絶壁

小豆島寒霞溪はおよそ 1,300 万年前の火山活動によってできた安山岩、集塊岩などの岩石が長い年月の地殻変動や侵食により、そそりたつ奇岩怪石の絶景をつくりあげた岩場である。そうした、山地や海岸の岩場に生育するイワガサは、本州の近畿地方以西、四国、九州に分布する落葉低木である。このイワガサを食樹とするクビジロツメヨトウ（ヤガ科）は、小豆島と本州（新潟県、長野県、石川県）にのみ生息し、全国でも確認されている生息地は、わずか 6 カ所に過ぎない。国外では、内陸アジア、モンゴル、アムールに分布する。今回の調査で、小豆島寒霞溪に現存していることが確認され、面積的に狭い環境であっても、植生が遷移せず、且つ、人の影響を受けなければ、希少種でも安定して生息していけることが示唆された。

### ⑥ 山地

県内で高標高地の大滝山、竜王山、大川山などでは温暖化によって、ブナなどの冷涼地の植物が衰退し

ている。これらの樹種に依存するヨコヤマヒゲナガカミキリやブナアオシャチホコ、マルモンシャチホコ、タカムクシャチホコ、ウラギンガ、ヒメギンガ、ゴマシオキシタバなどは個体数が減少している。今回の調査の結果、減少傾向にあると考えられるチッチゼミ、エゾハルゼミ、ニシキキンカメムシ、ミヤマセセリ、カラスシジミ、コアオアトキリゴミムシ、インノシマチビアトキリゴミムシ、ヒメオオクワガタ、アシナガコガネ、クロアシナガコガネ、キンスジコガネ、ヒロシマオオトラフハナムグリ、オオウバタマコメツキ、ツヤバネベニボタル、アカガネアオハムシダマシ、ニシアオハムシダマシ、アカジマトラカミキリ、アワナガオチバズウムシ、トゲアリ、オオハムシドロバチを新規でレッド種に指定した。調査の結果、県下の山地の山上で多数が生息していることが判明したフトクチヒゲヒラタゴミムシ、サヌキコバナナガハネカクシ、ハネアカブチヒゲハネカクシ、ヒメボタル、クワカミキリ、シロスジカミキリ、トゲウスバカミキリは、レッド種から削除することとした。

### ⑦ 里地・里山

国内の半自然草原は、明治大正期には10%以上あったと推定されているが、近年は、農家の減少や化学肥料、植林などの影響で、1%余りまでに減少している。県内では、二次林の薪炭林の燃料などへの利用が無くなったことや、牛馬などの飼育がなくなったことが影響し、草原などの開放的な原野が消失することで草原性の鱗翅目昆虫が減少している。特に、このような環境に生える植物の葉や花蜜を幼虫や成虫時の餌資源とするヒョウモンチョウやセセリチョウの仲間が急減している。また、牛馬などの家畜の糞を餌資源とするオオフタホシマグソコガネなどが激減し、ゴホンダイコクコガネが絶滅した。さらに、人口の減少に伴い、山間部から住人が消えた結果、畑地の藪化が進行し、草原性の鱗翅目昆虫の減少に拍車がかかっている。林業の衰退の影響で植林されたスギ・ヒノキは管理不十分となり、樹冠部が鬱蒼と茂り下草の生えない単調な森林と化したため、植生と昆虫の多様性が減少している。このほか、特殊な事例であるが、里地・里山の家屋の納屋に生息する昆虫が、家屋の洋風化などで生息環境が失われつつある。具体的には、全国的に減少傾向にあるゴミアシナガサシガメの県内における古い記録が確認できたため、新規でレッド種に指定した。また里地・里山を主要な生息環境とし、減少傾向にある種や生息地の少ない種として、クチキマグソコガネ、マルエンマコガネ、アカオビケラトリバチ、ナミルリモンハナバチ、クズハキリバチ、ウマノオバチを新規でレッド種に指定した。

前回（2004年）は239種、今回は285種の掲載となる。評価の推移詳細を以下に記す。

（伊藤文紀・高木真人・松本慶一）

昆虫類の前回評価種数と今回評価種数の比較

		今回評価							合計
		EX	EW	CR+EN	VU	NT	DD	削除	
前回評価	EX	4							4
	EW								0
	CR+EN	6		17			1		24
	VU			8	38	6			52
	NT			1	17	101	11	14	144
	DD				1	1	10	1	13
	新規			1	18	18	26		63
合計		10	0	27	74	126	48	15	300

（注）前回（2004年）は合計300種から新規61種を、今回は削除分15種を引いた数値

コバネアイトトンボ <i>Lestes japonicus</i> (アイトトンボ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧 I A 類 (CR)
選 定 理 由	③⑤⑧※ 全国的に産地が減少している。本県においても、近年、生息が確認できない。		
種 の 特 徴	♀子どもに成熟しても、胸部に白粉を帯びず、全身、体の背面が金属緑色に輝く。静止は翅を開き、眼の上側は青色をしていて美麗。		
分 布	県内: 東かがわ市, 三豊市高瀬町, まんのう町。 県外: 本州, 四国, 九州		
県 内 で の 生 息 状 況	いずれの産地においても、アイトトンボ属3種が混生していた。本種が生息していた池には、多くの水草が茂り、水は澄んでいた。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	東かがわ市の産地では、アメリカザリガニの増殖により急激に減少、その後、ヒシを除草する目的でソウギョを放飼した結果、産卵植物が駆逐され、生息を確認することが出来なくなった。国営満濃公園内の生息地では、発見時の環境が変化するとともに、生息数が減少、近年、確認することが出来なくなった。		
特 記 事 項	徳島県・愛媛県 (CR+EN)ほか、40都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	



被写体: 東かがわ市 | 撮影者: 高木真人

ムスジイトトンボ <i>Paracercion melanotum</i> (イトトンボ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧※ 香川県内では産地が局地的である。		
種 の 特 徴	腹長が18~25mm, 後翅長12~19mm。セスジイトトンボに似るが、眼後紋はより小さい。		
分 布	県内: 高松市, 小豆島。 県外: 本州, 四国, 九州, 琉球列島。		
県 内 で の 生 息 状 況	主に、海岸近くの開放的な池沼、河川河口域に生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ため池の埋立による生息地の消失や堤体の波止めブロックによって、抽水植物等が生育できなくなり、イトトンボの生息環境が損なわれる。水抜きが行われていないため池は、富栄養化が進み、生息に適さない環境になっている。		
特 記 事 項	高知県(NT)ほか、全国の19府県で絶滅危惧種に指定。		
文 献	なし	執筆者: 高木真人	



被写体: 小豆島町 | 撮影者: 高木真人

オオイトトンボ <i>Paracercion sieboldii</i> (イトトンボ科)		香川県カテゴリ	絶滅 (EX)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑨※ 過去に記録があるものの、近年生息が確認されず、四国内でも生息地は僅かである。		
種 の 特 徴	同属のムスジイトトンボ、セスジイトトンボに似ている。識別は困難であるが、頭後紋の形状、大きさが異なることと、腹部第8節の様相が異なる。		
分 布	県内: 三木町。 県外: 日本特産種。北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布し、佐渡島, 淡路島, 対馬などの離島からも記録されている。		
県 内 で の 生 息 状 況	香川県からの正式な記録は、三木町(1979年)のみで、その後の確実な生息地は見当たらない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	肉食性の外来魚やアメリカザリガニなどによる捕食、生息地の埋立や湿地の乾燥化、自然遷移の進行による草本の繁茂、あるいは農村公園整備などにより生息環境が失われている。		
特 記 事 項	高知県・愛媛県 (CR+EN)など、24都道府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	



被写体: 徳島県 | 撮影者: 高木真人

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

アジイトトンボ <i>Ischnura asiatica</i> (イトトンボ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧* 前回の調査時では確認することが出来なかったが、近年、生息が若干回復基調にある。しかしながら、以前のようなではない。		
種 の 特 徴	腹長20～25mm、後翅長12～17mm。アオモンイトトンボを一回り小型にしたようなイトトンボ。		
分 布	県内:各地。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州, 沖縄; 朝鮮半島, 中国, 台湾, ロシア。		
県 内 で の 生 息 状 況	平地から丘陵地の水生植物が豊富な池沼に生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ため池の埋め立てによる生息地の消失や堤体の波止めブロックによって、抽水植物等が生育できなくなり、イトトンボの生息環境が損なわれる。水抜きが行われていないため池は、富栄養化が進み、生息に適さない環境になっている。		
特 記 事 項	徳島県(VU)ほか、全国の4県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	



被写体: 綾川町 撮影者: 高木真人

ホソミイトトンボ <i>Acia grion migratum</i> (イトトンボ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤⑧* 香川県内では産地が局地的である。		
種 の 特 徴	夏型は腹長24～25mm、後翅長15～18mm。越冬型はやや大型である。♀もとも未熟なうちは淡褐色の地に黒褐色の黒斑があるが、翌春には♂は鮮やかな青色になる。		
分 布	県内: 東かがわ市, 高松市, まんのう町。 県外: 本州, 四国, 九州		
県 内 で の 生 息 状 況	樹林が近くにあり、抽水植物、浮葉植物が繁茂するため池に生息する。高松市, まんのう町で多産する生息地を確認したが、その他の地では個体数が少ない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ため池改修による生息地の破壊、新型農業による水質汚染、ため池の管理不足による富栄養化などで、近年、個体数が減少している。		
特 記 事 項	千葉県・石川県(CR+EN)、長野県(VUなど)、全国の7県で絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	



被写体: 高松市 撮影者: 高木真人

セスジイトトンボ <i>Paracercion hieroglyphicum</i> (イトトンボ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧* ため池の富栄養化による水質汚染で産地が減少している。		
種 の 特 徴	腹長24mm、後翅長16mm程度。♂の体の地色は水色で、♀は黄色をしている。眼後紋は三角形をなし、大きい。		
分 布	県内: さぬき市, 高松市, 三豊市。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州; 中国, 朝鮮, 香港。		
県 内 で の 生 息 状 況	日当たりがよく、水生植物が繁茂する平地の池沼や緩やかな流れのある河川に生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ため池改修や小川の整備による生息地の破壊、新型農業による水質汚染、ため池の管理不足による富栄養化などで、近年、個体数が減少している。		
特 記 事 項	愛媛県(CR+EN)、高知県(NT)ほか、全国の11府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	



被写体: 高松市 撮影者: 高木真人

\*選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

モートンイトトンボ <i>Mortonagrion selenion</i> (イトトンボ科)		香川県カテゴリ	絶滅 (EX)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑨* 1975年以降、生息が確認されていない。		
種 の 特 徴	小型のイトトンボ。成熟した♂の体の前半部の地色は黄褐色で黒斑があり、尾部は先端部が鮮やかな赤橙色をしていて美しい。♀は成熟すると緑色になり、アジアイトトンボ♀に似る。		
分 布	県内:まんのう町江畑。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州; 中国, 朝鮮, 台湾。		
県 内 で の 生 息 状 況	1975年6月, 土器川の湿地で多数を確認(永瀬, 1975), 私信によると近隣の丘陵地内の抽水植物が繁茂する湿地にも生息していた。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	丘陵地内のため池は, 周辺林が自然遷移の進行で繁茂し, 生息環境が消失している。		
特 記 事 項	徳島県・高知県・愛媛県 (CR+EN)ほか, 40都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	



被写体: 徳島県 撮影者: 高木真人

シコクトゲイトトンボ <i>Rhipidolestes hiraoui</i> (イトトンボ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧* 讃岐山脈や前山に広く分布するが, 産地は局地的。		
種 の 特 徴	♂の腹長は38~43mm, ♀は33~36mm, 後翅長は♂♂とも27~31mm。体色は黄色で, 黒色の筋模様があり, ♀は腹部第9節の上部に刺がある。		
分 布	県内:さぬき市, 高松市, まんのう町。 県外:徳島県, 高知県, 愛媛県。		
県 内 で の 生 息 状 況	河川源流域の薄暗く水が滴り落ち, 苔が生えているような崖地に生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	源流域の枯渇や林道, ダム建設などの開発で生息環境が破壊されるのが危惧される。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。四国特産種。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	



被写体: 高松市 撮影者: 高木真人

ガンバイトトンボ <i>Platycnemis foliacea sasakii</i> (モノサシトンボ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑤⑧* 産地が局限され, 度重なる干ばつと洪水による生息地の流失等により, 生息数が激減している。		
種 の 特 徴	腹長31~33mm, 後翅長19~23mm。モノサシトンボに似ているが, ♂の中・後肢がまっ白い軍配状になっているので区別出来る。		
分 布	県内:土器川, 金倉川, 財田川。 県外:関東以西の本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	土器川の生息地では1989年に始まる河川敷開発(河川工事や河川敷公園など)に伴う生息環境の悪化, 及び1996・1997年の夏の干ばつによる流水域の枯渇, 2004年台風23号による洪水で生息地が流失した, その後, 生息が確認できていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	干ばつによる河川の枯渇, 河川敷などの開発, 整備による水辺環境の破壊。保水力の低下を招くスギ, ヒノキなどの針葉樹の植林事業も生息地河川の枯渇の一因となっていると推定される。		
特 記 事 項	愛媛県(CR+EN), 高知県(NT)ほか, 全国の24都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	



被写体: まんのう町 撮影者: 高木真人

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

<b>ムカシトンボ</b> <i>Epiophlebia superstes</i> (ムカシトンボ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧※ 産地が局地的で、個体数も少ない。		
種 の 特 徴	♂の腹長は38～40mm、後翅長は27～30mm。♀はやや小ぶり。地色は黒く、腹部に黄色の1本の筋があり、黄褐色の長軟毛が密生する。		
分 布	県内: 大滝山, 竜王山, 大川山の源流域。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	讃岐山脈の源流域の樹林に囲まれた明るい清流。清流に生えるフキやオタカラコウなどの茎に産卵するほか、水が滴るジャゴケなどにも産卵する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	林道開設やダム建設などの開発による生息地の破壊。源流域の生息地の自然遷移による生息環境の悪化		
特 記 事 項	高知県(NT)ほか、全国の20県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	



被写体: 高松市 撮影者: 高木真人

<b>ネアカヨシヤンマ</b> <i>Aeschnophlebia anisoptera</i> (ヤンマ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑦※ 分布が限定されており、生息環境が悪化している。		
種 の 特 徴	♂は腹長54～59mm、後翅長56～63mmで、♀は一回り大きい。		
分 布	県内: 高松市, 坂出市, 丸亀市。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	平地から丘陵地のヨシやマコモなどの抽水植物が繁茂する池沼に生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	宅地開発や太陽光発電施設の設置などによる生息地の埋立や自然遷移による乾燥化、農村公園などの開発による生息地の喪失。		
特 記 事 項	徳島県(VU)、愛媛県(NT)ほか、全国の37府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	



被写体: 高知県 撮影者: 高木真人


<b>アオヤンマ</b> <i>Aeschnophlebia longistigma</i> (ヤンマ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑦⑧※ 産地が局地的で、水質悪化に伴い生息環境が消失している。		
種 の 特 徴	寸胴型のやや大型で、鮮やかな緑色をした美しいヤンマ。		
分 布	県内: さぬき市, 高松市, 三木町, 綾川町。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	平地から丘陵地のヨシやマコモが繁茂する池沼に生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	宅地開発や太陽光発電施設の設置などによる生息地の埋立や農村公園などの開発による生息地の喪失。		
特 記 事 項	徳島県(CR+EN)、高知県(NT)ほか、全国の36都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	



被写体: 高知県 撮影者: 高木真人

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

<b>マルタンヤンマ</b>		香川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
<i>Anaciaeschna martini</i> (ヤンマ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧* 産地が局地的		
種 の 特 徴	黄色の体色に黒色の筋がある。成熟すると、♂は地色が鮮やかな青色に、♀では黄緑色に変色する。♀の翅は褐色になる。		
分 布	県内: 高松市。 県外: 本州, 四国, 九州, 淡路島, 屋久島。		
県 内 で の 生 息 状 況	平地から丘陵地のヨシやマコモが繁茂する池沼に生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	宅地開発や太陽光発電施設の設置などによる生息地の埋立や農村公園などの開発による生息地の喪失。		
特 記 事 項	愛媛県(NT)ほか、全国の12都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		

<b>コシボソヤンマ</b>		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
<i>Boyeria maclachlani</i> (ヤンマ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧* 河川の水質汚濁や河川工事によって、生息地が減少している。		
種 の 特 徴	腹長55mm, 後翅長50mm程度。褐色の地色に翅胸前面に八の字型の黄緑色条がある。腹部第3節が極端にくびれている。		
分 布	県内: 新川水系, 香東川水系, 綾川水系。 県外: 本州, 四国, 九州, 屋久島。		
県 内 で の 生 息 状 況	香東川, 綾川水系で生息を確認しており、生息範囲は広い。木蔭の多い水のきれいな河川に生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川改修, 河床整備による生息環境の破壊。		
特 記 事 項	群馬県(CR+EN), 青森県・千葉県・長崎県(VU)など、全国の9都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		

<b>カトリヤンマ</b>		香川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
<i>Cynacantha japonica</i> (ヤンマ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧* 最近の10年でほとんど見ることが出来なくなった。		
種 の 特 徴	中型のヤンマ。成虫は体長70～75mm。大きな複眼とくびれた腹部が特徴。成熟した♂は、複眼と腹部斑紋が水色、♀は緑色。		
分 布	県内: 全域。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州まで普遍的に産する。		
県 内 で の 生 息 状 況	昭和40年代までは、夕方になると水田の上を摂食飛翔する姿が水田地帯ではどこでも見られたが、最近の10年ではほとんど見ることが出来ない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	水田の基盤整備による乾田化, 水稲の共同育苗時における新型農薬の使用による水質汚染など餌資源の枯渇で生息が危ぶまれる。		
特 記 事 項	高知県・島根県(NT)など、全国21都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅



サラサヤンマ <i>Saraschna pryeri</i> (ヤンマ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦※ 産地が局地的で個体数も少ない。		 <p>被写体: 東かがわ市   撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	腹長41～47mm, 後翅長36～41mm程度の小型のヤンマ。胸部に太い黒色条がある。腹部第3節のくびれは少なく、腹部の黄色斑は小さい。		
分 布	県内: 東かがわ市, さぬき市, 高松市, 坂出市, まんのう町。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州, 屋久島。		
県 内 で の 生 息 状 況	丘陵地の谷戸や湿地に生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	自然遷移の進行による湿田や湿地の乾燥化。宅地開発や道路建設, 農地造成による生息環境の破壊。		
特 記 事 項	徳島県(VU)など, 全国22都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 高木真人	

ミヤマサナエ <i>Anisogomphus maacki</i> (サナエトンボ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧※ 産地が局地的で, 個体数が少ない。		 <p>被写体: 大川山   撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	腹長39～41mm, 後翅長31～33mm, サナエトンボの中では中型。腹部第7節が広がり, その側面に黄色い斑紋が1個ずつある。		
分 布	県内: 高松市峰山, まんのう町大川山。 県外: 本州, 四国, 九州; 朝鮮半島からシベリア。		
県 内 で の 生 息 状 況	大川山山頂付近で成虫が僅かに観察されることがあるので, 土器川中流域から下流域にかけて幼虫が生息しているものと思われる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	干ばつによる河川流水の枯渇, 河川敷の整備による水辺環境の破壊が懸念される。		
特 記 事 項	徳島県・愛媛県(NT), 高知県(DD)など, 全国16都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 高木真人	

キイロサナエ <i>Asiagomphus pryeri</i> (サナエトンボ科)		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑦⑧※ 産地が局地的で, 個体数が少ない。		 <p>被写体: 高知県   撮影者: 杉村光俊</p>
種 の 特 徴	腹長43～49mm, 後翅長37～43mm, ヤマサナエに似ているが, 胸の側面の黒条は途中で消失していることが多く, 尾部付属器は上付属器が短い。		
分 布	県内: 高松市, 坂出市, まんのう町。 県外: 本州, 四国, 九州, 種子島。		
県 内 で の 生 息 状 況	丘陵地から平地に流れる河川の河畔林で成虫を確認することがあるが, 個体数は少ない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生活雑排水, 農薬の流入による水質汚濁, 干ばつによる河川流水の枯渇, 河川敷の整備による水辺環境の破壊が心配される。		
特 記 事 項	徳島県・愛媛県(VU), 高知県(NT)など, 全国31都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 高木真人	

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

<b>クロサナエ</b> <i>Davidius fujiama</i> (サナエトンボ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧* 産地が局地的	 <p>被写体: 高松市 撮影者: 高木真人</p>	
種 の 特 徴	小型のサナエトンボで体色は黄色く、黒条がある。胸の側面の2本の黒条は上まで貫いている。		
分 布	県内: 高松市塩江町, まんのう町。 県外: 本州, 四国, 九州		
県 内 で の 生 息 状 況	樹林に囲まれた河川源流域にムカシトンボと同所的に生息している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	干ばつによる源流域の枯渇, ダム建設や林道開設などによる生息環境の破壊が懸念される。		
特 記 事 項	埼玉県・福岡県・宮崎県(NT)など6県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		

<b>ホンサナエ</b> <i>Shaogomphus postocularis</i> (サナエトンボ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧* 産地が局地的で、しかも、近年生息確認が出来ない。	 <p>被写体: 高松市 撮影者: 高木真人</p>	
種 の 特 徴	ずんぐりむづりした中型のサナエトンボ。♂の体色は灰緑色をし、♀の体色は黄色く、胸の側面の黒条は1本で、その前方の筋は基部で消失する。		
分 布	県内: 湊川, 香東川, 土器川。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州		
県 内 で の 生 息 状 況	香東川, 土器川ともに中流域の、澄んだ水が緩やかに流れている付近の岩や砂浜に成虫が縄張り静止をしているのが観察できたが、2004年台風23号による洪水で生息地が流失し、その後確認することが出来なくなった。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川改修による河床の変化, なかでも泥混じりの川砂になるとヤゴが住めなくなる。		
特 記 事 項	徳島県(CR+EN)など、全国27都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		

<b>ヒメクロサナエ</b> <i>Lanthus fujiacus</i> (サナエトンボ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧* 産地が局地的で、個体数が少ない。	 <p>被写体: 広島県 撮影者: 高木真人</p>	
種 の 特 徴	小型のサナエトンボで体色は黄色く、黒条がある。胸の側面の黒い筋は1本目と2本目が下の方で融合し太くなる。ヒメサナエに似ているが、♂の尾部下付属器は白い。		
分 布	県内: 大川山。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	山間の樹林に囲まれた源流域に生息する。春に出現する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	干ばつによる源流域の枯渇, ダム建設や林道などによる生息環境の破壊が懸念される。		
特 記 事 項	長崎県(VU), 埼玉県・三重県(NT)の3県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		

\*選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

<b>アオサナエ</b> <i>Nihomogomphus viridis</i> (サナエトンボ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧* 近年、生息地、個体数ともに減少している。		
種 の 特 徴	春出現する中型のサナエトンボ。胸部と腹部前半が緑色をして、♂が♀よりやや大きい。		
分 布	県内: 香東川, 綾川, 土器川。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	樹林に囲まれた砂底の河川中流域。2004年台風23号による洪水で生息地が流失し、その後、生息数が減少している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川改修、河床整理などの河川工事によって、生息環境の破壊と河底環境が変化して生息が確認できなくなった。		
特 記 事 項	愛媛県(VU)など、全国23都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 高木真人	



被写体: 綾川町 撮影者: 高木真人

<b>ヒメサナエ</b> <i>Sinogomphus flavolimbatu</i> s (サナエトンボ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦* 近年、生息地、個体数ともに減少している。		
種 の 特 徴	小型のサナエトンボ。ヒメクロサナエに似ているが、♂の尾部下付属器は白い。胸部側面の黒条は1本。		
分 布	県内: 香東川, 綾川, 土器川。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	山地の樹林に囲まれた河川源流域。幼虫は流下し、中流域まで見られる。春、出現する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ダム建設や林道などによる生息環境の破壊が懸念される。		
特 記 事 項	徳島県(NT)など、全国23都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 高木真人	




被写体: 高松市 撮影者: 高木真人

<b>オジロサナエ</b> <i>Stylogomphus suzukii</i> (サナエトンボ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦* 産地が局地的		
種 の 特 徴	小型のサナエトンボでヒメサナエに似ている。体色は黄色く、胸の側面の黒い筋はY字型になっているので区別できる。		
分 布	県内: 小豆島, 坂出市五色台, 湊川, 香東川, 綾川, 土器川水系。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	丘陵地や河川上・中流域に生息する。産卵は上流で行われ、幼虫は川を下って中・下流域で羽化。再度、成虫は上流に戻ることで知られている。ヤゴは多く確認することが出来るが、成虫は見つけにくい。夏から初秋のトンボ。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ダム建設や林道などによる生息環境の破壊が懸念される。		
特 記 事 項	秋田県・千葉県・富山県(CR+EN), 長野県(VU)など、全国8県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 高木真人	



被写体: 綾川町 撮影者: 高木真人

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

<b>タバサナエ</b> <i>Trigomphus citimus tabei</i> (サナエトンボ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑧* 近年、四国の他県においても減少している。		 <p>被写体: まんのう町   撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	中型のサナエトンボ。体色は黄色く、胸の側面の黒い筋は1本。		
分 布	県内:高松市, まんのう町。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	樹林に囲まれた中流域の小川や池干しなどが行われているため池では、生息が確認される。春に出現するトンボ。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	池干しなどの水管理が行われず、富栄養化により生息環境が悪化したり、水路やため池のコンクリートによる護岸工事などにより、生息地が脅かされる。		
特 記 事 項	徳島県(CR+EN), 高知県・愛媛県(NT)など、全国16府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	

<b>フタスジサナエ</b> <i>Trigomphus interruptus</i> (サナエトンボ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑧* かつては普通種であったが、近年、四国の他県では生息地が激減している。		 <p>被写体: 高松市   撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	タバサナエに似ているが、胸の側面には2本の黒条がある。		
分 布	県内:東かがわ市, さぬき市, 高松市, まんのう町。 県外:本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	丘陵地や平地の護岸されていないため池に生息地が残る。春に出現するトンボ。高松市近郊において、数か所、生存が確認できた。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	池干しなどの水管理が行われず、富栄養化により生息環境が悪化したり、水路やため池のコンクリートによる護岸工事などにより、生息地が脅かされる。		
特 記 事 項	愛媛県(CR+EN), 高知県(VU)など、全国17府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	

<b>キイロヤマトンボ</b> <i>Macromia daimoji</i> (ヤマトンボ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑤⑧* 生息地が局地的であり、近年、生息確認が出来ない。		 <p>被写体: 香東川   撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	コヤマトンボに似ているが、腹部がすらっと長く、第7節の黄色斑が大きく、後方に伸びている。		
分 布	県内:香東川, 綾川水系。 県外:本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	周囲に樹林のある流れが緩やかで、砂底の河川を好む。香東川水系、綾川水系ともに、2004年台風23号による洪水で生息地が流失し、その後、生息が確認できていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川改修、河床整理などの河川工事によって、生息環境の破壊と河底環境が変化して生息が確認できなくなった。		
特 記 事 項	徳島県(CR+EN)など、全国29都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

<b>ハネビロエゾトンボ</b> <i>Somatochlora clavata</i> (エゾトンボ科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑤⑦* 産地が局地的		
種 の 特 徴	♂は腹長41～45mm, ♀は43～50mm, 後翅長は♀♂ともに40～45mm。体が金属緑色に輝き、エゾトンボに似るが腹部第4節から先には黄色斑がない。		
分 布	県内:小豆島, 五色台。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	小豆島と五色台から記録されており, 幼虫は山裾の緩やかな細流に生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	林道開発や砂防ダムなどの開発による生息環境の破壊が懸念される。		
特 記 事 項	徳島県(CR+EN), 高知県(VU)など, 全国38都道府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	



被写体: 岡山市 撮影者: 高木真人

<b>エゾトンボ</b> <i>Somatochlora viridaenea</i> (エゾトンボ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧* 産地が局地的で個体数が少ない。		
種 の 特 徴	体が金属緑色に輝き, 胸側に2本の黄条がある。翅は透明であるが, 成熟すると♀では褐色にくすむ。		
分 布	県内:高松市大滝山, 小豆島。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	低山地や山地の樹林に囲まれた湿地や休耕田に生息する。未熟個体は林間の空き地で摂食飛翔する。小豆島の生息地は, 山頂にある湿地が生息地である。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	林道開設やダム建設などの開発で, 生息環境が破壊される。		
特 記 事 項	徳島県(VU), 高知県・愛媛県(NT)など, 全国25都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	



被写体: 岡山市 撮影者: 高木真人

<b>ベッコウトンボ</b> <i>Libellula angerina</i> (トンボ科)		香川県カテゴリ	絶滅 (EX)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧 I A類 (CR)
選 定 理 由	⑨* 宮城県以南の本州, 四国, 九州に記録があるが, 現在では静岡県, 山口県のほか, 九州で僅かに生息が確認されるのみとなった。		
種 の 特 徴	同属のヨツボシトンボに似ているが, 翅の縁紋付近, 結節付近と基部の3カ所に斑紋がある。		
分 布	県内:高松市(1950年以降未確認)。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	1950年以降, 確認されていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	県内唯一記録のあった生息地は, 戦後間もなく宅地開発によって消失した。		
特 記 事 項	「絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律」で国内希少野生動物種に指定されている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	



被写体: 大分県 撮影者: 高木真人

\*選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

ハッチョウトンボ <i>Nannophya pygmaea</i> (トンボ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧※ 香川県における生息は、局地的で、しかも五色台以外一時的であって、現在生息が確認できていない。		
種 の 特 徴	腹長10～14mm、後翅長13～15mmで日本産トンボ科の中では最小。成熟した♂は赤橙色、♀は黄色の地に胸の側面に黒条があり、腹部は橙色で乳白色の輪が節ごとにある。		
分 布	県内: 綾川町、五色台(自衛隊演習場)、直島、まんのう町、三野町。 県外: 本州、四国、九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	綾上町の生息地は、1991年、工業団地造成のための森林伐採によって発見されたが、その時の造成工事によって生息地が消失した。なお、この地は瓦製造のための粘土の採集地であったとのことである。自衛隊演習場での生息確認は出来ていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息には明るく開け、風通しの良い湿地が必要であり、自然遷移などによって草丈の高い植物が生えたり、浸出水が枯渇すると生息地を求めて移動する。		
特 記 事 項	徳島県・愛媛県(CR+EN)、高知県(VU)など、全国34都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	



被写体: 綾川町 | 撮影者: 高木真人

コノシメトンボ <i>Sympetrum baccha matutinum</i> (トンボ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤※ 産地が局地的で、個体数も少ない。		
種 の 特 徴	腹長25～30mm、後翅長29～35mm。翅の先端に黒褐色の斑紋があるアカトンボ。♂は成熟すると全身が真っ赤になる。胸の側面の2本の黒条は途中でつながる。		
分 布	県内: 東かがわ市、坂出市、丸亀市、まんのう町。 県外: 北海道、本州、四国、九州; 朝鮮半島、中国東北部。		
県 内 で の 生 息 状 況	丘陵地や低山地の抽水植物が繁茂する池沼、水田に生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	産卵は、透明度の高い水の溜まった水田やため池で行われる。そのため、基盤整備による乾田化、ため池の富栄養化による水質汚濁があると産卵しなくなる恐れがある。		
特 記 事 項	秋田県(CR+EN)、青森県・山形県(VU)、鳥取県(NT)など、全国9県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	




被写体: 丸亀市 | 撮影者: 高木真人

キトンボ <i>Sympetrum croceolum</i> (トンボ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧※ 産地が局所的で個体数も少ない。		
種 の 特 徴	腹長24～29mm、後翅長25～32mmの比較的小型の赤とんぼの一種。翅の基部半分と前縁に沿ってオレンジ色をした筋が先端まで色づいている。体全体は橙黄色をしている。		
分 布	県内: 東かがわ市、さぬき市、高松市、綾川町、まんのう町。 県外: 北海道、本州、四国、九州; 朝鮮半島から中国東北部。		
県 内 で の 生 息 状 況	丘陵地で抽水植物が繁茂し、岸辺に樹林がある水質良好な池沼に生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	護岸工事によるコンクリート化、埋立による生息環境の喪失。		
特 記 事 項	高知県(VU)、愛媛県(NT)など、全国23都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	




被写体: 東かがわ市 | 撮影者: 高木真人


※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

<b>ナツアカネ</b> <i>Sympetrum darwinianum</i> (トンボ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧※ 近年、生息が確認できなくなった。		 <p>被写体: 東かがわ市 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	アキアカネに似ているが少し小型。胸部側面にある2本の黒色条は、前方のものが上端で断ち切れている。		
分 布	県内: 全域。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	池干しの水際や湿地などで産卵が見られたが、最近は見ることが出来ない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ため池護岸のコンクリート化、産卵期の満水、富栄養化による水質汚濁、農業従事者の高齢化、減少により池干しが行われなくなると生息地が減少する。		
特 記 事 項	北海道・大阪府(NT)など、全国4都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	

<b>アキアカネ</b> <i>Sympetrum frequens</i> (トンボ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧※ 最も普通に産し、個体数も多かったが、1990年代後半から全国的に激減している種類。最近の10年でほとんど見ることが出来なくなった。		 <p>被写体: 善通寺市 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	ナツアカネに似ているが少し大型。胸部側面にある2本の黒色条は、前方のものの上端が尖っている。		
分 布	県内: 全域。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	晩期水稻の稲刈り後の水田で産卵するのが普通に見られたが、箱育苗による共同育苗が普及し、新型農業使用時期を境に減少し、今では丘陵地の水はけの悪い水田で産卵するのが稀に見られる程度となった。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	水田の基盤整備による乾田化、水稻の共同育苗時における新型農業の使用によるふ化不全。水稻作付技術の変化(中干し)により、餌資源の枯渇と生息環境の悪化により生存が危ぶまれる。		
特 記 事 項	徳島県(VU)など、全国9都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	

<b>ナニワトンボ</b> <i>Sympetrum gracile</i> (トンボ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑧※ 秋に池干しが行われなくなって産卵に適した環境が減少し、個体数が減少している。		 <p>被写体: 高松市 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	腹長21～25mm、後翅長23～27mm。成熟しても赤くならない小型のアカトンボの1種。♂は成熟すると青白い粉をふき、♀は地色が黄色く胸の側面に2筋の黒条がある。		
分 布	県内: 東かがわ市, さぬき市, 高松市, まんのう町, 観音寺市, 三豊市。 県外: 本州, 四国(愛媛県, 徳島県)。		
県 内 で の 生 息 状 況	丘陵地で秋に池干しを実施されているため池では生息が確認できるが、満水のため池では生息確認が難しい。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ため池護岸のコンクリート化、産卵期の満水、富栄養化による水質汚濁など農業従事者の高齢化、減少により池干しが行われなくなると生息地が減少する。		
特 記 事 項	徳島県(CR+EN)など、全国12府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	

※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

ノシメトンボ <i>Sympetrum infuscatum</i> (トンボ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧※ 秋に池干しが行われなくなって産卵に適した環境が減少し、生息地が減少している。		 <p>被写体: 坂出市 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	翅の先端が褐色に縁取られ、リスカカネ、コノシメトンボに似ているが腹部は細長い。アカトンボの仲間では最大種。		
分 布	県内: さぬき市, 高松市。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	アキアカネと同様、晩期水稻の稲刈り後の水田や池干しの池沼で産卵の光景がよく見られたが、近年、見かけなくなった。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ため池護岸のコンクリート化、産卵期の満水、富栄養化による水質汚濁、農業従事者の高齢化、減少により池干しが行われなくなると生息が減少する。		
特 記 事 項	愛知県・大阪府(NT)、富山県(VU)が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	

マイコアカネ <i>Sympetrum kunkeli</i> (トンボ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧※ 県内では産地が局地的で、個体数が減少している。		 <p>被写体: 丸亀市 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	腹長21～25mm、後翅長22～27mm。マユタテアカネ、ヒメアカネに似ているが、成熟した♂は額が青白く、腹部は赤くなる。胸の数本の黒条は細い。		
分 布	県内: 東かがわ市, 三木町, 坂出市, 丸亀市, 三豊市財田町。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州; 朝鮮半島から中国東北部。		
県 内 で の 生 息 状 況	主に都市近郊など平地に産し、ヨシ、ガマ等の草丈の高い抽水植物が繁茂する池沼に生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息地の埋立やため池改修、池沼の公園化に伴う護岸工事などによって、生息環境が破壊される。		
特 記 事 項	高知県・愛媛県(VU)など、全国24府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	

ヒメアカネ <i>Sympetrum parvulum</i> (トンボ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧※ 県内では産地が局地的で、個体数が減少している。		 <p>被写体: 高松市 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	腹長19～25mm、後翅長20～27mm。日本産アカトンボの中では最も小型。成熟した♂は額が白く、腹部は鮮やかな赤色になる。肩縫線上の黒条は枝分かれしない。		
分 布	県内: 高松市, 坂出市, まんのう町, 三豊市財田町。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州; 朝鮮半島から中国東北部。		
県 内 で の 生 息 状 況	丘陵地から低山地の湿地や耕作放棄された水田などに生息する。未熟個体は生息地から少し離れた樹林に潜む。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	自然遷移の進行で湿地が乾燥化し、生息環境が破壊されるのが懸念される。		
特 記 事 項	愛媛県(NT)など、全国18府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	

※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅



オオキトンボ <i>Sympetrum uniforme</i> (トンボ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧 I B類 (EN)
選 定 理 由	⑧*	全国的にも産地、個体数ともに減少している。本県においても、秋に池干しが行われなくなって産卵環境が減少し、生息地が減少している。	
種 の 特 徴	腹長31～36mm、後翅長33～39mm。日本産アカトンボの中では最大種。全身が鮮やかな橙黄色をし、翅はオレンジ色の斑紋のないアカトンボ。		
分 布	県内: 東かがわ市、さぬき市、高松市、綾川町、丸亀市、観音寺市。 県外: 本州、四国、九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	池干しなど、ため池の水管理が行われていたころは、10月になると成熟個体が多数、山間部から繁殖地へ降りてきて池泥底へ産卵する光景を見ることができた。現在は、池干しの実施が行われなくなり、かろうじてヒシなどの浮葉植物に産卵している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	護岸のコンクリート化、産卵期の満水、富栄養化による水質汚濁、農業従事者の高齢化、減少により池干しが行われなくなると生息が減少する。		
特 記 事 項	徳島県(CR+EN)、愛媛県(VU)、高知県(DD)など、全国29府県が指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 高木真人



被写体: 丸亀市 撮影者: 高木真人

ウスバカマキリ <i>Mantis religiosa</i> (カマキリ科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリ	情報不足 (DD)
選 定 理 由	⑤⑦*	県内における記録がほとんどなく、1959年の標本が現存するがそれ以外の標本はない。近年では坂出市番の州町において観察記録が見られるのみである。	
種 の 特 徴	体長♂52～66mm、♀59～66mm。大型のカマキリ。翅は薄く、光沢を持ち、美しい印象を受けるカマキリである。河川敷や原野、茅場、草本が繁茂した造成地のような適度に管理された草地、人為的な草地環境に生息するが、生息地は限られている。		
分 布	県内: 高松市塩江町大滝山、坂出市番の州 県外: 北海道、本州、四国、九州、沖永良部島、沖繩諸島、宮古列島、八重山列島に分布するが、北海道の分布は再確認の必要がある。		
県 内 で の 生 息 状 況	高松市こども未来館(昆虫標本展示室)に保管されている大滝山産の標本(1959年9月19日1♀)以外に現存する標本はない。坂出市番の州において生息情報(写真)がある。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種は県内における確認例が極めて少ない。生息環境である草地環境、荒地環境は非常に不安定な環境であり、放置しておくとも植物が繁茂してしまい生息環境としては不適となる。また、造成などの改変を受けやすく消失する環境である。		
特 記 事 項	愛媛県(VU)、高知県(DD)など、全国28都府県が指定。		
文 献	なし		執筆者: 宇都宮靖博




被写体: 坂出市 撮影者: 宇都宮靖博

ニョタイササキリモドキ <i>Tettigoniopsis nyotaiensis</i> (キリギリス科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	①④⑤*	香川県(さぬき市矢筈山)が基準産地で、それ以外の地域では見つからない。生息地が狭く、環境の変化により絶滅の可能性が極めて高い。	
種 の 特 徴	体長♂10～12mm、♀9～12mm。体色は緑色で、翅は短く飛翔することはできない。暗い林床の藪の中に生息する。成虫は7月下旬～8月下旬が最盛期である。		
分 布	県内: さぬき市、三木町。		
県 内 で の 生 息 状 況	矢筈山山系、大山等の記録に加え、佐野(2020)により三木町高仙山における記録が報告されている。分布は極めて局地的である。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	低山地の樹林環境の悪化(伐採・乾燥等)により、生息環境が減少している。移動能力に乏しいことから、生息環境の悪化が本種の絶滅につながる恐れがある。		
特 記 事 項	香川県特産種		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 宇都宮靖博




被写体: 女体山 撮影者: 高木真人


\*選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅


サヌキササキリモドキ Tettigoniopsis sanukiensis (キリギリス科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	
		香川県カテゴリー	—	
選 定 理 由	①⑤※ 香川県大滝山を基準産地とするササキリモドキである。四国内に比較的広く生息するが、いずれの地域においても個体数は多くない。県内でも広く分布するが個体数が減少傾向にある。			
種 の 特 徴	体長♂10～12mm, ♀11～13mm。成虫は7月～8月に出現する。後翅が退化し、飛ぶことができない。			
分 布	県内: 高松市, 綾川町, まんのう町, 三豊市。 県外: 徳島県, 高知県, 愛媛県。ブナ帯から足摺岬などの照葉樹林帯まで広く生息する。		被写体: 大滝山	撮影者: 高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	大滝山, 竜王山, 大川山の記録に加え, 佐野(2020)により, 高松市塩江町, 綾川町粉所東, まんのう町, 財田町, 山本町等から記録が報告されている。一部の地域では比較的多くの個体が確認されているが, 各地で個体数は減少傾向にある。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	山地の樹林環境の悪化(伐採・乾燥等)により, 生息環境が減少している。比較的分布は広いが, 県内の生息地は局地的であり, また, 移動能力に乏しいことから, 生息環境の悪化が本種の県内における絶滅につながる恐れがある。			
特 記 事 項	四国特産種。本県以外で希少種としての指定は無し。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 宇都宮靖博	

ヤマトマダラバッタ Epacromius japonicus (バッタ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリー		
選 定 理 由	⑤⑦※ 有明浜以外の生息地では個体数も多くなく, また, 生息域も狭い。県内の生息場所は局所的であり, 当該地域の環境悪化により, 絶滅の可能性が高い。			
種 の 特 徴	体長♂約30mm, ♀30～35mm。中型のバッタ。体は白っぽい灰褐色の地色に濃褐色の斑紋を持ち, 砂浜の色と酷似している。			
分 布	県内: 高松市, 丸亀市, 観音寺市。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		被写体: 有明浜	撮影者: 高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	主に自然度の高い海岸の砂地に生息する。高松市男木島, 丸亀市手島, 観音寺市有明浜の記録があり, 観音寺市有明浜での生息数は決して少なくないが, 砂浜環境の悪化等により生息数の減少が危惧される。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	広大な砂地環境を生息場所とすることから本種の生息に適した環境は極めて局限されている。有明浜では, 夏季に砂浜を利用したレクリエーションが盛んであることから砂浜への人の侵入が多く, 砂地環境が悪化傾向にある。			
特 記 事 項	愛媛県(VU), 高知県(CR+EN)など, 28府県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 宇都宮靖博	

セグロイナゴ Shirakia shirakii (イナゴ科)		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)	
		環境省カテゴリー		
選 定 理 由	⑧※ 荒地, 草地等, 本種の生息環境は減少傾向にある。三豊市等において確認されているが, 生息状況については情報が乏しい。			
種 の 特 徴	体長♂約35mm, ♀26～40mm。低茎～高茎の草地環境の地表付近に生息するバッタである。前胸背面が黒っぽいことからその名が付いている。複眼には6本の縦シマ模様がある。			
分 布	県内: 土庄町, 坂出市, 丸亀市, 三豊市。 県外: 本州, 四国, 九州, 佐渡島, 岩岐, 対馬, 平戸島, 五島列島, 奄美大島, 沖縄島, 八重山列島。		被写体: 三豊市	撮影者: 宇都宮靖博
県 内 で の 生 息 状 況	坂出市聖通寺山, 角山付近, 豊島等の記録がある他, 丸亀市垂水町, 三豊市高瀬町の草地において生息が確認されている。しかしながら個体数は決して多くなく, 分布は局地的である。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	草地環境の減少に伴い生息環境が消失している。			
特 記 事 項	東京都・千葉県・富山県(CR), 山梨県・埼玉県・長野県(VU)など, 17府県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 宇都宮靖博	


※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅


チュウジョウムシ <i>Galloisiana chujoi</i> (ガロアムシ科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリ	情報不足 (DD)
選 定 理 由	香川県女木島が模式産地。確認例が非常に少なく、生息状況も不明である。①④⑦*。また、生息地の洞窟は観光洞となっており、環境の悪化が指摘されている。		
種 の 特 徴	体長22mm。頭胸部は淡い赤茶色で頭部はやや濃色。腹部は黄茶色。		
分 布	国内では、香川県高松市女木島にのみ分布する種である。		
県 内 で の 生 息 状 況	香川県高松市女木町(女木島)の洞穴(通称「鬼ヶ島大洞窟」)においてのみ確認されており、湿った石の下から見つかっている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息場所である洞窟は、観光洞として人の出入りがあることにより洞内が乾燥傾向にある。また、ライトアップ等が実施され、環境の変化が起こっている。		
特 記 事 項	香川県特産種。別名「メギシマガロアムシ」。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 宇都宮靖博


ツッチゼミ <i>Kosemia rediator</i> (ゼミ科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	県内における生息地は極めて局地的で生息状況には不明な点が多い。生息環境であるマツ林はマツ枯れ等により衰退しており生息状況の悪化が懸念される。⑦*		
種 の 特 徴	体長20mm程度の小型のゼミ。アカマツ林、落葉広葉樹林で見られ夏～秋に出現する。高い音で「ツッチツッチ」と素早く鳴く。翅を畳むと腹部背面に黒色の突起があるように見える。		
分 布	県内: 三豊市財田町, まんのう町大川山。 県外: 北海道(恵山), 本州, 佐渡島, 隠岐, 淡路島, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	三豊市財田町の中禅寺峰, まんのう町大川山における記録があるものの、それ以外の記録は鳴き声のみの確認である。また、まんのう町の記録も20年以上前のもので、現在の県内における生息状況については不明な点が多い。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	県内における分布が非常に局地的であり、生息数も決して多くない。また、本種の生息環境のアカマツ林は松枯れの影響で衰退し、分布は広くなく、本種の生息環境は良好とは言えない。		
特 記 事 項	高知県(VU)のほか、福岡県(CR+EN)、三重県(VU)など、11都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 宇都宮靖博

ヒメハルゼミ <i>Euterpnisia chibensis</i> (ゼミ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤⑦* 観音寺市大野原町, 東かがわ市五名(五名ダムの環境調査)において生息が確認されたが、生息場所は極めて局地的である。また、生息地の確認個体数も極めて少ない。		
種 の 特 徴	体長25mm程度のやや小振りなゼミ。自然度の高い照葉樹林を生息地とするが、局所的な地域もある。そのような場所では、神社を取り巻く社叢林に依存することが多い。		
分 布	県内: 東かがわ市, 綾川町, 三豊市。 県外: 本州(関東以西), 四国, 九州, 五島列島, 甌島列島, 種子島, 屋久島, トカラ列島, 奄美諸島など。		
県 内 で の 生 息 状 況	香川県では2000年に観音寺市大野原町において鳴き声により初めて生息が確認された。2018年に東かがわ市五名(ダムの再開発に伴う環境調査時に確認)で生息が確認された。2020年に綾川町でも確認された。いずれの場所も極めて狭小な照葉樹林である。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	県内における分布が非常に局地的であり、生息数も決して多くない。また、本種の生息環境の照葉樹林は狭小であり、環境の悪化が懸念される。		
特 記 事 項	愛媛県(NT)のほか、岡山県・広島県(NT)など、16都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 宇都宮靖博

\*選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

<b>エゾハルゼミ</b> <i>Terpnosia nigricosta</i> (セミ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	⑤⑦*	県内には高標高地が少なく、本種の生息に適した環境が狭小である。また、生息に適した地域も乾燥等が進み環境が年々悪化している。		
種 の 特 徴	体長35mm程度の中型のセミ。初夏に標高の高い地域の落葉広葉樹林で発生する。「ミョーキンミョーキン・ケケケケ」と独特の鳴き方をする。			
分 布	県内:高松市塩江町大滝山。 県外:千島(国後島)、北海道、礼文島、利尻島、本州、佐渡島、四国、九州。			被写体: 愛媛県別子山 撮影者: 今川義康
県 内 で の 生 息 状 況	大滝山山頂付近のブナ林において生息の記録があるものの、近年は鳴き声を聞いたという情報のみで、生息を確認できておらず、現在の生息状況は不明である。大滝山山頂付近のブナ林は乾燥が進んでおり、環境の悪化に伴い本種の生息状況も悪化している。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	冷涼な自然林に生息するセミであることから、高い山の少ない香川県では生息地が局地的である。阿讃山脈は人の手が広く入っており、自然林は大滝山、竜王山など一部に残っているだけで、本種の生息環境は脆弱である。			
特 記 事 項	高知県(NT)のほか、山口県・宮崎県(NT)など、14府県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。			執筆者: 宇都宮靖博

<b>エゾゼミ</b> <i>Auritibicen japonicus</i> (セミ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	⑤⑦*	県内には高標高地が少なく、本種の生息に適した環境が狭小である。また、生息に適した地域も乾燥等が進み環境が年々悪化している。		
種 の 特 徴	体長45mm程度の大型のセミ。前胸背面は赤褐色、中胸は黒色に「逆M」字の模様がある。モミ、ツガ、マツ、スギなど針葉樹林に多く見られ、7～9月頃「ギーーーーー」と長く鳴く。			
分 布	県内:大滝山、竜王山、大川山。 県外:北海道、本州、佐渡島、隠岐(島後)、四国、九州。			被写体: 大滝山 撮影者: 高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	大滝山の中腹以上、天満ヶ原等、比較的標高の高い場所のモミが多く見られる林において1～3個体程度の鳴き声が確認できる。個体数は多くなく、生息場所も局地的である。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	山地の針葉樹林に生息するセミであり、高い山の少ない香川県では生息地が局地的である。大滝山等の一部にモミ林が残っているが生息環境としては脆弱である。			
特 記 事 項	高知県(NT)、徳島県(NT)など、11府県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。			執筆者: 宇都宮靖博

<b>ニシキキンカメムシ</b> <i>Poecilocoris splendidulus</i> (キンカメムシ科)		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	⑤⑦*	県内の生息地は極めて局地的である。寄主のホンツゲ自体も非常に少なく、生息環境は脆弱であると考えられる		
種 の 特 徴	体長16～20mm。虹色の金属光沢を持つ極めて美しいカメムシ。ツゲ(ツゲ科)を寄主とし、幼虫はその実を食べて育つ。県内では、2018年、生息地が発見された。			
分 布	県内:小豆島。 県外:本州、四国、九州。			被写体: 小豆島 撮影者: 高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	2018年に小豆島において県内で初めて確認された。小豆島町の一箇所においてのみ確認されており、分布は局地的である。寄主植物のホンツゲ自体の自生が少なく、本種の生息場所は極限されている。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	2018年に香川県で新たに生息が確認された種であり、生息状況についての知見が乏しい。しかしながら、本種の寄主であるツゲは本来少なく、生息基盤は脆弱と考えられる。			
特 記 事 項	高知県(NT)のほか、岡山県(NT)、兵庫県(DD)など、11府県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。			執筆者: 宇都宮靖博

\*選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

ゴミアシナガサシガメ <i>Myiophanes tipulina</i> (サシガメ科)		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (VU)
選 定 理 由	⑦⑧*	香川県内での記録を始め、全国的に確認例が少ない種で、生態的な知見に乏しい。また、民家等において確認されているが、その生息基盤は非常に脆弱である。	
種 の 特 徴	体長15mm程度。脚が長く、体は細い。脚には長い毛を持ち、ゴミ類を付着させて生活する。ヒメグモを特異的に捕食するようである。古民家等で見つかる事例が報告されているが、極めて稀。		
分 布	県内: 高松市。 県外: 本州, 伊豆(三宅島), 佐渡島, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	高松市内の住宅内において採集(1966年8月5日)されている。県内における唯一の記録である。県内に限らず、生息情報は全国的に極めて少ない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種は、古民家で見つかることが多い種であり、野外での生態的知見が非常に乏しい。県内における確認例は極めて少なく、生息状況は不明である。		
特 記 事 項	高知県(CR+EN), 愛媛県(VU)など, 14府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 宇都宮靖博	



被写体: 高松市 撮影者: 高木真人

キイロサシガメ <i>Sirthena flavipes</i> (サシガメ科)		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリー	
選 定 理 由	⑦⑧*	県内における生息情報は多くない。ケラを特異的に捕食するが、餌となるケラの生息環境悪化に伴い減少傾向にある。	
種 の 特 徴	体長15mm程度。黄色の体に黒色の斑紋を持つ細長い筒状の体型をしたサシガメ。休耕地, 水田などに見られ、ケラを特異的に捕食することが知られている。		
分 布	県内: 三豊市, 三木町, さぬき市。 県外: 本州, 四国, 九州, 対馬, 宝島, 奄美大島, 沖縄本島, 宮古島, 八重山諸島。		
県 内 で の 生 息 状 況	三豊市, 三木町, さぬき市, 三木町, 坂出市, 三豊市において灯火採集により確認されている。ケラが多数生息する休耕地などにおいて多数確認できるとい話は聞くが、県内での生息数は少ないと思われる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	餌となるケラの生息地である水田の畦などの環境が変化しケラが少なくなりつつある。本種はケラを特異的に捕食することから、餌量の減少に伴う生息数減少が懸念される。		
特 記 事 項	愛媛県・高知県(NT)のほか, 埼玉県(VU)など, 3県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 宇都宮靖博	



被写体: 坂出市 撮影者: 高木真人


ハマベツチカメムシ <i>Byrsinus varians</i> (ツチカメムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑦*	海浜植物の多い砂浜に生息する種であり、県内の分布は局地的である。砂浜でのイベント開催に伴う人による踏圧, ゴミ投棄等, 環境の悪化が懸念される。	
種 の 特 徴	体長4~5mm程度の黒褐色の光沢のあるツチカメムシ。脚がたくて短い印象を受ける。海岸の砂浜に生息し、海浜植物, 主にコウボウムギ等イネ科植物の根際に生息する。		
分 布	県内: 観音寺市。 県外: 本州, 四国(徳島県), 九州, 沖縄(伊平屋島)。		
県 内 で の 生 息 状 況	観音寺市有明浜でのみ生息が確認できている。有明浜ではコウボウムギの生育する場所において、株元から比較的容易に見つけることができる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	海浜の砂地環境の悪化に伴う生息地の消失。有明浜では夏季にイベントを実施しており、多くの人が砂浜を訪れる。その折に海浜植物等の繁茂する砂地に入ることにより、踏圧が生息地に影響を与えている。		
特 記 事 項	愛媛県(VU), 徳島県・和歌山県(NT)など, 10県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	なし	執筆: 宇都宮靖博	



被写体: 観音寺市 撮影者: 宇都宮靖博

\*選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

シロヘリツチカメムシ <i>Canthophorus niveimarginatus</i> (ツチカメムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑦* 河川の護岸改修等により、カナビキソウ(半寄生性植物)の生育環境である草地環境が減少し、それに伴い、本種の生息環境も減少傾向にある。		 <p>被写体: まんのう町   撮影者: 宇都宮靖博</p>
種 の 特 徴	体長5～6mmの小型のカメムシ。黒っぽい青藍色で光沢を持ち、体側に白い線が入る。カナビキソウを寄主とし、河川敷や草原などに生息する。		
分 布	県内: 高松市, まんのう町, 丸亀市。 県外: 本州, 佐渡島, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	土器川河川敷の記録(H13年度河川水辺の国勢調査)がある。高松市香川町(香東川), まんのう町, 丸亀市(土器川)の河川敷において生息が確認されている。河川沿いの草本がまばらに生えている環境において寄主植物のカナビキソウが生育しており、そのような場所において生息が確認されている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川敷の護岸等により草地環境が減少したことにより、本種の寄主であるカナビキソウの生育環境が減少傾向にある。それに伴い本種の生息環境も減少傾向にあると考えられる。		
特 記 事 項	愛媛県(NT), 高知県(DD)など, 23都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 宇都宮靖博

ハネナシアメンボ <i>Gerris (Gerris) nepalensis</i> (アメンボ科)		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリー	
選 定 理 由	⑦⑧* 県内の生息状況については不明な点が多い。本種の生息環境である植物の繁茂する止水環境は悪化傾向にあり、本種も減少傾向にあると考えられる。		 <p>被写体: 坂出市   撮影者: 宇都宮靖博</p>
種 の 特 徴	体長10mm程度のアメンボ。成虫になっても翅を持たないアメンボであるが、翅を持つ有翅型もいる。挺水植物の繁茂する止水環境に生息する。		
分 布	県内: 東かがわ市, 綾川町, 坂出市。 県外: 北海道, 本州, 隠岐, 四国, 九州, 天草。		
県 内 で の 生 息 状 況	挺水植物が繁茂するため池に生息する。東かがわ市, 綾川町, 坂出市等のため池において生息が確認されている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ため池の改修等により護岸がコンクリートにより固められ生息環境が悪化している。特に水際の植生が減少したことにより、本種が生息する薄暗い水辺環境が消失し、姿を消している。		
特 記 事 項	千葉県・神奈川県(CR+EN), 茨城県・富山県(VU)など, 10都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 宇都宮靖博

エサキアメンボ <i>Limnopus esakii</i> (アメンボ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑦⑧* 抽水植物が繁茂し、水面を覆うような止水環境に生息するが、そのような環境は近年見ることができない。それに伴い本種も減少傾向にある。		 <p>被写体: 綾川町   撮影者: 宇都宮靖博</p>
種 の 特 徴	体長15mm程度の小型の細い華奢な感じのアメンボ。体側は白色に縁取られる美しい種である。植物が水面を覆い、薄暗くなった環境に生息する。開放的な環境にはほとんど出てこない。		
分 布	県内: 東かがわ市, 綾川町, 普通寺市。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬。		
県 内 で の 生 息 状 況	H13年度河川水辺の国勢調査より土器川において確認されている他、東かがわ市, 綾川町, 普通寺市において生息が確認されている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ため池の改修等により護岸がコンクリートにより固められ生息環境が悪化している。特に水際の植生が減少したことにより、本種が生息する薄暗い水辺環境が消失し、姿を消している。		
特 記 事 項	愛媛県(NT), 高知県(CR+EN), 徳島県(VU)など, 32都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 宇都宮靖博


※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅


イトアメンボ <i>Hydrometra albolineata</i> (イトアメンボ科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)	No Photo
		環境省カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)	
選 定 理 由	⑤⑧*	全国的に減少している種である。県内での確認記録は極めて少ない種であり、調査によっても生息を確認できていない。		
種 の 特 徴	体長15～20mmの大型のイトアメンボ。体色は黒っぽい灰色。抽水植物が生育する水辺に見られ、植物の間を歩行している姿を見ることができる。			
分 布	県内:小豆島町。 県外:本州、隠岐、四国、九州、対馬。		被写体:	
県 内 で の 生 息 状 況	小豆島町の小河川にできた溜まりにおいて少数個体の生息が確認されているが、その後記録が途絶えている。細々と生息している可能性はあるが、県内における記録は極めて少なく、現状は不明である。		撮影者:	
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ため池等の堤防改修により、水辺の植生等が消失し、生息環境が悪化し、減少傾向にある。			
特 記 事 項	徳島県・愛媛県(CR+EN)、高知県(NT)など、26府県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	なし	執筆者: 宇都宮靖博		


オモゴミスギワカメムシ <i>Macrosaldula shikokuana</i> (ミスギワカメムシ科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)		
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)		
選 定 理 由	⑤⑦*	生息環境が局地的であることに加え、大規模な出水などにより河道状況の急変が起こることが考えられ、生息環境の破壊が危惧される。			
種 の 特 徴	体長4～5mm程度の長楕円形、黒っぽい翅に白色の白斑がある扁平なカメムシ。河川沿いの岩場等の上で見られる。幼虫も岩上で生息する。気温が高い時間帯は俊敏に活動し、よく飛ぶ。				
分 布	県内:香東川水系、綾川水系。 県外:四国(徳島県、愛媛県)。		被写体: 香東川		
県 内 で の 生 息 状 況	綾川上流域において香川県内で初めて生息が確認されたが、香東川水系でも生息が確認された。県内における分布は現状では局地的である。				撮影者: 宇都宮靖博
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川改修による河道内環境の変化。特に流量確保のため、河床を平坦にすることにより本種の生息環境である水際の巨岩・岩場が減少している。				
特 記 事 項	徳島県(NT)が指定。				
文 献	なし	執筆者: 宇都宮靖博			

ホッケミズムシ <i>Hesperocorixa distanti hokkensis</i> (ミズムシ科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)	No Photo	
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)		
選 定 理 由	⑦⑧*	水生植物の繁茂する止水環境に生息する。ため池の改修、富栄養化等により生息環境の悪化が懸念される。全国的に減少傾向にある。			
種 の 特 徴	体長9.5～10.8mm。大型のミズムシ科。ため池、池沼などに生息する。				
分 布	県内:綾川町、東かがわ市 県外:本州(山形県以南)、淡路島、四国、九州		被写体:		
県 内 で の 生 息 状 況	綾上町高山、与島、高瀬町等に「ミズムシ」の記録があり、これらはホッケミズムシと考えられる。また、大内町(三殿才の池)において記録があるが、近年確認されていない。				撮影者:
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ため池の改修等により護岸がコンクリートにより固められ生息環境が悪化している。水量確保のため、水際から急激に深くなっているため池が多く、浅場を好む水生昆虫類にとっては生息環境として適していない箇所が多い。				
特 記 事 項	愛媛県(CR+EN)、高知県(DD)など、22都県が絶滅危惧種に指定。				
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 宇都宮靖博			

※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

<b>オオミズムシ</b> <i>Hesperocorixa kolthoffi</i> (ミズムシ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	
選 定 理 由	⑦⑧※ 水生植物の繁茂する止水環境に生息する。ため池の改修、富栄養化等により生息環境の悪化が懸念される。全国的に減少傾向にある。			
種 の 特 徴	体長9.8～13.4mm。日本産最大のミズムシ科。水生植物の多いため池などに生息する。生息地での個体数は多いが、突然一気に姿を消すことがある。			
分 布	県内: 普通寺市, 綾川町。 県外: 本州(近畿地方以西), 四国, 九州。			
被写体:	坂出市	撮影者:		高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	普通寺市と北町, 普通寺市普通寺町伏見(普通寺養護学校)の記録がある他, 環境調査による綾川町(長柄ダム)のほか, 坂出市においても生息が確認されている。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ため池の改修等により護岸がコンクリートにより固められ生息環境が悪化している。水量確保のため, 水際から急激に深くなっているため池が多く, 浅場を好む水生昆虫類にとっては生息環境として適していない箇所が多い。			
特 記 事 項	愛媛県(VU), 徳島県(NT)など, 11府県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 宇都宮靖博	

<b>ナガミズムシ</b> <i>Hesperocorixa mandshurica</i> (ミズムシ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)	
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	
選 定 理 由	⑦⑧※ 水生植物の繁茂する止水環境に生息する。ため池の改修、富栄養化等により生息環境の悪化が懸念される。全国的に減少傾向にある。			
種 の 特 徴	体長9.0～11.3mm。大型のミズムシ科。水生植物の比較的多いため池, 池沼などに生息する。			
分 布	県内: 綾川町, 三木町。 県外: 本州(近畿地方以西), 四国, 九州。			
被写体:		撮影者:		
県 内 で の 生 息 状 況	綾上町高山, 三木町高屋の記録があるほか, 前山ダムにおいて本種が確認されている。生息数が多い種ではないことから, 県内の分布は局地的と考えられる。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ため池の改修等により護岸がコンクリートにより固められ生息環境が悪化している。水量確保のため, 水際から急激に深くなっているため池が多く, 浅場を好む水生昆虫類にとっては生息環境として適していない箇所が多い。			
特 記 事 項	愛媛県(CR+EN), 高知県(DD), 徳島県(NT)など, 10県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 宇都宮靖博	

<b>ミヤケミズムシ</b> <i>Xenocorixa vittipennis</i> (ミズムシ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	
選 定 理 由	⑦⑧※ 生息地が局限されていることに加え, ため池の改修, 富栄養化等により生息環境の悪化が懸念される。近年, 各地で姿を消している。			
種 の 特 徴	体長7.2～9.1mm。ふと短い中型のミズムシである。胸部背面には6～8本の黄帯がある。水生植物が豊富な水域に見られ, 生息地では多産することがある。			
分 布	県内: 普通寺市, 坂出市, 綾川町, 東かがわ市。 県外: 本州, 四国, 九州。			
被写体:	徳島県	撮影者:		宇都宮靖博
県 内 で の 生 息 状 況	東かがわ市(三殿才の池), 綾川町高山, 坂出市聖通寺山・角山付近, 普通寺市と北町の記録がある。県内の分布は局地的と考えられる。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ため池の改修等により護岸がコンクリートにより固められ生息環境が悪化している。水量確保のため, 水際から急激に深くなっているため池が多く, 浅場を好む水生昆虫類にとっては生息環境として適していない箇所が多い。			
特 記 事 項	愛媛県(VU)など, 18都府県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 宇都宮靖博	

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

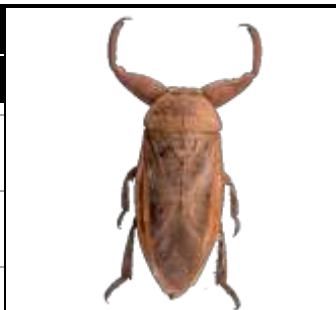


<b>コオイムシ</b> <i>Appasus japonicus</i> (コオイムシ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑧※	湿地、ため池(浅い場所)等の埋め立て、開発、湿性遷移による環境変化等により各地において生息環境が悪化・消失している。	
種 の 特 徴	体長17~20mm。湿地、ため池、休耕田など、水深の浅い水域に生息する。鎌状の前脚で、小型の生物を捕らえ捕食する。♀は♂の背面に産卵し、♂は孵化するまで保護する。		
分 布	県内: 東かがわ市、高松市、綾川町、坂出市、普通寺市、小豆島町 県外: 北海道、本州、四国、九州、隠岐、老岐、対馬等		
県 内 で の 生 息 状 況	与島、小豆島池田町段山、小豆島町、土庄町豊島、東かがわ市、高松市牟礼町、綾川町、坂出市、丸亀市・普通寺市等、三豊市財田町など、県内全域に広く分布している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息場所である植物の繁茂する浅い止水域は、各地で消滅しており、生息場所が極限されている。また、現在、残存している水辺環境も周辺環境の変化により、環境の悪化や消滅の可能性が高い。		
特 記 事 項	徳島県・高知県・広島県(NT)など、31都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 宇都宮靖博



被写体: 土庄町 撮影者: 高木真人

<b>タガメ</b> <i>Kirkaldyia deyrolli</i> (コオイムシ科)		香川県カテゴリ	絶滅 (EX)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑨※	県内のみならず、四国内における近年の記録は皆無である。農薬の影響等により各地で姿を消してしまった。	
種 の 特 徴	体長48~65mm。国内最大級のカメムシの仲間。カエル、小魚等を前脚で捕まえ、消化液を注入し溶かしながら食べる。ため池、水田など、水深の浅い水域に生息し、水面に突き出た植物、棒などにメスが産卵しオスが保護・世話する。		
分 布	県内: 高松市(一宮町、塩江町、国分寺町)。 県外: 北海道、本州、四国、九州、奄美大島、沖縄島、宮古島、石垣島、西表島等。		
県 内 で の 生 息 状 況	かつては平野部のため池、水田等を中心に広く分布していたと考えられるが、ため池の改修、湿地の消失、農薬等の使用により姿を消した。近年の記録はなく、絶滅したと考えられる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息場所である植物の繁茂する止水域は、各地で消滅しており、生息場所が極限されている。また、現在、残存している水辺環境も周辺環境の変化により、環境の悪化や、消滅の可能性が高い。		
特 記 事 項	高知(EX)、徳島県・愛媛県(CR+EN)など、46都道府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 宇都宮靖博



被写体: 国分寺町 撮影者: 高木真人


<b>ヒメタイコウチ</b> <i>Nepa hoffmanni</i> (タイコウチ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	②⑤⑦⑧※	生息環境である湿地、潤潤環境は里山近傍にあり、農薬の影響や開発等、人為的影響を強く受ける。それに伴い生息環境の悪化、消失が起こっている。	
種 の 特 徴	体長18~22mm。ため池、休耕田等に生息する。水生昆虫というイメージが強いが体が浸かる程度の水深で生息し、ゴミムシ、ワラジムシ等陸上の生物を捕食する。		
分 布	県内: さぬき市、高松市、三木町、綾川町。 県外: 本州(静岡、愛知、岐阜、三重、兵庫、奈良、和歌山、滋賀)、四国(香川)		
県 内 で の 生 息 状 況	さぬき市志度町・長尾町、木田郡三木町等、県東部において記録がある。さぬき市、三木町では継続して生息が確認されている。新たに、綾川町から確認されている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	湿地環境、休耕田の消失、ため池の改修に伴う池尻環境の消失など本種の生息環境である浅い水域が各地で減少傾向にある。		
特 記 事 項	兵庫県・三重県・奈良県・和歌山県(CR+EN)、岐阜県(VU)など、7県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 宇都宮靖博



被写体: さぬき市 撮影者: 高木真人

※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

<b>ヒメミズカマキリ</b>		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)
<i>Ranatra unicolor</i> (タイコウチ科)		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧* 植物の多い水辺環境に生息するが、近年、護岸工事等により植生の残る水際環境が減少し、生息環境が年々悪化している。		
種 の 特 徴	体長24～32mm(呼吸管を除く)。前足が鎌状になって、他の水生生物を捕獲して餌とするカメシムの仲間。腹部の末端に呼吸管があり、水面に突き出して呼吸をする。		
分 布	県内: 東かがわ市、高松市、坂出市、綾川町、三豊市。 県外: 北海道、本州、四国、九州、淡路島、平戸、沖縄島など。		
県 内 で の 生 息 状 況	香南町岡、坂出市聖通寺山・角山付近、綾上町羽床上、東かがわ市、財田町財田上・財田中等の記録があり、高松市、坂出市五色台等において生息が確認されている。抽水植物の多いため池に生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ため池の改修、湿地の埋め立てなど本種の生息環境である浅い水域が各地で消失し、生息場所が減少している。また、ため池の水質悪化により生息場所がなくなっている。		
特 記 事 項	愛媛県(NT)、高知県(CR+EN)など、22道府県が絶滅危惧種に指定。		被写体: 坂出市 撮影者: 高木真人
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 宇都宮靖博

<b>ナベブタムシ</b>		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
<i>Aphelocheirus vittatus</i> (ナベブタムシ科)		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧* 清冽な水域に生息することから、生息地が局限される。生活排水の流入、ダム建設等による水質の汚濁、水温上昇により生息環境が悪化の傾向にある。		
種 の 特 徴	体長8.5～10.0mm。ほぼ円形の扁平な体型。		
分 布	県内: 香東川水系、綾川水系、土器川水系。 県外: 本州、四国、九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	まんのう町造田(土器川)において記録されている他、環境調査により綾川上流部、香東川水系の源流域において生息が確認されている。河川上流域から中流域の水質が清冽な河川に見られ、堆積した砂中に生息する。砂中にシルト、泥等が混じると姿を消す。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	水質悪化等により、本種の生息する清冽な水質の河川が減少していることに加え、河川改修等により泥質の少ない砂地環境が減少し、本種の生息場所が消失傾向にある。		
特 記 事 項	徳島県・高知県(NT)など、15道府県が絶滅危惧種に指定。		被写体: 綾川 撮影者: 高木真人
文 献	なし		執筆者: 宇都宮靖博

<b>オオウスバカゲロウ</b>		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
<i>Synclisis japonica</i> (ウスバカゲロウ科)		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧* 県内における生息場所が局地的であることに加え、砂浜でのイベント開催に伴う人による踏圧、ゴミ等の投棄など砂浜環境の悪化が懸念される。		
種 の 特 徴	体長40mm程度。翅を広げると10cmを超える日本産最大のウスバカゲロウ。幼虫はコウボウムギ等がまばらに生育するキメの細かい砂浜に生息し、徘徊性。		
分 布	県内: 観音寺市、綾川町。 県外: 北海道、本州、四国、九州、大隅(種子島)。		
県 内 で の 生 息 状 況	綾上町高山の記録があるが標本は残っていない。観音寺市の有明浜において生息が確認されており、現時点では県内における唯一の生息場所と考えられる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	砂地環境を生息場所とすることから本種の生息に適した環境は極めて局限されている。有明浜でも、幼虫が確認できる範囲は狭く砂浜の中でも局地的である。また、有明浜は夏季に砂浜を利用したレクリエーションが盛んであることから砂浜への人の侵入が多く、砂地環境が悪化傾向にある。		
特 記 事 項	大阪府・愛媛県(CR+EN)、高知県(DD)など、20道府県が絶滅危惧種に指定。		被写体: 観音寺市 撮影者: 宇都宮靖博
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 宇都宮靖博

\*選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

ツマグロトビケラ <i>Phryganea japonica</i> (トビケラ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧※	本種の生息場所である水質の良好な止水環境は極めて局地的であり、また、ため池の放置等により富栄養化が進みつつある場所が多く、年々生息環境が悪化している。	
種 の 特 徴	成虫は翅を広げると60mm程度の大型トビケラである。前翅は淡褐色地に濃褐色の網目模様で、黒色糸を持つ。後翅は淡橙色で先端部が黒く「ツマグロ」の由来となっている。幼虫は池沼、ダム湖に生息し、落葉を短冊状に切り取り、円筒形の筒巣を作る。		
分 布	県内:高松市、綾川町。 県外:北海道、千島列島、本州、四国、九州、隠岐、対馬。		
県 内 で の 生 息 状 況	高松市香南町岡の記録があるが、それ以降の記録が極めて少ない。長柄ダムの環境調査において生息が確認されている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	止水域に生息することから、ため池の管理放棄等による水質の悪化、外来種による捕食などにより生息環境の悪化が進んでいる。		
特 記 事 項	愛媛県(DD)、高知県(NT)など、7府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 宇都宮靖博	




アオバセセリ本土亜種 <i>Chaospes benjaminii japonicus</i> (セセリチョウ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧※	県内では、山地の川沿いに分布している。食樹が川沿いにあるため、生息地は局地的である。	
種 の 特 徴	♀は♂に比べて大型で、セセリチョウ科では日本最大である。地色は黒緑色、後翅外縁に橙色の紋がある。飛翔は早い。		
分 布	県内:低山・讃岐山脈。 県外:本州、四国、九州、南西諸島。		
県 内 で の 生 息 状 況	山間部の溪流沿いに生息している。朝夕方に活動し、日中はウツギ、アカシア、リョウブ、レンゲ等の花に集まる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川工事、スギ、ヒノキ等の植林による広葉樹林の減少、食樹のアワブキの樹が減少している。		
特 記 事 項	千葉県(CR+EN)、青森県・大阪府(NT)など、4府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 高八稔弘	



ミヤマセセリ <i>Erynnis montana montana</i> (セセリチョウ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧※	県内の低山地から讃岐山脈まで広く生息していた普通種であったが、近年減少している。	
種 の 特 徴	中型のセセリチョウ。♀♂ともに茶褐色。♀は大型で翅形が丸みを帯び、前翅中央に太い白帯がある。♀♂とも後翅表には黄白色の小斑が多数並んでいる。		
分 布	県内:低山地から山地の尾根筋、島しょ部では佐柳島、小豆島。 県外:北海道、本州、四国、九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	以前は、山地の雑木林に普通に見られたが、近年は生息地が局地的になり、個体数も減少している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	低地では雑木林の伐採、宅地開発等により、生息地の環境悪化、山地では広葉樹林の伐採によるスギ、ヒノキなどの植林、道路の舗装に伴う乾燥化など生息環境の悪化により個体数の減少が見られる。		
特 記 事 項	千葉県・長崎県(CR+EN)、徳島県(VU)など、9県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 高八稔弘	




※選 定 理 由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅


<b>ホソバセセリ</b> <i>Isoetes lamprospilus lamprospilus</i> (セセリチョウ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧※ 県内の島嶼部, 低山に広く生息していたが, 里山の荒廃により, 草地が減少し生息地が減少。		
種 の 特 徴	中型のセセリチョウ。♀は♂に比べて大型。翅表は褐色, 前翅に白紋が数個あり, 裏面は黄色で後翅裏面にも数個の白紋がある。年2回発生。		
分 布	県内: 小豆島, 直島, 女木島, 県内の低山帯に生息。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	島嶼部から県内の低地の里山周辺で局地的に生息している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	里山の土地開発などにより草地が減少し, 生息地が少なくなっている。		
特 記 事 項	千葉県(CR+EN), 栃木県・神奈川県・鹿児島県(VU)など, 11県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 高八稔弘


<b>ヒメキマダラセセリ</b> <i>Ochlodes ochraceus</i> (セセリチョウ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧※ 讃岐山脈の民家周りから, 上部の沢筋や林縁に点々と生息しているが, 個体数は多くない。		
種 の 特 徴	小型のセセリチョウ。♂の翅表は赤褐色で外縁に黒帯, 前翅中央に黒色の性標がある。♀の地色は黒く, 黄色の紋がある。年2回発生。		
分 布	県内: 大滝山, 竜王山, 大川山の支流域。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	香東川, 土器川, 財田川の上流域, 大滝山, 竜王山, 大川山に局地的に生息している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	山間地の森林が手入れされなくなり, 里山環境が悪化するなどにより, 食草が減少する。		
特 記 事 項	長崎県(CR+EN), 東京都(情報不足)など, 5都県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 高八稔弘

<b>ミヤマチャバナセセリ</b> <i>Pelopidas jansonis</i> (セセリチョウ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧※ 以前は, 県内の山地の沢筋に多く生息していたが, 2000年以降は生息地が減少している。		
種 の 特 徴	中型のセセリチョウ。翅表は褐色, 前翅には白斑が8~10個, 後翅には2~3個, ♂♀ともに後翅裏面中室に大型の銀白斑がある。年2回発生。		
分 布	県内: 大滝山, 竜王山, 大川山の山麓に分布。 県外: 本州, 四国, 九州に分布。		
県 内 で の 生 息 状 況	土器川, 香東川の支流域の林道沿いの草地に局地的に発生している。レンゲやウツギ, トラノオの花で吸蜜する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	近年, 生息数が特に減少している。食草は減っていないが, 生息地の草地環境, オカトラノオなどの吸蜜植物の減少で個体数が減少している。		
特 記 事 項	長野県・大阪府・山口県(CR+EN)など, 22府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 高八稔弘

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

<b>オオチャバナセセリ</b>		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
<i>Polytremis pellucida pellucida</i> (セセリチョウ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧※ 以前は香川県に生息していたが、1970年頃から減少し、30数年記録がなかった。2000年頃から県内各地で生息地が確認されてきた。		
種 の 特 徴	中型のセセリチョウ。翅表は褐色。前翅には白紋が2個あり、後翅には4個の白紋がジグザク状に並ぶ。翅形は全体に丸みを帯びる。		
分 布	県内：小豆島、豊島のほか、低山地に局地的に生息。 県外：北海道、本州、四国、九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	県内の島嶼部、低山地のため池、休耕地や林縁に生息地が見られる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	低山地は人為的な開発を受けやすい。食草のタケ、ササ類が減少すると生息が危ぶまれる。		
特 記 事 項	千葉県(CR+EN)、神奈川県・和歌山県(VU)など、14府県が絶滅危惧種に指定。	被写体：高松市 撮影者：高木真人	
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者：高八稔弘	

<b>キマダラセセリ</b>		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
<i>Potanthus flavus flavus</i> (セセリチョウ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧※ 県内では島嶼部から讃岐山脈まで普通に生息していたが、近年、開発等により急に減少した。		
種 の 特 徴	小型のセセリチョウ。翅表はやや褐色で♂♀ともに黄色の斑紋がある。飛翔は敏速である。年2～3回発生。		
分 布	県内：県内の低地の林縁から山地まで局地的に分布。 県外：北海道、本州、四国、九州、南西諸島。		
県 内 で の 生 息 状 況	県内の島嶼部、河川の林縁、ため池の土堤、山地の川沿いに個体数は多くないが生息している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	低山の土地造成による宅地化などで、草場が減少、生息地が減っている。		
特 記 事 項	神奈川県・静岡県・山口県(CR+EN)など、14府県が絶滅危惧種に指定。	被写体：まんのう町 撮影者：高木真人	
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者：高八稔弘	

<b>ヘリグロチャバナセセリ</b>		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
<i>Thymelicus sylvaticus sylvaticus</i> (セセリチョウ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧※ 県内の島嶼部、瀬戸内海に面する低山に広く分布している。近年、生息数が減少している。		
種 の 特 徴	小型のセセリチョウ。♂♀ともに翅表は赤褐色で、斑紋には性差がほとんどない。♀は翅形がやや丸みを帯びる。		
分 布	県内：佐柳島、小豆島など島嶼部と海沿いの低山地に分布。 県外：北海道、本州、四国、九州に局地的に分布。		
県 内 で の 生 息 状 況	瀬戸内沿岸で食草のカモジグサのある低山地に分布している。オカトラノオなどで吸蜜する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	近年、生息数が特に減少している。食草は減っていないが、草地、オカトラノオなど吸蜜植物の減少で個体数が減少している。		
特 記 事 項	神奈川県・静岡県・愛知県・山口県(CR+EN)など、23府県が絶滅危惧種に指定。	被写体：観音寺市 撮影者：青木修一	
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者：高八稔弘	

※選定理由：①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

<b>キシマミドリシジミ本州以南亜種</b>		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
<i>Chrysozephyrus ataxus kirisimaensis</i> (シジミチョウ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑧* 県内では食樹のアカガシは局地的であり、生息が確認されているのは雲辺寺山のみである。		
種 の 特 徴	中型のシジミチョウ。♂の翅表は黄緑色に輝く。外縁は黒色、裏面は白色。♀は翅表が褐色で前翅に青斑があり、裏面は褐色に白斑がある。♂♀ともに尾状突起がある。		
分 布	県内: 観音寺市大野原町雲辺寺山頂付近。 県外: 本州(神奈川県以西), 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	食樹であるアカガシが多くある雲辺寺山に生息する。徳島県側はアカガシが多いが、香川県側は伐採により数本の大木と小木でかろうじて発生している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	アカガシがある山頂付近は、スギ、ヒノキの植林や観光開発による伐採により生息環境が悪化、絶滅の危機にある。		
特 記 事 項	高知県・長崎県(VU)など、12県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高八稔弘	



被写体: 雲辺寺山 撮影者: 高木真人

<b>アイノミドリシジミ</b>		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
<i>Chrysozephyrus brilliantinus</i> (シジミチョウ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑧* 古くは大滝山から記録されたが、1999年に大川山より再発見されるまで記録が途絶えていた。食樹のミズナラが少なく生息地は限定される。		
種 の 特 徴	中型のシジミチョウ。年1回の発生。♂の翅表は黄緑色に輝く。♀は黒褐色で前翅表に橙色と青色の斑紋がある。♂♀ともに尾状突起がある。		
分 布	県内: 大滝山, 竜王山, 大川山。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	竜王山, 大川山ではミズナラから記録されているが、個体数は少ない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ミズナラは少なく、伐採により生息地が消滅する。		
特 記 事 項	群馬県・福岡県(CR+EN)など、12県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高八稔弘	



被写体: 竜王山 撮影者: 黒川康嘉

<b>メスアカミドリシジミ</b>		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
<i>Chrysozephyrus smaragdinus smaragdinus</i> (シジミチョウ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧* 讃岐山脈の上部に生息しているが、落葉広葉樹林の減少により、発生は局地的。		
種 の 特 徴	中型のシジミチョウで、年1回発生する。♂の翅表は光沢のある緑色で翅表外縁は黒い。♀は茶褐色で前翅表に赤褐色の斑が2~3個ある。♂♀ともに後翅に尾状突起がある。		
分 布	県内: 讃岐山脈(大滝山, 竜王山, 笠形山, 大川山)。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	以前は、大滝山から記録されていたが、近年は大滝山より西部の大川山までの標高500m以上で、生息が確認されている。食樹であるサクラ類が多くある谷筋に生息。♂は午前中、谷筋で占有活動をする。♀は不活発である。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	食樹であるヤマザクラ、マメザクラの伐採により、生息環境が悪化する。		
特 記 事 項	福岡県・熊本県(CR+EN)など、5県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高八稔弘	



被写体: 竜王山 撮影者: 高木真人

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

オオミドリシジミ <i>Favonius orientalis</i> (シジミチョウ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧* 県内の低山から讃岐山脈にかけて、分布するが、個体数は少ない。		
種 の 特 徴	中型のシジミチョウ。年1回発生する。♂の翅表は光沢のある緑色、♀は黒褐色。裏面は白い灰白色をしている。♂は午前中、占有活動をする。		
分 布	県内：小豆島や、低地から讃岐山脈にかけて分布する。 県外：北海道、本州、四国、九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	30年ほど前までは、里山のクスギ、アベマキ、コナラ林に広く生息していたが、近年、低地では見られなくなった。讃岐山脈に局地的に生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	幼虫はクスギ、アベマキ、ナラガシワ、コナラの小木で発生する。里山では広葉樹林の手入れがされなくなり、個体数が減少した。		
特 記 事 項	福岡県・長崎県(CR+EN)など、15都県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆：高八稔弘	



被写体：綾川町 撮影者：高木真人

ウラジロミドリシジミ <i>Favonius saphirinus</i> (シジミチョウ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧* 四国では1979年、旧綾上町から発見された。その後、県内低山地にあるナラガシワの樹より生息が確認された。食樹が局地的で発生個体も少ない。		
種 の 特 徴	中型のシジミチョウ。年1回の発生。♂の翅表は青緑色に輝き、外縁は黒い。裏面は銀白色。♀の翅表は褐色で前翅中央に薄い白斑がある。♂♀共に尾状突起は短い。		
分 布	県内：東かがわ市大川町からまんのう町にかけての低山地。 県外：北海道、本州、四国、九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	県内の低地にはナラガシワが局地的にあり、生息地は限られる。東讃から中讃にかけて分布するが、西讃からは未発見である。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	食樹のナラガシワは県内の限られた場所にあり、宅地開発、河川工事、森林開発等により生息地が消滅したところも多い。		
特 記 事 項	茨城県・埼玉県・群馬県・熊本県(CR+EN)など、21府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆：高八稔弘	




被写体：高松市 撮影者：黒川康嘉


ウラナミアカシジミ <i>Japonica saepestriata saepestriata</i> (シジミチョウ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧* 島嶼部や低地に広く分布していたが、近年、個体数が減少した。幼虫がクスギ、アベマキの幼木を好むが、これらが少なくなったのが原因か。		
種 の 特 徴	中型のシジミチョウ。年1回の発生。♂の翅表は橙色で黒色部を持たない。♀の翅表は橙色で前翅頂に三角形の黒斑がある。♂♀ともに翅表面は多数の黒点が並ぶ。		
分 布	県内：島嶼部と瀬戸内側の平野から低山地。 県外：北海道(西南部)、本州、四国。		
県 内 で の 生 息 状 況	瀬戸内の島嶼部(小豆島、直島、広島、佐柳島、粟島)と四国本島の平野から低山地のクスギ、アベマキが多くある林に生息する。発生地では個体数も多く、成虫はよくクワの花で吸蜜する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	平野部から低山地にあったクスギ、アベマキ林が宅地開発、道路工事、河川工事等の開発により伐採され、生息地が消失した。伐採木の更新が行われなくなり、生息環境が消失することが絶滅につながる。		
特 記 事 項	鳥取県・島根県(CR+EN)、大阪府・徳島県・愛媛県(VU)など、18都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆：高八稔弘	



被写体：愛知県 撮影者：高木真人

※選定理由：①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅


<b>ミドリシジミ</b> <i>Neopezirus japonicus japonicus</i> (シジミチョウ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧* 県内の低地から讃岐山脈まで広く局地的に生息しているが、発生地が狭く、近年、個体数が減少している。		
種 の 特 徴	中型のシジミチョウ。年1回の発生。♂の翅表は緑色。♀は黒褐色で前翅表は0型、A型、B型、AB型の4型の斑紋が現れる。♂♀ともに、尾状突起がある。		
分 布	県内: 島嶼部(小豆島, 本島, 広島)と四国側の低山地から讃岐山脈に分布。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	島嶼部と低地では、ため池や休耕田, 河川等の湿地に生えるハンノキに、大滝山, 竜王山, 大川山ではヤマハンノキに生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	低地開発により、ハンノキ林, 山地では植林によりヤマハンノキが伐採されると、生息地が消失する。		
特 記 事 項	熊本県(CR+EN), 岐阜県・奈良県・島根県(VU)など, 18都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高八稔弘	


<b>クロシジミ</b> <i>Niphanda fusca</i> (シジミチョウ科)		香川県カテゴリ	絶滅 (EX)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧 I B 類 (EN)
選 定 理 由	⑨* かつて、塩江町にあった大滝山スキー場から記録があるのみ。その後、60年近く経過しているが、県内から新しい生息地、記録がない。		
種 の 特 徴	中型のシジミチョウ。年1回の発生。♂の翅表は紫藍色, ♀は大型で翅表は茶褐色, 翅形は丸みを帯びる。		
分 布	県内: 塩江町木綿織(旧大滝山スキー場) 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	スキー場周りで発生していた。本種の幼虫はクロオオアリと共生することが知られている。クスギ, コナラ等の自生する疎林に生息し, ♀は夕方にススキ原や小木の上で占有活動を行う。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	大滝山での絶滅の要因は、ススキの草原がスギ, ヒノキの植林と道路(林道)工事により消失し, クロオオアリと共生できる環境が無くなったことによるものと考えられる。		
特 記 事 項	愛媛県・高知県(EX)など, 43都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高八稔弘	

<b>カラスシジミ</b> <i>Fixsenia w-album fentoni</i> (シジミチョウ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧 II 類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤* 2015年, 県内で初めて生息が確認された。確認個所は1カ所のみ。		
種 の 特 徴	中型のシジミチョウ。♀♂ともに翅色は茶褐色。翅の裏面には白条があり, 後翅に赤色の肛角紋と尾状突起がある。		
分 布	県内: まんのう町 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	県内では, 食樹のハルニレは大野原町, まんのう町, 寒川町に20本ほど確認されているが, 生息しているのは1カ所のみである。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川沿いに食樹があるので, 森林伐採, 道路工事によるハルニレの伐採で生息地が消滅する。		
特 記 事 項	徳島県・愛媛県・山口県・福岡県(CR+EN)など, 23都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	なし	執筆者: 高八稔弘	

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅




<b>クロツバメシジミ西日本亜種</b> <i>Tongeia fischeri shojii</i> (シジミチョウ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑤⑧* 瀬戸内沿岸の露岩地や石垣に生える食草周りだけに生息地が限られる。		 <p>被写体: 観音寺市 撮影者: 青木修一</p>
種 の 特 徴	小型のシジミチョウ。♂の翅表は黒色。♀は黒褐色で丸みを帯び、尾状突起がある。裏面に沢山の黒斑がある。年3～4回発生。		
分 布	県内:小豆島, 豊島, 高松市, 三豊市, 観音寺市の瀬戸内側に分布。 県外:本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	大川町, 寒川町, 塩江町に記録があるが、現在は、小豆島, 豊島のほか、高松市, 三豊市, 観音寺市で生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	食草のツメレンゲ, マルバマンネングサが生える露岩地で発生している。食草が背の高い草種に覆われると、生息地が消滅する。道路工事による岩場の吹き付け, 農薬による被害により個体数が減少している。		
特 記 事 項	大分県・熊本県(CR+EN), 徳島県・岡山県(VU)など, 10県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高八稔弘	


<b>ウラキンシジミ</b> <i>Ussuriana stygiana</i> (シジミチョウ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤⑧* 日本特産種。県内には食樹のトネリコが広く分布しているが、発生地は局地的。しかも、個体数は少ない。		 <p>被写体: さぬき市 撮影者: 黒川康嘉</p>
種 の 特 徴	中型のシジミチョウ。年1回の発生。♂♀ともに、翅表は黒色。♂の翅裏は黄褐色、♀は大きく明るい黄色味である。尾状突起があるが短い。		
分 布	県内:東かがわ市大内町から三豊市財田町にかけての低地と讃岐山脈に分布。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	大滝山周辺からの記録のみであったが、県南部の低山地にも生息地が点々と発見された。モクセイ科のトネリコ, アオダモが生えていても生息地は限定される。島嶼部や県内の独立山からは見つかっていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	低山地では食樹の多い所に生息しているため、宅地開発, 道路工事による森林伐採で発生地が消失する恐れがある。		
特 記 事 項	千葉県(CR+EN), 大阪府・和歌山県・佐賀県(VU)など, 15府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高八稔弘	

<b>ウラミスジシジミ</b> <i>Wagimo signatus</i> (シジミチョウ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧* 県内の低山から山地にかけて広く分布するが、発生地は局地的である。		 <p>被写体: まんのう町 撮影者: 青木修一</p>
種 の 特 徴	中型のシジミチョウ。年1回発生する。♂♀ともに翅表は黒色に紫色の斑紋がある。裏面は茶色に銀白色の白線がある。活動は夕方が高い梢上を飛ぶ。		
分 布	県内:低地から山地にかけて分布。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	県内では35年前に小豆島で生息が確認され、その後、本島側の低山地から讃岐山脈のコナラが多くある所から発見された。現在もコナラの大木が生える林に局地的に生息している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	クヌギ, アベマキ, コナラの伐採による生息地の減少。		
特 記 事 項	愛媛県・大分県・熊本県(VU)など, 10都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高八稔弘	

\*選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

シルビアシジミ <i>Zizina emelina emelina</i> (シジミチョウ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	
		環境省カテゴリー	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	
選 定 理 由	⑧※	低地の畔、ため池の土手、河川敷にて、1960年代までは生息していた。1988年の記録が最後で、その後の記録はない。		被写体: 高松市 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	小型のシジミチョウ。年3回の発生。♂の翅表は青藍色、♀は暗褐色で春型は大きく、夏、秋型は小型で、♂の翅表は外縁の黒帯は太い。			
分 布	県内: 小豆島、女木島、高松市、坂出市、丸亀市、三豊市。 県外: 本州、四国、九州、南西諸島。			
県 内 で の 生 息 状 況	県内で最後に生息確認された国分寺町(1988年)の生息地は、ため池の改修工事により消失した。県内のため池の土手、田畑の畔に食草のミヤコグサは多くあるので、まだ、生息しているものと思われる。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川やため池の改修工事に伴うミヤコグサの消失が本種の生存を脅かしている。			
特 記 事 項	愛媛県・高知県(EX)、徳島県(VU)など、33都府県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。			執筆: 高八稔弘

コムラサキ <i>Apatura metis substituta</i> (タテハチョウ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	⑧※	県内のため池や河川に生える食樹周りに普通に見られたが、近年、激減している。		被写体: 丸亀市 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	中型のタテハチョウ。♂の翅表は黄褐色に紫色の光沢があるが、♀は大きく、翅表に紫色の光沢がない。♂♀ともにヤナギの樹上を飛ぶ。♂は夕方占有活動する。			
分 布	県内: 各地のため池、河川に生えるヤナギの周り。 県外: 北海道、本州、四国、九州。			
県 内 で の 生 息 状 況	ヤナギが多くあるため池、河川周辺に生息する。離島では小豆島に記録がある。各種樹液や熟果に集まる。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ため池、河川の改修工事によるヤナギの伐採により、個体数が減少する。樹液の出る樹の減少によっても、同様である。			
特 記 事 項	長崎県・神奈川県(CR+EN)など、7都府県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。			執筆: 高八稔弘

ウラギンスジヒョウモン <i>Argyronome laodice japonica</i> (タテハチョウ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	
		環境省カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	
選 定 理 由	⑧※	里山の環境変化に伴い、主な生息地であったため池の堤防や河川の土堤等の改修工事により発生地が消滅している。		被写体: 丸亀市 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	大型のヒョウモンチョウ類。年1回の発生。♂は前翅表の第2、3脈上に黒い発香鱗がある。♀は♂に比べて大型で、翅表の黒斑が大きい。			
分 布	県内: 県内全域。 県外: 北海道、本州、四国、九州。			
県 内 で の 生 息 状 況	県内では多くのため池の堤で発生していたが、改修工事により食草のスミレ類がなくなり、生息地が消滅した。低山地の草原も管理されなくなり、スミレ類の生える草原の消失により、2002年以降、目撃、採集記録もない。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	里山の土地造成、ため池の堤、河川の堤工事等により、改修後の草原に生える草種の変化で生息地が消滅し、本種の生存が危ぶまれる。			
特 記 事 項	徳島県・高知県・愛媛県・宮崎県・鹿児島県(CR+EN)など、33都府県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	なし			執筆: 高八稔弘

※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④全国固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

<b>オオウラギンスジヒョウモン</b> <i>Argyrozone ruslana</i> (タテハチョウ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧*	県内での記録は、非常に少ない。讃岐山脈の上部に局地的に分布している。近年は、草原が減少し、生息数が減っている。	
種 の 特 徴	大型のヒョウモン類。年1回の発生。♂の翅表色は赤みが強い。前翅表第1b, 2脈上に黒色の発香鱗条がある。♀は♂より大型で、前翅表翅頂に三角形の白斑を有する。		
分 布	県内: 大滝山, 竜王山, 大川山, 雲辺寺山などの讃岐山脈。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	讃岐山脈上部に生息。♂♀ともに成虫は7月に発生し、オカトラノオ、アザミ類、ノリウツギなどで吸蜜する。夏季に一時休眠し、秋に再び活動する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	自然環境の遷移で草原が減少しスミレ類が消滅。生息環境が悪化し、生存を脅かす。		
特 記 事 項	千葉県・長崎県(CR+EN)など、17都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高八稔弘	



被写体: 大滝山 撮影者: 青木修一

<b>スミナガシ本土亜種</b> <i>Dichorragia nesimachus nesiotus</i> (タテハチョウ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧*	県内には食樹であるアワブキの樹が少なく、生息は局地的、かつ個体数も少ない。	
種 の 特 徴	中型のタテハチョウ。年2回の発生。♀は♂より大型である。♂♀ともに翅表は黒青色で、外縁にV字状の白斑がある。♂は夕方、山頂で占有活動し、樹液に集まる。		
分 布	県内: 低山から讃岐山脈の溪流沿い。 県外: 本州, 四国, 九州, 南西諸島。		
県 内 で の 生 息 状 況	讃岐山脈の溪流沿いに局地的に生息している。低山地の紫雲山, 五色台, 大麻山に記録があるが、少ない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	林道, 河川工事によるアワブキの伐採, スギ, ヒノキの植林などで発生が減少する。		
特 記 事 項	千葉県(CR+EN), 大阪府・長崎県(NT)など、5府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高八稔弘	



被写体: 大川山 撮影者: 青木修一

<b>ウラギンヒョウモン</b> <i>Fabriciana adippe pallelescens</i> (タテハチョウ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧*	低山から山地の草原に広く分布していたが、最近、里山の変化により低山から姿を消し、山地でも見られなくなった。	
種 の 特 徴	♂は小型、♀は大型で、年1回の発生。♂の前翅2~3脈には黒色の太い発香鱗条がある。♂♀ともに、オオウラギンヒョウモンに似るが、より小型である。		
分 布	県内: 小豆島, 讃岐山脈, 大麻山。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	以前は、五色台でも見られたが、現在は、讃岐山脈の高い所に生息している。オカトラノオ, クリ, ウツギの花で吸蜜する。スミレ類の減少で個体数も減っている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	スギ, ヒノキの植林により明るい草原の減少や里山の環境変化により、食草であるスミレ類が減少すると、本種の生息が危惧される。		
特 記 事 項	千葉県・東京都(CR+EN), 大阪府(VU)など、12都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高八稔弘	



被写体: 大滝山 撮影者: 高木真人

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

オオウラギンヒョウモン <i>Fabriciana nerippe</i> (タテハチョウ科)		香川県カテゴリ	絶滅 (EX)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧 I A類 (CR)
選 定 理 由	⑨*	全国的に絶滅しているヒョウモンチョウ。県内では、低地から讃岐山脈まで生息していたが、1960年代から激減し、1980年代の記録が最後である。	
種 の 特 徴	大型のヒョウモンチョウ。年1回の発生。♂の翅表は橙色と黒紋の豹柄。前翅表の第2～3脈上に、黒色の発香鱗条がある。♀は大型で、翅表は暗色で黒斑が発達する。		
分 布	県内:小豆島, 低地から讃岐山脈。 県外:本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	以前は、高松市、丸亀市、善通寺市内と大麻山山頂付近の草原、大滝山、竜王山、大川山に生息地があった。その後、大川町のため池の堤防で発生していたが、土手の改修工事により生息地が消滅した。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	低地での発生地は、宅地造成、ため池の改修工事で、小さな草原草刈りをしなくなり遷移が進み、生息環境が消失した。山地の生息地はスギ、ヒノキの植林により草原が失われ、食草のスマレ類が自生する所が無くなり、発生地が消失したと思われる。		
特 記 事 項	徳島県・高知県・愛媛県(EX)など、41都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 高八稔弘



被写体: 高松市 撮影者: 高木真人

クモガタヒョウモン <i>Nephargynnis anadyomene ella</i> (タテハチョウ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧*	他のヒョウモンより発生が早く、5月中旬から発生する。讃岐山地の溪流沿いでよく見かけたが、近年、見かけなくなった。	
種 の 特 徴	大型のヒョウモン類で、年1回の発生。♂の翅表は赤橙色、翅表第2脈に黒色の発香鱗条がある。♀は大型で、少し暗色のある橙色で前翅先端付近に三角形の白斑がある。		
分 布	県内:小豆島に古い記録がある。讃岐山脈の溪流より上部に分布。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	讃岐山脈の溪流沿いに生息し、ウツギの花で吸蜜する。山間地の田畑周りでも見かける。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	スギ、ヒノキの植林と田畑の耕作放棄により明るい草原の減少、食草のスマレ類の減少が本種の生息を危ぶむ。		
特 記 事 項	東京都(EX)、千葉県・神奈川県(CR+EN)など、19都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 高八稔弘



被写体: 大滝山 撮影者: 高木真人

ミスジチョウ <i>Neptis philypa philypa</i> (タテハチョウ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑥*	県内での生息地は少なく、溪流沿いのカエデの樹が多い所で生息している。個体数は多くない。	
種 の 特 徴	ミスジチョウ類では大型。♂♀ともに前翅中室の白斑に区切りがない。♂に比べ♀は大型。裏面は暗褐色である。		
分 布	県内:小豆島, 三木町, さぬき市, 高松市塩江町, 綾川町, まんのう町, 琴平町の山間地。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	カエデ類が多くある山地の溪流沿いに生息している。山間の民家に植えられたカエデ類でも発生している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	山地の落葉広葉樹林の伐採により、食樹であるカエデが減少すると発生が危ぶまれる。		
特 記 事 項	東京都(EX)、福岡県(CR+EN)、熊本県・宮崎県(VU)など、12都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 高八稔弘



被写体: 塩江町 撮影者: 高木真人

※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

シートテハ <i>Polybonia c-album hamigera</i> (タテハチョウ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧*	県内では、1970年代まで香東川、土器川の雑木林回りから讃岐山脈の溪流沿いで生息していた。1989年、仲南町樅の木峠の記録後、報告がない。	
種 の 特 徴		中型のタテハチョウ。年2回の発生。キタテハに似るが、♂♀ともに地色が濃色で、外縁の鋸歯状の切れ込みが強い。翅表は赤褐色、翅裏の地色は黒褐色である。	
分 布		県内:小豆島, 高松市, 丸亀市綾歌町, まんのう町, 琴平町, 善通寺市, 県外:北海道, 本州, 四国, 九州。	
県 内 で の 生 息 状 況		記録があるのは、御坊川、香東川、土器川、金倉川の雑木林のほか、讃岐山脈の大滝山、大川山に広く分布していたが、1970年代ごろから生息地域が減り、1990年以降は県内から記録がない。	
絶 滅 危 険 性 の 要 因		県内の低地では、宅地造成や河川工事により、エノキ、アキニレ林の伐採により、個体数が急激に減少した。、四国4県、中国地方でも20年以上記録がない。	
特 記 事 項		岡山県・鳥取県・和歌山県(EX)、徳島・愛媛県(CR+EN)など、14県が絶滅危惧種に指定。	
文 献		昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高八稔弘



被写体: まんのう町 撮影者: 高木眞人

オオムラサキ <i>Sasakia charonda charonda</i> (タテハチョウ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑧*	低山地の広葉樹林の伐採や温暖化により、生息地が減少している。	
種 の 特 徴		タテハチョウ科では日本最大。♂は翅表が紫色に輝き、黒地に白色、黄色の斑がある。♀は大型で、翅表は黒褐色。	
分 布		県内:中讃の低地から讃岐山脈にかけて分布する。雨滝山、五色台、七宝山でも記録がある。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州。	
県 内 で の 生 息 状 況		山地沿いにあるエノキで発生している。成虫は、クスギ、コナラなどの樹液に集まる。	
絶 滅 危 険 性 の 要 因		山間部にあるエノキの伐採や、落葉広葉樹の減少が生存を危ぶむ。	
特 記 事 項		東京都(EX)、千葉県・群馬県(CR+EN)など、41都道府県が絶滅危惧種に指定。	
文 献		昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高八稔弘




被写体: まんのう町 撮影者: 高木眞人

カラスアゲハ本土亜種 <i>Papilio dahanii dahanii</i> (アゲハチョウ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧*	県内の山地に広く生息するが、個体数は多くなく減少している。	
種 の 特 徴		年3回発生。春型は夏型と比べ小型で、♂は前翅に黒色のピロード状の性標がある。♀は♂より淡く、後翅外縁に赤色の半月斑がある。	
分 布		県内:低山から山地の沢筋に分布。島嶼部は少ない。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州。	
県 内 で の 生 息 状 況		低山の七宝山、五色台には多く生息する。讃岐山脈に広く生息しているが、個体数は多くない。ツツジ、クサギで吸蜜する。♂は、しばしば沢筋で吸水する。	
絶 滅 危 険 性 の 要 因		森林開発により、食草であるクサギ、カラスザンショウの伐採により、生息地が減少する。	
特 記 事 項		東京都(EX)、福岡県(CR+EN)、熊本県・宮崎県(VU)など、12都府県が絶滅危惧種に指定。	
文 献		昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高八稔弘




被写体: さぬき市 撮影者: 黒川康嘉

※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

ミヤマカラスアゲハ <i>Papilio maackii</i> (アゲハチョウ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧※ 低山から山地にかけて生息するが、どこも個体数は多くなく、減少傾向で、局地的に生息する。		 <p>被写体: 大滝山 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	低山では年3回、高地では年2回発生。春型は夏型に比べて小型である。♂は前翅に黒色の性標がある。出現期はカラスアゲハより早い。		
分 布	県内: 低山では少なく、讃岐山脈に分布。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	讃岐山脈に広く生息するが、小豆島のほか、五色台、大麻山、七宝山等の低山地では少ない。♂はよく、山頂に現れる。♂♀ともにツツジ、クサギなどで吸蜜する。♂は沢筋や湿地で吸水する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	スギ、ヒノキなどの植林のため広葉樹が伐採され、食樹であるキハダ、カラスザンショウの減少が本種の減少につながる。		
特 記 事 項	東京都(DD)。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 高八稔弘	

オナガアゲハ <i>Papilio macilentus macilentus</i> (アゲハチョウ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧※ 県内の低山から讃岐山脈にかけて、生息している。溪流沿いで生活しているが、近年、個体数が減少している。		 <p>被写体: 高松市 撮影者: 黒川康嘉</p>
種 の 特 徴	年3回発生。春型の♂は小型で、クロアゲハに似るが翅形が細長く、尾が長い。♂の後翅前縁部に白色の横帯がある。♀は後翅に赤斑が発達し、♂より大型である。		
分 布	県内: 島嶼部、低山地では少ない。讃岐山脈の谷筋に分布。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	小豆島、直島にも生息しているが、少ない。県内の低山では、個体数は少ない。主に讃岐山脈に広く分布している。ツツジ、クサギの花で吸蜜し、♂は沢筋で吸水する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	広葉樹林の伐採により食草のクサギが減少すると、発生地が減少する。		
特 記 事 項	東京都・長崎県(CR+EN)、千葉県・鹿児島県(VU)など、6都県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 高八稔弘	

ツマグロキチョウ <i>Eurema laeta betheseba</i> (ジミチチョウ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
		環境省カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)
選 定 理 由	⑧※ 県内の低地や島嶼部に記録地が多くあるが、いずれも個体数は少ない。そのため、本種の生存が心配される。		 <p>被写体: 女木島 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	小型のキチョウ。キタキチョウより小型で、年3~4回発生する。秋季に出現する秋型は翅端が尖る。夏型より大きい。		
分 布	県内: 小豆島、豊島、男木島、女木島の島嶼部と本島側の低山地。 県外: 本州, 四国, 九州, 南西諸島。		
県 内 で の 生 息 状 況	県内では多産地はなく、偶発的に発生したと思われる。食草のカワラケツメイも少ない。2000年以降、小豆島、男木島、女木島、高松市、三豊市、観音寺市より少数記録されている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川工事、ため池の改修工事による食草の減少が生存を脅かせる。		
特 記 事 項	大阪府・三重県・滋賀県(CR+EN)、徳島県・愛媛県(VU)など、30都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 高八稔弘	

※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

スジボソヤマキチョウ <i>Gonepteryx aspasia nipponica</i> (シロチョウ科)		香川県カテゴリ	絶滅 (EX)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑨※	県内では讃岐山脈に限られたところに生息していたが、1962年の記録以降、生息がない。もともと個体数は少なく、残存標本も少ない。	
種 の 特 徴	大型のシロチョウ。年1回発生し、成虫越冬する。♂は翅全体が黄色、♀は白色。前翅翅頂が尖り、翅中室に橙色紋がある。		
分 布	県内: 女体山, 大滝山, 大川山, 雲辺寺山。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	県内の記録は古く、残された標本は大滝山産のみ。大滝山からの記録は1962年が最後。その後、他の既知産地からも報告がない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生育には大きなクロウメドキが必要であるが、この木は一度切られると、再生することなく枯死する。そのため、発生地の森林伐採により、クロウメドキが減少し種の絶滅につながる。		
特 記 事 項	宮崎県(EX), 茨城県・愛知県・大阪府・三重県(CR+EN)など、19都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		被写体: 徳島県   撮影者: 高木真人 執筆: 高八稔弘



被写体: 徳島県 | 撮影者: 高木真人

ヒメヒカゲ本州西部亜種 <i>Coenonympha oedippus arothius</i> (ジャノメチョウ科)		香川県カテゴリ	絶滅 (EX)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧 I B 類 (EN)
選 定 理 由	⑨※	1968年に小豆島から、初めて記録された。島の中央にある美しい原周辺の湿地性草原に生息していたが、1980年代以降、記録が途絶えている。	
種 の 特 徴	小型のジャノメチョウ。年1回の発生。♂の翅表は茶褐色、♀は淡く、裏面の眼状紋が透ける。翅裏は橙色で、前翅には0~4個、後翅には5個の眼状紋がある。		
分 布	県内: 小豆島町美しい原, 嶮岨山。 県外: 本州。		
県 内 で の 生 息 状 況	県内では、1968年に初めて小豆島町美しい原、嶮岨山の草原から生息が確認された。その後、1982年の記録が最後で、今日まで確認されていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	小豆島の明るい草原に生息していたが、別荘開発、スギ、ヒノキの植林により湿地性草原が消失し、絶滅したものと思われる。		
特 記 事 項	福井県・三重県・和歌山県(EX)など、9県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		被写体: 小豆島町   撮影者: 高木真人 執筆: 高八稔弘



被写体: 小豆島町 | 撮影者: 高木真人

キマダラモドキ <i>Kirinia fentoni</i> (ジャノメチョウ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑥※	県内における生息地は局地的で個体数は少なかったが、近年、低地での生息地が多くなり、広がっている。	
種 の 特 徴	中型のジャノメチョウ。年1回の発生。♂の翅表は黄褐色、♀の地色は淡く、黄色斑が発達する。♂の翅裏は黄色斑で、♀の後翅裏面は黄褐色と黄白色のものがある。		
分 布	県内: 低山地(さぬき市長尾町からまんのう町)と堂山, 大滝山, 大川山, 大麻山の山頂部。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	以前は、讃岐山脈や大麻山, 低山地の一部地域に生息していたが、低地にあるアキニレ林で新しい生息地が見つかり、個体数が少し増加傾向である。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	讃岐山脈では落葉広葉樹の伐採により個体数が減少しているが、低地にクヌギ林, アキニレ林で生息地が見つかり、少しずつ増加傾向にあり、生息地が変化している。		
特 記 事 項	山梨県・三重県(EX), 長野県・福岡県(CR+EX)など、24府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		被写体: まんのう町   撮影者: 高木真人 執筆: 高八稔弘



被写体: まんのう町 | 撮影者: 高木真人

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

クロヒカゲモドキ <i>Lethe marginalis</i> (ジャノメチョウ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧 I B 類 (EN)
選 定 理 由	⑧※	低山地から讃岐山脈にかけて、局地的に生息している。クヌギ、コナラ林の伐採により個体数が減少している。	
種 の 特 徴	中型のジャノメチョウ。クロヒカゲ、ヒカゲチョウに似るが、本種は翅形が丸みを帯びる。本種だけ、年1回の発生。翅表は淡褐色、前翅裏面に3個の眼状紋があり、他の眼状紋も大きい。		
分 布	県内：大麻山、讃岐山脈の山麓。 県外：本州、四国、九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	讃岐山脈の山麓に広く生息していたが、近年、急激に減少した。以前は、クヌギ、コナラ林の樹液回りで多くみられたが、現在、確実に見られるのはさぬき市多和のクヌギ林だけである。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川工事、道路工事により、クヌギ、コナラ林の伐採により樹液の出る木が減少し生息地が消失している。		
特 記 事 項	埼玉県(EX)、兵庫県・山口県・福岡県(CR+EN)など、27府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者：高八稔弘



被写体：大滝山 撮影者：青木修一

ウラナミジャノメ本土亜種 <i>Ypthima multistriata nipponica</i> (ジャノメチョウ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑧※	瀬戸内の乾燥した地域に多くの生息地があったが、土地改良工事、里山環境の変化により生息地が激減している。	
種 の 特 徴	小型のジャノメチョウ。年2回の発生。春型と夏型があり、夏型は小型である。ヒメウラナミジャノメに似るが、後翅裏面の眼状紋が3個であり、本種の方が大型で飛び方も緩やかである。		
分 布	県内：低山地に生息。小豆島、女木島にも生息する。 県外：本州、四国、九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	以前は、県内では乾燥した林や路傍、ため池の土手に生息。低地から大滝山、大川山の山頂まで生息していた。環境の変化により、現在は、小豆島、五色台、城山周辺に生息地が残るのみ。一部地域では、高速道路の法面で発生している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	低地のため池工事、宅地開発などによる林の伐採により、多くの生息地が消滅した。里山の管理放棄やスギ、ヒノキなどの植林によって草原の減少が生存を脅かせる。		
特 記 事 項	神奈川県・福井県・和歌山県(EX)、高知県・愛媛県(CR+EX)など、28府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者：高八稔弘



被写体：坂出市 撮影者：高木真人


ヒメキマダラヒカゲ <i>Zophoessa callipteris</i> (ヒカゲチョウ科)		香川県カテゴリ	絶滅 (EX)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑨※	県内の記録は、1949年の採集標本が3♂1♀残されているのみ。その後、県内からの記録はなく、生息環境が消失したと思われる。	
種 の 特 徴	中型のジャノメチョウ。年2回の発生。♂の翅表は褐色、♀は地色が淡色で、黄色部が広い。♂には前翅表1bから3脈に黒色の性標がある。飛翔はゆるやかである。		
分 布	県内：白峰(五色台)、大滝山。 県外：北海道、本州、四国、九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	五色台と大滝山の記録がある。ヒメキマダラヒカゲが発生できるササ類が生える場所で、ササ原や灌木の上を緩やかに飛翔する。県内には本種が食べるササ類が多く残っている場所でも生息が確認されていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ササ類が消失して、環境が依然と全く変わってしまったと思われる。60年記録がなく、絶滅したと思われる。		
特 記 事 項	福岡県(CR+EX)、茨城県・宮崎県(CR+EN)など、6府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者：高八稔弘



被写体：広島県 撮影者：高木真人

※選 定 理 由：①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅



ナカモンカギバ <i>Cilix filipjevi</i> (カギバガ科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	③⑤⑦* 全国的に産地が少なく、記録数も少ない。		 <p>被写体: 塩江町 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	開長約15mm。白色で前翅の中央と外縁部に銀色紋を有する小型種。年2化。夏型は春型より小型。		
分 布	県内: さぬき市長尾町, 高松市塩江町大滝山, 観音寺市詫間町, 七宝山, 五色台など。 県外: 本州, 四国, 南西諸島。		
県 内 で の 生 息 状 況	海岸近くから讃岐山脈にかけて6カ所確認されているが、近年の調査が出来ておらず、詳細は不明である。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	中山間地のリンゴ、ズミなどのバラ科植物を幼虫が食餌することから、人手の入った二次林が生息環境であると思われる。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 増井武彦	

エゾカギバ <i>Nordstromia grisearia</i> (カギバガ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤⑦* 幼虫がブナ、ツノハシバミを食餌する関係から、県内では大滝山、大川山にのみ生息している。		 <p>被写体: 塩江町 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	開長25mm。コナラ、クスギ等を食する近縁種のヤマトカギバに類似するが、本種の方が青味がかった灰色の色調と裏面が一樣に黄色であることで区別できる。		
分 布	県内: 高松市塩江町大滝山, まんのう町大川山。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	ブナ自生地である大滝山山頂と大川山のみに生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	地球温暖化に伴うブナの衰弱が危惧される。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 増井武彦	

ナガトガリバ <i>Euparyphasma maxima</i> (トガリバガ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤⑦* 幼虫はヤマボウシを食餌する関係で、大滝山山頂と大川山山頂付近の樹林地帯に限定して分布する。		 <p>被写体: 大川山 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	開長60mmもあるトガリバガ科の中では最大種。前翅翅頂の白紋を除いて灰褐色である。		
分 布	県内: 高松市塩江町大滝山, まんのう町大川山。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬。		
県 内 で の 生 息 状 況	ヤマボウシが生育する大滝山や大川山の山頂付近にのみ生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	自然林の人工造林化が懸念される。		
特 記 事 項	鹿児島県(NT), 青森県(DD)など、2県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 増井武彦	

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅


コシロオビアオシヤク <i>Geometra glaucaria</i> (シヤクガ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	No Photo
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	②⑤* 生物地理学上、小豆島が中国地方との関連性の深さを示しており貴重な種である。また、生息地が局限されている。			
種 の 特 徴	緑色をした開長45mmもある大型種。前翅の白色外横線と内横線は特徴的である。			
分 布	県内: 小豆島。 県外: 北海道, 本州。		被写体: 撮影者:	
県 内 で の 生 息 状 況	四国本土側には生息地がなく、小豆島のみ。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	二次林の各種開発と人工造林化が懸念される。			
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。			
文 献	なし		執筆: 増井武彦	

マスイカバナミシヤク <i>Eupithecia masui</i> (シヤクガ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	①③* 模式産地の一つは高松市石清尾山, 琴平町琴平山であり、既知産地は本州からも知られているが僅かである。			
種 の 特 徴	開長20mm足らずの灰色の小型種。類似種が多く、識別は困難であるが、横線の斑紋が比較的鮮明である。			
分 布	県内: 高松市石清尾山, 琴平町琴平山, 高松市大滝山。 県外: 本州(新潟県, 大阪府, 広島県, 鳥取県)。		被写体: 大滝山 撮影者: 高木真人	
県 内 で の 生 息 状 況	詳細は不明。石清尾山, 琴平山から僅かに知られるのみ。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	二次林の各種開発と自然遷移が懸念される。			
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。			
文 献	なし		執筆: 増井武彦	

トシマカバナミシヤク <i>Eupithecia tenuisquama</i> (シヤクガ科)		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	①* 琴平山の標本が模式産地になっている。			
種 の 特 徴	開長20mm足らずの灰色の小型種。近似種が多く、他種との個別は極めて困難。			
分 布	県内: 高松市藤尾神社, 大滝山, 大川山および琴平山, 小豆島寒霞渓で得られている。 県外: 本州, 四国, 九州, 屋久島。		被写体: 高松市 撮影者: 高木真人	
県 内 で の 生 息 状 況	幼虫はサザンカを食餌するため、里山の手入れの行き届いた明るい環境下で生息するものと思われる。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	二次林の伐採, および自然遷移による過繁茂で生息環境が衰退する。			
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。			
文 献	なし		執筆: 増井武彦	


※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

キイロミミモンエダシャク <i>Eilicrinia parvula</i> (シャクガ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	③⑤⑦* 既知産地は瀬戸内海に面した地域で、香川県を除き全国的には稀である。		 <p>被写体: 高松市 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	黒い紋が一つある開長26mmの黄色種。		
分 布	県内: 小豆島町, 高松市屋島東町, 東かがわ市馬篠, 荘内半島, 七宝山。 県外: 本州(和歌山県以西,) 対馬。		
県 内 で の 生 息 状 況	発生する地点は、食樹のアキニレが生えた、やや人手の入った二次林の環境。発生期には比較的個体数が多い。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	発生する海岸近くの人手の入った二次林は、開発が容易に行われる場所であり、危惧される。		
特 記 事 項	大分県(NT)が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 増井武彦	

ヒメスズメ <i>Deliephila askoldensis</i> (スズメガ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	③⑤⑦* 北海道から九州まで広く分布するが、産地は局地的。		 <p>被写体: 高松市 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	全体的に赤褐色で前後翅とも外縁が鋸歯状である。スズメガの中でも小型種である。		
分 布	県内: まんのう町造田, 高松市塩江町, 高松市香川町でいずれも街灯で得られている。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	1969年から1970年代にかけて、まんのう町造田, 高松市塩江町安原, 高松市香川町鮎滝の街灯で、4個体の古い記録があるのみ。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	草原性の蛾。河川にある草地や氾濫荒地のような不安定な環境が生息には重要であると想定される。		
特 記 事 項	宮城県・群馬県・岡山県・宮崎県(VU), 大分県・熊本県(NT)など, 10県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 増井武彦	

シロスジエグリシャチホコ <i>Fusapteryx ladislai</i> (シャチホコガ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤⑦* 四国山地では普通であるが、県内では大滝山山頂付近にのみ僅かに産する。		 <p>被写体: 大滝山 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	中型種で前翅は全体に明るい淡褐色で、前縁の黒色部分とともに横線の外側の白色紋が大変目立つ。		
分 布	県内: 大滝山山頂付近。 県外: 北海道から九州の本土域。四国3県では標高1000m前後の山地では比較的普通。		
県 内 で の 生 息 状 況	幼虫はカエデ類を食し、冷温帯樹林地に見られる。大滝山一帯の高地の樹林に依存している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	大滝山一帯の道路開発等による樹林の乾燥化や人工造林が危惧される。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 増井武彦	

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

アカネシャチホコ <i>Peridea lativitta</i> (シャチホコガ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	⑤⑦*	讃岐山脈、矢筈山に産する。柏原溪谷の中山間地でも得られていて、冷温帯二次林の指標種であり、特異な分布を示す。		被写体: 大川山 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴		比較的大型種で、前翅腎状紋は白く縁どられた赤褐色で目立つ。前翅下半分の褐色斑と純白の後翅が特徴である。		
分 布		県内: 大滝山, 大川山, 竜王山のほか、矢筈山, 高松市峰山町・塩江町戸石, 七宝山。 県外: 北海道から九州のミズナラ帯。		
県 内 で の 生 息 状 況		幼虫はミズナラを食餌するが、香川県ではコナラなどを食すると思われる。山地の樹林地帯に見られ、年2回の発生である。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因		中山間地から讃岐山脈の山頂部にかけての山地の各種開発による自然林の消滅が懸念される。		
特 記 事 項		高知県(DD)。		
文 献		昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 増井武彦


マルモンシャチホコ <i>Peridea moltrechti</i> (シャチホコガ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	⑤⑦*	県内唯一のブナ自生地である大滝山山頂付近のみに極めて僅かに産する。		被写体: 大滝山 撮影者: 佐野信雄
種 の 特 徴		大型で、前翅が近縁種に比べて白色が強く、基部にはほぼ円形の黒色紋があるので区別は容易である。		
分 布		県内: 大滝山山頂付近のみに僅かに産する。 県外: 本州, 四国, 九州まで産する日本特産種。		
県 内 で の 生 息 状 況		県内では大滝山のブナ林でのみ産する。2016年7月4日に灯火に飛来した。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因		食樹のブナは大滝山山頂付近のみに生育し、温暖化などの原因で食樹そのものが危機的である。道路等の開発による乾燥化や人工造林による自然林の消滅が懸念される。		
特 記 事 項		本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献		昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 増井武彦

ブナアオシャチホコ <i>Quadricalcarifera punctatella</i> (シャチホコガ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	⑤⑦*	県内唯一のブナ自生地である大滝山山頂付近のみに極めて僅かに産する。		被写体: 大滝山 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴		中型種で前翅は灰緑色をしている。近縁4種と区別が困難である。本種は前翅にある外縁線、内横線などが他種より明瞭である。		
分 布		県内: 大滝山山頂付近のみに僅かに産する。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州まで産する日本特産種。		
県 内 で の 生 息 状 況		県内では大滝山のブナ林でのみ産する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因		食樹のブナは大滝山山頂付近のみに生育し、温暖化などの原因で食樹そのものが危機的である。道路等の開発による乾燥化や人工造林による自然林の消滅が懸念される。		
特 記 事 項		大阪府(NT)、愛媛県(DD)に指定。		
文 献		昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 増井武彦

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

<b>タカムクシャチホコ</b> <i>Takadonta takamukai</i> (シャチホコガ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤⑦* 県内唯一のブナ林自生地である大滝山山頂付近のみに極めて僅かに産する。		 被写体: 大滝山   撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	前翅は全体に暗い茶色で、ぎざぎざした外横線の外側の淡褐色が目立つ。黒い腎状紋が特徴的である。		
分 布	県内: 大滝山山頂付近のみに僅かに産する。 県外: 本州, 四国, 九州まで産する日本特産種。		
県 内 で の 生 息 状 況	県内では大滝山のブナ林でのみ産する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	温暖化などの原因で食樹であるブナそのものが危機的である。道路等の開発による乾燥化や人工造林による自然林の消滅が懸念される。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 増井武彦	

<b>キシヤチホコ</b> <i>Targea straminea</i> (シャチホコガ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧* かつては海岸近くから中山間地にかけて産したが、最近では確認が難しくなっている。		 被写体: 高松市   撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	全体が鮮やかな黄色をした中型種。近似種のウスキシヤチホコが山地性であることと、本州より薄い黄色をしていることで容易に区別できる。		
分 布	県内: 海岸近くから中山間地にかけて広く産した。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州まで本土域に産する。		
県 内 で の 生 息 状 況	東かがわ市馬篠のような海岸近くから、七宝山, 高松市(一ノ宮町, 西植田町藤尾山, 石清尾山, 戸石, 不動の滝), 綾川町陶, 小豆島など人里近くの11か所で確認されている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	継続的に人手の入ったネザサの生えた明るい二次林を含んだ場所は、住宅・道路など各種の環境変化が行われる。また、逆に管理放棄によって植生遷移が進み、適切な生息環境が維持できなくなる恐れがある。		
特 記 事 項	愛媛県(NI)に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 増井武彦	

<b>ウスジロドクガ</b> <i>Calliteara virginea</i> (ドクガ科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	②⑤* 1971年6月に、塩江町榊川で1ひが得られているのみ。		 被写体: 高松市   撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	後翅の基部が淡褐色以外、体、翅ともに純白で大型種。胸背の毛が盛り上がっている。		
分 布	県内: 高松市塩江町榊川の記録があるのみ。 県外: 本州(東北地方から中国地方)		
県 内 で の 生 息 状 況	高松市塩江町榊川の古い記録のみ。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	二次林の伐採, 自然遷移		
特 記 事 項	秋田県・宮城県(CR+EN), 群馬県・山梨県(VU)など, 9県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	なし	執筆: 増井武彦	

\*選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

トラサンドクガ <i>Euproctis torasan</i> (ドクガ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選定理由	③⑤⑧※ 伊豆半島以西の本州、四国、九州、対馬に分布しているが、記録はごく僅かである。		
種の特徴	後翅の基部が淡褐色であることを除き、前後翅とも全体に赤みの強い黄色の小型種である。♂は前翅に弱い黒紋があるが、♀は無紋である。		
分布	県内: 高松市塩江町大滝山の記録があるのみ。 県外: 紀伊半島以西の本州、四国、九州、対馬。		
県内での生息状況	高松市塩江町大滝山の古い記録のみ。		
絶滅危険性の要因	山地の二次林を含んだ環境は、道路整備、植林によって多様性が無くなりやすい。逆に未利用のまま放置することによって遷移が進みすぎ、適正な生息環境がなくなる。		
特記事項	静岡県・福岡県・熊本県(NT)など、8県が絶滅危惧種に指定。		
文献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 増井武彦	



被写体: 徳島県 撮影者: 高木真人

ブチヒゲヤナギドクガ <i>Leucoma candina</i> (ドクガ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	—
選定理由	⑦⑧※ 四国では香川県の記録のみ。しかも、1975年(坂出市白峰山)と1977-78年にかけて、高松市仏生山町での僅かな記録のみ。		
種の特徴	体、前後翅とも全体に光沢のある白色で、中型種である。♂の触角の柄の背面が白と黒のぶちになっている。		
分布	県内: 高松市仏生山町(旧農業試験場)、坂出市五色台(白峰山)のみ。 県外: 北海道、本州、四国(香川県)、九州		
県内での生息状況	高松市仏生山町、坂出市五色台(白峰山)の記録がある。		
絶滅危険性の要因	都市近郊の人里環境は、急速な農村の近代化の波で環境が一変してしまっており、生息地の復活は困難であると考えられる。		
特記事項	大阪府(VU)に指定。		
文献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 増井武彦	




被写体: 高松市 撮影者: 高木真人

ニセタバコガ <i>Heliiothis fervens</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選定理由	③⑤⑦※ 香川県では7カ所で確認されており、全国的にも生息地が多い県であるが、個体数は極めて少ない。		
種の特徴	雄の前翅は褐色で前縁が厚くふくれ、その部分と中室が半透明になっている。後翅基部半分は黄色で中室部分が黒い。♀には前翅のふくれがない。小型種である。		
分布	県内: 高松市石瀬尾山、五剣山、坂出市白峰山、府中町、国分寺町、さぬき市大窪寺、小豆島。 県外: 北海道、本州、四国。		
県内での生息状況	生息地の共通点は、乾燥を好む植物が自生している崖や岩場などであり、乾燥を好む特殊な植物に依存していると思われる。		
絶滅危険性の要因	乾燥を好む植物が自生している崖や岩場など生態的に特殊な環境は、防災上の理由により、安易にコンクリートで固められるので生息地が消失しやすい。		
特記事項	秋田県(CR+EN)、福岡県(VU)、高知県・宮崎県(DD)など、6県が絶滅危惧種に指定。		
文献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 増井武彦	



被写体: さぬき市 撮影者: 高木真人

※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

リンゴケンモン <i>Triana intermedia</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤⑦⑧※ 主に都市近郊など平地に産し、まれに山地で得られることもある。いずれでも個体数はごくわずかで、近年はほとんど姿を見かけなくなっている。		 被写体: 高松市 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	近縁4種の判別は季節型、♀♂の違いもあり、困難である。本種は開長40～50mmで近縁種の中で最も大きい。		
分 布	県内: さぬき市大窪寺, 高松市国分寺町, 一宮町, 石清尾山, 坂出市白峰山, 琴平町琴平山など。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州まで普遍的に産する。		
県 内 で の 生 息 状 況	主に都市近郊など平地に産し、まれに山地で得られることもあるが、いずれも個体数は少ない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	都市近郊の人里的環境は、農村の急速な近代化の波で環境が一変してしまっており、生息地の復活は困難である。本種にとって、やや荒地のような環境が必要と思われる。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 増井武彦

キハダケンモン <i>Triana ileucocuspis leucocuspis</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤⑦⑧※ 県内2カ所で得られているのみで、稀である。		 被写体: 三木町 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	リンゴケンモンよりやや小型で、後翅がやや淡褐色であり、前翅の模様がやや鮮明である。		
分 布	県内: 塩江町榊川, 三木町虹の滝。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州まで産するが、局地的。		
県 内 で の 生 息 状 況	農業従事者の減少から休耕田やため池等の周辺湿地林に食草であるハンノキが繁茂しているが、近年の調査不足で生息確認できていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川改修に伴う河畔林の伐採やため池改修による周辺樹木の伐採により、生息環境が奪われている。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 増井武彦

クビグロケンモン <i>Viminia digana</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑤⑦⑧※ 県内4カ所で得られているのみで、稀である。全国的にも特殊な環境にのみ産する。		 被写体: 綾川町 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	前翅の紫色をした模様が鮮明で、黒色の外横線が後角付近で大きく半円状にえぐれているのが特徴である。やや大型の種である。		
分 布	県内: 三木町虹の滝, 高松市藤尾山, 綾川町柏原溪谷, 詫間町箱峠で単発的に得られているが、極めて稀である。 県外: 本州, 四国, 九州まで産するが、局地的。		
県 内 で の 生 息 状 況	農業従事者の減少から休耕田やため池等の周辺湿地林に食草であるハンノキが繁茂しているが、近年の調査不足で生息確認できていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	人手の入った人里の場所でありながら、湿性植物のある草原を主体とした環境が生息地であり、そのような場所は常に容易に開発が行われやすい。		
特 記 事 項	青森県・長野県(VU), 島根県(NT)など、5県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 増井武彦

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

アオモンギンセダカモクメ <i>Cucullia argentea</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑦⑧※ 1974年に1♂が公洲森林公園(高松市東植田町)で記録されたのみ。全国的にも既知産地は極めて少ない。		
種 の 特 徴	中型種で白色の前翅に緑色の網目模様があり、独特の模様の種はいない。		
分 布	県内: 高松市東植田町(公洲森林公園)でのみ記録がある。 県外: 本州、四国(香川県, 愛媛県), 九州に広く分布するが、局地的。ヨーロッパ〜シベリアに分布する。		
被写体:	高松市	撮影者:	高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	1974年に公洲森林公園(高松市東植田町)で1♂が得られているのみ。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川敷や河口などに生えたイネ科主体の草丈の低い草原にあるカワラヨモギが食草である。このような環境は、河川改修による河床整理、運動公園、護岸整備などで壊滅的破壊を受けている。		
特 記 事 項	秋田県・石川県・愛媛県(CR+EN), 福井県(VU)など, 10県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 増井武彦



キクセダカモクメ <i>Cucullia elangata</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧※ 主に都市近郊など平地に産し、稀に山地でも得られるが、いずれの場所でも個体数は少なく、近年特に姿を見ない。		
種 の 特 徴	紫灰色の長い前翅を有する大型種である。近縁のタカネキクセダカモクメよりやや明るく、後翅の外縁部がより黒い。		
分 布	県内: 高松市(国分寺町, 一ノ宮町, 石清尾山), 琴平山, 大窪寺, 大川山。 県外: 北海道から九州まで全域に普遍的に産する。主に、都市近郊など平地に産する。		
被写体:	大川山	撮影者:	高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	都市近郊など平地に産し、稀に山地でも得られることもあるが、近年姿を見かけなくなっている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	都市近郊の人手の入った農村部, 人里の場所で草地を主体とした環境は農村の急速な近代化のもとで大きく変化してしまい、本種の生息環境が失われてしまっている。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 増井武彦





サヌキキリガ <i>Elewesia diplostigma</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	①⑤※ 琴平山産の個体が模式標本。関東以西で記録されているが、生息地は局地的であり、個体数も少ない。		
種 の 特 徴	赤褐色の前翅の外縁は波状になり、やや尖った翅をもつ。黄色の細い外横線がよく目立つ小型種である。		
分 布	県内: 琴平山。 県外: 千葉県, 愛知県以西の本州, 四国(香川県, 高知県), 九州。		
被写体:	琴平山	撮影者:	高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	琴平山の記録のみで、その後どこからも得られていない。11月下旬のみの発生である。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	カンなどの常緑樹とコナラやサクラなどの落葉樹が混交した二次林が生息環境で、このような環境は開発が行われ易く、遷移が進みすぎても生息が困難と考えられる。		
特 記 事 項	長崎県(CR+EN), 大阪府・兵庫県(NT)など, 7府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 増井武彦

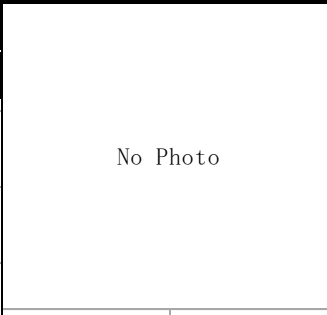


※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅



クビジロツメヨトウ <i>Oncocnemis campicola</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	③⑤⑦* 小豆島, 本州(新潟県, 長野県, 石川県, 島根県)など生息地が限定される。			
種 の 特 徴	青味を帯びた暗い前翅の内横線基部と外横線下半分外側が白色で, 黒い筋状の横線とともに独特な模様をしている。小型種。			
分 布	県内: 小豆島寒霞溪。 県外: 本州; 内陸アジア, モンゴル, アムール。		被写体: 小豆島	撮影者: 高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	小豆島寒霞溪で得られているのみ。食樹のイワガサが崖地や岩場のような乾燥を好む植物であり, 生態的に限られた特殊環境に依存している。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	食樹のイワガサが生息する崖地や岩場の環境は, 防災上の目的でコンクリート化され易い。			
特 記 事 項	長野県・島根県(DD)の3県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 増井武彦	

エグリキリガ <i>Teratoglaea pacifica</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	⑤* 大滝山で40数年前に1♂が得られたのみで, 四国内でも秋と春の特殊な発生時期に4カ所でしか確認できていない。			
種 の 特 徴	ヤガの仲間では最小に近い小型種で, 外縁の上部と前縁がえぐられたような独特の翅形をしている。			
分 布	県内: 大滝山 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州		被写体: 大滝産	撮影者: 高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	モミなどの寒地性の針葉樹を食する。県内では大滝山一帯讃岐山脈の中腹以上の樹林に依存していると思われる。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	大滝山中腹以上の樹林の伐採。スギ, ヒノキの人工造林。自然林の保護が唯一の対策である。			
特 記 事 項	長崎県(CR+EN), 福岡県(VU), 愛媛県(NT)の3県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 増井武彦	

ショウブオオヨトウ <i>Celaena leucostigama</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	②⑤③* 小豆島寒霞溪が分布の西限に当たる。			
種 の 特 徴	全体に前後翅とも茶褐色の中型種。大きさは個体変異が大である。白色腎状紋のある型や, ない型がある。			
分 布	県内: 小豆島寒霞溪。 県外: 北海道, 本州。		被写体:	撮影者:
県 内 で の 生 息 状 況	小豆島寒霞溪で1977年の1♂のみが西南日本では唯一の記録。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	小豆島の山地の湿地が生息を可能にしていたと思われるが, 既にそのような環境は植林で消失した可能性が高い。			
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 増井武彦	

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

コゴマヨトウ <i>Chandata bella</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤*	大滝山、大川山のほか、小豆島寒霞溪から知られるが、個体数も数個体しか得られていない。草原性のガの指標種である。	
種 の 特 徴	前翅は黒色にやや青味を帯びた白色の美しいまだら模様で、後翅は黒褐色の小型種である。		
分 布	県内: 寒霞溪、大滝山、大川山。 県外: 北海道、本州、四国。		被写体: 大川山 撮影者: 高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	幼虫の食草として、カヤツリグサの1種が知られており、山地にある人手の入った明るい乾燥した草原環境に生息している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	山地のカヤ場のような乾燥した草原は、自然遷移により減少している。草原の維持、保護が本種の存続に必要である。		
特 記 事 項	奈良県(VU)、兵庫県・高知県(NT)の3県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 増井武彦	



ウラギンガ <i>Chasminodes nervosa</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑦*	香川県内のブナ自生地である大滝山山頂、及び大川山付近のみに僅かに産する。得られた個体は僅かに2個体に過ぎない。	
種 の 特 徴	体、前後翅すべて銀色に光る白色の小型種。ヒメギンガとは、前翅の翅脈が黒くなっている点が異なる。		
分 布	県内: 大滝山、大川山。 県外: 北海道、本州、四国、九州。		被写体: 大滝山 撮影者: 高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	ブナ自生地である大滝山山頂や大川山付近のみにごく僅かに産する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ブナ、イヌブナの保護が唯一の対策である。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 増井武彦	

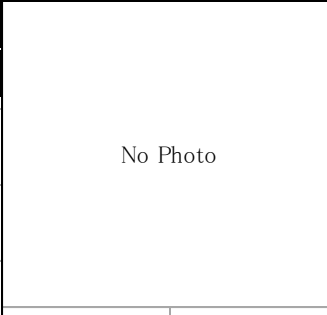


ヒメギンガ <i>Chasminodes unipuncta</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑦*	香川県内唯一のブナ林である大滝山山頂のみに僅かに産する。	
種 の 特 徴	体、前後翅すべて銀色に光る白色の小型種。		
分 布	県内: 大滝山。 県外: 北海道、本州、四国、九州のブナ帯では多産する。		被写体: 大滝山 撮影者: 高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	ブナ自生地である大滝山山頂のみにごく僅かに産する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	大滝山山頂のブナ、イヌブナの自然林の規模は小さく、地球温暖化によるブナ、イヌブナの衰弱が危惧される。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 増井武彦	




※選 定 理 由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

トビロアカガネヨトウ <i>Euplexia albilineola</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧I類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	③⑤⑦ 1973年11月に2頭が公測森林公園(高松市東植田町)で記録されたのみ。 ⑧* 全国的にも既知産地は極めて少ない。		
種 の 特 徴	前翅は暗い褐色で、横線、環状紋、腎状紋すべてが白い線で縁取られて美しい模様を浮き立たせている。中型種である。		
分 布	県内:高松市東植田町(公測森林公園)でのみ記録がある。 県外:本州、四国(香川県)、九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	1973年11月に公測森林公園(高松市東植田町)で2頭が得られているのみ。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息環境は都市近郊の人手の加わった農村部の人里の場所で、草地を主体としたところ。しかし、急速な農村の生産基盤の近代化や、周辺の道路などの改変で、発見された当時の環境は一変してしまった。		
特 記 事 項	鳥取県・島根県(VU)など、4県が絶滅危惧種に指定。	被写体: 高松市 撮影者: 高木真人	
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 増井武彦	

サザナミコヤガ <i>Enispa masuii</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	①⑤* 香川県の2産地が模式産地である。広島市からも得られているが、全国的にも産地は少ない。		
種 の 特 徴	開張13mmの超小型種。前後翅ともうすい橙紅色をして、特に後翅は黄色の波状の模様がある。		
分 布	県内:さぬき市(日下峠)、三木町(虹の滝)、高松市西植田町(藤尾山)、高松市塩江町。 県外:本州、四国。		
県 内 で の 生 息 状 況	やや人手の加わったような荒地を好むようであるが、詳細は不明である。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	人手の入ったような、やや荒地を好むようである。このような環境は、開発や植林の危険性が最も高い。		
特 記 事 項	宮崎県(VU)に指定。	被写体: 撮影者:	
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 増井武彦	

マダラキンウワバ <i>Polychrysis splendida</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧I類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤⑦⑧* 大滝山山頂付近での記録が県内唯一。四国山地には現在でもまだ生息しているが、個体数は少ない。		
種 の 特 徴	特徴である前翅の斑紋は銀紋が薄く、また全体の色調が赤みを帯びた赤褐色の中型種で、近似種との区別は容易である。		
分 布	県内:大滝山山頂付近のみで、しかも約60年前の記録のみ。 県外:北海道、本州、四国、九州の高標高地(標高1000m以上)。		
県 内 で の 生 息 状 況	県内唯一、大滝山山頂付近で約60年前に記録があるのみ。本種が生息していた昭和20年代の環境はその後の道路整備、社会情勢や自然林の伐採、拡大造林の推進で完全に様変わりしており、植生的にみただけで、絶滅に近いと思われる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息地として知られる大滝山の高地の樹林に依存していたが、かつての環境は完全に植林で様変わりしてしまい、絶滅に近いと想定される。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し	被写体: 徳島県 撮影者: 高木真人	
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 増井武彦	

※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

ナマリキシタバ <i>Catocala columbina</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	③⑤⑦* 食草であるイワガサが自生する場所が岩場という特殊な環境であり、分布が局限される。			
種 の 特 徴	前翅の色調が独特な鉛色である。黒い後翅に黄色の帯状模様があり、44mmもある大型美麗種である。			
分 布	県内: 小豆島(寒霞溪), 高松市(岩清尾山), 高松市塩江町, 高松市国分寺町(五色台), 三豊市(弥谷山)。 県外: 本州, 四国, 九州。			被写体: 小豆島 撮影者: 高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	食樹のイワガサが生える岩場では、比較的多くみられる。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	食樹のイワガサは乾燥を好む種類で岩場に多く、このような環境は防災上の理由でコンクリート化され易い。			
特 記 事 項	奈良県(VU), 兵庫県・広島県・高知県(VU)など、12県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。			執筆者: 増井武彦

ワモンキシタバ <i>Catocala fulminea xarippe</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	⑦⑧* 海岸近くから低山地まで6か所で生息が確認されているが、産地は局限され、個体数もごく僅かである。			
種 の 特 徴	前翅の基底部分が黒く、独特である。黒い後翅に黄色の帯状模様がある。			
分 布	県内: 東かがわ市(馬籾), 高松市(藤尾山), 綾川町(柏原溪谷), 三豊市(七宝山), 三豊市(積), 琴平町(琴平山)。 県外: 北海道, 本州, 四国。			被写体: 東かがわ市 撮影者: 高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	低地から中山間地の山林6カ所で確認されているが、いずれも個体数はごく少なく、分布も局限されている。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	やや人手の入った二次林は、開発され易く、逆に遷移が進みすぎても生息できなくなる。			
特 記 事 項	大阪府・奈良県(NT)の2府県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。			執筆者: 増井武彦

カバフキシタバ <i>Catocala mirifica</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	⑤⑦* 県内ではさぬき市三木町, 東かがわ市大内(大内ダム), 五色台, 大滝山の4か所で8個体確認されているのみ。			
種 の 特 徴	うすい青灰色の帯状模様の先端部分が黒く独特である。50mmの大型美麗種。			
分 布	県内: 木田郡三木町, 東かがわ市大内(大内ダム), 五色台, 大滝山。 県外: 本州, 四国。日本特産種。			被写体: 大滝山 撮影者: 高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	カマツカが生え、アラカシ、コナラなどカシ類が混交した、やや人手の入った明るい場所の二次林が生息地で、個体数は多くない。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	食樹はカマツカで、本種の生息する低地にあるやや人手の入った二次林は開発される可能性が大きい。反面、二次林の遷移が進みすぎても生息環境として不適である。			
特 記 事 項	島根県(CR+EN), 滋賀県・三重県・奈良県・愛媛県(VU)など、12県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。			執筆者: 増井武彦


※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

ゴマシオキシタバ <i>Catocala nubila</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	②⑤⑦* 香川県内唯一のブナ林である大滝山山頂のみに僅かに産する。		
種 の 特 徴	黒い後翅に黄色の帯状模様があり、開翅長50mmの大型美麗種。近似種とは黄色の帯の色合いと形で区別できる。		
分 布	県内: 大滝山。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州のブナ帯では多産する。		
県 内 で の 生 息 状 況	ブナ自生地である大滝山山頂のみにごく僅かに産する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	大滝山山頂のブナ、イヌブナの自然林の規模は小さく、地球温暖化によるブナ、イヌブナの衰弱が危惧される。		
特 記 事 項	島根県(CR+EN)、滋賀県・三重県・奈良県・愛媛県(VU)など、12県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 増井武彦	

エゾベニシタバ <i>Catocala nupta nozewae</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧I類 (CR+EN)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	②③⑤⑦ ⑧* 大滝山山頂付近での記録が県内唯一である。		<p style="text-align: center;">No Photo</p>
種 の 特 徴	開翅長77mmもある大型美麗種。黒い後翅に紅色の帯状模様がある。近似種とは赤い帯の色合いと形で区別できる。		
分 布	県内: 大滝山山頂付近のみで、しかも約60年前の記録のみ。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州の高標高地(標高1,000m以上)		
県 内 で の 生 息 状 況	県内唯一、大滝山山頂付近で約60年前に記録があるのみ。本種が生息していた昭和20年代の環境はその後の道路整備、社会情勢や自然林の伐採、拡大造林の推進で完全に様変わりしてしまい、種生的にみた場合、絶滅に近いと思われる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本州の幼虫はヤナギ類、ドロノキ、ポプラを食することが知られている。本種が大滝山の高地の樹林に依存して生息していたとしても、当時の昭和20年代の環境はその後の道路整備、社会情勢や自然林の伐採、植林の推進で完全に様変わりしてしまい、種生的、生態的に絶滅に近いと推察される。		
特 記 事 項	岡山県(VU)、栃木県(その他)の2県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 増井武彦	

アサマキシタバ <i>Catocala streckeri</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	②③⑦* 近畿以南では産地は局限され、四国では瀬戸内海側にのみ分布する。		
種 の 特 徴	黒い後翅にややくすんだ淡黄色の帯状模様がある。開長50mmの大型美麗種である。		
分 布	県内: 小豆島(寒霞溪)、東かがわ市(大坂峠、馬籠)、さぬき市(矢筈山)、高松市(藤尾山)、高松市塩江町(椀川)、観音寺市。 県外: 北海道, 本州, 四国。		
県 内 で の 生 息 状 況	海岸近くから低地の山林に分布し、6カ所で確認されているのみで、いずれも個体数はごく少なく、分布も局限されている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	やや人手の入った二次林は、開発され易く、逆に遷移が進みすぎても生息できなくなる。		
特 記 事 項	滋賀県(VU)、奈良県・大阪府(NT)など、5府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 増井武彦	

※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

ソトハガタアツバ <i>Olulis puncticinctalis</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑦* 海岸近くの人里環境でのみ確認される特殊な種である。		 被写体: 塩江町 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	前後翅とも麦わら色の小型種。前翅は外縁の中ほどで外方に角ばっている。後翅の外縁はやや淡紅色。		
分 布	県内: 東かがわ市, 荘内半島, 七宝山。 県外: 本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島, 南西諸島。		
県 内 で の 生 息 状 況	海岸近くの人里で手入れが行きとどいた二次林		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	記録は少ないものの、海岸近くの特殊な環境に生息する関係で、開発がない以上絶滅はしないだろう。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 増井武彦	

シーモンアツバ <i>Sinarella c-album</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	③⑧* 大滝山での記録が県内唯一である。		 被写体: 塩江町 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	前翅は独特の模様で、白色の腎状紋は三日月状である。20mm足らずの小型種で、近似種はいない。		
分 布	県内: 大滝山のみ。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	県内唯一、大滝山で灯火に飛来(2011年9月1日)した。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	発生場所が特定できていないので、要因は不明。		
特 記 事 項	三重県(DD)に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 増井武彦	

ウラジロアツバ <i>Zanclognatha stramentacealis</i> (ヤガ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧* 高松市仏生山町で1960年代後半と小豆島馬木で1977(昭和52)年に得られたが、その後の記録はない。		 被写体: 高松市 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	同属の近縁種との識別は困難である。外横線の形と後翅が比較的単色であることで識別が出来る。		
分 布	県内: 高松市仏生山町, 小豆島町馬木。 県外: 北海道, 本州, 四国, 国外: 中国, ウスリー, 朝鮮。		
県 内 で の 生 息 状 況	都市近郊など平地に産するが、稀である。高松市仏生山町と小豆島町馬木で確認されたのみ。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	人手の入った人里的場所で発生するようであるが、詳細は不明。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 増井武彦	

\*選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

カワラゴミムシ <i>Omophron aequalis</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤⑦* 県内では1964年及び1971年に採集された2例だけで、生息環境が限定される。		
種 の 特 徴	体長5.5mm, 半球形で光沢があり、肢はやや長く、上翅には点刻された15本の条線を持つ。		
分 布	県内: 高松市塩江町, 香南町。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	香東川水系の2箇所(塩江町内場ダム旧管理事務所, 香南町由佐 城渡橋)で生息が確認されており、いずれの場所でも灯火に飛来している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	県外では、主に河原の砂地の水際に生息しているが、現在の県内では綺麗な砂地や水際が見当たらず、砂利も小石も土を被っており、本種が生息できる環境はほとんど残っていないものと推察される。		
特 記 事 項	広島県(CR+EN), 兵庫県(NT)など, 22都道府県で絶滅危惧種に指定されている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 佐藤 正昭



被写体: 高松市 撮影者: 高木 真人

ヨシロヘリハンミョウ <i>Callytron inspecularis</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
選 定 理 由	⑤⑦* 主な生息地の塩田跡地が都市化により、消失		
種 の 特 徴	体長9~12mm。前翅側縁は翅端まで白く縁取る。		
分 布	県内: 高松市, 小豆島, 直島。 県外: 本州, 四国, 九州, 種子島; 朝鮮半島, 中国, 台湾。		
県 内 で の 生 息 状 況	本来、河口のヨシ原で命脈を保ってきたが、瀬戸内海沿岸に広がる流化式塩田の廃止に伴い、ヨシ原から生息域を広めたものと想定される。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息地である塩田跡地の都市開発, ヨシ原の河床整理, 河口堰の設置などで、生息環境が消失して絶滅に追い込まれたものと想定される。そのほか、趨光性により、街灯の普及で生存を脅かした。		
特 記 事 項	大阪府(EX), 岡山県・山口県・徳島県(CR+EN)など, 13府県が絶滅危惧種に指定		
文 献	なし		執筆者: 高木真人



被写体: 屋島塩田 撮影者: 高木真人

アイヌハンミョウ <i>Cicindela gemmata aino</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑦⑧* 生息地の河川が度重なる洪水により、生息地が消失		
種 の 特 徴	体長17mm内外。背面は暗緑色で、前翅には肩部近くと中央部、翅端部に淡黄色の斑紋がある。		
分 布	県内: 綾川水系, 香東川水系。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州; 朝鮮半島, 中国, シベリア。		
県 内 で の 生 息 状 況	河川上流域から中流域の転石が散在する砂質の河原に生息		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川ダムの建設, 河床整備により、生息環境が消失。近年、温暖化に伴う大雨等の洪水で生息地が流失している。		
特 記 事 項	東京都(EX), 新潟県・千葉県(CR+EN)など, 23都府県が絶滅危惧種に指定		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 高木真人



被写体: 高松市 撮影者: 高木真人

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

ルイスハンミョウ <i>Cicindela lewisi</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧ⅠB類 (EN)
選 定 理 由	③⑧* 近年、生息が確認されていない。		
種 の 特 徴	体長15～18mm。体色は白つぼく、砂浜に溶け込む。♀♂で体色に変化があり、♂は白つぼく、♀は赤つぼみ。後腿節に3本の黒帯がある。		
分 布	県内:高松市, 多度津町(佐柳島)。 県外:本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	香東川河口部, 多度津町(佐柳島)の砂浜海浜で記録され、標本が残されているが、近年、生息が確認されていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	開発や浸食による自然海岸の消失、河口部の護岸工事、河川敷公園などの開発。		
特 記 事 項	大阪府・岡山県・高知県・愛媛県(EX), 徳島県(CR+EN)など、13府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	



被写体: 香東川 撮影者: 高木真人

コニワハンミョウ <i>Cicindela transbaicalica japonensis</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧* 生息地、個体数が減少。		
種 の 特 徴	体長10～13mm。背面は、光沢がなく暗銅色から暗緑色で、前翅には肩部近くと中央部、翅端部に白色の斑紋がある。		
分 布	県内:香東川。 県外:本州, 四国, 九州, 南西諸島。		
県 内 で の 生 息 状 況	河川中流域から上流域にかけての細かい砂が溜まった砂溜まりに生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	土地造成(運動公園)、河川ダムの設置などにより、生息地が消失。近年、温暖化に伴う大雨等の洪水で生息地が流失している。		
特 記 事 項	愛媛県(VU), 鹿児島県(NT)など、4県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	



被写体: 塩江町 撮影者: 佐野信雄

ホソハンミョウ <i>Cylindrela gracilis</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
選 定 理 由	⑤⑦* 生息地が少なく、近年の記録がない。		
種 の 特 徴	体長10～12mmの光沢のない黒色で、細長いハンミョウ。背面は上翅外縁に2対の白紋がある。		
分 布	県内:高松市(栗林, 宮脇町), 善通寺市(大麻山)。 県外:本州, 四国, 九州; 朝鮮半島, 中国, シベリア。		
県 内 で の 生 息 状 況	県内では、墓地や遊歩道、尾根道の側溝などで見つかっているが、発見例は少ない。樹林内でアリなどの小昆虫を捕食する性質から草間からたまたま出てきたところを確認できたのだろう。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	草地の管理不足や自然遷移により草地が減少、松くい虫防除による農薬汚染。		
特 記 事 項	大阪府(EX), 三重県(CR+EN)など、32府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	



被写体: 高松市 撮影者: 高木真人

\*選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅



<b>エリザハンミョウ</b>		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
<i>Cylindera elisae elisae</i> (オサムシ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧* ため池の整備, 水田の畦畔のコンクリート化, 都市化により, 生息地が消失		
種 の 特 徴	体長9~11mmの小型のハンミョウ。背面は暗銅色で, 前翅には強く湾曲する模様が肩部からと中央部, 翅端部にある。		
分 布	県内: 高松市, 坂出市, 五色台, 土庄町豊島。 県外: 本州, 四国, 九州, 南西諸島。		
県 内 で の 生 息 状 況	1974年に高松市仏生山町の旧県農業試験場の予察灯に飛来, 屋島西町の塩田跡地ではヨドシロヘリハンミョウと混生していた。五色台タンベ池では工事のため, 池が干上がり, 多数生息していた。今回の調査期間中, 高松市内で1件確認された。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	水田の周辺, 河川敷などの粘土質の湿地で生息。生息地は不安定な環境にあるため, 常に生息地を移動しているものと思われる。生息地の都市化, ため池の護岸工事, 水田の基盤整備などによる生息地の消失が絶滅の大きな要因であろう。		
特 記 事 項	東京都(VU), 広島県・宮崎県(NT)など, 4都県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 高木真人	



被写体: 五色台 | 撮影者: 高木真人

<b>クロカタビロオサムシ</b>		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
<i>Calosoma maximowiczi</i> (オサムシ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑦* 蛾類幼虫の捕食者で, 蛾類の大発生が起こると一気に個体数が増えるが, 個体数の変動幅が大きく, 通常の年には見ることができないことがある。		
種 の 特 徴	大きさは20~30mmでツヤのある黒色。肩幅は広く, 後翅を持ち飛翔可能である。		
分 布	県内: 東かがわ市, さぬき市, 三木町, 高松市, 善通寺市。 県外: 北海道, 本州, 九州 西日本では, 中央構造線内帯に生息する。		
県 内 で の 生 息 状 況	2010年頃より, 東讃, 高松市などで, 蛾類の大発生があり, それに伴い本種も個体数を増やしたが, 現在は, 蛾類の大発生が収束したため, 本種はほとんど見かけなくなった。善通寺市での採集時はヒメヤマユガの大発生があった。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	森林開発, 人工造林, 薬剤の空中散布などによって, 餌である鱗翅目幼虫とともに本種に影響を与える。本種は捕食者であるので餌の量によって個体数の制限を受けるが, 蛾類の幼虫が増えることは, 自然のバランスが崩れているということでもある。		
特 記 事 項	千葉県(CR+EN), 大分県, 三重県(VU), 和歌山県(NT)など, 13都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 佐野信雄	



被写体: 東かがわ市 | 撮影者: 佐野信雄

<b>アワオサムシ</b>		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
<i>Carabus (Ohomopterus) kawanoi</i> (オサムシ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑧ 1960年竜王山の標本が最も古く, 1987~1989に大滝山, 真鈴, 大川山, 東山峠での報告, その後も阿讃の中央部で得られているが, 近年減少。		
種 の 特 徴	25mm前後の大きさで金銅色, 阿讃山脈の個体群はやや小型で, 上翅や前胸の色がやや黒ずむ。後翅が退化しているため飛翔できない。県内では黒化型も得られている。		
分 布	県内: 高松市, まんのう町。 県外: 徳島県, 高知県, 愛媛県(別亜種)。		
県 内 で の 生 息 状 況	大滝山, 竜王山, 大川山の上部の森林を中心に生息しているが, 全体に個体数を減じている。大川山においては, 上部から尾根伝いに周辺の低標高地まで生息していたが, 今回の調査では, 低標高地(300~500m付近)での生息が確認できなかった。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	森林性を好むため, 伐採や開発等が生息に影響を与える。スギ・ヒノキの植林は, 冬季の乾燥を防ぐと思われ, 本種の越冬等に利用されているが, 湿り気が多く苔が覆うと利用されない。山地の高標高地を好むため, 近年の温暖化は影響を与えていると考えられる。		
特 記 事 項	愛媛県の高縄半島に生息する別亜種ssp. <i>botchan</i> は, 絶滅危惧II類(VU)。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 佐野信雄	



被写体: 大滝山 | 撮影者: 高木真人

\*選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

キベリマルクビゴミムシ <i>Nebria livida angulata</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	絶滅危惧 I B類 (EN)
選 定 理 由	⑦⑧* 県内では生息確認数が少なく、近年の記録がない。		
種 の 特 徴	体長13～16.5mmの大型のマルクビゴミムシ。体は黒色であるが前胸背、上翅の側縁と端部および脚は黄褐色。		
分 布	県内:高松市, 坂出市, 仲多度郡。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	高松市牟礼町, 坂出市府中町, 金倉川水系1ヶ所(仲多度郡琴平町)計3ヶ所で生息が確認されており、いずれも水際の下から採集されている。1992年の採集記録以降、確認されていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	自然災害や護岸工事などで生息環境が破壊されると、本種の絶滅に拍車をかけ絶滅の恐れがある。		
特 記 事 項	愛媛県(CR+EN)の他、19都道府県で絶滅危惧種に指定されている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 佐藤正昭



被写体: 高松市 撮影者: 高木真人

ホソヒョウタンゴミムシ <i>Caritesu acutidens</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑦* 県内では生息地が局所的で限られている。		
種 の 特 徴	体長17.5～22mm。黒色で体はヒョウタン型。近似種ナガヒョウタンゴミムシとは、中脛節外縁の刺の数で区別できる(本種は2本)。		
分 布	県内:高松市, 三豊市, 坂出市, 丸亀市。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州, 琉球。		
県 内 で の 生 息 状 況	高松市松島町, 三豊市高瀬町, 坂出市, 丸亀市牛島などで採集されており、河川敷や池の水際の主に砂地に生息し、夜間灯火にも飛来する。松島町では畑地の石の下で見つかっている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息数が非常に少なく、河川敷の開発や湖沼の護岸工事等で、生息地が破壊されることが心配される。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 佐藤正昭



被写体: 坂出市 撮影者: 高木真人

オサムシモドキ <i>Craspedonotus tivialis</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑦* 生息地が限定される。		
種 の 特 徴	体長22mm内外、黒色で光沢が鈍く、触角基部と基部を除く脛節は黄色。前胸背はハート型。		
分 布	県内:高松市, 観音寺市, 仲多度郡。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	香東川水系2ヶ所(郷東町, 一宮町), 新川水系1ヶ所(屋島西町), 観音寺市(有明町有明浜), 仲多度郡(多度津町高見島)の5ヶ所で生息が確認されており、海岸の砂浜及び河川敷の砂地から採集されている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	護岸工事や自然災害などで生息環境が破壊されると、本種の絶滅に拍車をかけ絶滅が心配される。		
特 記 事 項	愛媛県(NT)のほか、15都道府県で絶滅危惧種に指定されている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 佐藤正昭



被写体: 観音寺市 撮影者: 高木真人

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

キバネキバナガミズギワゴミムシ <i>Armatocillenus aestuarii</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑦* 県内では2001年に鴨部川河口の灯火採集で得られた1個体のみ。当地での2019年8月の夜間ルッキング調査では確認できなかった。		
種 の 特 徴	体長4.5mm内外。頭部が大きく大顎が長い。上翅は黄褐色で暗色の斑紋がある。		
分 布	県内:さぬき市(鴨部川)。 県外:本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	2001年にさぬき市の鴨部川河口で灯火採集によって得られた1個体のみであり、その後全く確認されていない。2019年8月の鴨部川本流河口の調査でも本種は全く見られなかった。本種は近似種キバナガミズギワゴミムシよりも粒径の小さい砂泥環境を好むことが秋田・締次(2011)で報告されている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	砂防ダム建設による河川河口の砂州の衰退, 生息地上流での河川工事に伴う砂泥地の環境変化。		
特 記 事 項	千葉県・東京都・愛媛県(CR+EN), 三重県・大阪府(VU)など, 10都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 大生唯統



キバナガミズギワゴミムシ <i>Armatocillenus yokohamae</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦* 生息環境である河川河口の潮間帯の砂礫地は河川改修や砂防ダム建設による土砂流入量の減少により衰退しつつある。		
種 の 特 徴	体長4.2mm内外。頭部が大きく大顎が長い。上翅は鈍い緑銅色で暗黄色の斑紋を持つ個体もいる。		
分 布	県内:さぬき市(鴨部川), 坂出市(綾川), 丸亀市(土器川), 観音寺市(財田川)。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州, 屋久島。		
県 内 で の 生 息 状 況	2019年8月の鴨部川本流河口の夜間調査では潮間帯の砂礫地で生息を確認した。特に流心に近い水通しのよい砂州で多産していた。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	砂防ダム建設による河川河口の砂州の衰退, 生息地上流での河川工事に伴う砂礫地の環境変化。		
特 記 事 項	埼玉県(EX), 千葉県(VU)など, 9県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 大生唯統



ハマベゴミムシ <i>Pogonus japonicus</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	③⑤⑦* 県内における生息場所が極めて限定的で、その環境面積が減少している。		
種 の 特 徴	体長6.5mm内外。体は緑銅色を帯びた黒褐色。上翅は赤みがあり、両側と端部が幅広く淡色となる。脚は褐色。複眼の内側には明らかな縦隆がある。上翅は両側がほぼ平行。		
分 布	県内:坂出市。 県外:本州, 四国。		
県 内 で の 生 息 状 況	坂出市玉越町の木沢塩田跡地でのみ確認されている。当地では、同所的に生息するオオツノハネカクシの坑道に侵入し身を隠す様子が観察できた。また飼育下では、時には衰弱したオオツノハネカクシを捕食することを確認した。主に夜間に地表に現れて徘徊する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	開発により、満潮時に海水が流入する海浜砂地環境が減少している。		
特 記 事 項	岡山県・島根県(VU)のほか、5県で絶滅危惧種に指定されている。		
文 献	なし		執筆者: 松本慶一・脇悠太



\*選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅


<b>オオタキメクラチビゴミムシ</b> <i>Stygiotrechus satoui satoui</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	①③④ ⑤* 生息地が限られる。		
種 の 特 徴	体長2.50～2.85mm。前胸の後縁は前縁より幅広く、♂交尾器を上からみると、先端の葉片は太い。		
分 布	県内:高松市。		
県 内 で の 生 息 状 況	高松市塩江町大屋敷、高松市峰山町石清尾山で発見されており、どちらの生息場所においても生息ポイントが限定的である。潤沢の小石の下や地下浅層でみつかると。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息数が少ないため、乱獲による採集圧や、砂防ダムが建設された場合の環境変化の影響などで絶滅する可能性が考えられる。		
特 記 事 項	香川県固有種。		被写体: 高松市 撮影者: 高木真人
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 佐藤正昭

<b>コンピラメクラチビゴミムシ</b> <i>Stygiotrechus satoui kompira</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	①③④ ⑤* 県内では象頭山のみで生息する。		
種 の 特 徴	体長2.5～2.7mm。前胸後縁は幅狭く、前縁とはほぼ同長。♂生殖器は幅狭く、上から見ると先端の葉片は細い。		
分 布	県内:仲多度郡琴平町象頭山。		
県 内 で の 生 息 状 況	琴平町の象頭山で1974年に発見され、1980年に新亜種記載された。潤沢の地下浅層や、潤沢の斜面の湿った場所の右下に生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息地は自然環境が良く保たれているが、採集者による乱獲が心配される。		
特 記 事 項	香川県固有種(固有亜種)。		被写体: 象頭山 撮影者: 高木真人
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 佐藤正昭

<b>ナンカイイソチビゴミムシ</b> <i>Thalassoduvallius masidai kurosai</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	②③⑤ ⑦* 2008年丸亀市で1頭採集された。		
種 の 特 徴	体長5mm前後。海浜性の種。体は赤褐色。地下生活の適応が見られ、眼は比較的小さく後翅を欠く。1属1種。頭部の大きさや♂交尾器中央片の形状の差からそれぞれ別亜種とされている。		
分 布	県内:丸亀市。 県外:愛媛県、島根県(基亜種)、神奈川県(別亜種)。		
県 内 で の 生 息 状 況	本種は、潮の影響を直接受けるような岩礁地帯の地下浅層に棲み、潮間帯の大きな石や礫の隙間等で採集されるものと考えていたが、砂浜の地下の貝殻層から得られた。島嶼部も含めた県内沿岸部に広く生息していると思われる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	沿岸部の潮の影響を直接受けるような岩礁地帯の地下浅層に棲み、また、砂浜においても採集の可能性があることから、いかなる浜辺においても改変は何らかの影響を与えたと考えられる。		
特 記 事 項	愛媛県:準絶滅危惧(NT)、島根県、神奈川県:絶滅危惧I類。		被写体: 丸亀市 撮影者: 佐野信雄
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 佐野信雄

\*選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

ショウドシマナガチビゴミムシ <i>Trechiana advena</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)	No Photo
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	④※ 模式産地が小豆島町(旧内海町)にあり、香川県固有種。島内の模式産地以外の分布状況は不明。			
種 の 特 徴	体長6.05～6.15mm。中国地方に分布の中心を持つタイシャクナガチビゴミムシ群に属し、県内の <i>Trechiana</i> 属で唯一とても小さな複眼を持つ。			
分 布	県内: 小豆島町(旧内海町)。			被写体: 撮影者:
県 内 で の 生 息 状 況	小豆島町(旧内海町)のみで見つかっている。発見・記載された1983年以降、本種を対象とした調査が継続的に行われていたが再発見には至っていない。しかし、近年になって模式産地周辺で本種と思われる個体が得られている。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	模式産地は瀬戸内海国立公園内にあり、近年の大きな環境の変化は見られない。湿潤な空隙に依存しているため、調査時には現状復元を徹底する必要がある。標本販売目的の採集。			
特 記 事 項	香川県固有種。タイプ標本(ホロタイプ・パラタイプ)は国立科学博物館に収蔵されている。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。			執筆者: 大生唯統

リツリンメクラチビゴミムシ <i>Trechiana exilis exilis</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	①③④ ⑤※ 生息地が限定される。			
種 の 特 徴	体長4.8～5.3mm。体は細長く、前胸基縁の両端がえぐれ、後角は外方に突き出さない。			
分 布	県内: 高松市峰山町。			被写体: 高松市 撮影者: 高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	峰山町石清尾山の摺鉢谷の地下浅層に生息するが、個体数は少ない。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息ポイントが極めて狭く、砂防ダム建設などが行われれば環境が激変し、絶滅する可能性がある。乱獲のため個体数が著しく減少しており、近年の記録が無い。			
特 記 事 項	香川県固有種。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。			執筆者: 佐藤正昭

ゴシキメクラチビゴミムシ <i>Trechiana exilis cordatus</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	①③④ ⑤※ 生息地が限定される。			
種 の 特 徴	基亜種のリツリンメクラチビゴミムシに極めてよく似ているが、前胸基縁の両端がえぐれず、後角はわずかに外方に突き出す。			
分 布	県内: 坂出市。			被写体: 坂出市 撮影者: 高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	坂出市青海町青海川河川敷の落葉、あるいは小石の下に生息している。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息ポイントが狭く、砂防ダム建設などが行われれば環境が激変し、絶滅する可能性がある。乱獲のため個体数が著しく減少する可能性が考えられる。			
特 記 事 項	香川県固有種。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。			執筆者: 佐藤正昭

※選 定 理 由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅


ゾウズサンメクラチビゴミムシ <i>Trechiana instabilis</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	①③④ ⑤※ 生息地及び生息環境が限定される。		 <p>被写体: 琴平町 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	体長5.5～6.3mm, 体色が暗くて上翅に明瞭な虹状光沢がある。		
分 布	県内: 仲多度郡琴平町。		
県 内 で の 生 息 状 況	仲多度郡琴平町の象頭山だけに生息し、濁沢の地下浅層から発見される。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息地の自然環境はよく保全されており現状では絶滅の心配がない。生息ポイントが非常に限定的であるため、乱獲によって絶滅する可能性が考えられる。		
特 記 事 項	香川県固有種。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 佐藤正昭	


サトウメクラチビゴミムシ <i>Trechiana satoui</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	①③⑤※ 県内では1974年に発見され、生息地が限られる。		 <p>被写体: 高松市 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	体長4.9～5.9mm, ♂生殖器官が細長くて交尾片がなく、上翅第5条には2個の剛毛孔点がある。		
分 布	県内: 塩江町大屋敷, 峰山町, 仲多度郡まんのう町, 県外: 徳島県美馬市。		
県 内 で の 生 息 状 況	高松市峰山町, 大滝山, 大川山の濁沢の地下浅層から発見される。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	砂防ダムや林道開発で生息地の破壊が心配される。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 佐藤正昭	

シロトリメクラチビゴミムシ <i>Trechiana tenuis</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	①③④ ⑤※ 模式産地が東かがわ市(旧白鳥町)にあり、香川県固有種。生息に適した湿潤な地下空隙は生息地でも局所的に点在するのみである。		 <p>被写体: 東かがわ市 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	体長5.30～5.70mm。♂生殖器官は、先が下方に曲がり端部を上から見ると、前方に細長く伸長する。上翅5条に2ヶの剛毛孔点がある。		
分 布	県内: 東かがわ市, さぬき市。		
県 内 で の 生 息 状 況	讃岐山脈の東部の2地点のみで見つかっている。県下の <i>Trechiana</i> 属は山頂部まで花崗岩類で覆われた山塊からは見つかっていない。2019年にさぬき市から原記載以降36年振りに新産地が報告されたが、形態の酷似する近縁種 <i>T. satoui</i> との分布境界は不明。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息に適した湿潤な地下空隙は生息地でも局所的に点在するため、砂防ダム建設が行われれば、絶滅の可能性がある。調査時には現状復元を徹底する必要がある。標本販売目的の採集。		
特 記 事 項	香川県固有種。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 大生唯統・佐藤正昭	

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

アトスジチビゴミムシ <i>Trechoblemus postilenatus</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦* 主に水辺で採集される種だが、香川県内の記録は少ない。		No Photo
種 の 特 徴	体長4.2～5.3mm。体は細長く赤褐色。複眼は扁平で、前胸背板は正方形に近い。上翅中央後方には暗色紋が見られる。体表は一樣に細毛に覆われる。		
分 布	県内: 小豆島, 琴平町。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	内海町(小豆島), 琴平町での記録がある。湿地や河川敷, 干拓地など, 水辺に生息する。灯火にも飛来する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息に適していると考えられる河川敷や湿地等の環境は、県内では確実に悪化, 縮小している。河川改修や各種開発による湿地の消滅や河川敷の公園化が懸念される。		
特 記 事 項	神奈川県(VU), 北海道(DD)の2道県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 佐藤 正昭	


サトウヌレチゴミムシ <i>Apatrobus satoui</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	①③④* 琴平町象頭山, まんのう町大川山で採集され1976年に新種記載された。		
種 の 特 徴	体長9.5～11.4mm。黒色で光沢があり, 肩部が丸く, 前胸の最大幅は後縁の幅の約1.3倍。♂交尾器側片先端部の伸長は短い。		
分 布	県内: 仲多度郡まんのう町, 琴平町。		
県 内 で の 生 息 状 況	まんのう町大川山尾根周辺, 琴平町象頭山では原生林の林床で生息が確認されており, いずれの場所でも石の下から発見されている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	琴平町の生息地は, 金刀比羅宮の杜叢林として良好に保全されているが, 地球温暖化による大雨等で土砂崩れがあると, 生息地が消失する可能性がある。まんのう町の生息地周辺の林道の舗装工事が行われると, 絶滅する可能性がある。		
特 記 事 項	香川県固有種。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 佐藤 正昭	

ツルギヌレチゴミムシ <i>Apatrobus tsurugiensis</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	①③⑤* 徳島県剣山と香川県大滝山の標本を基に, 1976年に新種記載された。生息地が限定される。		
種 の 特 徴	体長9.5～9.8mm。黒色で光沢がある。前胸の最大幅は後縁の幅の約1.4倍。サトウヌレチゴミムシに極めてよく似ているが, ♂交尾器側片先端はより細く伸長する。		
分 布	県内: 高松市塩江町。 県外: 徳島県, 高知県。		
県 内 で の 生 息 状 況	高松市塩江町大滝山の尾根近くで, 石の下や倒木下に生息しているが少ない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	後翅が退化しており, 生息する個体数も少なく移動範囲も狭いため, 生息地周辺の遊歩道の舗装工事が行われると絶滅する可能性がある。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 佐藤 正昭	

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

ヨツボシツヤナガゴミムシ <i>Abacetusa tanakai</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑦* 県内では1986年に死骸が1頭発見された1例だけ。その後記録はない。		 <p>被写体: 徳島県 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	体長5.5mm～6mm。黒色で光沢をもち、各上翅に黄赤褐色の2斑紋をもつ。触角は基部3節と先端が赤褐色。		
分 布	県内: 仲多度郡琴平町。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	琴平町内で出水周辺の土から死骸が発見されているが、その後県内の何処からも見つからない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	県外では各河川の清流域の砂地で発見されているが、岸边に打ち上げられた洪水ゴミの下からも取れている。県内では本種が生息できる生息環境は見つからない。		
特 記 事 項	高知県(NT)のほか、群馬県・神奈川県(CR+EN)の3県で絶滅危惧種に指定されている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 佐藤 正昭	

オオクロナガゴミムシ <i>Pterostichus prolongatus</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧* 湿地、水辺環境の埋め立て、開発等により生息環境の消失、悪化が進み、各地で姿を消しつつある。		 <p>被写体: 坂出市 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	体長14.5～18mmの大型のナガゴミムシ。オスの腹部末端節に突起があり、突起は長く後方に曲がり、その先端は腹面に接する。湿地、休耕地など湿気のある草地環境に生息する。		
分 布	県内: 高松市, 坂出市, 観音寺市, 多度津町。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	坂出市王越町の塩田跡地において2000年の記録がある他、坂出市番の州町における記録がある。2018年に観音寺市, 多度津町, 2019年に高松市多肥上町で生息が確認されている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息地で河川敷、湿地等の湿潤環境が河川改修、埋め立て等により消失、減少傾向にあり、本種の生息状況が悪化の傾向にある。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 宇都宮靖博	

ヒメセボシヒラタゴミムシ <i>Agonum suavissimum</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦* ヨシの生える湿地に特異的に生息する種だが、各種開発による生息地の消滅が危惧される。		 <p>被写体: 静岡県 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	体長7.5～10mm。背面は黒色で、弱い虹色光沢がある。前胸背板後角は丸い。上翅第3間室には3～5孔点がある。		
分 布	県内: 小豆島町, 坂出市, 丸亀市。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	小豆島町(池田), 坂出市王越町の木沢塩田跡地, 丸亀市本島・広島・手島での記録があり、湿地周辺の灯火に飛来している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息地であるヨシ湿地が護岸工事や開発により消滅することで、絶滅する恐れがある。木沢塩田跡では、廃棄物処分場の工事により、生息地の環境が著しく悪化している。		
特 記 事 項	高知県: 準絶滅危惧種(NT), 京都府: 要注目種に指定されている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 松本 慶一	

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅



<b>ヨツボシゴミムシ</b>		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
<i>Panagaeus japonicus</i> (オサムシ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤* 1973年の琴平町の採集記録があるだけで、ほとんど未調査と思われる。		
種 の 特 徴	12mm程の大きさで、脚は赤褐色、体は細長く黒色。上翅には2対の大きな黄色の紋がある。♂の前符節は第1～2節は広がる。		
分 布	県内:まんのう町, 琴平町。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州; 中国, シベリア東部。		
県 内 で の 生 息 状 況	今回の調査において、山間部の畑や阿讃山脈の尾根などのややオープンな環境3ヶ所で生息を確認した。生息地の標高は、それぞれ200m, 650m, 900mで、特に標高は関係ないと思われる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	山間部の集落等は適した環境と考えられるが、人がいなくなると、家屋、畑、林道などが草で覆われ、マント帯になり環境は悪化し生息できなくなる。また、オープンにはなるが、広範囲な森林開発は、乾燥が進むため、良いとは思えない。		
特 記 事 項	神奈川県:準絶滅危惧, 高知県:情報不足。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	被写体: まんのう町 撮影者: 佐野信雄	




<b>オオヨツボシゴミムシ</b>		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
<i>Dischissus mirandus</i> (オサムシ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑧* かつての多産地で、現在その数を減じていること。また、他の産地も個体群が極めて小規模である。東讃, 島嶼部で未発見。		
種 の 特 徴	体は黒色で、上翅に2対の黄色の紋がある20mm前後の大型の美しいゴミムシ。		
分 布	県内:高松市, 坂出市, 丸亀市, 琴平町, 観音寺市。 県外:本州, 御蔵島, 四国, 九州, 琉球。		
県 内 で の 生 息 状 況	河川敷, 海岸, 小山の山頂付近等, 中西讃を中心に様々な環境の中, 数ヶ所で得られているが、いわゆる疎林と呼ばれるような林である。いずれの産地においても個体数は多くない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本県における本種の生息地をみると、広い湿地や草原等が必ずしも必要な訳ではなく、狭い範囲でも生息が可能であるので、大規模でなくとも河川の変更, 海辺の変更, 土地の造成, 休耕田の開発など, 知らぬ間に未発見の生息地をつぶす危険性を抱えている。		
特 記 事 項	大阪府, 三重県, 神奈川県, 埼玉県(VU), 高知県(NT)など, 8都府県で絶滅危惧種に指定されている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	被写体: 坂出市 撮影者: 高木真人	





<b>オオキベリアオゴミムシ</b>		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
<i>Epomis niguricans</i> (オサムシ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦* 県内での発見例が少なく、生息地が局所的である。		
種 の 特 徴	体長19.5～22mmの大型で美しいゴミムシ。緑色の金属光沢を持ち、上翅側縁が黄色に縁どられる。		
分 布	県内:高松市, 坂出市, 仲多度郡琴平町, 三豊市, 観音寺市。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	湖沼等の水際の石の下に生息し、夜間灯火にも飛来する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	平地から低山地の池の端, 河川敷, 田畑周辺の石あるいは朽木の下にみられ、幼虫は小型のカエル(アマガエル等)を捕食する。生息域が各種開発によって破壊されると絶滅の恐れがある。		
特 記 事 項	愛媛県(準絶滅危惧種), 高知県(情報不足)ほか4県で絶滅危惧種に指定されている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	被写体: 観音寺市 撮影者: 高木真人	




\*選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅


<b>コキベリアオゴミムシ</b>		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
<i>Chlaenius circumdatus</i> (オサムシ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦※ 主に湿地に生息する種だが、香川県内の採集例は少ない。開発による生息環境の破壊が危惧される。	 <p>被写体: 綾川町 撮影者: 佐野信雄</p>	
種 の 特 徴	体長12.5～15mm。背面は銅赤～緑色の金属光沢がある。上翅の側縁は黄色く縁取られる。前胸背板は幅より長く、近似種との識別点となる。		
分 布	県内:高松市, 坂出市, 丸亀市。 県外:本州, 四国, 九州, 南西諸島。		
県 内 で の 生 息 状 況	全国的には基本的に湿地や休耕田等で見つかるが、県内では牧場でも記録されている。畑地に一時的に出来た湿地状の水溜まり周辺で、ミズアブ類の幼虫を捕食している多数の個体を県外で観察したことから、本種は移動力が高く、県内では小規模で単発的な水辺環境に分散・発生している可能性が考えられる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	各種開発による湿地環境の消滅が、本種の生息をさらに危機的なものにするおそれがある。また、乾燥した瀬戸内式気候の香川県においては、小規模で単発的な水辺環境が生じるような、水辺環境の多様性を保全していくことも必要かと思われる。		
特 記 事 項	愛媛県:絶滅危惧II類 (VU), 高知県:情報不足 (DD)のほか、2府県で絶滅危惧種に指定されている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 松本 慶一

<b>クビナガキベリアオゴミムシ</b>		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
<i>Chlaenius prostenus</i> (オサムシ科)		環境省カテゴリー	情報不足 (DD)
選 定 理 由	⑦※ 低地の湿地環境に生息する全国的な希少種で、県内では1個体しか見つからない。	 <p>被写体: 高松市 撮影者: 高木真人</p>	
種 の 特 徴	体長11～12.5mm。全体的に光沢の鈍い金緑色～赤銅色で、上翅は第8間室の中央から外側が黄褐色に縁取られる。腹部は褐色で、黒くならない。		
分 布	県内:高松市。 県外:本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	1950年5月13日に、高松市国分寺町新居で採集された1頭のみ。同地では同じ時代にタガメやゲンゴロウも採集されており、それらが生息する良好な池や沼の周辺の湿地に生息していたと推定される。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	低地の湿地や溜池などの止水環境に生息し、特に水辺に草本類が豊富に生えている環境を好む。水辺周辺のやや乾燥した粘土質の崖の土中や隙間で越冬するためか、護岸されていない溜池から限定的に見つかっている。このような条件の揃った環境は護岸工事や開発で激減している。		
特 記 事 項	愛媛県:情報不足 (DD)ほか、8都府県で絶滅危惧種に指定されている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 松本 慶一

<b>オオヒラタトックリゴミムシ</b>		香川県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
<i>Oodes virens</i> (オサムシ科)		環境省カテゴリー	絶滅危惧 I A類 (CR)
選 定 理 由	⑦⑧※ 1960年代ごろから全国的に激減し、県内では2個体しか見つからない。	 <p>被写体: 高松市産 撮影者: 高木真人</p>	
種 の 特 徴	体長15.5～17mm。体は紡錘形で平たく、黒色。上翅は時に金属光沢を帯びる。上翅第8間室はきわめて幅狭く、前部は隆状となる。前脛節外縁には細い条溝がある。		
分 布	県内:高松市。 県外:本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	1951年9月10日に高松市一宮で採集された1頭、及び、1952年8月15日に高松市国分寺町新居で採集された1頭の2例のみ。国分寺町の個体は灯火に飛来している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	基本的に綺麗な滲出水のある湿地に生息するが、そのような環境は県内にはほとんど残っていない。県内での採集例は60年以上確認されておらず、絶滅している可能性がある。		
特 記 事 項	広島県・福岡県(CR+EN)など、10都府県で絶滅危惧種に指定されている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 松本 慶一


※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

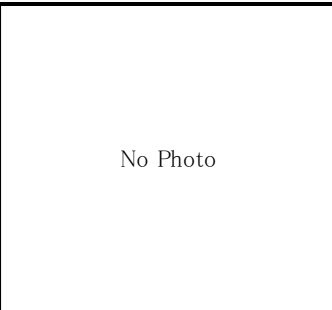
ヤマトックリゴミムシ <i>Lachnocrepis japonica</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦※ 湿地環境に生息する種だが、香川県内における分布は局限される。また、生息地の破壊、消滅も危惧される。		
種 の 特 徴	体長10~12mm。体はやや細長い紡錘形で扁平で、背面はやや光沢のある黒色。触角と肢は褐色。		
分 布	県内: まんのう町, 小豆島町。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	土器川中流域と小豆島町池田の段山にある湿地における記録のみ。小豆島の記録場所は、リゾート地が荒廃して出来た人工的な湿地だが、周辺から農薬の流入がなく、低地の貴重な水環境となっている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	近縁の <i>L. plolixa</i> トックリゴミムシは県内に広く生息し個体数も多いが、本種の採集例は2例のみである。県内の分布は局地的と思われる。各種開発による、良好な河川環境や湿地環境の消滅が、絶滅につながる恐れがある。		
特 記 事 項	東京都: 絶滅危惧II類 (VU), 大阪府: 準絶滅危惧種 (NT)。		被写体: 茨城県 撮影者: 高木真人
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 松本慶一


コアオトキリゴミムシ		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤※ 2009年8月、ピーティングによって採集されている1個体だけで、他県においても、頻繁に目にすることは無いようである。		
種 の 特 徴	6.5-7.5mm。頭胸部は暗赤褐色、前胸背板の上反部と上翅側縁、脚は赤褐色。上翅は緑銅色で光沢がある。アオトキリゴミムシに似るが、前胸背板の形等の差で区別できる。		
分 布	県内: まんのう町。 県外: 本州, 四国, 九州; 台湾。		
県 内 で の 生 息 状 況	県内での生息について、まったくわかっていないが、オサムシ科の甲虫であることから、本県では比較的湿気の多いと思われる阿讃山脈や東讃の山間部の小規模な河川、沢等の周辺で生息している可能性があると考えられる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生態など不明な点が多いが、大規模な伐採、法面の吹き付けなど、広範囲の環境変化は、さらなる乾燥を促進し、本種に限らずできるだけ避けた方が良いと思われる。		
特 記 事 項	千葉県: 準絶滅危惧, 奈良県・高知県: 情報不足。		被写体: まんのう町 撮影者: 佐野信雄
文 献	なし		執筆者: 佐野信雄

インノシマチビアトキリゴミムシ <i>Microlestes innoshimae</i> (オサムシ科)		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤※ 全国的な希少種で、県内では1個体しか見つかっていない。		
種 の 特 徴	体長2.7mm内外。背面が皺皮状、触覚5~11節が黄赤褐色。♂は、中脛節腹面の先端部後半に3つの切り込みがあり、先端部内側は刺状とならず、第6腹板は先端部が深く切れ込む。		
分 布	県内: 高松市。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	1955年6月21日に、高松市国分寺町新居において採集された1頭のみ。この個体は灯火に飛来している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	1955年6月21日に、高松市国分寺町新居で灯火に飛来した1頭のみ。生態は不明だが、他県では果樹園や林の縁に溜まった落ち葉の下のモグラ等の食虫目の作った坑道が多いポイントで見つかっている。チビアトキリゴミムシ属には鳥獣の巣に生息する種がいることから、本種と食虫目が関連している可能性がある。		
特 記 事 項	林縁環境の生物多様性を保全する必要があると思われる。		被写体: 高松市 撮影者: 高木真人
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 松本慶一

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

ミズスマシ <i>Gyrinus japonicus</i> (ミズスマシ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)	
選 定 理 由	⑤⑦⑧* 薄暗いため池等に見られたが、近年は姿を見ることができない。生息地が局地的であることに加え、里山に位置する止水環境に生息するため、人為的な影響により生息環境の悪化が懸念される。			被写体: 小豆島 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	体長6.0~7.5mmの卵形。黒色で金属光沢を持つ。池周辺が樹林等に覆われ、薄暗くなった環境に多くみられる。			
分 布	県内: 小豆島町, 東かがわ市(大内町, 白鳥町), 高松市, 坂出市, 丸亀市, 観音寺市。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。			
県 内 で の 生 息 状 況	白鳥町, 大内町, 高松市香南町, 坂出市, などの記録があり、近年では観音寺市栗井町・丸亀市広島町, 小豆島町神懸通において生息が確認されている。かつては県内に広く分布していたが、急激に姿を消しつつある。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息環境であるやや薄暗い止水環境は点在するが、農地, 人里に近く人為的な影響を受けやすい。農薬や家庭用洗剤等により生息環境の悪化が危惧される。			
特 記 事 項	愛媛県(VU)など, 28都道府県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 宇都宮靖博	

コミズスマシ <i>Gyrinus curtus</i> (ミズスマシ科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)	
		環境省カテゴリ	絶滅危惧 I B 類 (EN)	
選 定 理 由	⑤⑦⑧* 生息地が局地的であることに加え、里山に位置する止水環境に生息するため、人為的な影響により生息環境の悪化が懸念される。			被写体: 撮影者:
種 の 特 徴	体長4.9~5.6mmの卵形。ミズスマシに似ているがやや小ぶり。黒色でやや光沢を持つ。水生植物が豊かな池沼に生息する。			
分 布	県内: 高松市, 坂出市。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。			
県 内 で の 生 息 状 況	1967年に栗林公園における記録が残されている。近年は、坂出市与島町与島の記録があるが、それ以外の情報はなく、島嶼部に生息地が残されている可能性はあるものの、生息状況は危機的な状態にあると考えられる。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息環境であるやや薄暗い止水環境は点在するが、農地, 人里に近く人為的な影響を受けやすい。農薬や家庭用洗剤等により生息環境の悪化が危惧される。			
特 記 事 項	愛媛県(CR+EN)など, 23都道府県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 宇都宮靖博	

ヒメミズスマシ <i>Gyrinus gestroi</i> (ミズスマシ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)	
		環境省カテゴリ	絶滅危惧 I B 類 (EN)	
選 定 理 由	⑤⑦⑧* 生息地が局地的であることに加え、里山に位置する止水環境に生息するため、人為的な影響により生息環境の悪化が懸念される。			被写体: 直島 撮影者: 大生唯統
種 の 特 徴	体長4.1~5.0mm。黒色で光沢がありやや細長い。水生植物が豊かな池沼に生息する。			
分 布	県内: 直島町, 高松市。 県外: 本州, 四国, 九州。			
県 内 で の 生 息 状 況	1967年に栗林公園における記録が残されている。直島における生息情報があるが、それ以外の情報はなく、島嶼部に生息地が残されている可能性はあるものの、生息状況は危機的な状態にあると考えられる。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息環境であるやや薄暗い止水環境は点在するが、農地, 人里に近く人為的な影響を受けやすい。農薬や家庭用洗剤等により生息環境の悪化が危惧される。			
特 記 事 項	愛媛県(CR+EN)など, 25都道府県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 宇都宮靖博	

\*選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

<b>オオミズスマシ</b> <i>Dineutus orientalis</i> (ミズスマシ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)	
		環境省カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	
選 定 理 由	⑤⑦⑧* 里山に位置する止水環境に生息するため、人為的な影響により生息環境の悪化が懸念される。近年、各地で急激に姿を消しつつある種である。			
種 の 特 徴	体長10mm。前胸、上翅の側縁部は黄色に縁取られる。上翅側縁後方には棘状突起を持つ。止水性のため池や水田などに生息する。			
分 布	県内: 土庄町, 東かがわ市, 高松市, 綾川町, 坂出市, 普通寺市, 丸亀市, 三豊市(財田町)。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州, 沖縄		被写体: 東かがわ市	撮影者: 高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	比較的開放的な止水域に生息する。近年、ため池の改修、農業等の影響により各地で急激に減少しているミズスマシである。県内でも生息がほとんど確認できなくなっており、絶滅が危惧される。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息環境である開けた止水環境は各地にあるが、いずれも人里に近く人為的な影響を受けやすい。家庭用洗剤等により生息環境の悪化が危惧される。			
特 記 事 項	愛媛県(VU), 高知県(CR+EN)など、24都府県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 宇都宮靖博	

<b>ムツボシツヤコツブゲンゴロウ</b> <i>Canthyrus politus</i> (コツブゲンゴロウ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)	
選 定 理 由	⑤⑦⑧* 抽水植物の生育する水辺を持つ池沼に生息するが、元々生息場所が局地的であったことに加え、各地においてため池の環境が年々悪化している。			
種 の 特 徴	体長2.4~2.6mm。体型は逆卵型。頭部、前胸背面、上翅は黄色~オレンジ色。上翅には暗褐色部が広がり、6紋を形成する。ただし、斑紋には変異が多い。			
分 布	県内: 小豆島町, 土庄町豊島, 直島町, 東かがわ市, さぬき市, 多度津町, 普通寺市。 県外: 本州, 四国, 九州, 大隅諸島, トカラ列島。		被写体: 多度津町	撮影者: 佐野信雄
県 内 で の 生 息 状 況	小豆島町(吉野・段山), 豊島(家浦浜), 大内町(馬篠・北山), 志度町(志度・平竹), 多度津町(奥白方・西山)において記録されている他、普通寺市と北町, 直島町の記録がある。普通寺市の生息場所は環境が悪化し現在は生息を確認することができない。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息場所である植物の繁茂する浅い水域は、各地で消滅しており、生息場所が極限されている。また、現在、残存している水辺環境も周辺環境の変化により、環境の悪化や消滅の可能性が高い。さらに、水質の悪化、外来種(アメリカザリガニ等)の侵入による捕食も危惧される。			
特 記 事 項	愛媛県(CR+EN), 高知県(NT)など、19府県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 宇都宮靖博	

<b>キボシチビコツブゲンゴロウ</b> <i>Neohydrocoptus bivittis</i> (コツブゲンゴロウ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)	
		環境省カテゴリー	絶滅危惧 I B類 (EN)	
選 定 理 由	⑤⑦⑧* 抽水植物の生育する水辺を持つ池沼に生息するが、元々生息場所が局地的であったことに加え、各地においてため池の環境が年々悪化している。			
種 の 特 徴	体長3.0~3.4mm。植物の繁茂する止水環境に生息する。抽水植物の根際・根の隙間に生息し、開放的な水面では見つかることは稀である。灯火に飛来することが知られている。			
分 布	県内: 坂出市, 普通寺市。 県外: 本州, 四国, 九州。		被写体:	撮影者:
県 内 で の 生 息 状 況	普通寺市と北町, 坂出市府中町の記録があるが、いずれの生息地も環境が変わっており、現在確認することはできない。確実な生息地はなく、危機的な状況にあると考えられる。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息場所である植物の繁茂する浅い水域は、各地で消滅しており、生息場所が極限されている。また、現在、残存している水辺環境も周辺環境の変化により、環境の悪化や消滅の可能性が高い。さらに、水質の悪化、外来種(アメリカザリガニ等)の侵入による捕食も危惧される。			
特 記 事 項	広島県・福岡県(CR+EN), 京都府・奈良県(VU)など、10府県が絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 宇都宮靖博	

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

マルチビゲンゴロウ <i>Leiodytes frontalis</i> (ゲンゴロウ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑦⑧※ 休耕田、湿地、池尻等の浅い水域に生息するが、ため池の改修、休耕田・湿地の消失により個体数が減少傾向にある。		
種 の 特 徴	体長1.5～2.0mmの小型のゲンゴロウ。体型は短い卵形で背腹に強く膨隆する。ため池、休耕田等の有機質の多い浅い水域に生息する。生息地では多数個体が確認できる。		
分 布	県内：小豆島町、土庄町、東かがわ市、三木町、高松市、綾川町、善通寺市、丸亀市。 県外：本州、四国、九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	土庄町皇踏山、池田町段山、引田町、大内町土居、牟礼町、三木町、綾川町千疋、丸亀市(手島、本島)、善通寺市大麻山、財田町等の記録がある他、長柄ダム周辺、もみの木パーク付近の記録がある。生息地での個体数は比較的多いものの、生息環境は小規模な水域であり、少しの環境の変化により生息地が消失する可能性が高い。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息場所である浅い止水環境は、各地で消滅しており、生息場所が極限されている。また、現在、残存している水辺環境も周辺環境の変化により、環境の悪化や消滅の可能性が高い。また、生息地が小規模な水域であることから保全も困難である。		
特 記 事 項	愛媛県(NT)、高知県(DD)など、16府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆：宇都宮靖博



被写体：土庄町 撮影者：森 正人

ヒメシマチビゲンゴロウ <i>Nebrioporus nipponicus</i> (ゲンゴロウ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤⑦※ 清冽な水域の河川で、湧水のある砂礫底に生息することから、生息場所は局所的である。また、護岸工事などにより生息環境は年々悪化傾向にある。		
種 の 特 徴	体長4.4～4.9mm。県内では大きい河川の水質の良好な緩やかな流れに生息する。特に伏流する河川の砂礫底の水際の石礫間にみられる。		
分 布	県内：丸亀市。 県外：本州、四国。		
県 内 で の 生 息 状 況	1996年に綾歌町(岡田西・滝ノ鼻)、2001年に綾歌町(岡田西・垂水橋)において記録がある。いずれも土器川における確認であり、その他の水系での確認がなされていない。土器川の生息地は伏流水により水質が清冽に保たれているが、湧水等により水量が減少すると生息地の消滅が危惧される。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息場所である湧水のある河川環境は護岸工事等により消滅しており、生息場所が極限されている。現在、残存している環境も河川改修等により消滅の可能性が高い。		
特 記 事 項	愛媛県(CR+EN)など、6県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆：宇都宮靖博



被写体：丸亀市 撮影者：宇都宮靖博

ゴマダラチビゲンゴロウ <i>Neonectes natrix</i> (ゲンゴロウ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤⑦※ 清冽な水域の河川で、湧水のある砂礫底に生息することから、生息場所は局所的である。また、護岸工事などにより生息環境は年々悪化傾向にある。		
種 の 特 徴	体長2.9～3.7mm。大きい河川の水質の良好な緩やかな流れに生息する。特に伏流する河川の水際の石礫間によくみられる。開けた環境を好み、伏流水が湧出した場所では多くみられる。		
分 布	県内：丸亀市、まんのう町。 県外：北海道、本州、四国。		
県 内 で の 生 息 状 況	飯山町(東小川・五反地)、綾歌町(岡田西・滝ノ鼻)、綾歌町(岡田西・垂水橋)、丸亀市垂水町の記録がある。土器川の伏流水が見られる河川において生息が確認されている。伏流水により水質が清冽に保たれている環境に生息することから、湧水等で水量の減少が生息地の消滅を引き起こす可能性がある。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息場所である湧水のある河川環境は護岸工事等により消滅しており、生息場所が極限されている。現在、残存している環境も河川改修等により消滅の可能性が高い。		
特 記 事 項	兵庫県(DD)など、4県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆：宇都宮靖博



被写体：土器川 撮影者：宇都宮靖博

※選 定 理 由：①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

コマルケシゲンゴロウ <i>Hydrovatus acuminatus</i> (ゲンゴロウ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑤⑦*	ヨシ等の繁茂した池沼に生息する。局部的、低層湿地。全国的に生息地が少なく、生息地は植生遷移や周辺の乾燥化によって、消失する可能性が高い。	
種 の 特 徴	体長2.0～2.5mm。抽水植物が繁茂し、有機物の堆積が多い止水環境にみられる。県内(小豆島)では、低層湿地で一見、水がなさそうな場所で、踏み込むと水が出てくるような環境でみられた。		
分 布	県内:東かがわ市, まんのう町, 琴平町, 三豊市, 小豆島町。 県外:本州, 四国, 九州, 奄美諸島, 沖縄, 八重山等。		
県 内 で の 生 息 状 況	1997年に琴平町, 2001年に引田町(吉田), 三木町(鹿庭), 満濃町(炭所東・金剛院), 豊中町(下高野・帰来)の記録がある。近年は小豆島において確認されているが、分布は極めて局地的である。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息場所である植物の繁茂する浅い止水域は、各地で消滅しており、生息場所が極限されている。また、現在、残存している水辺環境も周辺環境の変化により、環境の悪化や消滅の可能性が高い。		
特 記 事 項	愛媛県(NT)など、12府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 宇都宮靖博	



被写体: 小豆島町 撮影者: 宇都宮靖博

オオマルケシゲンゴロウ <i>Hydrovatus bonvouloiri</i> (ゲンゴロウ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑤⑦*	ヨシ等の繁茂した池沼に生息する。全国的に生息地が少なく、生息地は植生遷移や周辺の乾燥化によって、消失する可能性が高い。	
種 の 特 徴	体長3.0～3.8mm。体型は卵形でやや細長い。抽水植物が繁茂し、有機物の堆積が多い止水環境にみられる。県内(小豆島)では、低層湿地でみられた。		
分 布	県内:小豆島町, 直島町。 県外:本州, 四国, 九州, トカラ列島, 沖縄, 八重山。		
県 内 で の 生 息 状 況	小豆島町段山, 直島町風戸, 直島宮ノ浦における記録がある。小豆島町, 直島町の2箇所においては生息状況は良好と考えられる。しかしながら、それ以外の記録はなく、生息地は極めて局地的である。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息場所である植物の繁茂する浅い止水域は、各地で消滅しており、生息場所が極限されている。また、現在、残存している水辺環境も周辺環境の変化により、環境の悪化や消滅の可能性が高い。		
特 記 事 項	熊本県(CR+EN), 佐賀県・宮崎県(VU), 高知県(NT)など、8県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 宇都宮靖博	



被写体: 小豆島町 撮影者: 森 正人

ヤギマルケシゲンゴロウ <i>Hydrovatus yagii</i> (ゲンゴロウ科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑤⑦*	全国的に生息地が少なく、四国では香川県においてのみ確認されている。また、生息地は植生遷移や周辺の乾燥化によって、消失する可能性が高い。	
種 の 特 徴	体長1.7～1.8mm。抽水植物が繁茂し、有機物の堆積が多い止水環境にみられる。県内(小豆島)では、低層湿地で一見、水がなさそうな場所で、踏み込むと水が出てくるような環境でみられた。		
分 布	県内:小豆島町。 県外:本州, 奄美, 八重山。		
県 内 で の 生 息 状 況	小豆島町段山のため池において記録されており、県内における唯一の生息地である。生息地の現況は良好と考えられるが、周辺部では太陽光発電等の設置が実施されており、環境の変化が危惧される。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息場所である植物の繁茂する浅い止水域は、各地で消滅しており、生息場所が極限されている。また、現在、残存している水辺環境も周辺環境の変化により、環境の悪化や消滅の可能性が高い。		
特 記 事 項	兵庫県・広島県・福岡県(CR+EN)など、6県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	なし	執筆: 宇都宮靖博	



被写体: 小豆島町 撮影者: 森 正人

\*選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

マルケシゲンゴロウ <i>Hydrovatus subtilis</i> (ゲンゴロウ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑤⑦* ヨシ等の繁茂した池沼に生息する。全国的に生息地が少なく、生息地は植生遷移や周辺の乾燥化によって、消失する可能性が高い。		
種 の 特 徴	体長2.4~2.7mm。体型は幅広の卵型。池沼の浅瀬、湿地、放棄水田などの植物が多い水域に生息する。		
分 布	県内:坂出市, 小豆島町。 県外:本州, 四国, 九州, トカラ列島, 奄美諸島, 沖縄, 八重山。		
県 内 で の 生 息 状 況	坂出市聖通寺山・角山付近, 池田町段山, 小豆島町段山の記録があるが、近年は小豆島町段山以外での確実な生息記録がない。直島町においてマルケシゲンゴロウの仲間が確認されているが種名が不明である。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息場所である植物の繁茂する浅い止水域は、各地で消滅しており、生息場所が極限されている。また、現在、残存している水辺環境も周辺環境の変化により、環境の悪化や消滅の可能性が高い。		
特 記 事 項	愛媛県・熊本県(CR+EN), 福岡県・宮崎県(VU)など, 20都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 宇都宮靖博



被写体: 高松市 撮影者: 高木真人

キボシケシゲンゴロウ <i>Allopathria flavomaculatus</i> (ゲンゴロウ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	情報不足 (DD)
選 定 理 由	⑤⑦⑧* 生息場所が局地的であることに加え、近年の記録が見られない。河川改修等により本種の生息場所である水辺の植生が減少し、生息環境の悪化が懸念される。		
種 の 特 徴	体長2.5mm内外。水質が良好な小河川の中流域の水際の植物根際、淀みの石の下、あるいは堆積物の間に生息する。		
分 布	県内:東かがわ市, 丸亀市。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬, 大隅。		
県 内 で の 生 息 状 況	白鳥町与田山, 丸亀市川西町土器川の記録があるものの、その後の記録が見られない。分布は極めて局地的である。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	水質の清冽な流れに生息する種であることから、水質の悪化、河川改修による生息環境の消失が懸念される。		
特 記 事 項	熊本県(CR+EN), 愛媛県(NT), 岡山県(DD)など, 15県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 宇都宮靖博



被写体: 徳島県 撮影者: 宇都宮靖博

コクロマメゲンゴロウ <i>Platambus insolitus</i> (ゲンゴロウ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤⑦* 生息地が局地的である。また、本種の生息環境は細流であることから、気象状況により環境が激変する場所であり、生息基盤が極めて脆弱である。		
種 の 特 徴	体長6.0mm内外。山間、山際の細流の落葉等が堆積する場所に生息する。樹林等に覆われ比較的薄暗くなった環境で多くみられる。		
分 布	県内:東かがわ市, さぬき市。 県外:本州, 四国, 九州, トカラ列島。		
県 内 で の 生 息 状 況	さぬき市前山(太郎兵衛), さぬき市大川(大川ダム)の細流において生息が確認されている他、五名ダムの環境調査により確認された。生息地での個体数は少ないが、確認できた場所は小規模な流れや細流であり、極めて局所的である。改変、湧水等により生息地の消失が懸念される。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息環境である山間部の小河川や、湧水起源の細流は環境の変化により消滅する可能性が高い。特に湧水起源の細流は開発により環境が消滅する可能性が高い。		
特 記 事 項	熊本県(CR+EN), 大分県(NT)など, 3県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 宇都宮靖博





被写体: 三木町 撮影者: 宇都宮靖博

\*選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅



コガタノゲンゴロウ <i>Cybister tripunctatus orientalis</i> (ゲンゴロウ科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑤⑦* かつては広域に生息していたと考えられるが急激に姿を消し、県内では60年近く記録が途絶えていたが、近年、回復傾向が見られる。		 被写体: 東かがわ市 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	体長24～29mm。大型のゲンゴロウ。黄色の縁取りのある緑がかった黒色の鞘翅で、腹面は広く黒褐色。近年、確認例が増えており、県内でも増加する可能性が高い。		
分 布	県内: 東かがわ市, 高松市(一宮町, 国分寺町), 坂出市。 県外: 本州, 四国, 九州, 南西諸島, 小笠原。		
県 内 で の 生 息 状 況	坂出市王越で2017年に死骸が確認され、2019年に東かがわ市五名、白鳥において生体が確認されている。10数年前から徐々に個体数を増加させており、今後、県内でも広く確認できる可能性がある。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息場所である止水環境は、農地や人里近くに位置することから人為的影響を受けやすく、農業や家庭用洗剤等の影響により環境の悪化が危惧される。		
特 記 事 項	徳島県・愛媛県(CR+EN), 高知県(NT)など、35府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 宇都宮靖博

クロゲンゴロウ <i>Cybister brevis</i> (ゲンゴロウ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	かつては全国に広く分布していたが、農業等の影響により姿を消しつつある。四国では近年記録が極端に少なくなっており、県内においても10年以上記録が見られない。		 被写体: 東かがわ市 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	体長20～25mm。鞘翅が暗緑色の光沢を持つ黒色の大型のゲンゴロウ。水生植物の繁茂した止水環境に生息する。		
分 布	県内: 東かがわ市。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	東かがわ市五名弘川の記録があるが、近年の記録がない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息環境であるヒルムシロ、ジュンサイなどの挺水植物が豊富に生育する水域の減少・消滅により生息場所が壊滅的な状況となっている。また、外来種の侵入により、生息環境は極めて悪化している。		
特 記 事 項	福岡県・熊本県(CR+EN)、高知県(VU)など、31都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 宇都宮靖博

ゲンゴロウ <i>Cybister japonicus</i> (ゲンゴロウ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑤⑧* かつては全国に広く分布していたが、農業等の影響により姿を消した。県内においても同様で、1993年の記録を最後に25年以上記録が途絶えている。		 被写体: 国分寺町 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	体長34～42mm。国内最大のゲンゴロウ。黄色の縁取りのある黒色の鞘翅で、腹面は全体的に黄褐色。ヒルムシロ等の水生植物が繁茂する水域に生息する。小魚、カエル等を捕食する。		
分 布	県内: 東かがわ市。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	1993年5月に白鳥町五名において2♂が確認されたのを最後に記録が途絶えている。生息状況は極めて危機的な状態と考えられる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息環境であるヒルムシロ、ジュンサイなどの挺水植物が豊富に生育する水域の減少・消滅により生息場所が壊滅的な状況となっている。また、外来種の侵入により、生息環境は極めて悪化している。		
特 記 事 項	愛媛県・高知県・徳島県(CR+EN)など、45都道府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 宇都宮靖博

\*選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

シマゲンゴロウ <i>Hydaticus bowringii</i> (ゲンゴロウ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑤⑦⑧※ 本来、小規模な浅いため池、休耕田等に生息しているが、生息地の消滅、生息環境の悪化に伴い各地で姿を消しつつある。		
種 の 特 徴	体長12.5～14mmの中型のゲンゴロウ。黒色の地色で、鞘翅中央会合線の前縁に一对の黄色い点と、側方に2本ずつ黄色の縦筋を持つ。水田・池尻等の浅い水域に生息する。		
分 布	県内: 東かがわ市、綾川町、善通寺市。 県外: 北海道、本州、四国、九州、トカラ列島等		
県 内 で の 生 息 状 況	綾川町高山、羽床上、白鳥町五名、東かがわ市、善通寺市の記録があるが、近年、確認情報が極めて少なくなっており、急激に姿を消しつつある。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息場所である植物の繁茂する浅い止水域、休耕田は各地で消滅しており、生息場所が極限されている。また、現在、残存している水辺環境も周辺環境の変化により、環境の悪化や消滅の可能性が高い。		
特 記 事 項	福岡県(CR+EN)、愛媛県・熊本県(VU)など、27都道府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 宇都宮靖博	



被写体: 東かがわ市 | 撮影者: 高木真人

チュウブホソガムシ <i>Hydrochus chubu</i> (ホソガムシ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑤⑦※ 生息地が局地的であることに加え、生息地であるため池の護岸改修等により水際の植生が消失し、生息環境の悪化が懸念される。		
種 の 特 徴	体長2.5mm程度。体は細長く、上翅間室の隆起は目立ち、鈍い金緑色の光沢を持つ。		
分 布	県内: 東かがわ市、高松市、綾川町、坂出市。 県外: 日本固有種。秋田、福島、石川、島根、山口、福岡、熊本の各県に局所的に分布。かつては三重県や大阪府にも生息していた。		
県 内 で の 生 息 状 況	高松市、坂出市、東かがわ市、綾川町の記録がある。公測森林公園のため池では多数個体が確認されており、良好な生息場所が残されているものの、その他の生息場所での個体数は決して多くなく、また、生息範囲も狭い。環境の変化により生息地が消失する可能性が高い。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息場所である植物の繁茂する浅い水域は、各地で消滅しており、生息場所が極限されている。また、現在、残存している水辺環境は人里に近く、水質の悪化、外来種(アメリカザリガニ等)の侵入による捕食も危惧される。		
特 記 事 項	三重県・広島県・熊本県(CR+EN)、福岡県(VU)など、11府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 宇都宮靖博	



被写体: 高松市 | 撮影者: 高木真人

ガムシ <i>Hydrophilus acuminatus</i> (ガムシ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑤⑦⑧※ 生息地が局地的であることに加え、里山に位置する止水環境に生息するため、農業等の影響により、生息環境の悪化が懸念される。		
種 の 特 徴	体長30mm程度の国内最大のガムシ。体色は黒色～黒褐色。挺水植物が繁茂するため池、水田等に生息する。灯火にも飛来する。		
分 布	県内: 東かがわ市、高松市(塩江町)、琴平町、観音寺市(大野原町)。 県外: 北海道、本州、四国、九州、奄美大島、沖縄島、八重山等。		
県 内 で の 生 息 状 況	環境庁1979(塩江町安原、塩江町大滝山、琴平町(琴平山中の池)、東かがわ市五名弘川(柳間池)、東かがわ市五名、東かがわ市入野山、大野原町五郷有木において記録されているが、確認例は少なく、生息状況は悪化している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種の生息場所である植物の繁茂する浅い水域は、各地で消滅しており、生息場所が極限されている。また、現在、残存している水辺環境も周辺環境の変化により、環境の悪化や消滅の可能性が高い。さらに、水質の悪化、外来種(アメリカザリガニ等)の侵入による捕食も危惧される。		
特 記 事 項	福岡県(CR+EN)、愛媛県(VU)など、26都道府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 宇都宮靖博	



被写体: 東かがわ市 | 撮影者: 高木真人

※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

ヤマトモンシデムシ <i>Nicrophorus japonicus</i> (シデムシ科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	③⑤⑧* 1973年の採集以降、未発見。全国的にも減少している。		
種 の 特 徴	体長14～25mm。触角先端3節は橙色、体は黒色で上翅には2対の橙色の紋があり、後脛節は湾曲する。		
分 布	県内: 琴平町。 県外: 本州、四国、九州; 朝鮮半島, 中国, モンゴル, 台湾。		
県 内 で の 生 息 状 況	琴平町の1例以外報告がなく、香川県での生息状況は不明。徳島県での採集記録、また、四国以外の状況、埼玉県での採集経験等を考えても、低地の虫であることくらいしかわからない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	低地のいわゆる里山と言われる環境の悪化が、絶滅の危険性の要因となるとは思えない。都会の都市部ならそういうこともあるかもしれないが、本県の場合、今の環境で個体数は減っても絶滅まで影響を与えないとは思えない。原因は他の要因と思われる。		
特 記 事 項	千葉県: 絶滅危惧 I B 類。大阪府他3県: 絶滅危惧 II 類。岡山県他5県: 準絶滅危惧。3県: 情報不足。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		被写体: 琴平町   撮影者: 高木真人 執筆: 佐野信雄



オオツノハネカクシ <i>Bledius salsus</i> (ハネカクシ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	情報不足 (DD)
選 定 理 由	①⑤⑦* 本県の宇多津町を模式産地として1963年に新種記載された種である。塩田跡地が開発により潰されてしまうと絶滅する恐れがある。		
種 の 特 徴	体長6mm程度。♂は頭部前方に1対、前胸背板の前縁中央に1本の突起をそなえる。塩田の粘土板に坑道を掘る。灯火に飛来する。		
分 布	県内: 坂出市。 県外: 本州、四国、九州の主に瀬戸内海沿岸。		
県 内 で の 生 息 状 況	現在は、木沢塩田跡地が唯一の生息場所となっている。かつての塩田は、現在、埋立地となっているが、一部は当時のままの環境が残されており、現在も生息している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	特殊な環境に生息する種で、海辺や塩田跡地のような湿地が改変されると、絶滅するおそれがある。		
特 記 事 項	東京都、愛知県、島根県: 絶滅危惧 II 類 (VU) のほか、4県で絶滅危惧種に指定されている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		被写体: 坂出市   撮影者: 高木真人 執筆: 三木武司



ダイセンサンオオコバネナガハネカクシ <i>Lathrobium daisensanum</i> (ハネカクシ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	①③④⑤ * 香川県の大川山を模式産地とし、1998年に新種記載された種である。		
種 の 特 徴	体長9.2～10.4mm。眼と後翅が退化している。コンピラオオコバネナガハネカクシよりやや小型で、色彩はより明るい赤褐色をしている。♂交尾器の形状で種が分類される		
分 布	県内: まんのう町		
県 内 で の 生 息 状 況	山地の落葉広葉樹林とアカマツの混交林域の湿った場所から尾根沿いの乾燥した場所に至るまで幅広い環境の落葉下や地下浅層から見つかる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	特定の狭い範囲からしか見出せず、個体数も少ない。生息地周辺の林道の舗装工事が行われると、絶滅する可能性がある。		
特 記 事 項	香川県固有種		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		被写体: まんのう町   撮影者: 高木真人 執筆: 佐藤正昭



※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

<b>コンピラオオコバネハネカクシ</b>		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
<i>Lathrobium konpira</i> (ハネカクシ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	①③④⑤ ⑦* 香川県の象頭山を模式産地とし、1991年に新種記載された種である。		
種 の 特 徴	体長10.8～12.4mm。ダイセンサンオオコバネナガハネカクシよりやや大型で、眼と後翅が退化している。体全体は赤味の強い褐色をしている。		
分 布	県内:琴平町。		
県 内 で の 生 息 状 況	象頭山の地下浅層や潤沢の石下から見出され、レッド種のコンピラメラチビゴミムシ <i>Stygiotrechus satoui konpira</i> やサウトヌレチゴミムシ <i>Apatrobus satoui</i> と同所的に生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	現時点では金毘羅宮の社叢として生息環境は保全されているが、極めて生息場所が限定されているため、土石流など大規模な自然災害が生じた場合、絶滅の恐れが高まる。		
特 記 事 項	香川県固有種。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 佐藤 正昭	



被写体: 琴平町 撮影者: 高木真人

<b>ムネアカセンチコガネ</b>		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
<i>Bolbocerosoma nigroplagiatum</i> (センチコガネ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑦* 1957年大滝山, 1993年象頭山, 2005年岩清尾山, 2015年高松市鬼無町で採集されたが、追加個体が採集されたのは象頭山, 岩清尾山のみ。		
種 の 特 徴	体長10～15mmの橙色で、前胸背板の中央、上翅の後方の外側に黒紋がある。♂の前頭中央には角状の小突起、前胸背板に顕著な陥凹と突起があり、♀は前頭、前胸背に横隆起がある。		
分 布	県内:琴平町, 高松市。 県外:北海道, 本州, 伊豆諸島, 四国, 九州, 奄岐, 朝鮮。		
県 内 で の 生 息 状 況	公園化された所や尾根, 畑など、ややオープンな環境でも採集されているが、本県では大滝山尾根, 象頭山と原生林で採集され、本来の生息状況を示していると思われる。本種はアーバスキュラー菌根菌を食することが報告されているが、本県では未確認。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	オープンな環境に適しているとすれば、森林開発は好条件を作り出すことになる。かつて全国でゴルフ場が造られ問題になったことがあったが、オープンな環境は本種を発見しやすくなるだけで、個体数を増やしてはいないと思われる。		
特 記 事 項	大分県, 大阪府, 長崎県:絶滅危惧II類。和歌山県, 神奈川県, 千葉県:準絶滅危惧。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 佐野雄雄	



被写体: 高松市 撮影者: 高木真人

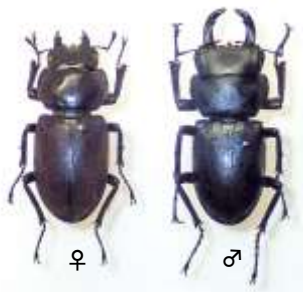
<b>マダラクワガタ</b>		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
<i>Aesalus asiaticus asiaticus</i> (クワガタムシ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑥* 讃岐山脈の標高が高く湿潤な落葉広葉樹林に生息しているが、生息域は限られており、森林荒廃・乾燥等により生息数も減少している。		
種 の 特 徴	体長は5～7mmの国内最小種。体色は褐色、体高が高く体形は卵型で、背面には黄色い鱗片状の毛がある。♂♀とも同様な形態であり、一見するとクワガタムシとは思えない。		
分 布	県内:讃岐山脈の高標高地。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	湿潤なブナ林等を好む山地性の種で、県内では讃岐山脈の高標高地に生息している。本種の♀は褐色不朽(赤腐れ)材に産卵するが、褐色不朽材は白色不朽材と比べて元々少ないうえに、林内の荒廃・乾燥等により良質な産卵材が減少しており、生息地・生息数ともに減少している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	森林開発, スギ・ヒノキの植林等の人工造林, 森林乾燥等の自然遷移により生息環境の荒廃と減少が顕著である。		
特 記 事 項	長崎県:絶滅危惧II類, 埼玉県・兵庫県:準絶滅危惧など計9府県で絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 安森盟文	




被写体: 高松市 撮影者: 安森盟文


\*選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅


<b>オオクワガタ</b> <i>Dorcus hopei binodulosus</i> (クワガタムシ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)	
選 定 理 由	⑥*	生息地の荒廃及び乱獲等により生息数が減少しているとともに、ブームの終焉に伴い放虫された飼育個体との交雑など野生純血統の存続が懸念される。		被写体: 中讃地区 撮影者: 安森盟文
種 の 特 徴	体長は30~75mmの大型種。体色は♂♀ともに光沢のある黒色。♂は太くて緩やかな弧状態の大アゴを有する。小型の♂及び♀の前翅は点刻状の明瞭な縦条がある。			
分 布	県内: 県内全域の平野部の山麓, 低山帯。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。			
県 内 で の 生 息 状 況	かつては県内全域の里山・雑木林等に生息していたと考えられるが、採集記録は極めて少数であった。開発による生息林の消滅に加え、1990年代頃のオオクワガタブームによる過剰採集、特に材割り採集の横行で現存生息地も荒廃している。ブーム以降は採集記録も増加しているが、純血野生個体との確認には至っていない。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	里山等の管理放棄, 里山雑木林の竹林化や乾燥等の自然遷移により生息環境の荒廃と減少が顕著であるとともに、マニアによる乱獲による個体数の減少, 放虫された飼育個体との交雑による純血種の存続危機。			
特 記 事 項	愛媛県(CR+EN), 徳島県(NT)など, 40都道府県で絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 安森盟文	


<b>ヒメオオクワガタ</b> <i>Dorcus montivagus montivagus</i> (クワガタムシ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	
		環境省カテゴリ	—	
選 定 理 由	⑤*	大滝山山頂のブナ帯の極めて限られた範囲にのみ生息していると思われるが、林内荒廃・乾燥により個体群を維持することも困難な状態にあると思われる。		被写体: 大滝山 撮影者: 安森盟文
種 の 特 徴	体長30~60mmの大型種。♂♀ともにやや光沢を欠いた黒色で、他種と比較して脚が長く、特に符節は著しく長い。♂の大アゴは短くて強く湾曲し、♀の上翅は密な点刻を有する。			
分 布	県内: 大滝山のブナ帯。 県外: 北海道, 本州, 四国。			
県 内 で の 生 息 状 況	2019年末時点で大滝山における♀♂各1頭ずつの記録のみで詳細は不明であるが、同所のブナ帯に極めて少数の個体群が生息していると思われる。林内の乾燥・荒廃により幼虫の生育に必要な良好な朽木が減少しており、個体数の増加は望めない状況にあると思われる。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	森林開発, スギ・ヒノキの植林等の人工造林, 森林乾燥等の自然遷移により生息環境の荒廃と減少が顕著である。			
特 記 事 項	京都府・大阪府: 絶滅危惧 I 類, 和歌山県: 絶滅危惧 II 類など, 13府県で絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 安森盟文	

<b>オニクワガタ</b> <i>Prismognathus angularis angularis</i> (クワガタムシ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)	
		環境省カテゴリ	—	
選 定 理 由	⑤⑧*	県内では大滝山山頂付のブナ帯の極めて限られた狭い区域に生息しているのみであり、森林荒廃・乾燥等により生息数は激減している。		被写体: 大滝山 撮影者: 安森盟文
種 の 特 徴	体長は15~25mmの中小型種。♂は僅かに褐色を帯びた黒色で、大アゴは太短く直線的で上向きに湾曲する。♀は強い光沢を持つ黒色で、大アゴは短い。			
分 布	県内: 大滝山のブナ帯。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州北部。			
県 内 で の 生 息 状 況	湿潤なブナ林を好む種で、県内では大滝山のブナ帯のみに生息しているが、同地は近県の同種生息地からは隔離されており貴重な生息地である。本種が依存するブナの後継稚樹は皆無に近く、幼虫の生育に必要な高湿度かつ軟質な朽木も減少しており、生息数は深刻な減少状態にある。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	森林開発, スギ・ヒノキの植林等の人工造林, 森林乾燥等の自然遷移により生息環境の荒廃と減少が顕著である。			
特 記 事 項	京都府・長崎県: 絶滅危惧 II 類, 大阪府・高知県で準絶滅危惧など, 9府県で絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 安森盟文	

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④全国固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

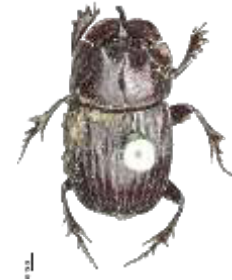
キンキコリクワガタ <i>Platycerus takakuwai akitai</i> (クワガタムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑧* 大滝山と竜王山の標高が高く湿潤な落葉広葉樹林に生息しているが、生息域は極めて限定的で、森林荒廃・乾燥等により生息数も減少している。		 被写体: 大滝山 撮影者: 佐野信雄
種 の 特 徴	体長8~12mmの小型種。♂は青緑色~緑銅色で光沢があり、♀は緑銅色から銅色で鈍い光沢がある。♂でも小型の大アゴであり体色等からクワガタムシとは思えない。		
分 布	県内: 大滝山及び竜王山の高標高の落葉樹林帯。 県外: 本州(中部及び近畿)、四国(香川県、徳島県、愛媛県)。		
県 内 で の 生 息 状 況	湿潤なブナ・ミズナラ林を好む種で、県内では大滝山及び竜王山の中腹以上の落葉広葉樹林に生息しているが、いずれの生息地も、もともと個体数が多い地域ではない。林内の荒廃・乾燥のため、幼虫の生育に必要な良質な朽木が減少しており、生息数は減少状態にある。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	森林開発、スギ・ヒノキの植林等の人工造林、森林乾燥等の自然遷移により生息環境の荒廃と減少が顕著である。		
特 記 事 項	分類の見直しにより、亜種キンキコリクワガタとされ、学名も変更された。7府県で絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 安森盟文

オオフタホシマグソコガネ <i>Aphodius elegans</i> (コガネムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	情報不足 (DD)
選 定 理 由	⑤* 野外で採集されることはほとんどなく、人為的な環境である牧場等において多数の個体が生息しているが、牧場が閉鎖されるとほぼ絶滅となる。		 被写体: まんのう町 撮影者: 佐野信雄
種 の 特 徴	体長10~13mm。頭部、胸部、腹部は黒色。上翅は黄色で、大きな1対の黒紋があり、国内で最も大きく美しいマグソコガネ。		
分 布	県内: 普通寺市、琴平町、まんのう町、綾川町、小豆島。 県外: 北海道、本州、四国、九州、佐渡、伊豆諸島、老岐、対馬、五島列島、吐噶喇列島、奄美大島、朝鮮半島、中国。		
県 内 で の 生 息 状 況	現在、まんのう町、綾川町、小豆島においては個体数も少なくないと思われるが、普通寺市の場合は、四国農試の頃のことなので現在の状況はよくわからない。琴平町では、すでに絶滅していると思われる。さぬき市に未調査の牧場がある。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	綾川町の場合は、教育の一環として牧場が存続しているが、まんのう町や小豆島の場合には、採算が取れないとか後継ぎがいけないと、牧場を閉鎖することになり、個体群は消滅することになる。小豆島では、生息する二ホンジカの糞でかろうじて生息できるかもしれない。		
特 記 事 項	三重県、千葉県: 絶滅危惧 I 類。大阪府、群馬県: 絶滅危惧 I 類。広島県、神奈川県: 準絶滅危惧。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 佐野信雄

クチキマグソコガネ <i>Aphodius hibernalis</i> (コガネムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	③⑤⑦* 2012年に高松市内で、2013年に屋島で採集されている。これら以外、四国からの記録はない。		 被写体: 高松市 撮影者: 佐野信雄
種 の 特 徴	体長9mm前後。頭部前縁は湾入し、両側に棘状突起が1対ある。前胸背板は横長で後方に向け狭まる。上翅には肩歯がある。♂の端棘の先端は内側に曲がる。		
分 布	県内: 高松市。 県外: 北海道、本州、九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	現在、最初の高松市内の採集地においても、屋島においても採集されていないと思われる。2016年に3♂3♀、その後、1頭採集されているが、本種採集のトラップが通用しないのが理由で、生息状況等がよくわかっていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	現在採集されていないが、発見後採りつくして絶滅したわけではない。採集方法の問題で生息状況等がよくわかっていないので、絶滅危険性の要因等も不明だが、森林開発や人工造林等は関係していると思われる。		
特 記 事 項	奈良県: 準絶滅危惧。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 佐野信雄

※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

<b>ゴホンダイコクコガネ</b> <i>Copris acutidens</i> (コガネムシ科)		香川県カテゴリ	絶滅 (EX)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤⑨*	1955年採集の標本が残っているだけで、1988年より寒霞渓等を中心に馬、サル、シカ糞を調査したが、今日まで全く得られていない。	
種 の 特 徴	体長10～15mm、♂の頭部には、細長く湾曲した角があり、前胸背板にも4本の長く鋭い角状突起があるが、小型個体では突起は短く鈍くなる。♀の頭部、前胸背板の突起は小さい。		
分 布	県内:小豆島。 県外:北海道、本州、四国、九州、佐渡、淡路島、五島。		
県 内 で の 生 息 状 況	生息の痕跡がまったく見つからない。本当に生息していたのだろうか?と考えたこともあったが、唯一の証拠となる標本が大阪に残っていることがわかった。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	二ホンザル、二ホンジカも多く、現在観光用の馬はいなくなったが、1990年代の初め頃は馬糞はあった。馬がいなくなると、絶滅するほどの餌不足になったことはない。姿を消してしまう理由はわからないが、すでに絶滅していると思われる。		
特 記 事 項	山口県:絶滅危惧Ⅱ類。広島県他3県:準絶滅危惧。愛媛県:情報不足。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 佐野信雄	



被写体: 小豆島 撮影者: 初宿成彦

<b>マルエンマコガネ</b> <i>Onthophagus viduus</i> (コガネムシ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	③⑤⑧*	1959年大滝山の標本が残っている。1996年の引田、観音寺からの報告のみ。近年散歩時にイヌ糞を持ち帰るようになったので、餌資源がなくなった。	
種 の 特 徴	体長7mm前後の黒色。色、大きさなどよく似た糞虫は多く、一見コブマルエンマコガネの♀個体に似ているが、前胸背の点刻、上翅のツヤ、点刻、毛の状態等で区別できる。		
分 布	県内:東かがわ市、高松市、観音寺市。 県外:全国で生息しているが、沖縄県以外では少ない。		
県 内 で の 生 息 状 況	生息地及びその近隣すべてを調査したわけではないが、最近餌となるイヌ糞がほとんど見つからない。まれに牧場等でも確認されることがあるので、河川以外の所で確認される可能性はある。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川の下流域は人口密度が高く、それに伴い番犬用の飼い犬も多いが、エチケットとしてイヌ糞を持ち帰るので、それを餌にしている虫の激減・消滅が起きている。最近、上記の所でまったく見かけない。河川周辺での生息は望めなくなるかもしれない。		
特 記 事 項	栃木県・岐阜県・三重県:絶滅危惧Ⅰ類、広島県・大阪府・奈良県・群馬県:絶滅危惧Ⅱ類。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 佐野信雄	




被写体: 東かがわ市 撮影者: 佐野信雄


<b>アシナガコガネ</b> <i>Hoplia communis</i> (コガネムシ科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤*	1958年、青峯での採集例があるが、その後まったく採集されていない。本県における分布等はよくわかっていない。	
種 の 特 徴	体長6～10mm。茶～黄土色、黄色に黒紋など色々なタイプがいる。頭楯は基部から前方に向かって狭まり、前縁は中央で僅かに湾入。各腹節は1列の毛を装う。		
分 布	県内:高松市。 県外:本州、四国、九州、佐渡、伊豆諸島、屋久島。		
県 内 で の 生 息 状 況	古い高松市の記録のみで、県内での状況はまったくわかっていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	県内の状況等まったくわかっていないが、他県での採集経験からは、森林開発や人工造林は絶滅危険性の要因となると思われる。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 佐野信雄	


No Photo

被写体: 撮影者:

\*選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅


クオアシナガコガネ <i>Hoplia moerens</i> (コガネムシ科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤* 2017年、小豆島からの報告がある。2000年に内海町及びまんのう町で採集されている。		
種 の 特 徴	体長7mm前後。符節は短く、各符節ともそれぞれの経節より短い。後脚第5符節は基部近くで急に細くなり、下面に3歯をそなえ、基部の2歯は合一して隆まる。背面は一樣に鱗片を備える		
分 布	県内: 小豆島, まんのう町。 県外: 本州, 四国, 九州。		
被写体:	小豆島町	撮影者:	
県 内 で の 生 息 状 況	まんのう町の個体は、夏季にウツギより得られ、小豆島の個体は、春にイワガサの花などで得られている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本県での本種の分布、生活史などまったくわかっていないが、森林開発や人工造林は絶滅危険性の要因となると思われる。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 佐野信雄	


シロスジコガネ <i>Polyphylla albolineata</i> (コガネムシ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	③⑤⑦* 島嶼部には狭いが、生息地が各地に残っている。四国では、大きい産地もあるが、埋立等で本来の海岸線は少なくなっている。		
種 の 特 徴	体長30mm前後。♂の触角片状部は大きい。前胸背、上翅は赤茶色で、3条の白色の縦筋がはいる。♂は発生地を離れ、遠くまで飛んで行く。		
分 布	県内: 直島町, さぬき市, 高松市, 宇多津町, 丸亀市, 琴平町, 観音寺市, 三豊市。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
被写体:	観音寺市	撮影者:	
県 内 で の 生 息 状 況	♂は飛翔力が強く、発生地とは無縁の阿讃山脈や商業地等の遠方にまで飛来する。したがって本種が採集された地点がすべて発生地となっているわけではない。♀の飛翔距離は圧倒的に短く、採集地周辺の浜等が発生地となっている。観音寺市では個体数は多い。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	海辺の改変が絶滅の危険性の要因になっているが、近年の研究で、幼虫がクロマツのみで発生しているわけではなく、他の海浜性の草本類なども関係しているらしい。瀬戸内海周辺での減少が顕著。		
特 記 事 項	大阪府: 絶滅危惧 I 類。愛媛県・兵庫県・神奈川県・千葉県: 絶滅危惧 II 類。広島県・和歌山県: 準絶滅危惧。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 佐野信雄	

コンピラチャイロコガネ <i>Sericania mimica kompira</i> (コガネムシ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	①③⑤* 象頭山の個体を基に、1996年に記載された。2013年、県内では2ヶ所目の生息地が確認された。四国特産亜種。		
種 の 特 徴	体長10mm前後で赤褐色。腹部の色はやや濃い。♂触角片状部は4+14/5~5/6。成虫の発生は、4月中旬頃より6月上旬。夜間明りに飛来する。		
分 布	県内: さぬき市, 琴平町。 県外: 愛媛県。		
被写体:	象頭山	撮影者:	
県 内 で の 生 息 状 況	本種は、象頭山全域に生息しているわけではなく、さぬき市の生息地においても局地的な分布をしており、分布は点でしかない。さぬき市の生息地は、たまたま発見したが、生息の条件等は把握できていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息する環境等の条件がわからないが、森林開発や人工造林は言うまでもなく悪影響を及ぼす。チャイロコガネ属の産卵の状況等を見ると、土壌やその湿り気などが生息の条件には関係しているような気がする。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 佐野信雄	

※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅



ヤマトアオドウガネ <i>Anomala japonica</i> (コガネムシ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤⑦※ 海浜という特殊な環境を生活の場としており、特に四国では本来の海岸線が少なくなっている。		
種 の 特 徴	体長20～26mm。背面は暗緑色でツヤは弱い。腹面は赤銅色。見た目は緑色のアオドウガネに似ているが、分類上はドウガネブイブイに近い。		
分 布	県内: 島嶼部, 沿岸部。 県外: 本州, 四国, 九州; 朝鮮半島。		
県 内 で の 生 息 状 況	島嶼部や沿岸の砂浜, 河川の下流域等広く生息しているが、観音寺市以外では個体数も多くない。都市部周辺では埋立などで自然状態の海岸がすでになく、生息していないと思われる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	絶滅の危険性は、埋立などによって海辺が改変されることが大きく影響を与えている。瀬戸内海沿岸は、工業地帯や港湾施設など古くから改変が進んでいる地域でもある。		
特 記 事 項	大阪府: 絶滅危惧 I 類, 長崎県: 絶滅危惧 I A 類, 兵庫県: 準絶滅危惧。		被写体: 坂出市 撮影者: 高木真人
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 佐野信雄

キンスジコガネ <i>Mimela holosericea</i> (コガネムシ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤⑧※ これまで香川県において2001年に1頭採集されているだけで、それ以降は採集されていない。		
種 の 特 徴	体長18mm前後。背面は緑色で非常に美しいコガネムシ。腹面は赤銅色。		
分 布	県内: まんのう町。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州; サハリン, 朝鮮半島, シベリア東部。		
県 内 で の 生 息 状 況	発生場所がどのあたりなのか特定は難しいが、山頂付近の針葉樹林が発生地となっていると思われる。発生時期は7～8月。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種は、針葉樹林と関係があるが、発生地は民有林が多く、数年前に人工造林のため大規模伐採が行われた。県内では貴重なミズナラ林等も伐採されてしまい、温度上昇の影響等も心配される。		
特 記 事 項	和歌山県: 絶滅危惧 I 類, 高知県: 準絶滅危惧。		被写体: まんのう町 撮影者: 佐野信雄
文 献	なし		執筆者: 佐野信雄

ナラノチャイロコガネ <i>Proagopertha pubicollis</i> (コガネムシ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤⑦⑧※ 1936年の与北山, 弥谷の記録が最初の報告で、その後、中西讃地方の河川で発見されたが、生息地は常に影響を受けやすい状況にある。		
種 の 特 徴	大きさは8～12mm。♂は♀より小さく、野外では見つけにくい。4月上旬、発生地周辺で♂は♀を探索して低く飛び回る。砂に潜った♀でも♂は見つけることができる。		
分 布	県内: 香東川, 西谷川, 綾川, 財田川。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	現在生息が確認されている河川では、それぞれ1ヶ所比較的大きい個体群の生息地がある。1990年代後半よりそれぞれの河川を調査しているが、今すぐ危険な状況になるとは思えないが、昨今の雨の降り方等、常に危険は付きまとっている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	工事等による河川の改変は言うまでもない。少雨のため、本来の植生を保つ適度の水量がなく、アブラナ, 園芸種, 雑草等が河川敷にはびこり、河川の環境は見た目以上に悪化している。また、ダムの放流等も発生地の砂地を泥等で覆ってしまうので悪影響を与える。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		被写体: 財田川 撮影者: 佐野信雄
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 佐野信雄

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

<b>ムラサキツヤハナムグリ</b> <i>Protaetia cataphracta</i> (コガネムシ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤⑧* 1940年の高松市での記録が最初で、その後、広域に分布していることが確認されているが、産地は局地的で、個体数も多くない。		
種 の 特 徴	体長20～25mm。全体暗銅色。上翅の会合部後半の陥凹部に、浅い馬蹄形の明瞭な点刻がある。白紋は大きく明瞭。5～8月に、樹液や花に集まる。♀は立ち枯れの周りを飛んでいる。		
分 布	県内: 東かがわ市, 三木町, 高松市, 綾川町, まんのう町, 琴平町。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州, 屋久島。		被写体: 高松市 撮影者: 佐野信雄
県 内 で の 生 息 状 況	森林性の甲虫で、やや太めの立ち枯れ、うろのある広葉樹、倒木などが幼虫の生育には必要で、イヌシデやヤマザクラなどが利用されているが、これらはある程度の太さが必要と思われる、発生木は多くない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	絶滅の危険性は、森林開発や人工造林などがあげられる。これらは成虫にも幼虫にも大打撃を与える。本種の個体数が少ないのは、幼虫の餌が少ないことにあると思われる。これとは別に温暖化も関係していると思われる。		
特 記 事 項	高知県: 準絶滅危惧。神奈川県: 絶滅危惧Ⅱ類。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 佐野信雄




<b>キョウトアオハナムグリ</b> <i>Protaetia lenzi</i> (コガネムシ科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	③⑤* 1991年綾上町, 1994年山本町, 2009年三木町での3ヶ所で採集されている。本県の種生等を考えるとまだまだ未調査と思われる。		
種 の 特 徴	体長19～24mm。♂は緑色の被覆物に覆われ光沢を欠く。♀は光沢がある。6～7月に樹液に来る。		
分 布	県内: 三木町, 綾川町, 三豊市。 県外: 本州, 四国, 九州, 屋久島。		被写体: 綾川町 撮影者: 佐野信雄
県 内 で の 生 息 状 況	最近、道路の拡張工事等で、クヌギ等の樹液が出ている道路際の木が少なくなった。自然状態で本種を見つけることは稀で、樹液が出る位置が高い場合は確認が難しい。生息が局地的な理由は、幼虫の餌となる土壌の状態にあるかもしれない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	絶滅危険性の要因は森林開発、人工造林は言うまでもない。成虫に樹液は必要であるが、幼虫には全くその必要性はない。幼虫は常緑広葉樹林の土壌を好んでいるが、多数の幼虫がいた愛媛県西海町で見たような土壌をまだ本県で見ない。		
特 記 事 項	三重県: 絶滅危惧Ⅱ類。愛媛県, 高知県: 準絶滅危惧。熊本県: 情報不足。兵庫県: 要注目。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 佐野信雄

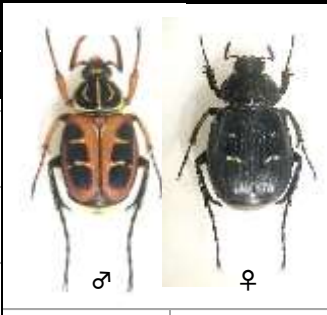



<b>クロカナブン</b> <i>Rhomborrhina polita</i> (コガネムシ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	③⑤* 1945, 1955, 1972年と大滝山で採集された標本が残されている。それ以降の採集はなく、絶滅かと思われたが近年生息の可能性が出てきた。		
種 の 特 徴	体長25～33mmのツヤのある漆黒色。性差は前脛節の太さに現れる。♂は細く、♀は太い。カナブン、アオカナブンより発生は遅く、7～8月に現れる。		
分 布	県内: 高松市。 県外: 本州, 四国, 九州。		被写体: 高松市 撮影者: 三木武司
県 内 で の 生 息 状 況	最近、本種の死骸の採集報告があった。今後、再び採集されるのか見守ってきたい。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	個体数の増減の原因は当然種によって異なる。大滝山周辺において人工造林は増えたが、絶滅させるほど影響を与えたとは考えにくい。温暖化にその原因を求める傾向もあるが、近年生息の痕跡が見られるようになり、温暖化が絶滅危険性の根拠にはなりにくくなった。		
特 記 事 項	大阪府: 絶滅危惧Ⅱ類。愛媛県, 高知県(絶滅危惧ⅠBからランクダウン), 兵庫県, 熊本県: 準絶滅危惧。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 佐野信雄



※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

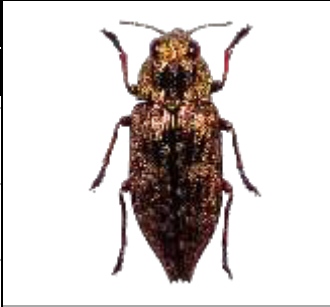
<b>アカマダラハナムグリ</b> <i>Poecilophilides rusticola</i> (コガネムシ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	情報不足 (DD)
選 定 理 由	③⑤⑦ 1952年木綿織, 1955年小豆島, 1958年大滝山, 1960年国分寺町, 一宮, ⑥* 1964年香南町と広く採集されたが, 近年は激減している。		 被写体: 高松市 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	体長14~20mm。赤地に黒色の特徴のある模様で, 他の種と間違ふことはない。近年, 幼虫が猛禽類等の巣から見出されることが報告されている。		
分 布	県内: 小豆島, 三木町, 高松市, 綾川町, 琴平町, 三豊市。 県外: 本州, 四国, 九州; 済州島, 朝鮮半島, シベリア, 中国, モンゴル		
県 内 で の 生 息 状 況	1990年代までは, 県内各地で見られたが急激に減少し, 最近では高松市でしか見つかっていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	絶滅の危険性の一端は森林開発や人工造林に求めることができるが, 猛禽類の巣での幼虫発見等を考えると, 原因は他にもあると考えられる。		
特 記 事 項	愛媛県ほか3県で絶滅危惧I類, 大阪府ほか5県で絶滅危惧II類, 11県で準絶滅危惧。全国的に調査対象。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 佐野信雄

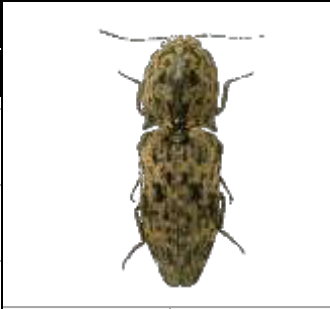
<b>ヒロシマオオトラフハナムグリ</b> <i>Paratrichius geibiensis</i> (コガネムシ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑤* これまで四国産は, 分類上の問題で記録がないが, 本県では阿讃山脈中央部のみに産し, 個体数密度は多いとは言えない。♀個体に特徴がある。		 被写体: まんのう町 撮影者: 佐野信雄
種 の 特 徴	♂は, 写真のような斑紋を持ち, 触角片状部が長く, 脚も長い。♀は一様に紺色で, 通常前胸背, 上翅に黄色の紋を持つ。中に, 黄色の紋が縮小したり, 消失したりする。		
分 布	県内: 高松市, まんのう町。 県外: 本州(広島県・島根県), 四国, 北九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬季の幼虫採集により生息を確認したが, 成虫を確認した生息地は少ない。成虫は6月末より8月に現れる。♀は倒木に産卵に来ているのを見かける。♂は倒木の周りを飛び回り, ♀を探索している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	森林開発, 人工造林などにより, 幼虫の餌である広葉樹の枯枝, 材等が少なくなると, 個体数は激減する。		
特 記 事 項	福岡県: 準絶滅危惧。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 佐野信雄

<b>ヨコミゾドロムシ</b> <i>Leptelmis gracilis</i> (ヒメドロムシ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑤⑦* 県内では分布が局地的であることに加え, 河川の護岸改修, 河道掘削などにより生息環境が悪化しつつあり, 減少傾向にある。		 被写体: 兵庫県 撮影者: 和田洋介
種 の 特 徴	体長2.6~3.0mm。全体的に黒色で上翅に不明瞭な黄色の縦筋がある。河川の中流から下流域に生息する。県内では伏流水の見られる河川中流域に記録がある。		
分 布	県内: 綾川町, 丸亀市, 三豊市(財田町)。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	土器川の記録がある他, 環境調査により綾川(綾川町山田上・粉所西)において確認されているが, 分布は局地的である。また, 生息地での確認数は少なく, 生息状況は良好とは言えない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川改修により, 生息環境が消失していることに加え, 水質悪化などによる生息環境の悪化が減少の要因である。		
特 記 事 項	愛媛県(VU), 高知県(NT)など, 14府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 宇都宮靖博

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

クromaダラタマムシ <i>Nipponobuprestis querceti</i> (タマムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑧* 低地のエノキで発生するが、発生木が民地にある場合が多く、実際に伐採された所もあり、減少の危険性は常につきまわっている。		 <p>被写体: まんのう町 撮影者: 佐野信雄</p>
種 の 特 徴	体長20~30mmの大型のタマムシ。上翅には不規則の白っぽい斑紋を散りばめる。本種がエノキの幹にとまると、この模様が保護色となり、よく見ないと見つからない。		
分 布	県内: 三木町, 高松市, 坂出市, 丸亀市, まんのう町, 琴平町。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	発生には、森林や林は特に必要なく、現在30年ほど観察している発生木も、半世紀を超えていると思われる。また、二次林の細いエノキでも、条件を満たせば発生は可能で、河川敷や低地の公園、知らぬ間に庭のエノキが発生木となっているようなものもある。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	発生木となっているエノキの伐採。河川敷等のエノキの大木は必要ではあるが、ほとんど発生木となっていない。枝打ちなどをして庭のエノキ、台風や強風等で枝が折れると発生木としての条件は良くなる。		
特 記 事 項	神奈川県: 絶滅。千葉県他1県: 絶滅危惧 I B類。高知県他4県: 絶滅危惧 II 類。愛媛県他5県: 準絶滅危惧。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 佐野信雄	

トゲフタオタマムシ <i>Dicerca tibialis</i> (タマムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	③⑤⑦* 全国的に分布の限られる稀種であり、県内での産地も局所的である。		 <p>被写体: 高松市 撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	体長10~15mm。上翅先端部は尾状に突出する。♂の中脛節内側基方には鋭く長い1本の棘がある。幼虫はモミヤヒノキ、ツガの枯れ木を摂食する。		
分 布	県内: 高松市塩江町。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	採集例は少なく、高松市塩江町大滝山のモミ林で採集された記録が2例のみ報告されている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息条件にはモミ林を伴う自然林が不可欠である。この生息条件を満たす環境は県内において限定的であり、森林開発に伴う生息地の縮小または消滅が危惧される。		
特 記 事 項	長野県(CR+EN), 三重県(VU), 愛知県(NT)など、4県が絶滅危惧種に指定している。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 脇 悠太	

オオウバタマコメツキ <i>Cryptalaus yamato</i> (コメツキムシ科)		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	③⑤* 県内における生息場所が極めて限定的で、全国的にも記録が少ない。		 <p>被写体: 琴平町 撮影者: 佐藤正昭</p>
種 の 特 徴	体長25~35mm。全胸の最大幅が中央より前(前3分の1あたり)、中央には1対の弱い隆起を持つ		
分 布	県内: 琴平町。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	琴平山山麓のカシ類大木の朽木(樹皮下)から冬季に採集されている。1972年以降の記録が無い。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	県外ではイヌシデの白色腐朽菌によって分解された朽木で新成虫が見出されている。現在の琴平山では、植生の遷移が進んでいるため、林床が暗く、本種の発生木となる白色腐朽菌によって分解された広葉樹の大木の朽木が少ない。		
特 記 事 項	徳島県(準絶滅危惧種)ほか2府県で絶滅危惧種に指定している。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 佐藤正昭	

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

ミヤジマコガネコメツキ <i>Selatossomus miyajimanus</i> (コメツキムシ科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	③⑤*	1996年琴平町, 2001年大野原町での報告がある。ほかに旧仲南町でも採れている。全国的にも生息地は限られている。	
種 の 特 徴	体長13mm前後。中型のコメツキムシで、紫色を帯びた強い銅色金属光沢を伴う黒色。明るいアカマツ林に見られ、早春の4-5月に出現し、アカマツの葉に止まっていることが多い。		
分 布	県内: 観音寺市, 琴平町, まんのう町。 県外: 本州, 四国。		
県 内 で の 生 息 状 況	これまでに確認されている生息地は非常に少なく、3例しかない。以前に比べ、マツ枯れは落ち着いたが、マツはかなり減ってしまった。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	1970年代頃よりのマツ枯れにより、常緑樹に遷移した所が多い。松枯れがなくとも、自然遷移によってマツが消滅すると絶滅危険性の要因となる。森林開発や人工造林は言うまでもない。		
特 記 事 項	岡山県では留意する種としている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 佐野信雄	



被写体: 徳島県 撮影者: 和田洋介

ツヤバネベニボタル <i>Calochromus rubrovestitus</i> (ベニボタル科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑥*	森林開発及び人工造林の影響による個体数の減少が懸念される。	
種 の 特 徴	体長7~8mm。近縁種があり、正確な同定をするためには、♂交尾器の形状を確認する必要がある。		
分 布	県内: 高松市, まんのう町。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	全国的にも希な種で、広葉樹の朽木の周辺で稀に見いだされる。県内では非常に記録が少ない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	広葉樹が程良く茂り、林床の照度がある程度保たれた森林環境が必要と考えられる。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	なし	執筆者: 佐野信雄	




被写体: まんのう町 撮影者: 佐野信雄


ヘイケボタル <i>Luciola lateralis</i> (ホタル科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑥*	耕作放棄や宅地化による水田の減少, および水田環境の変化(乾田化や畦や水路のコンクリート化)や早生水稻への転換に伴い、近年の減少が顕著である。	
種 の 特 徴	体長7~10mm。ゲンジボタルに比べかなり小さい。前胸背板は赤く、中央に太い縦の黒線が入る。幼虫は水生でモノアラガイなどを食べる肉食性である。		
分 布	県内: 低地の水田地帯に広く分布する。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州; 東シベリア, 韓国。		
県 内 で の 生 息 状 況	かつては水田地帯における普通種であったが、生息に適した環境が激減しており、どこでも普通に見られる種ではなくなっている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	水田そのものの減少が最大の要因で、水田およびその周囲の改変、早生水稻への転換による耕作サイクルの変化が幼虫の生息、蛹化のための陸地への移動などの妨げとなってしまうのが大きな要因となっている。農業の影響も考えられる。		
特 記 事 項	群馬県, 東京都で絶滅危惧Ⅰ類, その他16府県で絶滅危惧Ⅱ類, 準絶滅危惧種などに指定されている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 三木武司	




被写体: 高松市 撮影者: 三木武司

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

<b>ジュウクホシテントウ</b> <i>Anisoticta kobensis</i> (テントウムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦* 主な生息環境が汽水域のヨシ群落であり、砂州の衰退や護岸工事の影響を受けやすい。ヨシ群落の消失は個体群の絶滅を意味する。		 被写体: さぬき市 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	体長4mm前後。頭部に1対、前胸背板に3対、上翅に和名のとおり通常19個の黒点を持つ。		
分 布	県内: さぬき市, 琴平町。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	さぬき市鴨部川河口と琴平町で見つかっている。新川河口のヨシ群落は県内有数の規模であるが未発見。鴨部川では2016年と2017年の調査で再確認されたが生息密度は低い。成虫は越冬場所の1つとして堆積したヨシのリター層(中でも僅かに湿って丸まった葉の内側部分)を利用している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	汽水域のヨシ群落は砂州の衰退や護岸工事の影響を受けやすい。既生息地と同様の環境が見られる県東部の河川河口から新たに産地が見つかる可能性がある。		
特 記 事 項	高知県・山口県(VU), 広島県・島根県(NT)など、8府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 大生唯統

<b>ジュウサンホシテントウ</b> <i>Hippodamia tredecimpunctata timberlakei</i> (テントウムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦* 湿原環境に特異な種で、全国的にも生息地が限られ個体数も少ない。		 被写体: 東かがわ市 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	体長5.6~6.2mm。体形は長卵形。上翅には13個の黒紋が見られるが、一部が消失または融合することもある。ヨシ群落が見られる湿地や草原環境に生息する。		
分 布	県内: 高松市香南町岡, 坂出市, 綾川町粉所西, 琴平町榎井。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	坂出市王越町や川津町といった沿岸部のほか、香南町岡, 綾川町粉所西, 琴平町榎井といった内陸部からも記録されるが個体数は少ない。春日川では高松市木太町と由良町で確認されていることから、下流域から中流域にかけて点在するヨシ群落に広く生息すると推測される。大東川でも小規模なヨシ群落より得られている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川改修や湿原環境の開発によるヨシ群落の縮小または消滅によって、本種に適した生息域の減少が危惧される。		
特 記 事 項	高知県(VU), 愛媛県(DD)のほか、8府県が絶滅危惧種に指定している。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 脇 悠太

<b>アカガネアオハムシダマシ</b> <i>Arthromacra decora</i> (ゴミムシダマシ科)		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	②⑤* 2000年頃、1955年に採集されたのとはほぼ同時期、同地付近でハムシダマシ類の調査をしたが、本種は得られなかった。すでに絶滅と判断される期間に至っているが、十分に調査されたわけではないので、情報不足とした。		 被写体: 小豆島 撮影者: 初宿成彦
種 の 特 徴	体長7~10mmの小型で、背面は個体により赤紫~赤胴~銅緑~金緑~青紫色を呈し、脚や触角は体長に比較して短く、太い。腿節は太く、基部は黄褐色で、先端部~大部分は黒ずむ。		
分 布	県内: 小豆島。 県外: 本州(新潟県以西), 九州(福岡県, 大分県)。		
県 内 で の 生 息 状 況	大阪市立自然史博物館に、1955年に採集された小豆島産の標本が保管されているのみ。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	近畿地方では絶滅危惧種の対象になるような種ではなく、仮に絶滅したとしても小豆島でのその要因はよくわからない。願わくば未調査であってほしい。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆: 佐野信雄

※選 定 理 由: ① 模式産地, ② 分布境界, ③ 全国極限, ④ 固有種, ⑤ 県内極限, ⑥ 交雑移行, ⑦ 限定生育・生息環境, ⑧ 近年減少, ⑨ 絶滅

ニシアオハムシダマシ <i>Arthromacra kyushuensis</i> (ゴミムシダマシ科)		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	③⑤* 1998年大滝山で、後に竜王山、大川山でも得られたが、生息地においても局地的で、個体数も少ない。現在、四国の北限となっている。		
種 の 特 徴	体長10mm前後で、背面は黄色味を帯びた金緑色、上翅肩部には基部1/3程度、角張った明瞭な縦稜を持つ。腿節は黄褐色で、先端背面部がやや黒ずみ、弱い緑色の金属光沢を持つ。		
分 布	県内: 阿讃山脈中央部。 県外: 四国(徳島県, 愛媛県, 高知県), 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	阿讃山脈の上部で確認されているが、標高500mあたりで確認されている場合もある。現在、3ヶ所で生息が確認されているが、複数個体が得られている生息地は1ヶ所で、2ヶ所は1頭のみ確認である。個体数も近似種に比べ、圧倒的に少ない。これらの種のホストに関係しているかもしれない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	四国山地の高標高地では普通に生息し、個体数も他の種と比べても遜色ない。低地ではほとんど見ないので、阿讃山脈程度の高さでは、今後さらに温暖化が進むと影響があるかもしれない。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 佐野信雄	



被写体: 竜王山 撮影者: 佐野信雄

アカアシオオオカミキリ <i>Chloridolum japonicum</i> (カミキリムシ科)		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧* 近年、減少している。		
種 の 特 徴	体長20~30mmの大型のカミキリムシ。前翅は光沢のある緑色をし、腹部は明るい茶褐色をしている。♂の触角は長く、体長の1.5倍程度ある。		
分 布	県内: 高松市東植田町, 西植田町, 香南町, 国分寺町。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	クスギ, アベマキなどの樹液が滲出する広葉樹林に生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	雑木林の伐採, 荒廃。		
特 記 事 項	愛媛県(CR+EN), 宮崎県・鹿児島県(NT)など, 10県で絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 高木真人	



被写体: 高松市 撮影者: 高木真人

ヨコヤマヒゲナガカミキリ <i>Dolichoprosopus yokoyamai</i> (カミキリムシ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑦⑧* 全国に分布するが、産地に限られる。香川県においては大滝山のみで生息する。近年、ブナ林の衰退により個体数が激減している。		
種 の 特 徴	体長30mm前後の大型のカミキリムシ。♀♂ともに触角の長さは体長をはるかに超える。		
分 布	県内: 高松市塩江町(大滝山)。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	成虫, 幼虫ともにブナの生木を単食する。生息は、大滝山山頂付近及び稜線部のブナ林で僅かに記録されているのみ。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ブナの枯死及びブナの稚樹が育っておらず、温暖化による林内乾燥が進み、生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	三重県(CR+EN), 和歌山県・京都府(VU), 高知県(NT)など, 14県で絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 高木真人	



被写体: 大滝山 撮影者: 高木真人

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

ヨコヤマトラカミキリ <i>Epiclytus yokoyamai</i> (カミキリムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦* 生息地が局所的		
種 の 特 徴	体長10mm前後の小型のカミキリムシ。上翅の基部が暗赤色をしといる。		
分 布	県内: 讃岐山脈の稜線部。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	採集個体数が少なく, 詳細は不明。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	幼虫はクリ, ヒメヤシャブシ, アカメガシワなどの生木の枯死した細枝に穿孔する。スギ, ヒノキなどの植林のため, 食樹を含む雑木の伐採により, 生息地が消失する。		
特 記 事 項	大阪府・大分県(NT)など, 5府県で絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 高木真人	



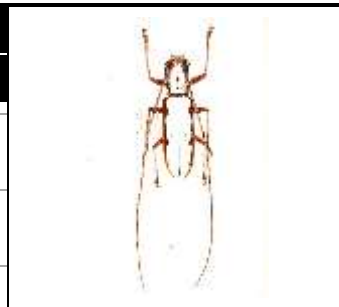
被写体: 徳島県 撮影者: 和田洋介

ベーツヒラタカミキリ <i>Euryopoda batesi</i> (カミキリムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑧* 全国的に分布が局限され, しかも個体数が少ない。		
種 の 特 徴	体長20mm前後のカミキリムシ。体は扁平で茶褐色。♂の大あごは, 発達している。		
分 布	県内: 琴平山。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	県内の記録は, 琴平山のみであるが, 社叢林などにあるシイの古木で発生している可能性があり, 他所でも見つかる可能性が残されている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	社叢林は神域であることから伐採は積極的には行われないが, シイの古木で発生することから危害防止の観点で伐採されると, 発生木が無くなる恐れがある。灯火にも飛来するので, 発生木近くに街灯があると誘殺され, 絶滅に拍車をかける		
特 記 事 項	高知県(CR+EN), 徳島県・山口県(DD)など, 16府県で絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 高木真人	



被写体: 琴平山 撮影者: 高木真人

オオシロカミキリ <i>Olenecamptus cretaceus</i> (カミキリムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦* 西日本に広く分布するが, 分布が局限される。香川県においても, 生息地, 生息数ともに少ない。		
種 の 特 徴	体長は30mmに達し, 前翅は白色で赤褐色に縁どられる。♂の触角は長く, 体長をはるかに超える。		
分 布	県内: 琴平山, 観音寺市。 県外: 本州, 四国, 九州, 南西諸島。		
県 内 で の 生 息 状 況	自然度の高い落葉広葉樹林に生息する。幼虫はカラスザンショウ, エノキ, ケヤキ, ムクノキなどを穿孔する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	成虫は灯火に飛来する性質があり, 生息地における夜間照明が生息を脅かす。そのほか, 落葉広葉樹の伐採, 乾燥など。		
特 記 事 項	神奈川県(EX), 群馬県(CR+EN)など, 3県で絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 高木真人	





被写体: 琴平山 撮影者: 高木真人

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅



ベニバナカミキリ <i>Paranaspia anaspoides</i> (カミキリムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	⑤⑧* 社叢林に残る大径木が主な発生源となっているため、分布が局限されている。			被写体: 高松市 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	体長10mm前後の暗赤色のカミキリムシ。前翅にはピロード状の微毛を有している。			
分 布	県内: 高松市内で4か所。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州, 伊豆諸島, 対馬, 屋久島。			
県 内 で の 生 息 状 況	高松市内で4か所記録されているが、1カ所は発生木が伐採された。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	社叢林などに残る大径木の枯死空洞部が主な発生源になっており、強風等による倒木防止のため、伐採されると発生源が消滅する。			
特 記 事 項	高知県・大阪府(VU)など、10府県で絶滅危惧種に指定。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。			執筆: 高木真人

セダカコブヤハズカミキリ小豆島亜種 <i>Parechthistatus gibber shodoshimanusu</i> (カミキリムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	①④* 1955年採集の標本が最初で、瀬戸内の島で生息するのは、小豆島と淡路島の2島で、その形態を見ると、阿讃山脈と本州の個体群を繋ぐ上で重要。			被写体: 小豆島 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	体長は♂:10~14mm, ♀:13~17mm。触角比(触角/体長)は♂:1.7~1.95, ♀:1.16~1.25。上翅肩部は圧せられ外方へ張出す。体は狭まる。			
分 布	県内: 小豆島。 県外(別亜種): 本州, 四国, 九州。			
県 内 で の 生 息 状 況	小豆島の中央部の高所を中心として生息している。これまでで最も低い所で確認されたのは、紅雲亭付近の標高200mであるが、現在もこの標高で生息しているかは多少の疑問がある。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	1990年代の頃より生息地の環境は変化はない、周辺の人工造林の伐採はあったが、特に影響を与えるような場所ではなかった。このまま自然林に手を入れないことが重要であるが、隣接する人工造林の伐採も乾燥を促進するので注意が必要。			
特 記 事 項	別亜種であるが、山口県:絶滅危惧Ⅱ, 大阪府, 京都府, 岐阜県:準絶滅危惧, 島根県:情報不足。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。			執筆: 佐野信雄

サヌキセダカコブヤハズカミキリ <i>Parechthistatus gibber nakanei</i> (カミキリムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	①⑤⑧* 東から西へ向かって外部形態が徐々に変化しており、阿讃山脈の個体群全体がまったく同じ形態ではなく、西部の個体は触角が長くなる。			被写体: 大川山 撮影者: 高木真人
種 の 特 徴	関西産に似るが、上翅は幅広く、肩部は強く押し付けられ、外方へ強く張り出す。♂では上翅は肩部から後方に強く狭まり、♀では広がる。体長は12~19mm。♂触角比=体長×2.23			
分 布	県内: 阿讃山脈中央部。 県外: 徳島県。			
県 内 で の 生 息 状 況	30年ほど前は、山間部の人家周辺の薪等で普通に見られたが、1990年代後半より、日中に材で♀を待つ♂や、道路上を歩行中の個体が見られなくなった。標高300m付近の低い所で本種を見ることがなくなった。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	森林開発、人工造林は、幼虫の餌である広葉樹の減少につながり、本種は生息できなくなる。阿讃山脈の本種は、瀬戸内の気候である少雨、乾燥に適応しているが、山間部と言えども、近年の夏場の気温は高すぎると思われる。			
特 記 事 項	別亜種であるが、山口県:絶滅危惧Ⅱ, 大阪府, 京都府, 岐阜県:準絶滅危惧, 島根県:情報不足。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。			執筆: 佐野信雄

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

タカオメダカミキリ <i>Stenomalus takaosanus</i> (カミキリムシ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑦⑧* 生息地が局所的		
種 の 特 徴	体長3～5mmの小型のカミキリムシ。全身黒色で、前胸のなかみほどが丸く突出する。		
分 布	県内: 高松市大滝山。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	大滝山の稜線部で僅かに記録されている。幼虫はブナの新しい枯死した細枝に食入し、年1世代。成虫は春に出現し、カエデ類、ミズキ、ガマズミなどの花を訪れる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	温暖化と稜線部の乾燥化により、ブナの枯死が目立つ。ブナの衰退により、生存が危ぶまれる。		
特 記 事 項	高知県・宮崎県(DD)の2県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 高木真人	



被写体: 大滝山 撮影者: 高木真人

ヨツボシカミキリ <i>Stenygrinus quadrinotatum</i> (カミキリムシ科)		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリー	絶滅危惧 I B類 (EN)
選 定 理 由	⑧* 近年、全国的に減少している。		
種 の 特 徴	体長10mm前後の暗褐色をしたカミキリムシ。前翅には4個の明褐色の斑紋を有している。		
分 布	県内: さぬき市, 高松市大滝山, 高松市東植田町, 琴平山。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州, 屋久島, 奄美大島, 徳之島。		
県 内 で の 生 息 状 況	低山地の薪炭林の枯れ枝や灯火に飛来する。ノリウツギ, リョウブ等の花にも集まる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	里山における薪炭林の利用が無くなり、自然遷移の進行で生息が危ぶまれている。		
特 記 事 項	高知県(CR+EN), 愛媛県(VU)など、34都府県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 高木真人	



被写体: 琴平山 撮影者: 高木真人

オオクボカミキリ <i>Tengiush ohkuboi</i> (カミキリムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑧* 全国的に分布が局限され、しかも個体数が少ない。		
種 の 特 徴	体長10mm前後の小型のカミキリムシ。触角に長毛を有し、前翅は黒く肩と中央に斑紋を有する。		
分 布	県内: 大川山。 県外: 本州, 四国。		
県 内 で の 生 息 状 況	県内での寄主植物はリョウブと考えるが、自然度の高い落葉広葉樹林に生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	森林伐採や道路建設による生息環境の乾燥地化。落葉広葉樹林の荒廃。		
特 記 事 項	高知県(NT), 三重県(VU)の2県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 高木真人	



被写体: 徳島県 撮影者: 和田洋介

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

アカジマトラカミキリ		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選定理由		⑤⑦⑧※ 県内の記録が少なく、幼虫の食餌植物であるケヤキの自生が局地的である。	
種の特徴		体長12.5～17mm。薄紅色をした体色に黒色紋を有する中型種。晩夏から秋にかけて出現し、イタドリの花を訪花する。沢沿いのケヤキの枝や伐採木に見られる。	
分布		県内:大滝山, 雲辺寺山。 県外:本州, 四国, 九州。	
県内での生息状況		ケヤキやエノキ、エゾエノキの枝や伐採木を幼虫が餌とするが、県内での記録は少ない。画像は沢沿いにあったケヤキの幹の伐採木から羽脱したものである。	
絶滅危険性の要因		山林にあるケヤキの伐採。	
特記事項		高知県・大阪府(CR+EN), 山口県(VU)など、8県が絶滅危惧種に指定。	
文献		昆虫類は種ごとに文献リストを示す。執筆: 高木真人	



被写体: 高松市 撮影者: 高木真人

トラフカミキリ		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリ	—
選定理由		⑦⑧※ 元来、県内での生息は極めて少ない、近年は、養蚕業によるクワの栽培が無くなり、放棄園、低山地のヤマクワでの確認がされていない。	
種の特徴		体長30mmを超える大型のトラカミキリ。背面には黄色と黒褐色からなる縞模様を有する。	
分布		県内:東かがわ市, 高松市, まんのう町, 琴平山。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州, 南西諸島。	
県内での生息状況		養蚕が盛んであった頃、東かがわ市の桑園で生息を確認(1988年)したが、養蚕業が衰退しクワの栽培が無くなり、発見は困難である。	
絶滅危険性の要因		クワの木の伐採。	
特記事項		和歌山県(CR+EN), 高知県(VU), 愛媛県・宮崎県(NT)など、22都府県が絶滅危惧種に指定。	
文献		昆虫類は種ごとに文献リストを示す。執筆: 高木真人	




被写体: 徳島県 撮影者: 和田洋介


オオトラカミキリ		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選定理由		⑦⑧※ 全国的に産地は局所的。本県においても讃岐山脈の一部に限定される。	
種の特徴		体長30mmを超える大型のトラカミキリ。♂の前胸背は黒褐色、♀は黄色の十字模様をしている。	
分布		県内:さぬき市長尾町, 高松市塩江町。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州。	
県内での生息状況		讃岐山脈の尾根沿い、及び前山に生育するモミに幼虫が穿孔する。	
絶滅危険性の要因		モミの伐採。産卵数が少ないため、繁殖期の天候不順。過度な採集圧。	
特記事項		千葉県・京都府(CR+EN), 和歌山県(VU), 高知県(DD)など、11都府県が絶滅危惧種に指定。	
文献		昆虫類は種ごとに文献リストを示す。執筆: 高木真人	



被写体: 高松市 撮影者: 高木真人

※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

<b>ガガブタネクイハムシ</b> <i>Donacia lenzi</i> (ハムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦* 絶滅が危惧される水生植物を食草としている。		 <p>被写体: まんのう町   撮影者: 高木真人</p>
種 の 特 徴	体長6.1~7.3mm。近縁のネクイハムシとは触角の第3節と第2節が等長であることから区別できる。ジュンサイやヒツジグサ、オニバスなどの浮葉植物を食害する。		
分 布	県内:高松市, 丸亀市, 多度津町, まんのう町, 三豊市。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	平野部から丘陵部にかけて記録がある。平野部では溜池に生育するオニバスの浮草上より得られているが、丘陵部における生息状況は調査不足である。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	溜池の改修や水質の富栄養化により、本種の食草であるオニバスやジュンサイ、ヒツジグサといった水生植物の群落が減少している。これらの食草群落の消滅に伴い、生息地の縮小または消滅が危惧される。		
特 記 事 項	大阪府・三重県(VU), 奈良県(NT)など、10府県で絶滅危惧種に指定されている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 脇 悠太	

<b>モリモトシギゾウムシ</b> <i>Curculio morimotoi</i> (ゾウムシ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑦⑧* 平地のハンノキを寄主とする種である。開発によりハンノキ林が消滅しており本種の生息域が減少している。		 <p>被写体: 坂出市   撮影者: 久米加寿徳</p>
種 の 特 徴	体長3.0~3.8mm。口吻は伸張する。すべての腿節に歯がないことから同属の日本産種全てと区別できる。		
分 布	県内:高松市池田町, 綾歌郡綾川町, 坂出市王越町, 善通寺と北町。 県外:本州, 四国。		
県 内 で の 生 息 状 況	ハンノキに依存するためハンノキ林を探すことで本種の生息地が見つかる可能性はあるが、ハンノキ林自体が消滅しているため今後本種が増える可能性は低い。王越町は多産地であったが近年は個体数が減少している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	圃場整備やため池の改修に伴うハンノキの伐採、各種開発によるハンノキ林の消滅。		
特 記 事 項	和歌山県(VU)で指定されている。		
文 献	なし	執筆者: 久米加寿徳	

<b>ハマベゾウムシ</b> <i>Isonycholips gotoi</i> (ゾウムシ科)		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤⑦* アマモの打ち上げられる砂浜に生息するため、海の環境と砂浜の環境が守られる必要がある。		 <p>被写体: 高松市屋島   撮影者: 脇 悠太</p>
種 の 特 徴	体長3.8~4.2mm。前脚脛節端外角は細長く張出し、後脚脛節端には三日月形の外室をもつ。吻は太く、触角は吻の先端につく。触角中間節は6節。前胸背板は全面点刻される。		
分 布	県内:小豆島, 高松市屋島, 丸亀市広島。 県外:北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	幼虫・成虫ともに海岸に打ち上げられたアマモを食す。県内の採集記録も一度に複数頭が採集されていないことから、個体数は極めて少ないものと思われる。夜行性であるため生息の確認は難しい。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	海岸堤防や道路の建設・自然海岸の改変・干潟の減少。 海中のアマモが消滅すると本種は生息できなくなる。本種の生息には砂浜の保全とともに海中のアマモの保全も考慮する必要がある。		
特 記 事 項	三重県(EX), 千葉県・長崎県(CR+EN), 愛知県(VU)など、9県が絶滅危惧種に指定。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 久米加寿徳	

\*選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

<b>アワナガオチバゾウムシ</b>		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
<i>Leptanconus yoshidai</i> (ゾウムシ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	②③⑤* ナガオチバゾウムシ属は、本州から沖縄県にまで生息するが、種分化が著しく、本種は、剣山以北の四国山地と阿讃山脈の大滝山に生息している。		
種 の 特 徴	体長5mm前後の黒く細長いゾウムシで、土壌性ゾウムシと呼ばれ、落葉の下より得られる。外見は、他地域の種との区別は困難であるが、交尾器により多くの種に分けられている。		
分 布	県内: 高松市。 県外: 徳島県。		
県 内 で の 生 息 状 況	大滝山にのみ生息し、尾根の落葉のシフティングで得られているが、本種以外の土壌性ゾウムシに比べ、採集された個体数は少ない。成虫は、4月頃より12月まで見られる。香川県で♀個体は未発見。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	森林開発や人工造林は言うまでもなく絶滅の危険性に直結する。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 佐野信雄	



被写体: 高松市 撮影者: 佐野信雄

<b>モリシタケアリ</b>		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
<i>Lasius morisitai</i> (アリ科)		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	③⑤* 全国的に分布が極限されており、県内でも過去に2か所でしか記録されていない。		
種 の 特 徴	体長4.5～5mm程度で、体色は光沢のある漆黒色。胸部の立毛が少ないことや触角柄節に立毛がないことなどから近縁種と区別できる。		
分 布	県内: さぬき市長尾町, 大川山。 県外: 北海道, 本州, 四国。		
県 内 で の 生 息 状 況	前山のコロニーは1992年頃に初めて記録され、2000年ごろまで継続的に採餌個体が観察されたが、2002年には消滅していた。大川山のコロニーは1998年に記録され、2018年にも同じ場所で採餌個体が観察された。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	近縁のクサアリモドキやクロクサアリは比較的暗い湿潤な森林に生息するが、県内で本種の営巣が確認された2カ所は比較的乾燥した尾根筋であった。そのような森林環境の開発や周辺樹木のアブラムシ類の生息状況が影響する可能性がある。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 伊藤文紀	




被写体: さぬき市 撮影者: 伊藤文紀


<b>トゲアリ</b>		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
<i>Polyrhachis lamellidens</i> (アリ科)		環境省カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑧* 全国的に減少が著しい。県内でも四国本土では産地が減少している。		
種 の 特 徴	体長7～8mm。胸部の一部が赤色で、腹柄節に顕著な釣り針状の1対の突起があり、日本産のアリと一見して区別ができる。		
分 布	県内: 小豆島, 東かがわ市引田, 高松市, 三木町, 琴平町, 三豊市。 県外: 本州(東北の一部を除く), 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	県内各地から記録があるが、四国本土では減少している。高松市では、2010年頃まで藤尾山周辺だけでも多くの巣があったが、近年は見ることができない。小豆島では比較的多い。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	本種は新女王がオオアリ属の巣に侵入し、一時的社会寄生によってコロニーを創設し、その後広葉樹のウロや根際などに営巣することが多い。オオアリ属の生息環境も含めた森林環境の変化が影響する可能性がある。		
特 記 事 項	愛媛県(NT)のほか、7県で絶滅危惧種に指定されている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者: 伊藤文紀	




被写体: 小豆島 撮影者: 高木真人


※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④全国有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

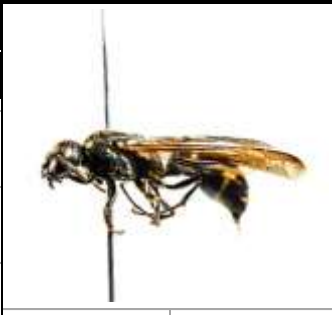
ヤマトカギバラアリ <i>Proceratium japonicum</i> (アリ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧※ 全国的に稀で、香川県では琴平町愛宕山周辺でしか記録されていない。		
種 の 特 徴	体長2.5mm程度で、体色は赤褐色。頭盾前縁は直線状で、中央が突出することはない。同属他種とは腹柄節の形態で区別できる。		
分 布	県内: 琴平町。 県外: 本州 (関東以南)、四国、九州、南西諸島。		
県 内 で の 生 息 状 況	照葉樹林の林床にある朽木に営巣する。琴平町愛宕山周辺で1990年代に多数確認されていたが、最近では採集されていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	森林環境の変化が近年の密度の低下の原因かもしれないが、詳細は不明である。		
特 記 事 項	東京都で情報不足種とされている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 伊藤文紀	


ヒメナガアリ <i>Stenamamma nipponense</i> (アリ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑤※ やや北方系の種で、四国では主に標高700m以上の山地に分布が限られている。		
種 の 特 徴	体長2.5~3.5mmで、体色は黄褐色から暗赤褐色。頭部および胸部は不規則な網目状の彫刻でおおわれる。複眼は小さく長径が触角第9節よりも短いことで近縁種と区別できる。		
分 布	県内: 大滝山, まんのう町。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州		
県 内 で の 生 息 状 況	大滝山のブナ林, 旧琴南町などから確認されている。いずれの場所でも少ない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	標高が高い場所に分布が限られているため、そのような場所の森林環境の改変や、今後の温暖化にともなう環境変化によって減少する可能性がある。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 伊藤文紀	

キタウロコアリ <i>Strumigenys kumadori</i> (アリ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦※ やや北方系の種で、四国では主に標高700m以上の山地に分布が限られている。		
種 の 特 徴	体長2.5mm程度で体色は黄褐色から褐色。ウロコアリとよく似ているが、働きアリでは中胸部の立毛が長く縮れること、女王では複眼が大きいことなどで区別できる。		
分 布	県内: 小豆島星ヶ城山, 大滝山, 大川山, 雲辺寺山など。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	大滝山, 大川山, 雲辺寺山, 星ヶ城山などの標高700m以上の森林林床でみられる。低地でも採集されることがあるが、女王アリが多く、働きアリが少ないことから、低地へ分散するものの定着は困難であると考えられる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	標高が高い場所に分布が限られているため、そのような場所の森林環境の改変や、今後の温暖化にともなう環境変化によって減少する可能性がある。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 伊藤文紀	

※選 定 理 由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④全国固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅


ヒメムネボソアリ <i>Temnothorax arimensis</i> (アリ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦* やや北方系の種で、四国では主に標高700m以上の山地に分布が限られている。		 <p>被写体: 大滝山 撮影者: 伊藤文紀</p>
種 の 特 徴	体長約2 mm。体色は黄色から黄褐色で頭部は褐色。チャイロムネボソアリに似るが、本種では中胸から前伸腹節後端にかけての背縁が弧をえがくことで区別できる。		
分 布	県内: 小豆島星ヶ城山、大滝山、大川山、雲辺寺山など。 県外: 北海道、本州、四国。		
県 内 で の 生 息 状 況	星ヶ城山、大滝山、大川山、雲辺寺山などの標高700m以上の森林林床に分布が限定されている。林床の枯れ枝などに営巣する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	標高が高い場所に分布が限られているため、そのような場所の森林環境の改変や、今後の温暖化にともなう環境変化によって減少する可能性がある。		
特 記 事 項	本県以外で希少種としての指定は無し。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 伊藤文紀	

オオハムシドロバチ <i>Symmorphus captivus</i> (ドロバチ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	情報不足 (DD)
選 定 理 由	③⑤* 全国的に分布が限られ、減少している。		 <p>被写体: 徳島県 撮影者: 伊藤文紀</p>
種 の 特 徴	体長15~16mmで本属最大の種である。		
分 布	県内: 三木町。 県外: 本州、四国(高知県、徳島県)。		
県 内 で の 生 息 状 況	岩田久二雄博士が木田郡平井町(現在の三木町池戸、井上、平木)で1945年5月30日に採集しているが、その後の採集記録はないようである。徳島県丸笹山で最近採集されていることから、県内の山間部の調査によって新たな分布地が見つかる可能性がある。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	成虫はハムシ類の幼虫を狩り、中空の枯れ枝などに営巣する管住性と思われるが、観察報告はない。習性が未知なため、危険性の要因は断言できないが、山間部の里山的環境の減少が要因になる可能性がある。		
特 記 事 項	埼玉県: 絶滅危惧 I 類, 福井: その他など本州の4県で絶滅危惧種に指定されている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 伊藤文紀	

アカオビケラトリバチ <i>Larra amplipennis</i> (ギングチバチ科)		香川県カテゴリ	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑦⑧* 近年、全国的に減少が著しい。		 <p>被写体: 高知県 撮影者: 小西和彦</p>
種 の 特 徴	体長14.0~16.0mmで、腹部の第1~3節に帯状の赤褐色斑がある。同属のクロケラトリバチよりやや大型。		
分 布	県内: 三木町。 県外: 本州、四国、九州、南西諸島。		
県 内 で の 生 息 状 況	岩田(1976)は1940年代に三木町周辺で極めて豊富に見られたことを記述しているが、近年全く観察されていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	ケラの巣穴に侵入してケラに卵を産みつけるため、ケラの生息状況に大きく影響されると考えられる。圃場整備やケラにとっての好適な生息環境(湿った草地など)の減少が絶滅要因になると考えられる。		
特 記 事 項	高知県で絶滅危惧II類に指定されている。本州の6都県で絶滅種あるいは絶滅危惧種に指定されている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 伊藤文紀	

※選 定 理 由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

ヤマトスナハキバチ <i>Bembecinus hungaricus japonicus</i> (ドロバチモドキ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	情報不足 (DD)
選 定 理 由	⑦* 河川や海岸の砂地に営巣し、そのような砂地自体が減少しており、全国各地で個体数が減少している。		
種 の 特 徴	体長12mm前後で、黒色。腹部1, 2, 4節背板に白黄色紋がある。		
分 布	県内: 粟島, 佐柳島, 讃岐広島, 手島, 直島, 高松市塩江町, 観音寺市有明浜など。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州, 屋久島。		
県 内 で の 生 息 状 況	砂浜がある程度の面積で残存している海岸では少なくない。岩田(1976)は、戦後間もなく三木町池戸の新川河川敷に本種が豊富に生息していたことを記述しているが、最近では確認されていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川敷や海岸の砂地環境の減少。		
特 記 事 項	本州の7府県で絶滅危惧種等に指定されている。		被写体: 丸亀市手島   撮影者: 伊藤文紀
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 伊藤文紀

ニッポンハナダカバチ <i>Bembix niponica niponica</i> (ドロバチモドキ科)		香川県カテゴリー	情報不足 (DD)
		環境省カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑦* 海岸や河川の砂地に生息する。そのような環境が減少しているため。		
種 の 特 徴	体長21~23mm。黒色の体に黄白色の模様をもつ。		
分 布	県内: 不明。 県外: 北海道, 本州, 四国, 九州, 屋久島。		
県 内 で の 生 息 状 況	県内での記録はないようであるが、近隣県(岡山県, 兵庫県淡路島など)では確認されていることから、県内でも低密度ながら生息している可能性がある。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	海岸や河川の砂地環境の改変。		
特 記 事 項	高知県で準絶滅危惧種、そのほか28都道府県で絶滅危惧種等に指定されている。		被写体: 高知県   撮影者: 小西和彦
文 献	なし		執筆者: 伊藤文紀

ウスリモンハナバチ <i>Thyreus centrimacula</i> (ミツバチ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦* 海浜性種で、良好な海浜環境が減少している。		
種 の 特 徴	体長11~12mmで、黒地に薄い水色の斑紋が全身にある。ナミルリモンハナバチと比べて、斑紋の色が白っぽく、腹部の斑紋の幅が広い。		
分 布	県内: 手島, 直島, 大島, 東かがわ市, 高松市, 三木町, 観音寺市。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	島嶼部も含めて、海浜を中心に広く分布しているが、どこでも個体数は少ない。全国的には非常に珍しい種で、本種が広く分布していることは、香川県のハナバチ相の大きな特徴の一つである。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	労働寄生種で、海浜性種であるシロスジツハナバチが寄主と予測されており、海浜環境の改変が影響すると考えられる。寄主の営巣環境の状態が本種の生息状況に影響すると考えられるが、営巣生態に関する知見はほとんどない。		
特 記 事 項	東京都では絶滅種、そのほか4県で絶滅危惧種等に指定されている。		被写体: 高松市   撮影者: 高木真人
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。		執筆者: 伊藤文紀

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅



ナミルリモンハナバチ <i>Thyreus decorus</i> (ミツバチ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	情報不足 (DD)
選 定 理 由	⑦* 全国的に分布が限定され、減少傾向である。		
種 の 特 徴	体長11～14mmで、黒地に青色の斑紋が全身にある。ウスルリモンハナバチと比べて、斑紋の色が青っぽく、腹部の斑紋の幅が狭い。		
分 布	県内: 小豆島町, 高松市, 三木町, 善通寺市。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	数カ所でのみ記録がないが、公洲森林公園や石清尾山では個体数は豊富である。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	スジボソコシブトハナバチを寄主とする労働寄生種である。寄主の営巣環境の状態が本種の生息状況に影響すると考えられるが、寄主の営巣生態に関する知見はほとんどない。		
特 記 事 項	本州の7府県で絶滅危惧種などに指定されている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 伊藤文紀	



被写体: 高松市 撮影者: 高木真人

トモンハナバチ <i>Anthidium septemspinosum</i> (ハキリバチ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	③⑦* 県内の生息場所の多くが海浜で、良好な海浜環境が減少している。		
種 の 特 徴	体長14～18mmで、腹節両端に黄色の斑紋が♂で5対、♀で4対ある。		
分 布	県内: 牛島, 東かがわ市, 高松市, 観音寺市。 県外: 本州, 四国。		
県 内 で の 生 息 状 況	高松市仏生山公園を除くと生息場所はいずれも海浜で、ハマゴウを訪花する。東かがわ市小松原や観音寺市有明浜では個体数が豊富である。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	海浜環境の改変が影響する可能性がある。		
特 記 事 項	本州の5府県で絶滅危惧種などに指定されている。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 伊藤文紀	




被写体: 高松市 撮影者: 高木真人


ホシトガリハナバチ <i>Coelioxys formosicola</i> (ハキリバチ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦* 海浜性種で、良好な海浜環境が減少している。		
種 の 特 徴	体長8～10mmで、胸部背面に2対の黄白色の斑紋がある。		
分 布	県内: 讃岐広島, 手島, 観音寺市。 県外: 本州, 四国, 九州。		
県 内 で の 生 息 状 況	コウベキヌゲハキリバチを寄主とする労働寄生種で、寄主と同様にハマゴウ群落がある海浜に生息する。コウベキヌゲハキリバチは県内各地の海浜に分布するが、本種は上記の3カ所でのみ採集されていない。観音寺市有明浜では少なくない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	寄主の分布と比べると、はるかに生息地は限られていることから、営巣可能な環境がより限定されているのかもしれない。いずれにせよ、良好な海浜環境の減少が要因になると考えられる。		
特 記 事 項	3県で絶滅危惧種等に指定されている。かつてチビトガリハナバチ <i>C. brevis</i> とされていた。		
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆: 伊藤文紀	




被写体: 観音寺市 撮影者: 伊藤文紀

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

クズハキリバチ <i>Megachile pseudomonticola</i> (ハキリバチ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリ	情報不足 (DD)	
選 定 理 由	⑦* 全国的に分布が限定され、減少傾向である。			
種 の 特 徴	体長16～20mmで、オオハキリバチに似るが、腹部第2背板後縁に明瞭な毛帯があること、大あごの歯の部分が幅広いことなどで区別できる。			
分 布	県内: 豊島, 東かがわ市, 高松市, 三木町。 県外: 本州, 四国, 九州。			
被写体:	高松市	撮影者:		伊藤文紀
県 内 で の 生 息 状 況	古くは岩田による三木町での観察記録があり、近年は高松市由良山, 東かがわ市引田, 豊島で少数個体が採集されている。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	マツの古木などに営巣するとされている。このような好適な営巣場所の減少が影響するのかもしれない。			
特 記 事 項	高知県で絶滅危惧II類, そのほか8県で絶滅危惧種等に指定されている。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者:	伊藤文紀	

キバラハキリバチ <i>Megachile xanthothrix</i> (ハキリバチ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	
選 定 理 由	⑦* 海浜や河岸に生息し、全国的に分布は局所的である。良好な海浜環境が減少している。			
種 の 特 徴	体長12～17mmで、胸部と腹部が明るい黄褐色の体毛に覆われる。			
分 布	県内: 手島, 栗島, 男木島, さぬき市, 高松市, 三木町。 県外: 本州, 四国, 九州。			
被写体:	丸亀市手島	撮影者:		伊藤文紀
県 内 で の 生 息 状 況	四国では少ないが、手島と栗島では個体数が豊富である。両島ではハマゴウが生育する海浜とともに民家周辺の花壇でも多いが、これまでに詳しく確認されていない。香川県では、♀が営巣し訪花する本来の生息場所は不明である。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	海岸や河岸の環境の改変が影響する可能性がある。			
特 記 事 項	高知県で準絶滅危惧種, そのほか6県で絶滅危惧種などに指定されている。			
文 献	昆虫類は種ごとに文献リストを示す。	執筆者:	伊藤文紀	

ウマノオバチ <i>Euurobracon yokahamae</i> (コマユバチ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	
選 定 理 由	⑦* 里山環境に多い種で、全国的に減少している。			
種 の 特 徴	体長20mm程度で、♀は100mmを超える長い産卵管を持つ。			
分 布	県内: 高松市。 県外: 本州, 四国, 九州。			
被写体:	高松市	撮影者:		高木真人
県 内 で の 生 息 状 況	クヌギなどの材中にあるシロスジカミキリムシ幼虫に長い産卵管を用いて産卵するとされてきたが、近年神奈川県でミヤマカミキリの蛹が寄主であると報告されている。高松市公測森林公園などで採集されている。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	寄主のカミキリムシ類が生息可能な里山環境の改変が影響する可能性がある。			
特 記 事 項	三重県・和歌山県・福岡県(CR+EN), 広島県(VU)など、23都府県で絶滅危惧種に指定されている。			
文 献	なし	執筆者:	伊藤文紀	

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

## ◎昆虫類◎

### 文 献

#### アイヌハンミョウ

- 1 出嶋利明. 2003. 香川県におけるハンミョウ類の記録と訂正. へりぐろ(24):56.
- 2 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 3 筒井裕貴. 2000. 今年の採集結果をふりかえって. へりぐろ(21):36-38.

#### アイノミドリシジミ

- 1 麻生川俊哉. 2001. 讃岐山脈竜王山でアイノミドリシジミを採集. へりぐろ(22):12.
- 2 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 3 酒井彰. 1999. 香川県におけるアイノミドリシジミの記録. へりぐろ(20):13.
- 4 坂口清一. 1959. 香川県の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物(2):21-24.
- 5 酒井彰. 1997. 琴南町で採集した蝶. へりぐろ(18):30.

#### アオサナエ

- 1 中條道夫. 1954. 四国のトンボ類(2). 新昆虫7(12):42.
- 2 永瀬幸一. 1983. 香川県オオカワトンボ調査. gracile(40):106-107.
- 3 高木真人. 1982. 綾川・大東川水系及び五色台におけるトンボの分布. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃西部地域):279-284.
- 4 豊嶋弘・田中俊彦. 1985. 国営讃岐丘陵公園建設予定地のトンボ・バッタ・チョウなどについて. 国営讃岐丘陵公園動植物現況調査報告書. 香川動植物の会:9-20.
- 5 豊嶋弘・高木 真人. 1980. 香南台地の昆虫(目録). 香南台地および高山の生物:89-107.

#### アオバセセリ本土亜種

- 1 出嶋利明. 2001. 大内町で採集した昆虫(1). へりぐろ(22):55-61.
- 2 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 3 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐろ(11):2-5
- 4 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 5 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 6 佐藤納. 1955. 小豆島のチョウとハチ. 小豆島の自然:17-18.
- 7 高八稔弘. 2010. 香川県内のセセリチョウの記録. へりぐろ(31):65-70.
- 8 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 9 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 10 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### アオモンギンセダカモクメ

- 1 増井武彦. 1977. 四国の蛾の分布資料(II) 四国の蛾分布資料(II). 蛾類通信(92):521-531.

#### アオヤンマ

- 1 出嶋利明. 1994. 昆虫分布から見た瀬戸内島嶼の貴重な自然(2). 香川県高等学校教育研究会理化生地部会会誌(30):56-58.
- 2 環境庁. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(昆虫類). 香川県:35.
- 3 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 4 大沢尚之. 1979. 香川県のトンボ相について(支部大会講演要旨). 四国虫報. (23):126.
- 5 坂口清一. 1967. 香川県の蜻蛉目Odonataの分布. 香川生物(3):39-45.
- 6 佐藤正昭・豊嶋 弘. 1992. 1990年に採集した香東川水系のトンボ類. へりぐろ(13):14-16.
- 7 高木真人. 1985. 香川県中讃東部地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃東部地域):218-233.
- 8 豊嶋弘. 1984. 与島および角山の昆虫(I). 昭和58年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:225-236.
- 9 豊嶋弘. 1985. 与島および角山の昆虫(II). 昭和60年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:285-295.
- 10 豊嶋弘. 1990. 与島および角山の昆虫(IV). 平成元年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:275-294.
- 11 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 12 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 13 和田洋介. 2000. 1999年香川県にて採集したトンボ. へりぐろ(21):2-8.

#### アカアシオオアカミキリ

- 1 安達和男・松岡信雄. 1998. 香川県で採集したカミキリムシ. へりぐろ(19):44.
- 2 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 3 小笠原隆・高木真人・和田洋介. 2001. 香川県のカミキリ:79pp.
- 4 小倉順二. 1994. アカアシオオアカミキリの記録. へりぐろ(24):64-65.
- 5 吉松定明. 2010. 屋島で採集したカミキリムシ. へりぐろ(31):35-38.

#### アカオビケラトリバチ

- 1 伊藤文紀. 2019. 環境省レッドリストに掲載されている狩りバチ類の香川県における分布記録. へりぐろ(40):9-10.

- 2 岩田久二雄. 1976. 昆虫学50年-あるナチュラリストの回想. 中公新書.
- 3 Iwata K, Tanihata M 1963. Biological observations on *Larra amplipennis* (Smith) in Kagawa, Japan (Hymenoptera: Sphecidae). Transactions of the Shikoku Entomological Society (7): 101-105.

#### アカガネアオハムシダマシ

- 1 高橋敏. 2011. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録(1), ゴミムシダマシ科ハムシダマシ亜科:103-114.

#### アカジマトラカミキリ

- 1 小笠原隆・高木真人・和田洋介. 2001. 香川県のカミキリ:79pp.
- 2 佐藤正昭・木下哲也. 1972. 香川県のカミキリムシ. 香川生物(5):66-70.

#### アカネシャチホコ

- 1 増井武彦. 1978. 四国の蛾の分布資料(VI). 誘蛾燈(74):125-134.
- 2 豊嶋 弘. 1969. 香川県の蛾. 蛾類通信(57):666-668.

#### アカマダラハナムグリ

- 1 藤本博文・三木武司・増井武彦・安森盟文・出嶋利明・久米加寿徳・北川雄士・貞廣邦夫・濱口正幹. 2009. 綾川町粉所東庄坂「里山」で採集した昆虫類. へりぐろ(30):15-29.
- 2 林匡夫. 1956. 小豆島の昆虫. 続小豆島の自然:12-17.
- 3 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町.
- 4 小倉順二・佐野信雄. 1993. 香川県におけるアカマダラコガネの新産地. へりぐろ(14):28.
- 5 佐野信雄. 1992. 香川県産アカマダラコガネの未発表記録. へりぐろ(13):17.
- 6 佐野信雄. 1994. アカマダラコガネの追加記録. へりぐろ(15):59.
- 7 佐野信雄. 1999. 香川県高瀬町でアカマダラコガネを採集. へりぐろ(20):31.
- 8 豊嶋弘. 1968. 四国産甲虫分布資料(I). 四国虫報(15):57-58.
- 9 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.

#### アキアカネ

- 1 出嶋利明. 2008. 財田町の昆虫(2). へりぐろ(29):15-20.
- 2 神宮字 寛. 2012. アカトンボ減少要因の究明-浸透移行性殺虫剤の影響-. 昆虫と自然. 47(8):16-19.
- 3 上田哲行・神宮字 寛. 2013. アキアカネに何がおこったのか:育苗箱施用浸透性殺虫剤のインパクト. Tombo(55):1-2.

#### アサマキシタバ

- 1 出嶋利明. 2002. 引田町大阪峠でアサマキシタバを採集. へりぐろ(23):34.
- 2 藤本博文. 2015. 丸亀市でアサマキシタバを採集. へりぐろ(36):51.
- 3 絹笠真弘. 2016. さぬき市前山でアサマキシタバを採集. へりぐろ(37):39.
- 4 増井武彦. 1979. 四国の蛾の分布資料(VIII)オオシロシタバとアサマキシタバの発見. 蝶と蛾(30):111-112.
- 5 増井武彦. 2014. 高松市内の石清尾山のカトカラ類. へりぐろ(35):83-84.
- 6 佐藤正昭. 2009. 石清尾山とその周辺で採集した蛾. へりぐろ(30):53-54.
- 7 佐藤正昭. 2016. 2014年から2015年にかけて採集した蛾類について. へりぐろ(37):37-39.
- 8 豊嶋弘・田中俊彦. 1985. 国営讃岐丘陵公園建設予定地のトンボ・バッタ・チョウなどについて. 国営讃岐丘陵公園動植物現況調査報告書. 香川動植物の会:9-20.

#### アジアイトトンボ

- 1 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 2 永瀬幸一. 1989. 香川県オオカワトンボ調査. gracile(40):106-107.
- 3 大平幸雄. 1979. 五色台における河川の水生昆虫. 香川県自然科学館研究報告(1):15-21.
- 4 坂口清一. 1967. 香川県の蜻蛉目Odonataの分布. 香川生物(3):39-45.
- 5 高木真人. 1982. 綾川・大東川水系及び五色台におけるトンボの分布. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃西部地域):279-284.
- 6 高木真人. 1985. 香川県中讃東部地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃東部地域):218-234.
- 7 高木真人. 1987. 新川水系のため池におけるトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(新川水系域):73-94.
- 8 高木真人. 1987. 香川県小豆島地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県小豆島地域):139-146.
- 9 豊嶋弘. 1984. 与島および角山の昆虫(I). 昭和58年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:225-236.
- 10 豊嶋弘. 1985. 与島および角山の昆虫(II). 昭和60年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:285-295.
- 11 豊嶋弘. 1990. 三木町井上風呂谷地域昆虫相. 香川県木田郡三木町(井上)風呂谷地域および三豊郡詫間町(大浜)船越・名部戸地域の動植物現況調査報告書(香川動植物の会):11-38.
- 12 豊嶋弘. 1984. 与島および角山の昆虫(IV). 平成元年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:271-284.
- 13 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.

#### アシナガコガネ

- 1 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.

#### アトスジチビゴミムシ

- 1 林匡夫. 1956. 小豆島の昆虫. 続小豆島の自然:12-17.
- 2 佐藤正昭. 1996. Coleoptera コウチュウ目. 町史ことひら(1)生物資料編:102-154.
- 3 矢野俊郎. 1960. 四国産既知甲虫類目録(I). 松山昆虫同好会時報(10):1-36.

#### アワオサムシ

- 1 藤本博文. 2002. 2001年に大川山で採集した甲虫類. へりぐろ(23):11-26.
- 2 佐野信雄. 1989. 香川県のオサムシ I (アワオサムシ). へりぐろ(11):21-23.
- 3 佐野信雄. 1992. オサムシの寄生について. へりぐろ(13):12-13.
- 4 佐野信雄. 1993. 1991年秋~1992年春のオサ堀り. へりぐろ(14):42-51.
- 5 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.

#### アワナガオチバゾウムシ

- 1 久米加寿徳. 1997. 希少ゾウムシ2種の採集記録. へりぐろ(18):23.
- 2 Morimoto K 2009. Weevils of the Genus *Leptanchonus* of Japan (Coleoptera, Curculionidae, Molytinae). Jan. J. Syst. Ent, 15(1):133-145.
- 3 佐野信雄. 2016. 四国のナガオチバゾウムシ属について(1). へりぐろ(37):13-17.

#### インノシマチビアトキリゴミムシ

- 1 Habu A 1974. A new *Microlestes* species from Hiroshima Prefecture Japan (Coleoptera, Carabidae). Ent. Rev. Japan26(1/2): 18-20.

#### ウスルリモンハナバチ

- 1 伊藤文紀. 2008. ウスルリモンハナバチ *Thyreus centrimacula* を四国から記録. 中国昆虫(22):45.
- 2 伊藤文紀. 2014. ウスルリモンハナバチの目撃記録. へりぐろ(35):71.
- 3 伊藤文紀・大西悠香・小比賀光紘・塩田真紀・吉田拓馬. 2015. 高松市大島で採集した有剣類. へりぐろ(36):31-33.
- 4 伊藤文紀・内田隆平. 2011. 香川県と愛媛県におけるウスルリモンハナバチ *Thyreus centrimacula* の採集記録. へりぐろ(32):22.
- 5 蒔田将吾・村上航矢・桑島潤哉・藤田悠輔・三木武司. 2015. 高松西高およびその周辺で採集した昆虫(2). 香川生物(42):75-91.

#### ウラギンガ

- 1 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 2 豊嶋弘. 1966. 香川県の蛾(IV)ヤガ科(目録). 蛾類通信(32):226-227.

#### ウラキンシジミ

- 1 中野毅. 1988. 香川県下におけるウラキンシジミについて. HERIGURO(10):3.
- 2 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 3 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 4 坂口清一. 1959. 香川県の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物(2):21-24.
- 5 高八稔弘. 1993. 高見峰山麓の蝶. へりぐろ(14):25.
- 6 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 7 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### ウラギンスジヒョウモン

- 1 出嶋利明. 2003. 香川県のチョウ類に関する基礎的データ(1). へりぐろ(24):2-13.
- 2 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 3 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐろ(11):2-5.
- 4 前田好弘. 1992. 小豆島で得られたヒョウモン類の黒化型. へりぐろ(13):30-31.
- 5 増井武彦. 1958. 石清尾山系の蝶相. 高松高等学校生物部部誌生物(7):30-35.
- 6 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 7 岡田行成. 1982. 1978年~1981年にかけて小豆島において採集した蝶. HERIGURO(5):5-7.
- 8 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 9 佐藤納. 1955. 小豆島のチョウとハチ. 小豆島の自然:17-18.
- 10 高八稔弘. 1993. 近年少なくなったウラギンスジヒョウモンの記録. へりぐろ(14):40.
- 11 高八稔弘. 2003. 近年少なくなったウラギンスジヒョウモンの記録. へりぐろ(23):30.
- 12 豊嶋弘. 1991. 香川県綾上町猿飼・仲和田付近の昆虫について. 香川生物(18):37-49.
- 13 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 14 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 15 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### ウラギンヒョウモン

- 1 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 2 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐろ(11):2-5.
- 3 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.

- 4 岡田行成. 1982. 1978年～1981年にかけて小豆島において採集した蝶. HERIGURO(5):5-7.
- 5 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 6 佐藤納. 1955. 小豆島のチョウとハチ. 小豆島の自然:17-18.
- 7 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 8 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 9 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### ウラジロアツバ

- 1 増井武彦. 1981. 四国の蛾の分布資料(XIII). 蛾類通信(111):166-172.
- 2 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.

#### ウラジロミドリシジミ

- 1 稲沢耕治. 1992. ウラジロミドリシジミの新産地続出. へりぐろ(13):8-9.
- 2 稲沢耕治. 1994. 香川県産ウラジロミドリシジミ. へりぐろ(15):20-23.
- 3 稲沢耕治. 1993. ウラジロミドリシジミの新産地(追加記録). へりぐろ(14):31.
- 4 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 5 高八稔弘. 2004. 塩江・満濃両町よりウラジロミドリシジミを採集. へりぐろ(25):53.
- 6 高八稔弘. 1993. 高見峰山麓の蝶. へりぐろ(14):25.

#### ウラナミアカシジミ

- 1 出嶋利明. 1980. 暖地のシータテハ. 月刊高校通信東書1980. 12. 1:5-7.
- 2 出嶋利明. 1988. 塩飽諸島の蝶について. HERIGURO(10):12-15.
- 3 出嶋利明. 1989. 佐柳島・粟島で採集した蝶について. へりぐろ(11):14-16.
- 4 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐろ(11):2-5.
- 5 増井武彦. 1958. 石清尾山系の蝶相. 高松高等学校生物部部誌生物(7):30-35.
- 6 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 7 岡田行成. 1982. 1978年～1981年にかけて小豆島において採集した蝶. HERIGURO(5):5-7.
- 8 大賀幸蔵. 1989. 備讃瀬戸に浮かぶ直島の蝶. へりぐろ(11):6-7.
- 9 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 10 佐藤納. 1955. 小豆島のチョウとハチ. 小豆島の自然:17-18.
- 11 高八稔弘. 2005. 近年少なくなったウラナミアカシジミの記録. へりぐろ(26):33-34.
- 12 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 13 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 14 豊嶋弘. 1984. 与島および角山の昆虫(I). 昭和58年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:225-236.
- 15 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### ウラナミジャノメ日本本土亜種

- 1 出嶋利明. 1981. 一宮にてウラナミジャノメ採集. HERIGURO(4):22.
- 2 出嶋利明. 2003. 香川県のチョウ類に関する基礎的データ(1). へりぐろ(24):2-13.
- 3 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐろ(11):2-5.
- 4 増井武彦. 1958. 石清尾山系の蝶相. 高松高等学校生物部部誌生物(7):30-35.
- 5 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 6 岡田行成. 1982. 1978年～1981年にかけて小豆島において採集した蝶. HERIGURO(5):5-7.
- 7 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 8 佐藤納. 1955. 小豆島のチョウとハチ. 小豆島の自然:17-18.
- 9 高八稔弘. 2004. 近年少なくなったウラナミジャノメの記録. へりぐろ(25):58-59.
- 10 高八稔弘. 1989. 女木島の蝶. へりぐろ(11):8-9.
- 11 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 12 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 13 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### ウラミスジシジミ

- 1 出嶋利明. 2001. 小豆島で採集した蝶・蛾. へりぐろ(22):6-9.
- 2 飯間勉. 2000. 香川県四国本土側のウラミスジシジミの記録. へりぐろ(21):14-15.
- 3 飯間勉. 2003. 徳島・香川両県におけるウラミスジシジミの記録. へりぐろ(24):19-20.
- 4 伊藤寿. 2005. 阿賛山脈(徳島県～香川県)におけるウラミスジシジミの採集記録. へりぐろ(26):26-28.
- 5 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐろ(11):2-5.
- 6 松岡秀樹. 1986. 小豆島におけるウラミスジシジミの記録. 月刊むし190:14-15.
- 7 高八稔弘. 2004. 香川県内ウラミスジシジミ調査報告(II). へりぐろ(25):54-56.
- 8 高八稔弘. 2009. 満濃町金剛院でウラミスジシジミ採集. へりぐろ(30):50.
- 9 高八稔弘. 2003. 香川県内ウラミスジシジミ調査報告. へりぐろ(24):15-18.
- 10 安井裕. 2002. 香川県庵治町でウラミスジシジミを採集. へりぐろ(23):32.

#### エグリキリガ

- 1 増井武彦. 1979. 四国の蛾の分布資料(VII)香川県未記録ヤガ56種について. 蛾類通信(101):10-15.

#### エサキアメンボ

- 1 出嶋利明. 2009. 東かがわ市才の池にてエサキアメンボを採集. へりぐる(30):47.
- 2 宇都宮靖博. 2020. エサキアメンボの記録. へりぐる(41):30.

#### エゾカギバ

- 1 増井武彦. 1979. 四国の蛾の分布資料(XI) 四国未記録の蛾20種. 誘蛾燈(76):72-78.

#### エゾゼミ

- 1 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録:17-19.

#### エゾトンボ

- 1 出嶋利明. 2005. 財田町の昆虫(1). へりぐる(26):7-16.
- 2 和田洋介. 2000. 1999年香川県にて採集したトンボ. へりぐる(21):2-8.

#### エゾハルゼミ

- 1 環境庁. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(昆虫類). 香川県:41.
- 2 田中俊彦. 1986. セミ(セミ科). 琴南町史:49-50.

#### エゾベニシタバ

- 1 豊嶋弘. 1966. 香川県の蛾(IV) ヤガ科(目録). 蛾類通信(32):226-227.

#### エリザハンミョウ

- 1 出嶋利明. 2002. 直島で採集した昆虫. へりぐる(23):48-53.
- 2 藤本博文. 2007. 香川県の島嶼別甲虫類分布表. へりぐる(28):55-85.
- 3 小倉順二. 2001. ヒメハンミョウの採取記録. へりぐる(22):33.
- 4 佐藤正昭. 2014. 屋島の甲虫(1). へりぐる(35):1-16.

#### オオイトトンボ

- 1 大沢尚之. 1979. 香川県のトンボ相について(支部大会講演要旨). 四国虫報. (23):126.
- 2 坂口清一. 1959. 香川県の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物(2):21-24.
- 3 坂口清一. 1967. 香川県の蜻蛉目Odonataの分布. 香川生物(3):39-45.
- 4 高木真人. 1985. 香川県中讃東部地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃東部地域):218-234.
- 5 高木真人. 1987. 新川水系のため池におけるトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(新川水系域):73-94.
- 6 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録.

#### オオウスバカゲロウ

- 1 環境庁. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(昆虫類). 香川県:42.
- 2 豊嶋弘・高木真人. 1979. 高山および周辺地域の昆虫. 動植物の会:111-131.

#### オオウバタマコメツキ

- 1 佐藤正昭. 1996. Coleoptera コウチュウ目. 町史ことひら(1)生物資料編:102-154.
- 2 佐藤正昭. 1975. 香川県象頭山の甲虫類(4). 月刊むし(49):26-29.

#### オオウラギンスジヒョウモン

- 1 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 2 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 3 坂口清一. 1959. 香川県の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物(2):21-24.
- 4 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 5 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 6 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### オオウラギンヒョウモン

- 1 出嶋利明. 1982. 一宮におけるオオウラギンヒョウモンの目撃記録. HERIGURO(9):12.
- 2 出嶋利明. 2003. 香川県のチョウ類に関する基礎的データ(1). へりぐる(24):2-13.
- 3 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 4 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐる(11):2-5
- 5 増井武彦. 1958. 石清尾山系の蝶相. 高松高等学校生物部部誌生物(7):30-35.
- 6 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 7 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 8 佐藤納. 1955. 小豆島のチョウとハチ. 小豆島の自然:17-18.
- 9 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 10 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 11 豊嶋弘・田中俊彦. 1985. 国営讃岐丘陵公園建設予定地のトンボ・バッタ・チョウなどについて. 国営讃岐丘陵公園動植物現況長伊佐報告書. 香川動植物の会:9-20.
- 12 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### オオキトンボ

- 1 石川一. 1982. 香川県産タイワンウチワヤンマとオオキトンボ. 昆虫と自然. 17(2):33.
- 2 環境庁. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(昆虫類). 香川県:35.
- 3 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 4 大沢尚之. 1979. 香川県のトンボ相について(支部大会講演要旨). 四国虫報. (23):126.
- 5 坂口清一. 1967. 香川県の蜻蛉目odonataの分布. 香川生物(3):39-45.
- 6 高木真人. 1985. 香川県中讃東部地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃東部地域):218-234.
- 7 和田洋介. 2000. 1999年香川県にて採集したトンボ. へりぐろ(21):2-8.

#### オオキベリアオゴミムシ

- 1 藤本博文. 2018. 坂出市で採集した甲虫. へりぐろ(39):5-10.
- 2 藤本博文. 2019. 香川県本土で採集したオサムシ科甲虫の記録. 香川生物(46):57-74.
- 3 濱口正幹. 2009. 高松市内でオオキベリアオゴミムシを採集. へりぐろ(30):30.
- 4 佐藤正昭. 1996. Coleoptera コウチュウ目. 町史ことひら(1)生物資料編:102-154.
- 5 佐藤正昭. 2003. Coleoptera コウチュウ目. 高瀬町史 生物資料編:109-158.

#### オオクボカミキリ

- 1 藤本博文. 2010. 大川山で採集した甲虫類(3). へりぐろ(31):31-34.
- 2 小笠原隆・高木真人・和田洋介. 2001. 香川県のカミキリ:79pp.
- 3 佐藤正昭. 2008. 四国で採集した甲虫(2). へりぐろ(29):2-8.

#### オオクロナガゴミムシ

- 1 濱口正幹・松本慶一. 2020. オオクロナガゴミムシの記録. へりぐろ(41):21-22.
- 2 佐藤陽路樹. 2000. 四国におけるオオクロナガゴミムシの記録. 甲虫ニュース(127-128):13.

#### オオクワガタ

- 1 安達和男. 1996. 香川県産オオクワガタの記録. へりぐろ(17):17.
- 2 出嶋利明. 2008. 高松市一宮町のオオクワガタの記録. へりぐろ(29):35.
- 3 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 4 栗生俊彦・安森盟文. 2015. 高松市東植田町で白色眼のオオクワガタを採集. へりぐろ(36):40.
- 5 栗生俊彦・安森盟文. 2017. 三豊市高瀬町でオオクワガタを採集. へりぐろ(38):18.
- 6 三木武司. 2007. 香川県のコガネムシ上科甲虫. 香川の生物:41-54.
- 7 佐藤正昭. 1975. 香川県象頭山の甲虫類(2). 月刊むし(47):30-33.
- 8 新谷邦雄. 2014. オオクワガタ. 日本の絶滅のおそれのある野生生物 昆虫編:263.
- 9 高八稔弘. 1992. 偶然に採れたオオクワガタ. へりぐろ(13):25.
- 10 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 11 安森盟文. 2007. 綾川町の灯火採集でオオクワガタを採集. へりぐろ(28):34.
- 12 安森盟文. 2010. さぬき市多和においてオオクワガタを採集. へりぐろ(31):28.
- 13 安森盟文・栗生俊彦. 2012. 高松市東植田町でオオクワガタを採集. へりぐろ(33):12.

#### オオシロカミキリ

- 1 安達和男・松岡信雄. 1998. 香川県で採集したカミキリムシ. へりぐろ(19):44.
- 2 久松定成. 1979. 日本昆虫学会四国支部第18回大会記. (23):121.
- 3 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 4 小笠原隆・高木真人・和田洋介. 2001. 香川県のカミキリ:79pp.
- 5 佐藤正昭. 1975. 香川県象頭山の甲虫類(9). 月刊むし(55):15-17.
- 6 高木真人. 1996. 1995年に琴平山で採集したカミキリムシ. へりぐろ(17):23-25.

#### オオタキメクラチビゴミムシ

- 1 Uéno S 1976. Occurance of *Stygiotrechus* (Coleoptera, Trechinae) in the Island of Shikoku, Japan. Bull, Natn, Sci, Mus., (A), 2(4):277-284.

#### オオチャバネセセリ

- 1 出嶋利明. 2006. 五色台でオオチャバネセセリを採集. へりぐろ(27):39.
- 2 出嶋利明. 2008. 五色台にて再びオオチャバネセセリを採集. へりぐろ(29):36.
- 3 出嶋利明. 2013. オオチャバネセセリを大麻山で採集. へりぐろ(34):9-10.
- 4 出嶋利明. 2014. 小豆島で採集されたツマグロキチョウ. へりぐろ(35):77.
- 5 出嶋利明. 2003. 香川県のチョウ類に関する基礎的データ(1). へりぐろ(24):2-13.
- 6 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 7 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐろ(11):2-5.
- 8 増井武彦. 1958. 石清尾山系の蝶相. 高松高等学校生物部誌生物(7):30-35.
- 9 三好康彦. 2010. 四国各地におけるオオチャバネセセリの記録. へりぐろ(31):65-62.
- 10 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 11 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 12 高八稔弘. 2010. 香川県内のセセリチョウの記録. へりぐろ(31):65-70.
- 13 高八稔弘. 2003. 高松市内にてオオチャバネセセリを採集. へりぐろ(24):13.
- 14 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.



- 15 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 16 葉王智. 2009. 綾川町でオオチャバネwセセリを採集. へりぐろ (30):52.
- 17 横井昭徳. 1951. 香川縣の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### オオツノハネカクシ

- 1 松沢寛. 1966. 塩田害虫オオツノハネカクシの生態と防除に関する研究. 日本専売公社昭和38・39年製塩囑託試験報告:1-54.
- 2 Miyatake M 1963. Two new species of the genus *Bledius* s. str. from Shikoku, Japan. 四國昆蟲学会会報 (7):106-111.

#### オオトラカミキリ

- 1 小笠原隆・高木真人・和田洋介. 2001. 香川縣のカミキリ:79pp.
- 2 佐藤正昭. 2010. 四国で採集した甲虫(4). へりぐろ (31):51-54.

#### オオハムシドロバチ

- 1 伊藤文紀. 2019. 環境省レッドリストに掲載されている狩りバチ類の香川縣における分布記録. へりぐろ (40):9-10.
- 2 Yamane Sk 1990. A revision of Japanese Eumenidae. Insecta Matumurana, n, s. (43):1-189.

#### オオヒラタツクリゴミムシ

- 1 所蔵昆虫標本目録作成委員会編. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター:255pp

#### オオフタホシマグソコガネ

- 1 細木康彦・宮尾雅士・溝淵清之・大槻和夫・中原吉春・早博文. 1982. 草地および放牧衛生管理におけるフン虫の利用に関する研究. 第14報 四国地域におけるフン虫の種類と出現消長. 高知県畜産試験場研究報告(12)7-15.
- 2 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町.
- 3 三木武司. 2009. 2008年コガネムシ科雑記(小豆島編). へりぐろ (30):39-41.
- 4 三木武司. 2011. 2010年コガネムシ雑記~香川のコガネムシ屋の1年~. へりぐろ (32):2-9.
- 5 三木武司. 2013. 2012年コガネムシ科雑記. へりぐろ (34):2-8.
- 6 佐野信雄. 1995. 瀬戸内海島しょ部で採集したコガネムシ科. へりぐろ (16):14-17.
- 7 佐野信雄. 1998. 1997年に採集した四国産糞虫類. へりぐろ (19):2-9.

#### オオマルケシゲンゴロウ

- 1 出嶋利明. 1997. オオマルケシゲンゴロウを小豆島で採集. へりぐろ (16):27.
- 2 出嶋利明. 2007. 香川縣の水生食肉甲虫類. 香川生物(34):83-96.
- 3 出嶋利明. 1999. 香川縣で採集したゲンゴロウ類. へりぐろ (20):17-19.
- 4 藤本博文. 2007. 香川縣島嶼部で採集した甲虫類. へりぐろ (28):47-54.
- 5 藤本博文. 2014. 香川縣島嶼部で採集した甲虫類の追加記録. へりぐろ (35):51-58.
- 6 藤本博文. 2019. 小豆島でオオマルケシゲンゴロウとコオイムシの健在を確認. へりぐろ (40):48.

#### オオミズスマシ

- 1 出嶋利明. 2005. 財田町の昆虫(1). へりぐろ (26):7-16.
- 2 出嶋利明. 2007. 香川縣の水生食肉甲虫類. 香川生物(34):83-96.
- 3 藤本博文・上手雄貴. 2003. 香川縣善通寺市与北町で採集した水生甲虫類. 甲虫ニュース(143):16-17.
- 5 北川雄士. 2004. 牟礼町で採集した昆虫. へりぐろ (25):20-25.
- 6 北川雄士. 2004. 牟礼町で採集した昆虫. へりぐろ (25):20-25.
- 7 三木武司. 2019. ミズスマシとオオミズスマシの最近の県内での採集記録. へりぐろ (40):44.
- 8 三木武司. 2019. ミズスマシとオオミズスマシの最近の県内での採集記録. へりぐろ (40):44.
- 9 高木真人. 1991. 綾上町(羽床上)高尾付近の昆虫類. 香川動植物の会:81-96.
- 10 豊嶋弘・高木真人. 1979. 香南台地の昆虫(目録). 動植物の会:89-107.
- 11 豊嶋弘・高木真人. 1979. 高山および周辺地域の昆虫. 動植物の会:111-131.
- 12 豊嶋弘. 1980. 与島・櫃石島の昆虫相. 昭和54年度一般国道30号(香川縣側)自然環境調査報告書:61-97.
- 13 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録:17-19.

#### オオミズムシ

- 1 藤本博文・出嶋利明. 2005. 香川縣で採集したミズムシ科昆虫の記録. へりぐろ (27):31-32.

#### オオミドリシジミ

- 1 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 2 久保康彦. 1982. 四国におけるオオミドリシジミの植樹に関する一知見. HERIGURU(4):12-16.
- 3 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐろ (11):2-5.
- 4 増井武彦. 1958. 石清尾山系の蝶相. 高松高等学校生物部部誌生物(7):30-35.
- 5 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 6 岡田行成. 1982. 1978年~1981年にかけて小豆島において採集した蝶. HERIGURO(5):5-7.
- 7 大手前学園生物部. 1956. 香川縣の蝶類. Vol. 4. (1).
- 8 佐藤納. 1955. 小豆島のチョウとハチ. 小豆島の自然:17-18.
- 9 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 10 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.

- 11 横井昭徳. 1951. 香川縣の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### オオムラサキ

- 1 今西正文. 1982. その他の小豆島における蝶の記録. HERIGURO(5):7.
- 2 井上豊. 1986. 真鈴峠にてオオムラサキを採集. HERIGURO(3):3-4.
- 3 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町.
- 4 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐる(11):2-5.
- 5 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 6 大眉博. 1992. オオムラサキの新産地. へりぐる(13):7.
- 7 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 8 坂口清一. 1959. 香川県の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物(2):21-24.
- 9 佐野信雄. 1991. 香川県産蝶類の食草について. へりぐる(12):38-40.
- 10 高八稔弘. 1993. 高見峰山麓の蝶. へりぐる(14):25.
- 11 高八稔弘. 1996. 大麻山農林試験場内の蝶. HERIGURO(8):30.
- 12 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 13 筒井裕貴. 2000. 今年の採集結果をふりかえって. へりぐる(21):36-38.
- 14 横井昭徳. 1951. 香川縣の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### オオヨツボシゴミムシ

- 1 藤本博文. 2018. 丸亀市島嶼部の甲虫類の追加記録(2). へりぐる(39):11-20.
- 2 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町.
- 3 佐藤正昭. 1975. 香川県象頭山の甲虫類(1). 月刊むし(46):13-18.
- 4 矢野俊郎. 1960. 四国産既知甲虫類目録(I). 松山昆虫同好会時報(10):1-36.
- 5 安森盟文. 2007. 高松市内でオオヨツボシゴミムシを採集. へりぐる(28):33.

#### オサムシモドキ

- 1 出嶋利明. 2001. 香川県で採集したゴミムシ類(1). へりぐる(22):34.
- 2 藤本博文. 2007. 香川県の島嶼別甲虫類分布表. へりぐる(28):55-85.
- 3 三木武司. 2000. 高見島で採集した甲虫. へりぐる(21):34-35.
- 4 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.

#### オジロサナエ

- 1 中條道夫. 1954. 四国のトンボ類(2). 新昆虫. 7(12):42.
- 2 環境庁. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(昆虫類). 香川県:33.
- 3 大平幸男. 1979. 五色台における河川の水生昆虫. 香川県自然科学館研究報告, 15-21.
- 4 坂口清一. 1959. 香川県の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物(2):21-24.
- 5 坂口清一. 1967. 香川県の蜻蛉目odonataの分布. 香川生物(3):39-45.
- 6 高木真人. 1982. 綾川・大東川水系及び五色台におけるトンボの分布. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃西部地域):279-284.
- 7 高木真人. 1986. 香川県東讃地域のトンボ相. 香川県自然環境保全基礎調査報告:193-210.
- 8 豊嶋弘・平井久男. 1953. 香川県産蜻蛉目4種の染色体の研究. 香川生物(1):17-19.
- 9 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録.
- 10 和田洋介. 2000. 1999年香川県にて採集したトンボ. へりぐる(21):2-8.
- 11 渡辺直・大平幸夫ほか. 1986. 香川県東讃地域における底生動物の分布. 香川県自然環境保全指標策定調査報告:211-224.
- 12 渡辺直. 大平幸男. 1987. 香川県小豆島(含豊島)の河川における底生動物の分布. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県小豆島地域):147-154.
- 13 葉王智. 1990. 香東川におけるトンボ類幼虫の流程分布. 香川生物(17):11-18.

#### オナガアゲハ

- 1 出嶋利明. 2008. 財田町の昆虫(2). へりぐる(29):15-20.
- 2 出嶋利明. 2001. 小豆島で採集した蝶・蛾. へりぐる(22):34-35.
- 3 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 4 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐる(11):2-5.
- 5 増井武彦. 1958. 石清尾山系の蝶相. 高松高等学校生物部誌生物(7):30-35.
- 6 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 7 岡田行成. 1982. 1978年~1981年にかけて小豆島において採集した蝶. HERIGURO(5):5-7.
- 8 大賀幸蔵. 1989. 備讃瀬戸に浮かぶ直島の蝶. へりぐる(11):6-7.
- 9 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 10 佐野信雄. 1991. 香川県産蝶類の食草について. へりぐる(12):38-40.
- 11 佐藤納. 1955. 小豆島のチョウとハチ. 小豆島の自然:17-18.
- 12 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 13 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 14 横井昭徳. 1951. 香川縣の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### オニクワガタ

- 1 三木武司. 2007. 香川県のコガネムシ上科甲虫. 香川の生物:41-54.
- 2 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 3 和田洋介. 1995. 大滝山山頂ブナ科の甲虫. へりぐろ(16):2-8.
- 4 安森盟文・栗生俊彦. 2012. 大滝山でオニクワガタを採集. へりぐろ(33):12.

#### ガガブタネクイハムシ

- 1 藤本博文. 2003. 香川県におけるネクイハムシ2種の記録. へりぐろ(24):83-87.
- 2 野尻湖昆虫グループ. 1985. アトラス・日本のネクイハムシ化石同定への手引き-.

#### カトリヤンマ

- 1 佐藤納. 1955. 小豆島調査記. 追手門. 17:36-45.
- 2 高木真人. 1982. 綾川・大東川水系及び五色台におけるトンボの分布. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃西部地域):279-284.
- 3 高木真人. 1985. 香川県中讃東部地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃東部地域):218-233.
- 4 高木真人. 1986. 香川県東讃地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査研究報告:193-210.
- 5 高木真人. 1987. 新川水系のため池におけるトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(新川水系):73-94.
- 6 高木真人. 1991. 綾上町(羽床上)高尾付近の昆虫類. 香川県仲多度郡岸上・帆山台地および綾歌郡綾上町(羽床上)高尾付近の動植物現況調査報告書:81-96.
- 7 豊嶋弘・高木真人. 1980. 香南台地の昆虫(目録). 香南台地および高山の生物:89-107.
- 8 豊嶋弘・田中俊彦. 1985. 国営讃岐丘陵公園建設予定地のトンボ・バッタ・チョウなどについて. 国営讃岐丘陵公園動植物現況調査報告書. 香川動植物の会:9-20.
- 9 和田洋介. 2000. 1999年香川県にて採集したトンボ. へりぐろ. (21):2-8.

#### カバフキシタバ

- 1 増井武彦. 1976. 四国の蛾分布資料(I). 蝶と蛾(27):66-72.

#### ガムシ

- 1 環境庁. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(昆虫類). 香川県:55.
- 2 高木真人. 2005. 柳間池の改修に伴う昆虫調査. へりぐろ(26):2-6.
- 3 安森盟文. 2019. ガムシの採集記録. へりぐろ(40):49.

#### カラスアゲハ本土亜種

- 1 出嶋利明. 1993. 佐柳島・栗島で採集した蝶について. へりぐろ(11):14-16.
- 2 出嶋利明. 2002. 大内町で採集した昆虫(2). へりぐろ(23):36-43.
- 3 藤本博文. 2012. 丸亀市広島でカラスアゲハをを目撃. へりぐろ(33):18.
- 4 今坂正文. 2019. カラスアゲハ異常形を採集. へりぐろ(40):4.
- 5 伊藤文紀. 2014. 屋島で目撃したチョウ. へりぐろ(35):33-34.
- 6 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 7 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐろ(11):2-5.
- 8 増井武彦. 1958. 石清尾山系の蝶相. 高松高等学校生物部部誌生物(7):30-35.
- 9 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 10 岡田行成. 1982. 1978年~1981年にかけて小豆島において採集した蝶. HERIGURO(5):5-7.
- 11 大賀幸蔵. 1989. 備讃瀬戸に浮かぶ直島の蝶. へりぐろ(11):6-7.
- 12 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 13 佐野信雄. 1991. 香川県産蝶類の食草について. へりぐろ(12):38-40.
- 14 高八稔弘・佐野信雄. 1994. 豊島で採集・目撃した蝶. へりぐろ(15):56-57.
- 15 田中舜. 2005. 豊島でカラスアゲハを採集. へりぐろ(26):42.
- 16 豊嶋弘. 1980. 与島・櫃石島の昆虫相. 昭和54年度一般国道30号(香川県側)自然環境調査報告書1980:61-85.
- 17 豊嶋弘. 1985. 与島および角山の昆虫(II). 昭和60年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:285-295.
- 18 豊嶋弘. 1988. 三谷剣山山麓の昆虫相. 高松市三谷剣山塊動植物現況調査報告書(香川動植物の会):1-14.
- 19 豊嶋弘. 1990. 三木町井上風呂谷地域の昆虫相. 香川県木田郡三木町(井上)風呂谷地域および三豊郡詫間町(大浜)船越・名部戸地域の動植物現況調査報告書(香川動植物の会):11-39.
- 20 豊嶋弘. 1990. 与島および角山の昆虫(IV). 平成元年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:275-294.
- 21 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 22 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 23 豊嶋弘・田中俊彦. 1985. 国営讃岐丘陵公園建設予定地のトンボ・バッタ・チョウなどについて. 国営讃岐丘陵公園動植物現況調査報告書. 香川動植物の会:9-20.
- 24 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### カワラゴミムシ

- 1 佐藤正昭. 2009. 四国で採集した甲虫(3). へりぐろ(30):55-59.

#### キイロサシガメ

- 1 宇都宮靖博. 2019. キイロサシガメの採集記録. へりぐろ(40):19.
- 2 脇悠太. 2020. 香川県におけるキイロサシガメの追加記録. へりぐろ(41):28.

#### キイロサナエ

- 1 中條道夫. 1954. 四国のトンボ類(2). 新昆虫. 7(12):42.
- 2 大平幸男. 1979. 五色台における河川の水生昆虫. 香川県自然科学館研究報告, 15-21.
- 3 坂口清一. 1967. 香川県の蜻蛉目Odonataの分布. 香川生物(3):39-45.
- 4 高木真人. 1982. 綾川・大東川水系及び五色台におけるトンボの分布. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃西部地域):279-284.
- 5 高木真人. 1985. 香川県中讃東部地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃東部地域):218-233.
- 6 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 7 渡辺直・大平幸夫. 1985. 満濃地区における底生動物の分布. 国営讃岐丘陵公園(仮称)地域の動植物現況調査報告書:1-8.
- 8 渡辺直・大平幸夫. 1985. 満濃地区における底生動物の分布. 国営讃岐丘陵公園(仮称)地域の動植物現況調査報告書:1-8.

#### キイロミモンエダシヤク

- 1 出嶋利明. 2004. 2003年に丸亀市手島で採集した昆虫. へりぐる(25):37-40.
- 2 増井武彦. 1979. 四国の蛾の分布資料(IX)対馬から既知の2種の四国における発見. 蝶と蛾(30):113-115.
- 3 増井武彦. 1991. 瀬戸内海沿岸地域蛾類 I. 屋島(その1). へりぐる(12):2-3.

#### キイロヤマトンボ

- 1 吉田一夫. 1999. 四国のキイロヤマトンボの新産地. Aeschna, (35):53-55.

#### ククセダカモクメ

- 1 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 2 豊嶋弘. 1966. 香川県の蛾(IV)ヤガ科(目録). 蛾類通信(32):226-227.

#### キシヤチホコ

- 1 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 2 豊嶋弘. 1963. 香川県の蛾(II)シヤチホコガ科(目録). げんせい(16):19-42.

#### キタウロコアリ

- 1 伊藤文紀. 2007. 香川県のアリ類. 香川の生物:179-184.
- 2 湊正寿・亀山剛・伊藤文紀・市野隆雄. 1996. 香川県のアリ相(予報). 蟻(20):9-13.
- 3 三崎愛美. 2016. ウロコアリ *Strumigenys lewisi* とキタウロコアリ *S. kumadori* の香川県における分布と生態および行動の比較. 香川大学農学部平成27年度卒業論文.

#### キトンボ

- 1 坂口清一. 1967. 香川県の蜻蛉目Odonataの分布. 香川生物(3):39-45.
- 2 高木真人. 1985. 香川県中讃東部地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃東部地域):218-233.
- 3 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録.
- 4 和田洋介. 2000. 1999年香川県にて採集したトンボ. へりぐる(21):2-8.

#### キハダケンモン

- 1 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.

#### キバナガミズギワゴミムシ

- 1 藤本博文. 1997. キバナガミズギワゴミムシ香川県の記録. へりぐる, (18):45.
- 2 藤本博文. 2018. 坂出市で採集した甲虫. へりぐる, (39):5-10.
- 3 藤本博文. 2019. 香川県本土で採集したオサムシ科甲虫の記録. 香川生物(46):57-74.

#### キバネキバナガミズギワゴミムシ

- 1 秋田勝己・締次美穂. 2011. キバナガミズギワゴミムシの生態観察例. さやばねニューシリーズ, (4):12-14.
- 2 三木武司. 2002. 記録の少ないオサムシ科・テントウムシ科の記録. 月刊むし(382):17-18.

#### キバラハキリバチ

- 1 Ikudome S, Yamane Sk 1990. The distribution of megachilid bees in the Ryukyu Islands, Japan (Hymenoptera, Apoidea). Bulletin of Institute of Minami-kyushu Regional Science, Kagoshima Women's Junior College (6):95-108.
- 2 伊藤文紀. 2016. 環境省レッドリストで選定されたハナバチ類の香川県における分布記録. へりぐる(37):27-29.

#### ケベリマルクビゴミムシ

- 1 佐藤正昭. 1996. 琴平町史編集委員会. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.

#### キボシケシゲンゴロウ

- 1 出嶋利明. 2007. 香川県の水生食肉甲虫類. 香川生物(34):83-96.
- 2 藤本博文. 2001. 土器川とその流域で採集されたゲンゴロウ類. へりぐる(22):32-33.
- 3 内田清. 1993. 香川県産ゲンゴロウ2種の記録. 月刊むし(274):13.

#### キボシチビコツブゲンゴロウ

- 1 出嶋利明. 2007. 香川県の水生食肉甲虫類. 香川生物(34):83-96.

- 2 藤本博文・上手雄貴. 2003. 香川県善通寺市与北町で採集した水生甲虫類. 甲虫ニュース(143):16-17.
- 3 藤本博文. 2018. 坂出市で採集した甲虫. へりぐろ(39):5-10.

#### キマダラセセリ

- 1 出嶋利明. 2004. 2004, 2003年に丸亀市手島で採集した甲虫類, へりぐろ(25):37-40.
- 2 出嶋利明. 2008. 財田町の昆虫(2). へりぐろ(29):15-20.
- 3 出嶋利明. 2009. 詫間町栗島で採集した昆虫. へりぐろ(30):31-34.
- 4 出嶋利明. 2018. 坂出市日櫃石島で採集した昆虫. へりぐろ(39):1-2.
- 5 出嶋利明. 2001. 小豆島で採集した蝶・蛾. へりぐろ(22):6-9.
- 6 出嶋利明. 2003. 女木島の昆虫(I). へりぐろ(24):24-29.
- 7 出嶋利明. 2003. 香川県のチョウ類に関する基礎的データ(1). へりぐろ(24):2-13.
- 8 出嶋利明. 2003. 大内町で採集した昆虫(3). へりぐろ(24):40-44.
- 9 北川雄士. 2004. 牟礼町で採集した昆虫. へりぐろ(25):20-25.
- 10 北川雄士. 2003. 牛島での最終会で採集した昆虫. へりぐろ(24):36.
- 11 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 12 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐろ(11):2-5.
- 13 増井武彦. 1958. 石清尾山系の蝶相. 高松高等学校生物部誌生物(7):30-35.
- 14 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 15 岡田行成. 1982. 1978年~1981年にかけて小豆島において採集した蝶. HERIGURO(5):5-7.
- 16 大賀幸蔵. 1989. 備讃瀬戸に浮かぶ直島の蝶. へりぐろ(11):6-7.
- 17 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 18 佐野信雄. 1997. 佐柳島で目撃した蝶. へりぐろ(18):42.
- 19 高八稔弘. 2010. 香川県内のセセリチョウの記録. へりぐろ(31):65-70.
- 20 高八稔弘. 1987. 女木島(鬼ヶ島)の9月上旬の蝶について. HERIGURO(9):21-22.
- 21 高八稔弘. 1989. 女木島の蝶. へりぐろ(11):8-9.
- 22 高八稔弘. 1989. 荘内半島・紫雲出山7月の蝶. へりぐろ(11):26.
- 23 高八稔弘. 1996. 大麻山農林試験地内の蝶. へりぐろ(8):30.
- 24 豊嶋弘. 1980. 与島・櫃石島の昆虫相. 昭和54年度一般国道30号(香川県側)自然環境調査報告書1980:61-85.
- 25 豊嶋弘. 1981. 聖通寺山・角山の昆虫相. 昭和55年度一般国道30号(香川県側)自然環境調査報告書:53-97.
- 26 豊嶋弘. 1984. 与島および角山の昆虫(IV). 平成元年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:271-284.
- 27 豊嶋弘. 1988. 三谷剣山山麓の昆虫相. 高松市三谷剣山塊動植物現況調査報告書(香川動植物の会):1-14.
- 28 豊嶋弘. 1990. 三木町井上風呂谷地域の昆虫相. 香川県木田郡三木町(井上)風呂谷地域および三豊郡詫間町(大浜)船越・名部戸地域の動植物現況調査報告書(香川動植物の会):11-38.
- 29 豊嶋弘. 1990. 与島および角山の昆虫(IV). 平成元年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:275-294.
- 30 豊嶋弘. 1992. 与島および角山の昆虫(V). 平成3年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:283-316.
- 31 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 32 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 33 豊嶋弘・田中俊彦. 1985. 国営讃岐丘陵公園建設予定地のトンボ・バッタ・チョウなどについて. 国営讃岐丘陵公園動植物現況調査報告書. 香川動植物の会:9-20.
- 34 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### キマダラモドキ

- 1 麻生川俊哉. 2002. 善通寺市大麻山でキマダラモドキを採集. へりぐろ(23):31.
- 2 出嶋利明. 1985. 塩江町でキマダラモドキを採集. HERIGURO(9):26.
- 3 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 4 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 5 坂口清一. 1959. 香川県の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物(2):21-24.
- 6 高八稔弘. 2018. 香川県におけるキマダラモドキの産地II. へりぐろ(39):57-58.
- 7 高八稔弘. 2006. 満濃町にてキマダラモドキを採集. へりぐろ(21):32.
- 8 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 9 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 10 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### キョウトアオハナムグリ

- 1 三木武司. 2010. 2009年コガネムシ科雑記. へりぐろ(31):21-28.
- 2 三木武司. 2012. 2011年コガネムシ科雑記. へりぐろ(33):2-6.
- 3 佐野信雄. 1992. 香川県の珍しい*Protaetia*属3種の記録. へりぐろ(13):38-39.
- 4 佐野信雄. 1995. 山本町でキョウトアオハナムグリを採集. へりぐろ(16):31.

#### キリシマミドリシジミ

- 1 久保康彦. 1989. 四国瀬戸内側のキリシマミドリシジミ&ヒサマツミドリシジミ. へりぐろ(11):18-20.
- 2 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.

#### キンキコリクワガタ

- 1 久保田耕平・久保田典子・乙部宏. 2009. 日本産リクワガタ属の系統と進化(1)-コリクワガタ種群の分類-. 月刊むし(462):6-21.

- 2 三木武司. 2007 香川県のコガネムシ上科甲虫. 香川の生物:41-54.
- 3 佐野信雄. 1991. 四国におけるルリクワガタの分布. へりぐろ(13):2-7.
- 4 佐野信雄. 1989. 阿讃山脈のコルリクワガタ. へりぐろ(11):24-25.
- 5 和田洋介. 1995. 大滝山山頂ブナ科の甲虫. へりぐろ(16):2-8.
- 6 葉王智. 1994. 大滝山産クワガタムシ2種の記録. 香川生物(21):37.

#### クズハキリバチ

- 1 伊藤文紀. 2016. 環境省レッドリストで選定されたハナバチ類の香川県における分布記録. へりぐろ(37):27-29.
- 2 伊藤文紀・滝朋子. 2019. クズハキリバチの香川県における採集記録. へりぐろ(40):11.
- 3 Iwata K 1963. Miscellaneous biological notes on aculeate Hymenoptera in Kagawa in the years 1948 and 1949. Trans. Shikoku Ent. Soc. (7):114-118.

#### クチキマグソコガネ

- 1 三木武司. 2013. 四国屋島でクチキマグソコガネ採集される. 鯉角通信(27):28.
- 2 三木武司. 2014. 屋島のセンチコガネ科・コガネムシ科. へりぐろ(35):19-22.
- 3 宇都宮靖博. 2012. 四国初記録のクチキマグソコガネ. 鯉角通信(25):31-32.

#### クビグロケンモン

- 1 増井武彦. 1979. 四国の蛾の分布資料(VII)香川県未記録ヤガ56種について. 蛾類通信(101):10-15.

#### クビジロツメヨトウ

- 1 増井武彦. 1977. 四国の蛾の分布資料(II)四国の蛾分布資料(II). 蛾類通信(92):521-531.

#### クビナガキベリアオゴミムシ

- 1 Bates H W 1883. Supplement to the geodephagus Coleoptera of Japan, chiefly from the collection of Mr. George Lewis, made during his second visit, from February, 1880, to September, 1881. Trans. Ent. Soc. 1883: 205-290+ pl. 13.

#### クモガタヒョウモン

- 1 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 2 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐろ(11):2-5.
- 3 増井武彦. 1958. 石清尾山系の蝶相. 高松高等学校生物部部誌生物(7):30-35.
- 4 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 5 岡田行成. 1982. 1978年～1981年にかけて小豆島において採集した蝶. HERIGURO(5):5-7.
- 6 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 7 佐藤納. 1955. 小豆島のチョウとハチ. 小豆島の自然:17-18.
- 8 豊嶋弘. 1988. 三谷剣山山麓の昆虫相. 高松市三谷剣山塊動植物現況調査報告書(香川動植物の会):1-14.
- 9 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 10 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 11 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### クロアシナガコガネ

- 1 三木武司. 2017. 2016年のコガネムシ科～小豆島のクロアシナガコガネ～. へりぐろ(38):15-16.

#### クロカタビロオサムシ

- 1 出嶋克史・出嶋利明. 1988. 香川県でクロカタビロオサムシを採集. 昆虫と自然(13):31.
- 2 藤本博文. 2001. クロカタビロオサムシ高松市峰山で採集される. へりぐろ(21):52.
- 3 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町.
- 4 三木武司. 2017. さぬき市でクロカタビロオサムシを採集. へりぐろ(38):19.
- 5 佐野信雄. 1988. クロカタビロオサムシ香川県の記録. 月刊むし(205):38.
- 6 脇悠太. 2018. 屋島でクロカタビロオサムシを採集. へりぐろ(39):21.

#### クロカナブン

- 1 三木武司. 2011. 香川県のクロカナブンの採集記録. へりぐろ(32):21.
- 2 三木武司. 2014. 香川県のクロカナブン. へりぐろ(35):70.
- 3 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 4 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.

#### クロゲンゴロウ

- 1 出嶋利明. 2007. 香川県の水生食肉甲虫類. 香川生物(34):83-96.
- 2 出嶋利明. 1999. 香川県で採集したゲンゴロウ類. へりぐろ(20):17-19.
- 3 高木真人. 2005. 柳間池の改修に伴う昆虫調査. へりぐろ(26):2-6.
- 4 山本直樹. 1994. 白鳥町のゲンゴロウ科の記録. へりぐろ(15):24-25.

#### クロサナエ

- 1 坂口清一. 1967. 香川県の蜻蛉目Odonataの分布. 香川生物(3):39-45.
- 2 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 3 和田洋介. 2000. 1999年香川県にて採集したトンボ. へりぐろ(21):2-8.
- 4 葉王智. 1990. 香東川におけるトンボ類幼虫の流程分布. 香川生物(17):11-18.

#### クロシジミ

- 1 出嶋利明. 2003. 香川県のチョウ類に関する基礎的データ(1). へりぐろ(24):2-13.
- 2 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 3 坂口清一. 1959. 香川県の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物(2):21-24.
- 4 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 5 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### クロツバメシジミ

- 1 稲沢耕二. 1988. クロツバメシジミの新産地. HERIGURO(10):9.
- 2 伊藤寿. 2003. 香川県豊島でクロツバメシジミを採集. 月刊むし(394):11.
- 3 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐろ(11):2-5
- 4 三木武司. 2009. クロツバメシジミの11月の目撃記録. へりぐろ(30):38.
- 5 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 6 岡田行成. 1982. 1978年~1981年にかけて小豆島において採集した蝶. HERIGURO(5):5-7.
- 7 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 8 坂口清一. 1959. 香川県の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物(2):21-24.
- 9 高八稔弘. 1999. 香川県下におけるクロツバメシジミの生息地と生息状況調査報告. へりぐろ(20):10-13.
- 10 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 11 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### クロヒカゲモドキ

- 1 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 2 大眉博. 2004. クロヒカゲモドキについて. へりぐろ(25):60-61.
- 3 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 4 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 5 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 6 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### クロマダラタマムシ

- 1 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町.
- 2 佐藤正昭. 1975. 香川県象頭山の甲虫類(3). 月刊むし(48):30-32.
- 3 高八稔弘. 2002. 香川県でのクロマダラタマムシの採集記録. へりぐろ(23):60.
- 4 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 5 筒井裕貴. 2000. 高松市仏生山町でクロマダラタマムシを採集. へりぐろ(21):21.

#### ゲンバイトンボ

- 1 出嶋利明. 2005. 財田町の昆虫(1). へりぐろ(26):7-16.
- 2 井上清. 1996. 香川県土器川のトンボの小記録. gracile(56):37.
- 3 伊藤修四郎他. 1977. 原色日本昆虫図鑑. 保育社. 大阪.
- 4 永瀬 幸一. 1974. 四国のゲンバイトンボ. gracile(17):17.
- 5 永瀬 幸一. 1975. 香川県のトンボ. gracile(18):13-15.
- 6 高木真人. 1984. 香川県産トンボの記録. 月刊むし(160):18-19.
- 7 高木真人. 2008. 香川県におけるゲンバイトンボの生息調査報告. gracile(70):17-21.
- 8 和田洋介. 2000. 1999年香川県にて採集したトンボ. へりぐろ(21):2-8.

#### ゲンゴロウ

- 1 出嶋利明. 2007. 香川県の水生食肉甲虫類. 香川生物(34):83-96.
- 2 山本直樹. 1994. 白鳥町のゲンゴロウ科の記録. へりぐろ(15):24-25.

#### コアオアトキリゴミムシ

- 1 Shi H, Zhou H, Liang H 2013. Taxonomic synopsis of the subtribe Physoderina (Coleoptera, Carabidae, Lebiini), with species revisions of eight genera. ZooKeys 284:1-129.

#### コオイムシ

- 1 出嶋利明. 1997. オオマルケシゲンゴロウを小豆島で採集. へりぐろ(16):27.
- 2 出嶋利明. 2003. 大内町で採集した昆虫(3). へりぐろ(24):40-44.
- 3 出嶋利明. 2005. 財田町の昆虫(1). へりぐろ(26):7-16.
- 4 出嶋利明. 2010. 豊島で採集された昆虫のリスト. へりぐろ(31):39-49.
- 5 出嶋利明. 2005. 2003~2004年に豊島で採集した昆虫. へりぐろ(26):37-41.
- 6 藤本博文. 2003. 中讃地域におけるコオイムシの採集記録. へりぐろ(24):73-77.
- 7 藤本博文ほか. 2009. 綾川町粉所東庄坂「里山」で採集した昆虫類. へりぐろ(30):15-29.
- 8 藤本博文. 2019. 小豆島でオオマルケシゲンゴロウとコオイムシの健在を確認. へりぐろ(40):48.
- 9 北川雄士. 2004. 牟礼町で採集した昆虫. へりぐろ(25):20-25.
- 10 三木武司. 2010. 綾川町粉所東庄坂「里山」で採集した半翅目昆虫類. へりぐろ(31):29-30.
- 11 高木真人. 2005. 柳間池の改修に伴う昆虫調査. へりぐろ(26):2-6.

- 12 豊嶋弘. 1980. 与島・櫃石島の昆虫相. 昭和54年度一般国道30号(香川県側)自然環境調査報告書:61-97.
- 13 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録:17-19.
- コガタノゲンゴロウ
- 1 出嶋利明. 2007. 香川県の水生食肉甲虫類. 香川生物(34):83-96.
- 2 環境庁. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(昆虫類). 香川県:54.
- 3 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録:17-19.
- コキベリアオゴミムシ
- 1 藤本博文. 2019. 香川県本土で採集したオサムシ科甲虫の記録. 香川生物(46):57-74.
- 2 佐野信雄. 1995. 香川県で採集したゴミムシの記録. へりぐろ(16):44-6.
- コクロマメゲンゴロウ
- 1 出嶋利明. 1998. コクロマメゲンゴロウの香川県からの記録. 月刊むし(331):42.
- 2 出嶋利明. 2007. 香川県の水生食肉甲虫類. 香川生物(34):83-96.
- 3 出嶋利明. 1999. 香川県で採集したゲンゴロウ類. へりぐろ(20):17-19.
- 4 宇都宮靖博. 2019. コクロマメゲンゴロウを東かがわ市で確認. へりぐろ(40):49.
- コゴマヨトウ
- 1 増井武彦. 1977. 四国の蛾の分布資料(II)四国の蛾分布資料(II). 蛾類通信(92):521-531.
- ゴシキメクラチビゴミムシ
- 1 Uéno S 1990. A new subspecies of *Trechiana exilis* (Coleoptera Trechinae), *Elytra*, 18(1):29-30.
- コシボソヤンマ
- 1 永瀬幸一. 1989. 香川県オオカワトンボ調査(f. *kadowakii*)・タバサナエの調査会報告. *gracile*(31):18-19.
- 2 佐藤正昭・豊嶋弘. 1992. 1990年に採集した香東川水系のトンボ類. へりぐろ(13):14-16.
- 3 高木真人. 1982. 綾川・大東川水系及び五色台におけるトンボの分布. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃西部地域):279-284.
- 4 渡辺直. 大平幸男. 1987. 新川水系のため池における底生動物の分布. 香川県自然環境委保全指標策定調査報告書(新川水系):63-72.
- コニワハンミョウ
- 1 出嶋利明. 2000. 香川県におけるコニワハンミョウ類の記録. へりぐろ(21):40.
- 2 出嶋利明. 2003. 香川県におけるハンミョウ類の記録と訂正. へりぐろ(24):56.
- コノシメトンボ
- 1 坂口清一. 1967. 香川県の蜻蛉目Odonataの分布. 香川生物(3):39-45.
- 2 高木真人. 1982. 綾川・大東川水系及び五色台におけるトンボの分布. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃西部地域):279-284.
- 3 豊嶋弘. 1988. 与島および角山の昆虫(III). 昭和62年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:271-284.
- 4 和田洋介. 2000. 1999年香川県にて採集したトンボ. へりぐろ(21):2-8.
- コバネアオイトトンボ
- 1 永瀬幸一. 1975. 香川県のトンボ. *gracile*(18):13-15.
- 2 高木真人. 2005. 柳間池(東かがわ市五名弘川)の改修に伴う昆虫調査. へりぐろ(26):2-6.
- 3 高木真人. 1984. 香川県産トンボの記録. 月刊むし(160):18-19.
- 4 和田洋介. 2000. 1999年香川県にて採集したトンボ. へりぐろ(21):2-8.
- 5 山本悠紀夫. 1955. 四国未記録のトンボ. 中部昆虫同好会会報. 9:31-32.
- ゴホンダイコクコガネ
- 1 林匡夫. 1956. 小豆島の昆虫. 続小豆島の自然:12-17.
- 2 古市光信他. 1976. 小豆島の自然. さぬきの自然の旅:37-45.
- 3 大平幸男. 1974. 香川県の動植物. 市民文庫シリーズ4:74-75.
- 4 高橋徹・春沢圭太郎. 2014. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録(3), コガネムシ上科:食糞群:47-100.
- 5 矢野俊郎. 1960. 四国産既知甲虫類目録III(多食亜目II). 松山昆虫同好会時報(16):1-20.
- ゴマシオキシタバ
- 1 出嶋利明. 1998. 大滝山野外観察会で採集した蛾. 香川県高等学校教育研究会理化生地部会会誌(34):78-70.
- 2 佐藤正明. 1974. 香川県香東川流域珍種蛾類(II). 蛾類通信(76):267-273.
- ゴマダラチビゲンゴロウ
- 1 藤本博文. 2001. 土器川とその流域で採集されたゲンゴロウ類. へりぐろ(22):32-33.
- 2 藤本博文. 2003. 土器川とその流域で採集したゲンゴロウ類(2). へりぐろ(24):80-81.
- コマルケシゲンゴロウ
- 1 出嶋利明. 2007. 香川県の水生食肉甲虫類. 香川生物(34):83-96.
- 2 藤本博文・上手雄貴. 2003. 香川県善通寺市与北町で採集した水生甲虫類. 甲虫ニュース(143):16-17.
- ゴミアシナガサシガメ
- 1 高木真人. 2019. 香川県におけるゴミアシナガサシガメの採集記録. へりぐろ(40):19.
- コミズスマシ
- 1 出嶋利明. 2007. 香川県の水生食肉甲虫類. 香川生物(34):83-96.
- 2 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録:17-19.



#### コムラサキ

- 1 出嶋利明. 2005. 財田町の昆虫 (I). へりぐろ (26):7-16.
- 2 北川雄士. 2000. 1999年に採った虫. 目撃した虫など. へりぐろ (21):38-39.
- 3 北川雄士. 2004. 牟礼町で採集した昆虫. へりぐろ (25):20-25.
- 4 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 5 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐろ (11):2-5.
- 6 増井武彦. 1958. 石清尾山系の蝶相. 高松高等学校生物部部誌生物 (7):30-35.
- 7 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 8 大賀幸蔵. 1989. 備讃瀬戸に浮かぶ直島の蝶. へりぐろ (11):6-7.
- 9 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 10 佐藤納. 1955. 小豆島のチョウとハチ. 小豆島の自然:17-18.
- 11 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録 (第2集). 高松市市民文化センター.
- 12 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 13 筒井裕貴. 2000. 今年の採集結果をふりかえって. へりぐろ (21)36-38.
- 14 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### コンピラオオコバナネハネカクシ

- 1 Watanabe Y 1991. Four new species of the group *Lathorobium harimanum* (Coleoptera, Staphylinidae) from Japan. Bull. Natl. Sci. Mus. Ser. A (Zool.) 17, (3):145-156.
- 2 渡辺泰明・吉田正隆. 2000. 四国産オオコバナネナガハネカクシ種群 (甲虫:ハネカクシ科)について. 徳島昆虫 (11):11-16.

#### コンピラチャイロコガネ

- 1 小林裕和・松本武. 2011. 日本産コガネムシ上科図説 第3巻 食葉群 II.
- 2 Miyake Y, Sano N 1996. A new species of genus *Sericania* Motschulsky. from Shikoku, Japan. Ent. Rev. Japan 51 (2):117-119.
- 3 高木真人. 2000. 琴平山. 昆虫類の多様性保護のための重要地域第2集:78-79.

#### コンピラメクラチビゴミムシ

- 1 Uéno S 1980. New *Stygiotrechus* (Coleoptera, Trechinae) from non-calcareous area. J. speleol. Soc. Japan 5:1-12.

#### サザナミコヤガ

- 1 井上寛・杉 敏郎ら. 1982. 日本産蛾類大図鑑. 講談社:802-803.

#### サトウヌレチゴミムシ

- 1 藤本博文. 2002. 2001年に大川山で採集した甲虫類. へりぐろ (23):11-26.
- 2 Habu A 1976. Three new species of *Apatrobus*, a subgenus of *Patrobus* from Shikoku, Japan. Trans. Shikoku Ent. Rev. 13 (1-2):9-17.
- 3 佐藤正昭. 1996. 琴平町史編集委員会. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.

#### サトウメクラチビゴミムシ

- 1 藤本博文. 2002. 2001年に大川山で採集した甲虫類. へりぐろ (23):11-26.
- 2 三木武司. 2004. 琴南町でサトウメクラチビゴミムシを採集. へりぐろ (25):49.
- 3 Uéno S 1975. Two new *Trechiana* (Coleoptera Trechinae) from eastern Shikoku, Japan. Bull. Natn. Sci. Mus., (A), 1 (4):203-212.
- 4 Uéno S 1983. The anophthalmic Trechinae beetle from Takamatsu, southwest Japan. Bull. Natn. Sci. Mus., (A), 9 (2):69-77.

#### サヌキキリガ

- 1 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 2 杉 敏郎. 1967. ヤガ科の日本未記録属 *Elwesia*の四国からの発見. 蝶と蛾 (18):10-11.
- 3 豊嶋弘. 1969. 香川県の蛾. 蛾類通信 (57):666-668.

#### サヌキササキリモドキ

- 1 佐野信雄. 2020. 香川県のニョタイササキリモドキとサヌキササキリモドキの分布調査. へりぐろ (41):33-35.

#### サヌキセダカコブヤハズカミキリ

- 1 藤本博文. 2003. 大川山で採集した甲虫類 (2). へりぐろ (24):45-51.
- 2 小笠原隆・高木真人・和田洋介. 2001. 香川県のカミキリ:79pp.
- 3 佐野信雄. 1989. 淡路島・小豆島のコブヤハズカミキリ. へりぐろ (11):10-13.
- 4 佐野信雄. 1993. 阿讃山脈のセダカコブヤハズカミキリ II. へりぐろ (14) 6-10.
- 5 佐藤正昭. 2015. 天満ヶ原高原 (標高930m) 周辺のカミキリ. へりぐろ (36):21-26.
- 6 高桑正敏・中林博之・小林敏男編. 2020. 日本のコブヤハズカミキリ. むし社.
- 7 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 8 和田洋介. 1995. 大滝山山頂ブナ林の甲虫. へりぐろ (16)2-10.

#### サラサヤンマ

- 1 環境庁. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書 (昆虫類). 香川県:34.

- 2 大沢尚之. 1979. 香川県のトンボ相について(支部大会講演要旨). 四国虫報. (23):126.
  - 3 高木真人. 1984. 香川県産トンボの記録. 月刊むし(160):18-19.
  - 4 高木真人. 1985. 香川県中讃東部地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃東部地域):218-233.
  - 5 豊嶋弘. 1991. 岸上・帆の山台地の昆虫類. 香川県仲多度郡岸上・帆の山台地および綾歌郡綾上町(羽床上)高尾付近の動植物現況調査報告書:1-29.
  - 6 豊嶋弘・田中俊彦. 1985. 国営讃岐丘陵公園建設予定地のトンボ・バッタ・チョウなどについて. 国営讃岐丘陵公園動植物現況調査報告書. 香川動植物の会:9-20.
  - 7 和田洋介. 2000. 1999年香川県にて採集したトンボ. へりぐる(21):2-8.
- シータテハ
- 1 出嶋利明. 1980. 暖地のシータテハ. 月刊高校通信東書1980. 12. 1:5-7.
  - 2 出嶋利明. 1984. 香川県のシータテハの記録. HERIGURO(6):14-15.
  - 3 今西正文. 1982. その他の小豆島における蝶の記録. HERIGURO(5):7.
  - 4 井上豊. 1982. 綾上町にてシータテハ(夏型)採集. HERIGURO(5):11.
  - 5 久保康彦. 1988. シータテハの平野部での記録. HERIGURO(10)5.
  - 6 増井武彦. 1958. 石清尾山系の蝶相. 高松高等学校生物部部誌生物(7):30-35.
  - 7 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
  - 8 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
  - 9 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
  - 10 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
  - 11 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.
- シーモンアツバ
- 1 増井武彦. 1977. 四国の蛾の分布資料(II) 四国の蛾分布資料(II). 蛾類通信(92):521-531.
- シコクトゲオトンボ
- 1 環境庁. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(昆虫類). 香川県:32.
  - 2 奥村定一. 1952. 四国の蜻蛉類. 自然科学と博物館. 19(7-8):144-152.
  - 3 高木真人. 1985. 香川県中讃東部地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃東部地域):218-233.
  - 4 高木真人. 1986. 香川県東讃地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書:193-210.
  - 5 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録.
  - 6 和田洋介. 2000. 1999年香川県にて採集したトンボ. へりぐる(21):2-8.
- シマゲンゴロウ
- 1 出嶋利明. 2002. 大内町で採集した昆虫(2). へりぐる(23):36-43.
  - 2 出嶋利明. 2007. 香川県の水生食肉甲虫類. 香川生物(34):83-96.
  - 3 藤本博文・上手雄貴. 2003. 香川県善通寺市与北町で採集した水生甲虫類. 甲虫ニュース(143):16-17.
  - 4 濱口正幹・三木武司. 2008. 綾川町里山で夜間採集した甲虫. へりぐる(29):9-13.
  - 5 高木真人. 1991. 綾上町(羽床上)高尾付近の昆虫類. 香川動植物の会:81-96.
  - 6 高木真人. 2005. 柳間池の改修に伴う昆虫調査. へりぐる(26):2-6.
  - 7 豊嶋弘・高木真人. 1979. 高山および周辺地域の昆虫. 動植物の会:111-131.
  - 8 山本直樹. 1994. 白鳥町のゲンゴロウ科の記録. へりぐる(15):24-25.
- ジュウクホシテントウ
- 1 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町, 琴平.
  - 2 三木武司. 2004. ジュウクホシテントウ. 香川県レッドデータブック, 333.
  - 3 三木武司. 2002. 記録の少ないオサムシ科・テントウムシ科の記録. 月刊むし(382):17-18.
  - 4 脇悠太・大生唯統. 2019. 鴨部川におけるジュウクホシテントウの追加記録. へりぐる(40):54.
- ジュウサンホシテントウ
- 1 小倉順二. 2003. 2001・2002年に採集した甲虫類. へりぐる(24):64-65.
  - 2 宇都宮靖博. 2016. 香南町岡にて採集した甲虫2種について. へりぐる(37):29.
  - 3 脇悠太. 2018. ジュウサンホシテントウを春日川中流域で採集. へりぐる(39):31.
- ショウドシマナガチビゴミムシ
- 1 Ueno S 1983. Occurrence of migrophthalmic *Trechiana* (Coleoptera, Trechinae) on the Island of Shōdo-shima in West Japan. J. speleol. Soc. Japan, 8:1-6.
- ショウブオオヨトウ
- 1 増井武彦. 1981. 四国の蛾の分布資料(XIII). 蛾類通信(111):166-172.
- シルビアシジミ
- 1 出嶋利明. 1987. 香川県でシルビアシジミを採集. HERIGURO(9):26.
  - 2 出嶋利明. 2003. 香川県のチョウ類に関する基礎的データ(1). へりぐる(24)2-13.
  - 3 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐる(11):2-5
  - 4 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
  - 5 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.

- 6 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 7 横井昭徳. 1951. 香川縣の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

シロスジエグリシャチホコ

- 1 豊嶋弘. 1963. 香川縣の蛾(Ⅱ)シャチホコガ科(目録). げんせい(16):19-42.

シロスジコガネ

- 1 藤本博文・北川雄士. 2004. 丸亀市広島で採集した昆虫類. へりぐろ(25):41-47.
- 2 藤本博文. 2010. シロスジコガネを宇多津町で採集. へりぐろ(31):54.
- 3 北川雄士. 2005. 丸亀市手島で2004年に採集した昆虫. へりぐろ(26):43-44.
- 4 三木武司. 2003. 粟島で採集した甲虫. へりぐろ(24):33-35.
- 5 三木武司. 2010. 2009年コガネムシ科雑記. へりぐろ(31):21-28.
- 6 三木武司. 2014. 屋島のセンココガネ科・コガネムシ科. へりぐろ(35):19-22.
- 7 三木武司. 2018. 豊嶋弘先生のコガネムシ科標本を閲見して. へりぐろ(39):24-25.
- 8 佐野信雄. 2001. 香川で採集したヒゲコガネと象頭山で採集したシロスジコガネについて. へりぐろ(22):53-54.
- 9 高八稔弘. 1999. 豊浜町でシロスジコガネを採集. へりぐろ(20):29.
- 10 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 11 脇悠太. 2017. さぬき市でシロスジコガネを採集. へりぐろ(38):18.
- 12 安森盟文. 2013. 高松市内でシロスジコガネを採集. へりぐろ(34):8.

シロトリメクラチビゴミムシ

- 1 大生唯統・蒔田将吾・脇悠太・佐藤正昭. 2019. シロトリメクラチビゴミムシ36年ぶりに新産地で再発見. へりぐろ(40):40.
- 2 Uéno S 1983. The faunal affinity of the islands of Awaji-shima as viewed from Trechine beetles, Annot. Zool. Japan, 56(4):351-357.

シロヘリツチカメムシ

- 1 宇都宮靖博. 2020. シロヘリツチカメムシの記録. へりぐろ(41):29.

スジボソヤマキチョウ

- 1 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 2 大手前学園生物部. 1956. 香川縣の蝶類. Vol. 4. (1).
- 3 坂口清一. 1959. 香川縣の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物(2):21-24.
- 4 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 5 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 6 横井昭徳. 1951. 香川縣の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

スミナガシ

- 1 出嶋利明. 2001. 大内町で採集した昆虫(Ⅰ). へりぐろ(22):55-61.
- 2 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐろ(11):2-5.
- 3 三木武司. 2005. 高松市朝日町でスミナガシが採集される. へりぐろ(26):20.
- 4 三木武司. 1997. 峰山でスミナガシを目撃. へりぐろ(18):46.
- 5 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 6 大手前学園生物部. 1956. 香川縣の蝶類. Vol. 4. (1).
- 7 佐藤正明. 2016. 大滝山キャンプ場でスミナガシを採集. へりぐろ(37):31.
- 8 佐藤納. 1955. 小豆島のチョウとハチ. 小豆島の自然:17-18.
- 9 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 10 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 11 豊嶋弘・田中俊彦. 1985. 国営讃岐丘陵公園建設予定地のトンボ・バッタ・チョウなどについて. 国営讃岐丘陵公園動植物現況調査報告書. 香川動植物の会:9-20.
- 12 横井昭徳. 1951. 香川縣の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

セグロバッタ(セグロイナゴ)

- 1 出嶋利明. 2010. 豊島で採集された昆虫のリスト. へりぐろ(31):39-49.
- 2 豊嶋弘. 1981. 聖通寺山・角山付近の昆虫相. 本四連絡橋:53-82.
- 3 宇都宮靖博. 2019. セグロイナゴの採集記録. へりぐろ(40):63.

セスジイトトンボ

- 1 大平幸男. 1981. 国市池の底生動物. 国市池生物調査報告書. 69-76.
- 2 坂口清一. 1967. 香川縣の蜻蛉目Odonataの分布. 香川生物(3):39-45.
- 3 高木真人. 1981. 国市池及びその周辺の昆虫. 国市池生物調査報告書. 59-64.
- 4 高木真人. 1985. 香川縣中讃東部地域のトンボ相. 香川縣自然環境保全指標策定調査報告書(香川縣中讃東部地域):218-234.
- 5 高木真人. 1987. 新川水系のため池におけるトンボ相. 香川縣自然環境保全指標策定調査報告書(新川水系域):73-94.

- 6 豊嶋弘・田中俊彦. 1985. 国営讃岐丘陵公園建設予定地のトンボ・バッタ・チョウなどについて. 国営讃岐丘陵公園動植物現況調査報告書. 香川動植物の会:9-20.
- 7 豊嶋弘. 1990. 与島および角山の昆虫(IV). 平成元年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:275-294.
- 8 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録.
- セダカコブヤハズカミキリ小豆島亜種
- 1 林匡夫. 1956. 小豆島の昆虫. 続小豆島の自然:12-17.
- 2 小笠原隆・高木真人・和田洋介. 2001. 香川県のカミキリ:79pp.
- 3 佐野信雄. 1992. セダカコブヤハズ採集記—小豆島編—山ちゃん3:36-38.
- 4 高桑正敏・中林博之・小林敏男編2020. 日本のコブヤハズカミキリ. むし社.
- ゾウゼンメクラチビゴミムシ
- 1 佐藤正昭. 1996. 琴平町史編集委員会. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 2 Uéno S 1981. New anophthalmic *Trechiana* (Coleoptera Trechini) from northern Shikoku, J. speleol. Soc. Japan, 6:11-18.
- ソトハガタアツバ
- 1 増井武彦. 1977. 四国の蛾の分布資料(II) 四国の蛾分布資料(II). 蛾類通信(92):521-531.
- ダイセンサンオオコバネナガハネカクシ
- 1 Watanabe Y 1998. Five new species of the *Lathorobium* (s. str.) nomurai group (Coleoptera, Staphylinidae) from Japan. Elytra(26):85-98.
- 2 渡辺泰明・吉田正隆. 2000. 四国産オオコバネナガハネカクシ種群(甲虫:ハネカクシ科)について. 徳島昆虫(11):11-16.
- タカオメダカミキリ
- 1 小笠原隆・高木真人・和田洋介. 2001. 香川県のカミキリ:79pp.
- 2 小笠原隆. 1994. 香川県産カミキリムシの覚書 げんせい65:9-11.
- タカムクシャチホコ
- 1 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 2 豊嶋弘. 1963. 香川県の蛾(II) シャチホコガ科(目録). げんせい(16):19-42.
- タガメ
- 1 環境庁. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(昆虫類). 香川県:27.
- タバサナユ
- 1 豊嶋弘. 高木真人. 1980. 香南台地の昆虫(目録). 香南台地および高山の生物:89-107.
- 2 高木真人. 1985. 香川県中讃東部地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃東部地域):218-233.
- 3 高木真人. 1986. 香川県東讃地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査研究報告:193-210.
- チッチゼミ
- 1 出嶋利明. 2008. 財田町の昆虫(2). へりぐる(29):15-20.
- チュウジョウムシ
- 1 中濱直之・岡野良祐・出嶋利明. 2015. 女木島洞窟に生息するチュウジョウムシの生息環境. 香川生物(42):63-66
- 2 環境庁. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(昆虫類). 香川県:41.
- チュウブホソガムシ
- 1 藤本博文・上手雄貴. 2003. 香川県善通寺市与北町で採集した水生甲虫類. 甲虫ニュース(143):16-17.
- 2 濱口正幹・宇都宮靖博. 2020. チュウブホソガムシの記録. へりぐる(41):27.
- 3 三木武司. 2003. ため池で採集された甲虫類の記録. へりぐる(24):78-79.
- 4 高木真人. 2002. 四国初記録のガムシ. 月刊むし(379):47.
- ツマグロキチョウ
- 1 出嶋利明. 2003. 香川県のチョウ類に関する基礎的データ(1). へりぐる(24)2-13.
- 2 藤本博文. 2010. 三豊市詫間町荘内半島でツマグロキチョウ目撃. へりぐる(31):63.
- 3 今西正文. 1982. その他の小豆島における蝶の記録. HERIGURO(5):7.
- 4 伊藤寿. 2004. 香川県でツマグロキチョウを採集. へりぐる(25):59.
- 5 久保康彦. 1981. 香川県産蝶類リスト. HERIGURO(4)12-16.
- 6 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐる(11):2-5.
- 7 増井武彦. 1958. 石清尾山系の蝶相. 高松高等学校生物部部誌生物(7):30-35.
- 8 鍋嶋豊. 2006. 女木島でツマグロキチョウを採集. へりぐる(27):38.
- 9 鍋嶋豊. 2007. 男木島と屋島でツマグロキチョウを採集. へりぐる(28):28.
- 10 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 11 大賀幸蔵. 1989. 備讃瀬戸に浮かぶ直島の蝶. へりぐる(11):6-7.
- 12 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 13 高八稔弘. 1989. 女木島の蝶. へりぐる(11):8-9.
- 14 豊嶋弘. 1992. 与島および角山の昆虫(V). 平成3年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:286-316.
- 15 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 16 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.

- 17 安森昭文. 2017. 高松市内でツマグロキチョウを採集. へりぐろ (38):30.
- 18 横井昭徳. 1951. 香川縣の蝶. 文化部創刊号. 1-18.
- ツマグロトビケラ
- 1 豊嶋弘・高木真人. 1979. 香南台地の昆虫(目録). 動植物の会:89-107.
- ツルギヌレチゴミムシ
- 1 Habu A 1976. Three new species of *Apatrobus*, a subgenus of *Patrobus*, from Shikoku, Japan. Trans. Shikoku Ent. Rev. 13(1-2):9-17.
- 2 Kasahara S, Itô Y 1994. Two new patrobine carabid beetles from Shikoku, Southwest Japan (Coleoptera). Trans. Shikoku Ent. Soc. 20 : 181-186.
- 3 佐藤正昭. 2005. ツルギヌレチゴミムシ記載後の採集例. へりぐろ (25):58.
- トゲアリ
- 1 古川健人・大部泰嗣・伊藤文紀. 2012. トゲアリ女王をムネアカオオアリの巣から採集. 香川生物 (39):61-62.
- 2 伊藤文紀. 2007. 香川県のアリ類. 香川の生物:179-184.
- 3 湊正寿・亀山剛・伊藤文紀・市野隆雄. 1996. 香川県のアリ相(予報). 蟻 (20):9-13.
- 4 吉田拓馬. 2015. 絶滅危惧種トゲアリ *Polyrhachis lamellidens* の営巣場所. コロニー構成と行動. 香川大学農学部平成26年度卒業論文
- トゲフタオタマムシ
- 1 小笠原隆. 2000. トゲフタオタマムシ香川県からの記録. 月刊むし(347):45.
- 2 脇悠太. 2018. 大滝山でトゲフタオタマムシを採集. へりぐろ (39):30.
- トビイロアカガネヨトウ
- 1 増井武彦. 1977. 四国の蛾の分布資料(II) 四国の蛾分布資料(II). 蛾類通信 (92):521-531.
- トモンハナバチ
- 1 伊藤文紀. 2012. トモンハナバチ *Anthidium septemspinosa* を四国から記録. 中国昆虫 (26):87-88.
- 2 伊藤文紀. 2020. 近隣府県で絶滅危惧種に指定されているハナバチ類の香川県における分布記録. へりぐろ (41):37-40.
- トラサンドクガ
- 1 出嶋利明. 2007. 四国におけるトラサンドクガの生息地を発見. へりぐろ (28):25-26.
- 2 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- トラフカミキリ
- 1 小笠原隆・高木真人・和田洋介. 2001. 香川県のカミキリ:79pp.
- 2 小倉順二. 2003. 2001・2002年に採集した甲虫類. へりぐろ (24):64-65.
- 3 佐藤正昭. 2015. 天満ヶ原高原(標高930m)周辺のカミキリ. へりぐろ (36):21-26.
- 4 佐藤正昭・木下哲也. 1972. 香川県のカミキリムシ. 香川生物(5):66-70.
- 5 佐藤正昭. 1975. 香川県象頭山の甲虫類(8). 月刊むし(54):18-21.
- 6 吉松定明. 2010. 屋島で採集したカミキリムシ. へりぐろ (31):35-38.
- ナガトガリバ
- 1 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- ナガミズムシ
- 1 藤本博文・出嶋利明. 2005. 香川県で採集したミズムシ科昆虫の記録. へりぐろ (27):31-32.
- 2 豊嶋弘・高木真人. 1979. 高山および周辺地域の昆虫. 動植物の会:111-131.
- ナカモンカギバ
- 1 佐藤正昭. 2009. 石清尾山とその周辺で採集した蛾. へりぐろ (30):53-54.
- ナツアカネ
- 1 高木真人. 1985. 香川県中讃東部地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃東部地域):218-233.
- 2 高木真人. 1986. 香川県東讃地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査研究報告:193-210.
- 3 高木真人. 1987. 新川水系のため池におけるトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(新川水系):73-94.
- 4 豊嶋弘・田中俊彦. 1985. 国営讃岐丘陵公園建設予定地のトンボ・バッタ・チョウなどについて. 国営讃岐丘陵公園動植物現況調査報告書. 香川動植物の会:9-20.
- 5 和田洋介. 2000. 1999年香川県にて採集したトンボ. へりぐろ (21):2-8.
- ナニワトンボ
- 1 出嶋利明. 2008. 財田町の昆虫(2). へりぐろ (29):15-20.
- 2 坂口清一. 1967. 香川県の蜻蛉目Odonataの分布. 香川生物(3):39-45.
- 3 高木真人. 1982. 綾川・大東川水系及び五色台におけるトンボの分布. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃西部地域):279-284.
- 4 高木真人. 1985. 香川県中讃東部地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃東部地域):218-233.
- 5 高木真人. 1986. 香川県東讃地域のトンボ相. 香川県自然環境保全基礎調査報告:193-210.

- 6 高木真人. 1987. 新川水系のため池におけるトンボ相. 香川県自然環境保全基礎調査報告(新川水系):73-94.
- 7 高木真人. 1987. 香川県小豆島地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県小豆島地域):139-146.
- 8 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 9 豊嶋弘・田中俊彦. 1985. 国営讃岐丘陵公園建設予定地のトンボ・バッタ・チョウなどについて. 国営讃岐丘陵公園動植物現況調査報告書. 香川動植物の会:9-20.
- 10 和田洋介. 2000. 1999年香川県にて採集したトンボ. へりぐろ(21):2-8.

#### ナマリキシタバ

- 1 出嶋利明. 2001. 小豆島で採集した蝶・蛾. へりぐろ(22):34-35.
- 2 増井武彦. 2014. 高松市内の石清尾山のカタカラ類. へりぐろ(35):83-84.
- 3 増井武彦. 1978. 四国の蛾分布資料(III). 蝶と蛾(29):149-152.
- 4 増井武彦. 1984. ナマリキシタバの幼虫発見まで. 誘蛾燈(95):33-40.
- 5 増井武彦・出嶋利明. 2001. 国分台の蛾類. へりぐろ(22)13-17.

#### ナミルリモンハナバチ

- 1 市川俊英・倉橋伴知・幾留秀一. 2011. 香川県で採集された訪花ハナバチ類とキムネクマバチによる新奇な授粉様式の可能性. 香川大学農学部学術報告 63:43-59.
- 2 伊藤文紀. 2016. 環境省レッドリストで選定されたハナバチ類の香川県における分布記録. へりぐろ(37):27-29.
- 3 蒔田将吾・村上航矢・木村初音・櫻木健志・吉井健太・三木武司. 2016. 高松西高およびその周辺で採集した昆虫(3). 香川生物(43):19-32.

#### ナラノチャイロコガネ

- 1 藤本博文. 2005. 財田町でナラノチャイロコガネを採集. へりぐろ(26):60.
- 2 草薙忠明. 1936. 四国産鞘翅類採集目録. 昆虫界4(27). 昆虫趣味の会.
- 3 三木武司. 2002. 2001年コガネムシ科雑記. へりぐろ(23):61-63.
- 4 三木武司. 2013. 2012年コガネムシ科雑記. へりぐろ(34):2-8.
- 5 佐野信雄. 1999. 香川県, 徳島県のナラノチャイロコガネの記録. へりぐろ(20):33.
- 6 矢野俊郎. 1960. 四国産既知甲虫類目録Ⅲ(多食亜目Ⅱ). 松山昆虫同好会時報(16):1-20.

#### ナンカイイソチビゴミムシ

- 1 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝. 1985. 原色日本甲虫図鑑(Ⅱ). 保育社.

#### ニシアオハムシダマシ

- 1 今坂正一. 2005. 日本産アオハムシダマシ属の再検討. 比和科学博物館研究報告(44):61-162. 図版 I -XXVIII.
- 2 小笠原隆. 2019. 香川県で採集したゴミムシダマシ科甲虫. へりぐろ(40):51-53.

#### ニシキキンカメムシ

- 1 濱口正幹. 2019. 香川県におけるニシキキンカメムシの記録. へりぐろ(40):17.

#### ニセタバコガ

- 1 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 2 増井武彦. 1977. 四国の蛾の分布資料(II) 四国の蛾分布資料(Ⅱ). 蛾類通信(92):521-531.

#### ニョタイササキリモドキ

- 1 佐野信雄. 2020. 香川県のニョタイササキリモドキとサヌキササキリモドキの分布調査. へりぐろ(41):33-35.

#### ネアカヨシヤンマ

- 1 馬場隆信・出嶋利明. 1990. 香川県で採集されたネアカヨシヤンマ. 月刊むし. 230:36-37.
- 2 出嶋利明. 1994. 昆虫分布から見た瀬戸内島嶼の貴重な自然(2). 香川県高等学校教育研究会理化生部会会誌(30):56-58.
- 3 豊嶋弘. 1992. 与島および角山の昆虫(V). 平成3年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:283-316.

#### ノシメトンボ

- 1 高木真人. 1982. 綾川・大東川水系及び五色台におけるトンボの分布. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃西部地域):279-284.
- 2 高木真人. 1985. 香川県中讃東部地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃東部地域):218-233.
- 3 高木真人. 1986. 香川県東讃地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書:193-210.
- 4 高木真人. 1987. 新川水系のため池におけるトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(新川水系):73-94.
- 5 豊嶋弘. 1991. 岸上・帆の山台地の昆虫類. 香川県仲多度郡岸上・帆の山台地および綾歌郡綾上町(羽床上)高尾付近の動植物現況調査報告書:1-29.
- 6 豊嶋弘・高木真人. 1980. 香南台地の昆虫(目録). 香南台地および高山の生物:89-107.
- 7 和田洋介. 2000. 1999年香川県にて採集したトンボ. へりぐろ(21):2-8.

#### ハッチョウトンボ

- 1 高木真人. 1982. 綾川・大東川水系及び五色台におけるトンボの分布. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃西部地域):279-284.
- 2 立石清. 1972. 五色台の生物1. ハッチョウトンボ, その他. 香川生物(5):85-88.
- 3 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録.

#### ハネナシアメンボ

- 1 出嶋利明. 2005. 財田町の昆虫(1). へりぐろ(26):7-16.
- 2 出嶋利明. 2002. 直島で採集した昆虫. へりぐろ(23):48-53.

#### ハネビロエゾトンボ

- 1 朝比奈正二郎. 1958. 日本の蜻蛉(14). 新昆虫10(12):51-57.
- 2 大平幸男. 1979. 五色台における河川の水生昆虫. 香川県自然科学館研究報告:15-21.
- 3 大沢尚之. 1979. 香川県のトンボ相について(支部大会講演要旨). 四国虫報(23):126.

#### ハマベゴミムシ

- 1 藤本博文. 2018. 坂出市で採集した甲虫. へりぐろ(39):5-10.
- 2 佐藤陽路樹. 1998. 四国ナガゴミムシ遍路. プテロニュース(20):1-3.

#### ハマベゾウムシ

- 1 浅野誠. 2009. 香川県島嶼小豆島の海水浴場で採集した昆虫. へりぐろ(30):35-38.
- 2 北川雄士. 2004. 香川県でハマベゾウムシを採集. 月刊むし(406):5.
- 3 久米加寿徳. 2014. 屋島のゾウムシ相. へりぐろ(35):25-30.
- 4 森本桂. 1993. 海辺の甲虫類概説. 昆虫と自然28(11):2-6.
- 5 脇悠太. 2018. 屋島でハマベゾウムシを採集. へりぐろ(39):36.

#### ヒメナガアリ

- 1 伊藤文紀. 2007. 香川県のアリ類. 香川の生物:179-184.
- 2 湊正寿・亀山剛・伊藤文紀・市野隆雄. 1996. 香川県のアリ相(予報). 蟻(20):9-13.

#### ヒメアカネ

- 1 石原保ほか. 1974. 本四架橋ルート上の島々の昆虫相. 本州四国連絡架橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書. 75-96.
- 2 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 3 奥村定一. 1952. 四国の蜻蛉類. 自然科学と博物館. 19(7-8):144-152.
- 4 佐藤正昭・豊嶋 弘. 1992. 1990年に採集した香東川水系のトンボ相. へりぐろ(13):14-16.
- 5 高木真人. 1985. 香川県中讃東部地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃東部地域):218-234.
- 6 高木真人. 1990. 詫間町大浜地域の昆虫類. 香川県木田郡三木町(井上)風呂谷地域および三豊郡詫間町(大浜)船越・名部戸地域の動植物現況調査報告書(香川動植物の会):73-81.
- 7 高木真人. 1991. 綾上町(羽床上)高尾付近の昆虫類. 香川県仲多度郡岸上・帆の山台地および綾歌郡綾上町(羽床上)高尾付近の動植物現況調査報告書:81-96.
- 8 豊嶋弘. 1990. 三木町井上風呂谷地域の昆虫類. 香川県木田郡三木町(井上)風呂谷地域および三豊郡詫間町(大浜)船越・名部戸地域の動植物現況調査報告書(香川動植物の会):11-38.
- 9 豊嶋弘. 1991. 香川県綾上町猿飼・仲和田付近の昆虫について. 香川生物(18):37-40.
- 10 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 11 豊嶋弘・田中俊彦. 1985. 国営讃岐丘陵公園建設予定地のトンボ・バッタ・チョウなどについて. 国営讃岐丘陵公園動植物現況調査報告書. 香川動植物の会:9-20.

#### ヒメオオクワガタ

- 1 三木武司. 2007. 香川県のコガネムシ上科甲虫. 香川の生物:41-54.
- 2 安森盟文. 2006. 香川県未記録のヒメオオクワガタを採集. へりぐろ(27):23.
- 3 安森盟文. 2014. 大滝山でヒメオオクワガタを採集. へりぐろ(35):69.

#### ヒメキマダラセセリ

- 1 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 2 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 3 坂口清一. 1959. 香川県の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物(2):21-24.
- 4 高八稔弘. 2010. 香川県内のセセリチョウの記録. へりぐろ(31):65-70.
- 5 高八稔弘. 2000. ヒメキマダラセセリの2化を採集. へりぐろ(21):22.
- 6 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 7 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### ヒメキマダラヒカゲ

- 1 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 2 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 3 坂口清一. 1959. 香川県の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物(2):21-24.
- 4 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 5 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.

#### ヒメギンガ

- 1 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.

- 2 豊嶋弘. 1966. 香川県の蛾(IV)ヤガ科(目録). 蛾類通信(32):226-227.
- ヒメクロサナエ
- 1 坂口清一. 1959. 香川県の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物(2):21-24.
  - 2 坂口清一. 1967. 香川県の蜻蛉目Odonataの分布. 香川生物(3):39-45.
  - 3 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
  - 4 渡辺直・大平幸男. 1987. 香川県小豆島(含豊島)の河川における底生動物の分布. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県小豆島地域):147-154.
  - 5 渡辺直・大平幸夫ほか. 1986. 香川県東讃地域における底生動物の分布. 香川県自然環境保全指標策定調査研究報告:211-224.
  - 6 葉王智. 1990. 香東川におけるトンボ類幼虫の流程分布. 香川生物(17):11-18.
- ヒメサナエ
- 1 大平幸男. 1979. 五色台における河川の水生昆虫. 香川県自然科学館研究報告, 15-21.
  - 2 坂口清一. 1967. 香川県の蜻蛉目Odonataの分布. 香川生物(3):39-45.
  - 3 高木真人. 1982. 綾川・大東川水系及び五色台におけるトンボの分布. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃西部地域):279-284.
  - 4 高木真人. 1982. 綾川・大東川水系及び五色台におけるトンボの分布. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃西部地域):279-284.
  - 5 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
  - 6 和田洋介. 2000. 1999年香川県にて採集したトンボ. へりぐる(21):2-8.
  - 7 葉王智. 1990. 香東川におけるトンボ類幼虫の流程分布. 香川生物(17):11-18.
- ヒメスズメ
- 1 佐藤正明. 1974. 香川県香東川流域珍種蛾類(II). 蛾類通信(76):267-273.
- ヒメセボシヒラタゴミムシ
- 1 出嶋利明. 1998. 小豆島池田町段山におけるゴミムシ2種の記録. へりぐる(19):21.
  - 2 藤本博文・三木武司. 2002. 丸亀市手島で採集した甲虫類. へりぐる(23):55-58.
  - 3 藤本博文. 2006. 2005年に丸亀市広島で採集した甲虫類. へりぐる(27):17-22.
  - 4 藤本博文. 2007. 香川県島嶼部で採集した甲虫類. へりぐる(28):47-54.
  - 5 藤本博文. 2018. 坂出市で採集した甲虫. へりぐる(39):5-10.
- ヒメタイコウチ
- 1 大生唯統. 2018. さぬき市多和でヒメタイコウチを採集. へりぐる(39):4.
  - 2 豊嶋弘・松村哲司. 1995. 四国未記録のヒメタイコウチについて. 香川生物(22):37-41.
  - 3 豊嶋弘・上崎聡敏・阿部信之・中村俊之. 1996. 香川県産ヒメタイコウチについて(1). 香川生物(23):81-83.
  - 4 宇都宮靖博. 2019. ヒメタイコウチの分布の西限を更新!?. へりぐる(40):20.
- ヒメハルゼミ
- 1 今川義康・三好智和・平井千瑛. 2018. 香川県におけるヒメハルゼミ初記録. Cicada25(1):21-22.
  - 2 今川義康ほか. 2020. 香川県におけるヒメハルゼミ生息地の追加記録および徳島県北部の生息地再確認の報告. Cicada 27(1):7-9.
- ヒメヒカゲ
- 1 出嶋利明. 2003. 香川県のチョウ類に関する基礎的データ(1). へりぐる(24):2-13.
  - 2 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐる(11):2-5.
  - 3 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
  - 4 岡田行成. 1982. 1978年~1981年にかけて小豆島において採集した蝶. HERIGURO(5):5-7.
  - 5 岡田行成. 1984. 小豆島におけるヒメヒカゲの記録. HERIGURO(6)2.
- ヒメミズカマキリ
- 1 出嶋利明. 2002. 大内町で採集した昆虫(2). へりぐる(23):36-43.
  - 2 出嶋利明. 2005. 財田町の昆虫(1). へりぐる(26):7-16.
  - 3 高木真人. 1991. 綾上町(羽床上)高尾付近の昆虫類. 香川動植物の会:81-96.
  - 4 豊嶋弘・高木真人. 1979. 香南台地の昆虫(目録). 動植物の会:89-107.
  - 5 豊嶋弘. 1981. 聖通寺山・角山付近の昆虫相. 本四連絡橋:53-82.
- ヒメミズスマシ
- 1 出嶋利明. 2007. 香川県の水生食肉甲虫類. 香川生物(34):83-96.
  - 2 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録:17-19.
- ヒメムネボソアリ
- 1 伊藤文紀. 2007. 香川県のアリ類. 香川の生物:179-184.
  - 2 湊 正寿・亀山 剛・伊藤文紀・市野隆雄. 1996. 香川県のアリ相(予報). 蟻 (20):9-13.
- ヒロシマオオトラフハナムグリ
- 1 三宅義一. 1997. 広島県のオオトラフコガネ類について. 比和科学(177):1-9.
  - 2 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.



#### フタスジサナエ

- 1 出嶋利明. 2005. 財田町の昆虫(1). へりぐろ(26):7-16.
- 2 永瀬幸一. 1983. オオカワトンボ(f. *kadowakii*)・タバサナエの調査会報告. *gracile*(31):18-19.

#### ブチヒゲヤナギドクガ

- 1 増井武彦. 1979. 四国の蛾の分布資料(XI) 四国未記録の蛾20種. 誘蛾燈(76):72-78.

#### ブナアオシヤチホコ

- 1 増井武彦. 1978. 四国の蛾の分布資料(VI). 誘蛾燈(74):125-134.
- 2 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 3 豊嶋弘. 1969. 香川県の蛾. 蛾類通信(57):666-668.

#### ヘイケボタル

- 1 藤本博文・三木武司・増井武彦・安森盟文・出嶋利明・久米加寿徳・北川雄士・貞廣邦夫・濱口正幹. 2009. 綾川町粉所東庄坂「里山」で採集した昆虫類. へりぐろ(30):15-29.
- 2 濱口正幹・三木武司. 2008. 綾川町・里山で夜間採集した甲虫. へりぐろ(29):9-13.
- 3 大場信義. 2019. 田んぼの生きものたち ホタル. 農山漁村文化協会.
- 4 宇都宮靖博. 2019. ヘイケボタルを高松市牟礼町で確認. へりぐろ(40):50.

#### ベーツヒラタカミキリ

- 1 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 2 小笠原隆・高木真人・和田洋介. 2001. 香川県のカミキリ:79pp.
- 3 佐藤正昭. 1975. 香川県象頭山の甲虫類(8). 月刊むし(54):18-21.
- 4 高木真人. 1996. 1995年に琴平山で採集したカミキリムシ. へりぐろ(17):23-25.

#### ベッコウトンボ

- 1 中條道夫. 1954. 四国のトンボ類(2). 新昆虫, 7(12):42.
- 2 高木真人. 1984. 香川県産トンボの記録. 月刊むし(160):18-19.

#### ベニバハナカミキリ

- 1 小笠原隆・高木真人・和田洋介. 2001. 香川県のカミキリ:79pp.
- 2 佐藤正昭・木下哲也. 1972. 香川県のカミキリムシ. 香川生物(5):66-70.

#### ヘリグロチャバネセセリ

- 1 出嶋利明. 2003. 香川県のチョウ類に関する基礎的データ(1). へりぐろ(24):2-13.
- 2 稲沢耕二. 1993. 粟島のヘリグロチャバネセセリの記録. へりぐろ(14):37.
- 3 北川雄士. 2004. 牟礼町で採集した昆虫. へりぐろ(25):20-25.
- 4 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 5 増井武彦. 1958. 石清尾山系の蝶相. 高松高等学校生物部部誌生物(7):30-35.
- 6 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 7 岡田行成. 1982. 1978年～1981年にかけて小豆島において採集した蝶. *HERIGURO*(5):5-7.
- 8 大賀幸蔵. 1989. 備讃瀬戸に浮かぶ直島の蝶. へりぐろ(11):6-7.
- 9 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 10 坂口清一. 1959. 香川県の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物(2):21-24.
- 11 佐野信雄. 1997. 佐柳島で目撃した蝶. へりぐろ(18):42.
- 12 高八稔弘. 2010. 香川県内のセセリチョウの記録. へりぐろ(31):65-70.
- 13 高八稔弘. 2005. 香川県のヘリグロチャバネセセリ追加記録. へりぐろ(26):35.
- 14 高八稔弘. 2019. 男木島でヘリグロチャバネセセリを採集. へりぐろ(40):5-6.
- 15 高八稔弘. 1989. 女木島の蝶. へりぐろ(11):8-9.
- 16 高八稔弘. 1989. 庄内半島・紫雲出山7月の蝶. へりぐろ(11):26.
- 17 豊嶋弘. 1990. 三木町井上風呂谷地域昆虫相. 香川県木田郡三木町(井上)風呂谷地域および三豊郡詫間町(大浜)船越・名部戸地域の動植物現況調査報告書(香川動植物の会):11-39.
- 18 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 19 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 20 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### ホシトガリハナバチ

- 1 伊藤文紀. 2020. 近隣府県で絶滅危惧種に指定されているハナバチ類の香川県における分布記録. へりぐろ(41):37-40.

#### ホソバセセリ

- 1 出嶋利明. 2003. 女木島の昆虫(1). へりぐろ(24):40-44.
- 2 今西正文. 1982. その他の小豆島における蝶の記録. *HERIGURO*(5):7.
- 3 北川雄士. 2004. 牟礼町で採集した昆虫. へりぐろ(25):20-25.
- 4 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 5 増井武彦. 1958. 石清尾山系の蝶相. 高松高等学校生物部部誌生物(7):30-35.
- 6 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 7 大賀幸蔵. 1989. 備讃瀬戸に浮かぶ直島の蝶. へりぐろ(11):6-7.
- 8 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).

- 9 佐藤納. 1955. 小豆島のチョウとハチ. 小豆島の自然:17-18.
- 10 高八稔弘. 2010. 香川県内のセセリチョウの記録. へりぐろ(31):65-70.
- 11 高八稔弘. 1993. 高見峰山麓の蝶. へりぐろ(14):25.
- 12 高八稔弘. 1996. 大麻山農林試験地内の蝶. へりぐろ(8):30.
- 13 豊嶋弘. 1984. 与島および角山の昆虫(Ⅰ). 昭和58年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:225-236.
- 14 豊嶋弘. 1985. 与島および角山の昆虫(Ⅱ). 昭和60年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:285-295.
- 15 豊嶋弘. 1988. 三谷剣山山麓の昆虫相. 高松市三谷剣山塊動植物現況調査報告書(香川動植物の会):1-14.
- 16 豊嶋弘. 1990. 三木町井上風呂谷地域の昆虫相. 香川県木田郡三木町(井上)風呂谷地域および三豊郡詫間町(大浜)船越・名部戸地域の動植物現況調査報告書(香川動植物の会):11-38.
- 17 豊嶋弘. 1990. 与島および角山の昆虫(Ⅳ). 平成元年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:275-294.
- 18 豊嶋弘. 1991. 香川県綾上町猿飼・仲和田付近の昆虫について. 香川生物(18):37-49.
- 19 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 20 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 21 豊嶋弘・田中俊彦. 1985. 国営讃岐丘陵公園建設予定地のトンボ・バッタ・チョウなどについて. 国営讃岐丘陵公園動植物現況調査報告書. 香川動植物の会:9-20.
- 22 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### ホソハンミョウ

- 1 久松定成. 1979. 日本昆虫学会四国支部第18回大会記. (23):121.
- 2 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町.
- 3 矢野俊郎. 1960. 四国産既知甲虫類目録(Ⅰ). 松山昆虫同好会時報(10):1-36.

#### ホソヒョウタンゴミムシ

- 1 藤本博文. 2007. 香川県の島嶼別甲虫類分布表. へりぐろ(28):55-85.
- 2 濱口正幹. 2004. ホソヒョウタンゴミムシの採集記録. へりぐろ(25):30.
- 3 北川雄士. 2003. 牛島の採集会で採集した昆虫. へりぐろ(24):36.
- 4 森正人. 2017. 兵庫県のヒョウタンゴミムシ亜科・オサムシモドキ亜科. きべりはむし39(2):37-41.
- 5 佐藤正昭. 2003. Coleoptera コウチュウ目. 高瀬町史 生物資料編:109-158.

#### ホソミイトンボ

- 1 坂口清一. 1967. 香川県の蜻蛉目Odonataの分布. 香川生物(3):39-45.
- 2 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録.
- 3 豊嶋弘・田中俊彦. 1985. 国営讃岐丘陵公園建設予定地のトンボ・バッタ・チョウなどについて. 国営讃岐丘陵公園動植物現況調査報告書. 香川動植物の会:9-20.

#### ホッケミズムシ

- 1 出嶋利明. 2003. 大内町で採集した昆虫(3). へりぐろ(24):40-44.
- 2 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録:17-19.

#### ホンサナエ

- 1 坂口清一. 1967. 香川県の蜻蛉目Odonataの分布. 香川生物(3):39-45.
- 2 高木真人. 1996. 香川県のホンサナエ. げんせい(68):16.
- 3 葉王智. 1990. 香東川におけるトンボ類幼虫の流程分布. 香川生物(17):11-18.
- 4 吉田一夫. 1997. 徳島・香川両県におけるホンサナエの追加記録. 徳島昆虫(9):8.
- 5 出嶋利明. 1994. 昆虫分布から見た瀬戸内島嶼の貴重な自然(2). 香川県高等学校教育研究会理化生部会会誌(30):56-58.

#### マイコアカネ

- 1 坂口清一. 1967. 香川県の蜻蛉目Odonataの分布. 香川生物(3):39-45.
- 2 佐藤正昭・豊嶋弘. 1992. 1990年に採集した香東川水系のトンボ相. へりぐろ(13):14-16.
- 3 高木真人. 1985. 香川県中讃東部地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃東部地域):218-234.
- 4 高木真人. 1987. 香川県小豆島地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県小豆島地域):139-146.
- 5 豊嶋弘. 1985. 与島および角山の昆虫(Ⅱ). 昭和60年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:285-295.
- 6 豊嶋弘. 1988. 与島および角山の昆虫(Ⅲ). 昭和62年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:271-284.
- 7 豊嶋弘. 1990. 与島および角山の昆虫(Ⅳ). 平成元年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:275-294.
- 8 豊嶋弘. 1992. 与島および角山の昆虫(Ⅴ). 平成3年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:283-316.
- 9 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 10 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 11 豊嶋弘・田中俊彦. 1985. 国営讃岐丘陵公園建設予定地のトンボ・バッタ・チョウなどについて. 国営讃岐丘陵公園動植物現況調査報告書. 香川動植物の会:9-20.
- 12 和田洋介. 2000. 1999年香川県にて採集したトンボ. へりぐろ(21):2-8.
- 13 葉王智. 1990. 香東川におけるトンボ類幼虫の流程分布. 香川生物(17):11-18.

#### マダラキンウワバ

- 1 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 2 豊嶋弘. 1966. 香川県の蛾(IV)ヤガ科(目録). 蛾類通信(32):226-227.

#### マダラクワガタ

- 1 三木武司. 2007. 香川県のコガネムシ上科甲虫. 香川の生物:41-54.
- 2 葉王智. 1994. 大滝山産クワガタムシ2種の記録. 香川生物(21):37.

#### マルエンマコガネ

- 1 佐野信雄. 1997. 1996年に採集した四国産糞虫類. へりぐろ(18):50-58.
- 2 佐野信雄. 1998. 1997年に採集した四国産糞虫類. へりぐろ(19):2-9.
- 3 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.

#### マルケシゲンゴロウ

- 1 出嶋利明. 2007. 香川県の水生食肉甲虫類. 香川生物(34):83-96.
- 2 豊嶋弘. 1981. 聖通寺山・角山付近の昆虫相. 本四連絡橋:53-82.

#### マルタンヤンマ

- 1 中條道夫. 1954. 四国のトンボ類(2). 新昆虫. 7(12):42.
- 2 中條道夫. 1954. 四国のトンボ類(2). 新昆虫. 7(12):42.
- 3 出嶋利明. 1994. 昆虫分布から見た瀬戸内島嶼の貴重な自然(2). 香川県高等学校教育研究会理化生地部会会誌(30):56-58.
- 4 環境庁. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(昆虫類). 香川県:34.
- 5 奥村定一. 1952. 四国の蜻蛉類. 自然科学と博物館. 19(7-8):144-152.
- 6 坂口清一. 1967. 香川県の蜻蛉目Odonataの分布. 香川生物(3):39-45.
- 7 佐藤正昭・豊嶋弘. 1992. 1990年に採集した香東川水系のトンボ類. へりぐろ(13):14-16.
- 8 高木真人. 1985. 香川県中讃東部地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃東部地域):218-233.
- 9 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 10 和田洋介. 2000. 1999年香川県にて採集したトンボ. へりぐろ(21):2-8.
- 11 脇悠太. 2017. 屋島でマルタンヤンマを採集. へりぐろ(38):24.

#### マルチビゲンゴロウ

- 1 出嶋利明. 2004. 2003年に丸亀市手島で採集した昆虫. へりぐろ(25):37-40.
- 2 出嶋利明. 2005. 財田町の昆虫(1). へりぐろ(26):7-16.
- 3 出嶋利明. 2007. 香川県の水生食肉甲虫類. 香川生物(34):83-96.
- 4 出嶋利明. 1999. 香川県で採集したゲンゴロウ類. へりぐろ(20):17-19.
- 5 藤本博文. 2007. 香川県島嶼部で採集した甲虫類. へりぐろ(28):47-54.
- 6 北川雄士. 2004. 牟礼町で採集した昆虫. へりぐろ(25):20-25.
- 7 三木武司. 2003. ため池で採集された甲虫類の記録. へりぐろ(24):78-79.
- 8 豊嶋弘. 1963. 香川県の蛾(II)シャチホコガ科(目録). げんせい(16):19-42.

#### マルモンシャチホコ

- 1 豊嶋弘. 1966. 香川県の蛾(IV)ヤガ科(目録). 蛾類通信(32):226-227.

#### ミスジチョウ

- 1 久保康彦. 1988. 県下のミスジチョウ新産地4ヶ所. HERIGURO(10):7.
- 2 久保康彦. 1994. 香川県下のミスジチョウ追加記録. へりぐろ(15):53.
- 3 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐろ(11):2-5.
- 4 前田好弘. 1993. 小豆島におけるミスジチョウの記録. へりぐろ(14):36.
- 5 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 6 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 7 坂口清一. 1959. 香川県の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物(2):21-24.
- 8 佐野信雄. 1993. 象頭山にてミスジチョウを採集. へりぐろ(14):37.
- 9 高八稔弘・佐野信雄. 1999. 香川県西部でミスジチョウを採集および確認. へりぐろ(20):24.
- 10 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 11 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### ミズスマシ

- 1 出嶋利明. 2007. 香川県の水生食肉甲虫類. 香川生物(34):83-96.
- 2 出嶋利明. 2010. 豊島で採集された昆虫のリスト. へりぐろ(31):39-49.
- 3 三木武司. 2019. ミズスマシとオオミズスマシの最近の県内での採集記録. へりぐろ(40):44.
- 4 豊嶋弘・高木真人. 1979. 香南台地の昆虫(目録). 動植物の会:89-107.
- 5 豊嶋弘. 1981. 聖通寺山・角山付近の昆虫相. 本四連絡橋:53-82.
- 6 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録:17-19.

#### ミドリシジミ

- 1 出嶋利明. 2005. 財田町の昆虫 (I). へりぐろ (26):7-16.
- 2 出嶋利明. 1992. 丸亀市本島のミドリシジミの記録. へりぐろ (13):34.
- 3 出嶋利明. 1995. 昆虫分布から見た瀬戸内島嶼の貴重な自然 (3). 香川県高等学校教育研究会理科生地部会会誌 (31):54-56.
- 4 藤本博文. 2015. 丸亀市広島でミドリシジミを目撃. へりぐろ (36):44.
- 5 今西正文. 1979. 財田町産のミドリシジミについて. HERIGURO (3):3-4.
- 6 井上 豊. 1984. 香川県産のミドリシジミ (*Neozephyrus taxila*) の分布と個体変異. HERIGURO (7) 11.
- 7 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐろ (11):2-5.
- 8 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 9 岡田行成. 1982. 1978年~1981年にかけて小豆島において採集した蝶. HERIGURO (5):5-7.
- 10 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 11 坂口清一. 1959. 香川県の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物 (2):21-24.
- 12 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録 (第2集). 高松市市民文化センター.
- 13 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 14 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### ミヤケミズムシ

- 1 出嶋利明. 2003. 大内町で採集した昆虫 (3). へりぐろ (24):40-44.
- 2 藤本博文・出嶋利明. 2005. 香川県で採集したミズムシ科昆虫の記録. へりぐろ (27):31-32.
- 3 豊嶋弘・高木真人. 1979. 高山および周辺地域の昆虫. 動植物の会:111-131.
- 4 豊嶋弘. 1981. 聖通寺山・角山付近の昆虫相. 本四連絡橋:53-82.

#### ミヤジマコガネコメツキ

- 1 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町.
- 2 小倉順二. 2001. ミヤジマコガネコメツキの採集記録. へりぐろ (22):5.

#### ミヤマカラスアゲハ

- 1 出嶋利明. 2001. 大内町で採集した昆虫 (1). へりぐろ (22):55-61.
- 2 出嶋利明. 2002. 大内町で採集した昆虫 (2). へりぐろ (23):36-43.
- 3 今西正文. 1982. その他の小豆島における蝶の記録. HERIGURO (5):7.
- 4 前田好弘. 1989. 小豆島の蝶. へりぐろ (11):2-5.
- 5 前田好弘. 1991. 小豆島でミヤマカラスアゲハを採集. へりぐろ (12):29.
- 6 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 7 新田利男. 1984. ミヤマカラスアゲハの雌雄型の記録. HERIGURO (6):15.
- 8 大手前学園生物部. 1956. 香川県の蝶類. Vol. 4. (1).
- 9 坂口清一. 1959. 香川県の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物 (2):21-24.
- 10 高八稔弘. 2009. 高松市中間町にてミヤマカラスアゲハ採集. へりぐろ (30):50.
- 11 高八稔弘. 1986. ミヤマカラスアゲハ府中町に産す!. HERIGURO (8):17.
- 12 高八稔弘. 1986. 大麻山農林試験場内の蝶. HERIGURO (8):30.
- 13 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録 (第2集). 高松市市民文化センター.
- 14 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 15 豊嶋弘・田中俊彦. 1985. 国営讃岐丘陵公園建設予定地のトンボ・バッタ・チョウなどについて. 国営讃岐丘陵公園動植物現況調査報告書. 香川動植物の会:9-20.
- 16 横井昭徳. 1951. 香川県の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### ミヤマサナエ

- 1 朝比奈正二郎. 1957. 日本の蜻蛉 (9). 新昆虫. 10 (2):55-58.
- 2 中條道夫. 1954. 四国のトンボ類 (2). 新昆虫. 7 (12):42.
- 3 大沢尚之. 1979. 香川県のトンボ相について (支部大会講演要旨). 四国虫報. (23):126.
- 4 高木真人. 1984. 香川県産トンボの記録. 月刊むし (160):18-19.
- 5 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 6 渡辺直・大平幸夫ほか. 1986. 香川県東讃地域における底生動物の分布. 香川県自然環境保全指標策定調査研究報告:211-224.
- 7 葉王智. 1990. 香東川におけるトンボ類幼虫の流程分布. 香川生物 (17):11-18.

#### ミヤマセセリ

- 1 高八稔弘. 2010. 香川県内のセセリチョウの記録. へりぐろ (31):65-70.

#### ミヤマチャバネセセリ

- 1 出嶋利明. 2009. ミヤマチャバネセセリの古い記録. へりぐろ (30):52.
- 2 大畑勇統. 2016. 大滝山でミヤマチャバネセセリを採集. へりぐろ (37):32.
- 3 高八稔弘. 2010. 香川県内のセセリチョウの記録. へりぐろ (31):65-70.
- 4 豊嶋弘. 1988. 三谷剣山山麓の昆虫相. 高松市三谷剣山塊動植物現況調査報告書 (香川動植物の会):1-14.
- 5 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録 (第2集). 高松市市民文化センター.

- 6 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 7 横井昭徳. 1951. 香川縣の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### ムカシトンボ

- 1 朝比奈正二郎. 1957. 日本の蜻蛉(9). 新昆虫. 10(2):55-58.
- 2 出嶋利明. 2005. 財田町の昆虫(1). へりぐろ(26):7-16.
- 3 環境庁. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(昆虫類). 香川県:26.
- 4 大平幸男. 1982. 土器川水系(香川県)の瀬における水生昆虫群衆の季節変動. 香川県自然科学館研究報告(4):9.
- 5 坂口清一. 1959. 香川県の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物(2):21-24.
- 6 坂口清一. 1967. 香川県の蜻蛉目Odonataの分布. 香川生物(3):39-45.
- 7 高木真人. 1985. 香川県中讃東部地域のトンボ相. 香川県自然環境保全指標策定調査報告書(香川県中讃東部地域):218-233.
- 8 豊嶋弘. 1995. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録(第2集). 高松市市民文化センター.
- 9 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 10 和田洋介. 2000. 1999年香川県にて採集したトンボ. へりぐろ(21):2-8.
- 11 渡辺直. 大平幸男ほか. 1985. 香川県中讃東部地域諸河川における底生動物の分布. 香川県自然環境委保全指標策定調査報告書(香川県中讃東部地域):234-249.
- 12 薬王智. 1990. 香東川におけるトンボ類幼虫の流程分布. 香川生物(17):11-18.

#### ムツボシツヤコツブゲンゴロウ

- 1 出嶋利明. 2007. 香川県の水生食肉甲虫類. 香川生物(34):83-96.
- 2 藤本博文・上手雄貴. 2003. 香川県善通寺市与北町で採集した水生甲虫類. 甲虫ニュース(143):16-17.
- 3 藤本博文. 2014. 香川県島嶼部で採集した甲虫類の追加記録. へりぐろ(35):51-58.

#### ムネアカセンテコガネ

- 1 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町.
- 2 三木武司. 2016. 高松西高でムネアカセンテコガネを拾う. へりぐろ(37):10.
- 3 佐野信雄. 1994. 象頭山でムネアカセンテコガネを採集. へりぐろ(15):29.
- 4 佐藤正昭. 2007. 四国で採集した甲虫(1). へりぐろ(28):5-12.
- 5 豊嶋弘. 1968. 四国産甲虫分布資料(I). 四国虫報(15):57-58.

#### ムラサキツヤハナムグリ

- 1 藤本博文・三木武司. 2002. 丸亀市手島で採集した甲虫類. へりぐろ(23):55-58.
- 2 藤本博文・三木武司・増井武彦・安森盟文・出嶋利明・久米加寿徳・北川雄士・貞廣邦夫・濱口正幹. 2009. 綾川町粉所東庄坂「里山」で採集した昆虫類. へりぐろ(30):15-29.
- 3 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町.
- 4 三木武司. 2001. 2000年コガネムシ科雑記. へりぐろ(22):49-50.
- 5 三木武司. 2002. 2001年コガネムシ科雑記. へりぐろ(23):61-63.
- 6 三木武司. 2005. 2004年コガネムシ科雑記. へりぐろ(26):53-54.
- 7 三木武司. 2010. 2009年コガネムシ科雑記. へりぐろ(31):21-28.
- 8 三木武司. 2011. 2010年コガネムシ科雑記～香川のコガネムシ屋の1年～. へりぐろ(32):2-9.
- 9 三木武司. 2012. 2011年コガネムシ科雑記. へりぐろ(33):2-6.
- 10 佐野信雄. 1992. 香川県の珍しい*Protaetia*属3種の記録. へりぐろ(13):38-39.
- 11 高八稔弘. 1995. 綾上町でムラサキツヤハナムグリを採集. へりぐろ(16):32.
- 12 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 13 和田洋介. 2001. バナナトラップによる採集. へりぐろ(22):38-42.
- 14 八幡英夫. 1941. 日本産産*Protaetia*属の種に就いて(I). 昆蟲(15)2:75-84.
- 15 八幡英夫. 1941. 日本産産*Protaetia*属の種に就いて(II). 昆蟲(15)3:114-126.
- 16 矢野俊郎. 1960. 四国産既知甲虫類目録Ⅲ(多食亜目Ⅱ). 松山昆虫同好会時報(16):1-20

#### メスアカミドリシジミ

- 1 日本鱗翅学会四国支部編. 1979. 四国の蝶.
- 2 坂口清一. 1959. 香川県の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物(2):21-24.
- 3 佐野信雄. 2001. 阿讃山脈におけるメスアカミドリシジミの産卵調査結果. へりぐろ(22):11-12.
- 4 高八稔弘. 2007. メスアカミドリシジミの採卵報告. へりぐろ(28):30.
- 5 高八稔弘. 2016. 阿讃山脈におけるメスアカミドリシジミの調査Ⅱ. へりぐろ(37):33-34.
- 6 高八稔弘. 2018. 大滝山よりメスアカミドリシジミ発見される. へりぐろ(39):54.
- 7 高八稔弘. 1994. ついに発見! 竜王山でメスアカミドリシジミ. へりぐろ(14):5.
- 8 高八稔弘. 2000. 阿讃山脈におけるメスアカミドリシジミの調査. へりぐろ(21):16-18.
- 9 高八稔弘. 2001. 香川県内メスアカミドリシジミ2000年の調査. へりぐろ(22):10.
- 10 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 11 横井昭徳. 1951. 香川縣の蝶. 文化部創刊号. 1-18.

#### モートンイトトンボ

- 1 永瀬幸一. 1975. 香川県のトンボ, *gracile* (18):13-15.
- 2 坂口清一. 1959. 香川県の珍蝶珍蜻蛉雑記. 香川生物 (2):21-24.
- 3 坂口清一. 1967. 香川県の蜻蛉目Odonataの分布. 香川生物 (3):39-45.
- 4 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録.

#### モリシタケアリ

- 1 伊藤文紀. 2001. 香川県のクサアリ亜属. 蟻 (25):7-8.
- 2 伊藤文紀. 2007. 香川県のアリ類. 香川の生物:179-184.
- 3 湊正寿・亀山剛・伊藤文紀・市野隆雄. 1996. 香川県のアリ相(予報). 蟻 (20):9-13.

#### ヤマトアオドウガネ

- 1 藤本博文・三木武司. 2002. 丸亀市手島で採集した甲虫類. へりぐろ (23):55-58.
- 2 藤本博文. 2007. 香川県島嶼部で採集した甲虫類. へりぐろ (28):47-54.
- 3 久末遊. 2019. 2015年に栗島で採集した甲虫類. へりぐろ (40):35-36.
- 4 北川雄士. 2000. 1999年に採った虫, 目撃した虫など. へりぐろ (21):38-39.
- 5 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町.
- 6 三木武司. 1998. 男木島で採集したコガネムシ科甲虫の記録. へりぐろ (19):36-37.
- 7 三木武司. 2000. 高見島で採集した甲虫. へりぐろ (21):34-35.
- 8 三木武司. 2000. 女木島で久米加寿徳氏が採集したコガネムシ科甲虫. へりぐろ (21):35.
- 9 三木武司. 2003. 栗島で採集した甲虫. へりぐろ (24):33-35.
- 10 三木武司. 2006. 直島琴反地で採集した甲虫. へりぐろ (27):23-24.
- 11 三木武司. 2007. 豊島唐櫃で採集した甲虫. へりぐろ (28):2-4.
- 12 三木武司. 2011. 2010年コガネムシ雑記～香川のコガネムシ屋の1年～. へりぐろ (32):2-9.
- 13 三木武司. 2014. 屋島のセンチコガネ科・コガネムシ科. へりぐろ (35):19-22.
- 14 高木真人. 1990. 詫間町大浜地域の昆虫類. 香川県木田郡三木町(井上)風呂谷地域および三豊郡詫間町(大浜)船越・名部戸地域の動植物現況調査報告書:73-81.
- 15 豊嶋弘. 1990. 与島および角山の昆虫相(IV). 平成元年度Dルート自然環境モニタリング調査報告書:275-294.

#### ヤマトカギバラアリ

- 1 伊藤文紀. 2007. 香川県のアリ類. 香川の生物:179-184.
- 2 湊正寿・伊藤文紀. 1997. 香川県のアリ相(補遺). 蟻 (21):8.

#### ヤマトスナハキバチ

- 1 伊藤文紀. 2014. 屋島の海浜で採集された有剣ハチ類. へりぐろ (35):31-32.
- 2 伊藤文紀. 2018. 香川県におけるヤマトスナハキバチの採集記録. へりぐろ (39):43.
- 3 伊藤文紀. 2019. 環境省レッドリストに掲載されている狩りバチ類の香川県における分布記録. へりぐろ (40):9-10.
- 4 岩田久二雄. 1976. 昆虫学50年-あるナチュラルリストの回想. 中公新書.

#### ヤマトトックリゴムシ

- 1 出嶋利明. 1996. 昆虫分布からみた瀬戸内島嶼の貴重な自然(4). 香川県高等学校教育研究会理科生地部会誌 (32):29-31.

#### ヤマトマダラバッタ

- 1 出嶋利明. 2002. 直島で採集した昆虫. へりぐろ (23):48-53.

#### ヤマトモンシデムシ

- 1 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町.
- 2 佐藤正昭. 1975. 香川県象頭山の甲虫類(2). 月刊むし (47):30-33.
- 3 矢野俊郎. 1961. 四国産既知甲虫類目録II(多食亜目I). 松山昆虫同好会時報 (15):1-16.

#### ヨコミゾドロムシ

- 1 藤本博文・出嶋利明. 2005. 香川県で採集されたヒメドロムシ類. へりぐろ (26):42-52.
- 2 上手雄貴・藤本博文. 2003. ヨコミゾドロムシ香川県の記録. 甲虫ニュース (144):19-20.

#### ヨコヤマトラカミキリ

- 1 小笠原隆・高木真人・和田洋介. 2001. 香川県のカミキリ:79pp.
- 2 小笠原隆. 1994. 待ちに待ったその瞬間. 愛媛の虫だより (18):8-10.
- 3 小笠原隆. 1994. 香川県産カミキリムシの覚書 げんせい65:9-11.
- 4 佐藤正昭. 2010. 四国で採集した甲虫(4). へりぐろ (31):51-54.
- 5 佐藤正昭・木下哲也. 1972. 香川県のカミキリムシ. 香川生物 (5):66-70.
- 6 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 7 和田洋介. 1995. 大滝山山頂ブナ林の甲虫. へりぐろ (16)2-10.

#### ヨコヤマヒゲナガカミキリ

- 1 小笠原隆・高木真人・和田洋介. 2001. 香川県のカミキリ:79pp.
- 2 和田洋介. 1995. 大滝山山頂ブナ林の甲虫. へりぐろ (16)2-10.
- 3 脇悠太. 2017. 大滝山でヨコヤマヒゲナガカミキリを採集. へりぐろ (38):22.

#### ヨツボシカミキリ

- 1 林匡夫. 1956. 小豆島の昆虫. 続小豆島の自然:12-17.

- 2 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町, 琴平.
- 3 三木武司. 2009. 小豆島・豊島で採集された甲虫3種の記録. へりぐる(30):42.
- 4 小笠原隆・高木真人・和田洋介. 2001. 香川県のカミキリ:79pp.
- 5 小笠原隆. 1996. 香川県小豆島のカミキリムシ分布資料. げんせい61/62:40.
- 6 佐藤正昭. 1975. 香川県象頭山の甲虫類(8). 月刊むし(54):18-21.
- 7 佐藤正昭. 2015. 天満ヶ原高原(標高930m)周辺のカミキリ. へりぐる(36):21-26.
- 8 佐藤正昭・木下哲也. 1972. 香川県のカミキリムシ. 香川生物(5):66-70.
- 9 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 10 和田洋介. 1995. 大滝山山頂 プナ林の甲虫. へりぐる(16)2-10.

ヨツボシツヤナゴミムシ

- 1 佐藤正昭. 1996. 琴平町史編集委員会. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.

リツリンメクラチビゴミムシ

- 1 Uéno S 1983. The anophthalmic Trechine beetles from Takamatsu, southwest Japan. Bull. Natn. Sci. Mus. (A), 9(2):69-77.

リンゴケンモン

- 1 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 2 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 3 豊嶋弘. 1966. 香川県の蛾(IV)ヤガ科(目録). 蛾類通信(32):226-227.

ルイスハンミョウ

- 1 出嶋利明. 2003. 香川県におけるハンミョウ類の記録と訂正. へりぐる(24):56.
- 2 出嶋利明. 1993. 昆虫分布から見た瀬戸内島嶼の貴重な自然(1). 香川県高等学校教育研究会理化生地部会会誌(29):81-83.
- 3 矢野俊郎. 1960. 四国産既知甲虫類目録(I). 松山昆虫同好会時報(10):1-36.

ワモンキシタバ

- 1 琴平町史編集委員会. 1996. 町史ことひら1. 琴平町. 琴平.
- 2 増井武彦. 2014. 高松市内の石清尾山のカトカラ類. へりぐる(35):83-84.
- 3 豊嶋弘・増井武彦・高木真人・出嶋利明. 1990. 高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録. 高松市市民文化センター.
- 4 豊嶋弘. 1966. 香川県の蛾(IV)ヤガ科(目録). 蛾類通信(32):226-227.